八ヶ坪（ハチガツボ）遺跡第６・７地点

福岡県筑紫野市大字山家所在遺跡の調査

筑紫野市文化財調査報告書

第　22　集

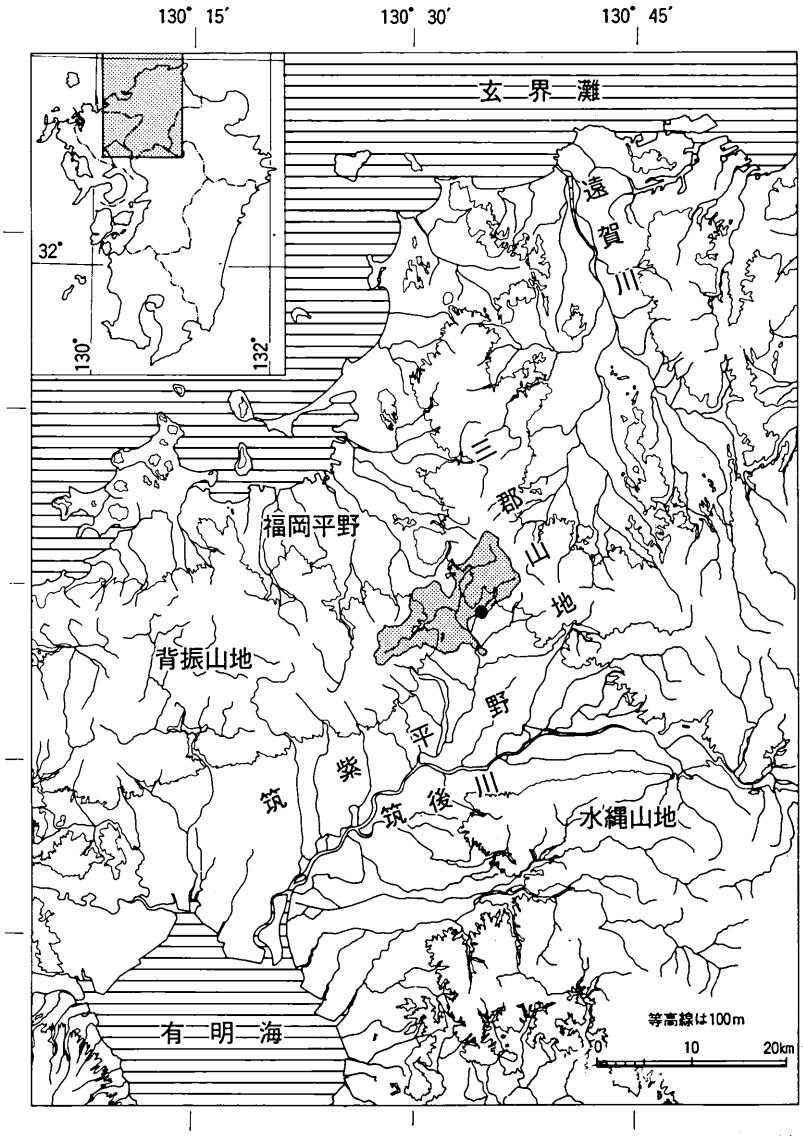
１９８９

筑紫野市教育委員会

八ヶ坪遺跡　第6・7地点　正誤表

頁		誤	正
例言	5行目	第1．2点」	第1・2地点」
挿図目次	第2図	……6	……8
〃	第3図	……7	……10
〃	第4図	……9～10	……13～14（折込）
〃	第20図	③（1/3）	③（1／3）
〃	第77図	住居跡以外	竪穴式住居跡以外
〃	第78図	（1／2）①	①（1／2）
〃	第79図	（1／2・原寸）②	②（1／2・原寸）
	第84図	（1／40）	（1／30）
	第86図	第1・4・6	第1・3・4・6
表目次	第1表	一覧	一覧表
	第2表	第6地点	八ヶ坪遺跡第6地点
	第26表	第1・3	第1・3
23～24頁	挿図タイトル		第8図第6地点第2号竪穴式住居跡実測図（1／60）
25頁	第9図	第9図第2号	第9図第6地点第2号
53頁	第24図	第6地点第3号	第6地点第6号
61頁	第30図	出土土器実測（S＝1／3）	実測図（S＝1／60）
63頁	第32図	（S＝1／60）	（S＝1／3）
67頁	第35図	出土土器実測図	実測図
75頁	第42図	出土土器実測図（S＝1／3）	実測図（S＝1／60）
98頁	第55図	出土土器実測図②	実測図
108頁	第59図	第22 a	第22一a
109頁	第60図	第22 a	第22一a
110頁	第61図	第22 a	第22一a
111頁	第62図	第22 a	第22一a
112頁	第63図	第22 a	第22一a
141頁	第83図	第6・7土坑	第6・7号土坑
169頁	第99図	実測図（原寸）	実測図④（原寸）
170頁	第100図	実測図（原寸）	実測図⑤（原寸）
54頁	第6表　24－1	多く	多く
〃	第6表　24－4	やや	やや良好
91頁	第18表　50－12	口縁部部	口縁部
116頁	第21表　62－37	全目	全面
124頁	第23表　69－14	口径	口径12.5～13
〃	〃　〃	器高	器高6.2
145頁	第25表　85－26	底ナデ	底部ナデ
158頁	第29表　89－24	浅黄	
〃	〃　〃	橙色	浅黄橙色
〃	第30表　90－3	砂少量	砂粒少量

八ヶ坪遺跡第６・７地点



（アミ部分は筑紫野市域）

序

筑紫野市は太古より交通の要所であり、多くの先人達が行き交いあるいはこの地に踏み止どまり、多くの文化遺産を私達に遺してくれています。この今に遺された文化遺産を少しでも多く、将来の人達に引き継ぎ、遺して行く使命を私達は担っています。しかし、近年の交通体系の整備、福岡・久留米間のベッドタウン化、農業基盤の整備といった近代化の波は大きく私達に迫って来ています。

ここに発行の運びとなりました『八ヶ坪遺跡第６・７地点』も本市東部に位置する山家地区の県営圃場整備事業に伴い発掘調査したものです。山家地区は江戸時代の長崎街道の宿場町として栄えた所であり、現在でもその面影が遺っています。今回の発掘調査では弥生時代や古墳時代の集落の一部が発見されました。

今後はこれらの発掘調査の成果が市民の学習・研究の一助となり、まだまだ数多く埋もれている文化財の保護のための指針となることを切に願うものです。

なお、発掘調査にあたりましては福岡県農林事務所の多大な御理解・御協力を頂き、衷心よりお礼申し上げます。

平成元年３月31日

筑紫野市教育委員会

教育長　永渕正敏

例　　言

1，　本書は、福岡県筑紫野市および朝倉郡夜須町にかかる山家地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のうち、昭和60年度筑紫野市教育委員会が実施した発掘調査の報告書である。

2，　発掘調査は、筑紫野市教育委員会が国県補助を受けて実施した。

3，　本書で報告する遺跡は従来「山家地区遺跡第１・２点」と仮称していたものである。しかし、福岡県・筑紫野市・夜須町３教育委員会の協議により、今後、本遺跡を含む周辺を「八ヶ坪遺跡」と総称し、本遺跡を「八ヶ坪遺跡第６・７地点」とした。

4，　本書に掲載した遺構の実測は森山栄一が主に行い、一部を奥村俊久の他中間研志・武田光正（福岡県教育委員会）・平嶋博文（現在佐賀県多久市教育委員会）・行時志郎(現大分県教育委員会)諸氏の援助を受けた。

5，　本書に掲載した遺物の計測は土器を森部順子が主に行い、石器を向田雅彦が、土器の一部と鉄器・玉類を森山が行った。

6，　本書に掲載した遺構・遺物の製図は、森田くみ子が主に行い、土器の一部と鉄器・玉類を森山が行った。

7，　本書に掲載した遺構・遺物の写真撮影は森山が行った。

8，　本書で表示する方位は、すべて座標北である。

9，　本書で表示する調査面積および竪穴式住居跡の床面積はすべてプラニメーターによる３回計測の平均値である。

10，　本遺跡出土の赤色顔料の鑑定は本田光子氏（福岡市埋蔵文化財センター）に、また石器の石質鑑定は唐木田芳文氏（西南学院大学文学部教授）によるものである。

11，　本書の執筆および編集は森山が行った。

本 文 目 次

第Ⅰ章　調査に至る経過および調査組織 …… 1
第Ⅱ章　位 置 と 環 境 …… 2
第Ⅲ章　調 査 の 概 要 …… 9
第Ⅳ章　調 査 の 内 容 …… 10
第1節　第6地点の調査成果 …… 10
1，調査成果の概要 …… 10
2，遺構・遺物各説 …… 12
第1号竪穴式住居跡 …… 12
第2号竪穴式住居跡 …… 22
第3号竪穴式住居跡 …… 40
第4号竪穴式住居跡 …… 51
第5号竪穴式住居跡 …… 51
第6号竪穴式住居跡 …… 52
第7号竪穴式住居跡 …… 56
第8号竪穴式住居跡 …… 56
第9号竪穴式住居跡 …… 60
第10号竪穴式住居跡 …… 62
第11号竪穴式住居跡 …… 65
第12号竪穴式住居跡 …… 65
第13号竪穴式住居跡 …… 66
第14号竪穴式住居跡 …… 68
第15号竪穴式住居跡 …… 69
第16号竪穴式住居跡 …… 70
第17号竪穴式住居跡 …… 74
第18号竪穴式住居跡 …… 80
第19号竪穴式住居跡 …… 86
第20号竪穴式住居跡 …… 91
第21号竪穴式住居跡 …… 97
第22号竪穴式住居跡 …… 104
第23号竪穴式住居跡 …… 117
第24号竪穴式住居跡 …… 117
第25号竪穴式住居跡 …… 120
第26号竪穴式住居跡 …… 125
第1号掘立柱建物跡 …… 126
第2号掘立柱建物跡 …… 126
第3号掘立柱建物跡 …… 127
第4号掘立柱建物跡 …… 129
第5号掘立柱建物跡 …… 130
第1号土坑 …… 130
第2号土坑 …… 130
溝状遺構 …… 130
第1号不明遺構 …… 131
第2号不明遺構 …… 131

第２節　第７地点の調査成果…… 137
１，調査成果の概要…… 137
２，遺構・遺物各説
第１号土坑…… 137
第２号土坑…… 138
第３号土坑…… 138
第４号土坑…… 138
第５号土坑…… 138
第６号土坑…… 140
第７号土坑…… 140
第８号土坑…… 140
溝状遺構…… 142
第１号不明遺構…… 159
第２号不明遺構…… 160
第３号不明遺構…… 161
下層険出ピット群…… 162
３，第７地点出土の石器…… 162
第Ⅴ章　ま　と　め …… 171
第１節　第６地点…… 171
第２節　第７地点…… 171

挿 図 目 次

第１図　山家川流域遺跡分布図(1/25,000) …… 3
第２図　八ヶ坪遺跡第６・７地点周辺の旧地形および現況図(１／2,500)…… 6
第３図　第６地点　土層観察用トレンチ土層断面実測図(１／30) …… 7
第４図　第６地点　第１号竪穴式住居跡実測図(１／60) …… 9～10
第５図　第６地点　第１号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 16
第６図　第６地点　第１号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 17
第７図　第６地点　第１号竪穴式住居跡出土土器実測図 ③（１／３）…… 18
第８図　第６地点　第２号竪穴式住居跡実測図(１／60) ……23～24(折込)
第９図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 25
第10図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 26
第11図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ③（１／３）…… 27
第12図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ④（１／３）…… 28
第13図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ⑤（１／３）…… 29
第14図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ⑥（１／３）…… 30
第15図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ⑦（１／３）…… 31
第16図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図 ⑧（１／３）…… 32
第17図　第６地点　第３号竪穴式住居跡実測図(１／60) ……41～42(折込)
第18図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 44
第19図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 45
第20図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図 ③（１／３）…… 46
第21図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図 ④（１／３）…… 47
第22図　第６地点　第４・５号竪穴式住居跡実測図(１／60) …… 51
第23図　第６地点　第６号竪穴式住居跡実測図(１／60) …… 52
第24図　第６地点　第６号竪穴式住居跡出土土器実測図(１／３) …… 53
第25図　第６地点　第７号竪穴式住居跡・第２号不明遺構実測図(１／60) …… 55
第26図　第６地点　第７号竪穴式住居跡出土土器実測図(１／３) …… 56
第27図　第６地点　第８・15号竪穴式住居跡実測図(１／60) …… 57
第28図　第６地点　第８号竪穴式住居跡出土土器・土製品実測図(１／３) …… 58
第29図　第６地点　第９号竪穴式住居跡出土土器実測図(１／３) …… 60
第30図　第６地点　第９号竪穴式住居跡実測図(１／60) …… 61
第31図　第６地点　第10・11号竪穴式住居跡実測図(１／60) …… 62
第32図　第６地点　第10号竪穴式住居跡出土土器実測図(１／３) …… 63

第33図　第６地点　第11号竪穴式住居跡出土土器実測図（１／３）…… 65
第34図　第６地点　第12号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 66
第35図　第６地点　第13号・14号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 67
第36図　第６地点　第13号竪穴式住居跡出土土器実測図（１／３）…… 68
第37図　第６地点　第14号竪穴式住居跡出土土器実測図（１／３）…… 68
第38図　第６地点　第15号竪穴式住居跡出土土器実測図（１／３）…… 69
第39図　第６地点　第16号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 70
第40図　第６地点　第16号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 71
第41図　第６地点　第16号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 72
第42図　第６地点　第17・26号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 75
第43図　第６地点　第17号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 77
第44図　第６地点　第17号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 78
第45図　第６地点　第18号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 81
第46図　第６地点　第18号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 83
第47図　第６地点　第18号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 84
第48図　第６地点　第19号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 86
第49図　第６地点　第19号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 88
第50図　第６地点　第19号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 89
第51図　第６地点　第20号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 92
第52図　第６地点　第20号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 93
第53図　第６地点　第20号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 94
第54図　第６地点　第20号竪穴式住居跡出土土器実測図 ③（１／３）…… 95
第55図　第６地点　第21号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 98
第56図　第６地点　第21号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 100
第57図　第６地点　第21号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 101
第58図　第６地点　第22-a・b号竪穴式住居跡実測図（１／60）……105～106(折込)
第59図　第６地点　第22-a・b号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）…… 108
第60図　第６地点　第22-a・b号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）…… 109
第61図　第６地点　第22-a・b号竪穴式住居跡出土土器実測図 ③（１／３）…… 110
第62図　第６地点　第22-a・b号竪穴式住居跡出土土器実測図 ④（１／３）…… 111
第63図　第６地点　第22-a・b号竪穴式住居跡出土土器実測図 ⑤（１／３）…… 112
第64図　第６地点　第23号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 117
第65図　第６地点　第24号竪穴式住居跡実測図（１／60）…… 118
第66図　第６地点　第24号竪穴式住居跡出土土器実測図（１／３）…… 119

第67図　第６地点　第25号竪穴式住居跡実測図（１／60）……121
第68図　第６地点　第25号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（１／３）……122
第69図　第６地点　第25号竪穴式住居跡出土土器実測図 ②（１／３）……123
第70図　第６地点　第１号掘立柱建物跡実測図（１／60）……125
第71図　第６地点　第２号掘立柱建物跡実測図（１／60）……126
第72図　第６地点　第３号掘立柱建物跡実測図（１／60）……127
第73図　第６地点　第４号掘立柱建物跡実測図（１／60）……128
第74図　第６地点　第５号掘立柱建物跡実測図（１／60）……129
第75図　第６地点　第１・２号土坑実測図（１／60）……130
第76図　第６地点　第１号不明遺構実測図（１／60）……131
第77図　第６地点　住居跡以外の遺構出土土器実測図（１／３）……132
第78図　第６地点　出土石器実測図（１／２）①……134
第79図　第６地点　出土石器実測図（１／２・原寸）②……135
第80図　第６地点　出土鉄器・玉類・土製品実測図（１／２・原寸）……136
第81図　第７地点　第１～３号土拡実測図（１／40）……137
第82図　第７地点　第４・５号土坑実測図（１／40）……139
第83図　第７地点　第６・７号土坑実測図（１／40）……141
第84図　第７地点　第８号土坑実測図（１／40）……142
第85図　第７地点　第１～８号土坑出土土器実測図（１／３）……143
第86図　第７地点　第１・４・６・14・19～21・23号溝出土土器実測図（１／３）……146
第87図　第７地点　第13号溝出土土器実測図（１／３）……150
第88図　第７地点　第22号溝出土土器実測図（１／３）……152
第89図　第７地点　第25号溝出土土器実測図（１／３）……155
第90図　第７地点　第26号溝出土土器実測図（１／３）……158
第91図　第７地点　第１号不明遺構実測図（１／60）……159
第92図　第７地点　第２号不明遺構実測図（１／60）……160
第93図　第７地点　第３号不明遺構実測図（１／60）……161
第94図　第７地点　第２・３号不明遺構出土土器実測図（１／３）……161
第95図　第７地点　中央拡張区下層検出ピット群配置図（１／150）……163
第96図　第７地点　出土石器実測図 ①（１／２）……164
第97図　第７地点　出土石器実測図 ②（１／２）……166
第98図　第７地点　出土石器実測図 ③（１／２・原寸）……168
第99図　第７地点　出土石器実測図 ④（原寸）……169
第100図　第７地点　出土石器実測図 ⑤（原寸）……170

付　図　目　次

付図１　八ヶ坪遺跡第６地点遺構配置図（Ｓ＝１／100）
付図２　八ヶ坪遺跡第７地点遺構配置図（Ｓ＝１／30）

表　目　次

第１表　山家川流域遺跡一覧 …… 4～6
第２表　第６地点　竪穴式住居跡一覧表 …… 11
第３表　第６地点　第１号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……19～21
第４表　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……33～39
第５表　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……48～50
第６表　第６地点　第６号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……54～55
第７表　第６地点　第７号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 56
第８表　第６地点　第８号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 59
第９表　第６地点　第９号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 60
第10表　第６地点．第10号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 64
第11表　第６地点　第11号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 65
第12表　第６地点　第13号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 66
第13表　第６地点　第14号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 69
第14表　第６地点　第15号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 69
第15表　第６地点　第16号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……73～74
第16表　第６地点　第17号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……79～80
第17表　第６地点　第18号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 85
第18表　第６地点　第19号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……90～91
第19表　第６地点　第20号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……96～97
第20表　第６地点　第21号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……102～104
第21表　第６地点　第22号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……113～116
第22表　第６地点　第24号竪穴式住居跡出土土器観察表 …… 120
第23表　第６地点　第25号竪穴式住居跡出土土器観察表 ……123～124
第24表　第６地点　竪穴式住居跡以外の遺構出土土器観察表 ……132～133

第25表　第７地点　第１～８号土坑出土土器観察表 ……144～145
第26表　第７地点　第１・３・４・６・14・19～21・23号溝状遺構出土土器観察表 ・147～149
第27表　第７地点　第13号溝状遺構出土土器観察表 ……151
第28表　第７地点　第22号溝状遺構出土土器観察表 ……153～154
第29表　第７地点　第25号溝状遺構出土土器観察表 ……156～158
第30表　第７地点　第26号溝状遺構出土土器観察表 ……158
第31表　第７地点　第２・３号不明遺構出土土器観察表 ……162

第Ⅰ章　調査に至る経過および調査組織

八ヶ坪遺跡第６・７地点の発掘調査は、山家地区県営圃場整備事業（以下「事業」という）に伴い実施したものである。

昭和58年３月筑紫野市農林商工課と市教育委員会との間で事業実施計画に伴う埋蔵文化財発掘調査（以下「調査」という）についての協議を行った。市教育委員会では同年６月に試掘調査を実施し事業地の広範囲にわたって埋蔵文化財を確認した。試掘調査の結果を受けて福岡県農林事務所と２度の協議を行い、翌昭和59年６月には、昭和60年度事業施工予定地区の変更を決定するに至った。同年11月から翌昭和60年４月に亘り昭和60年度調査に関する具体的な協議を重ね事業地の内切り土部分および用水路部分を調査することで合意した。

調査は昭和60年８月より開始した。

調査組織は下記の通りである。

総　　括　筑紫野市教育委員会

教育長　松　田　康　男（～昭和63年度12月）

永　渕　正　敏（昭和63年度１月～）

庶　　務　筑紫野市教育委員会社会教育課

課　長　山　村　　茂（～昭和62年度）

川　原　孝　之（昭和63年度～）

筑紫野市教育委員会社会教育課文化財係

主　事　奥　村　俊　久

調　　査　筑紫野市教育委員会社会教育課文化財係

嘱　託　森　山　栄　一（現技師）

発掘作業員

松原　スマ子（山家）　市川　チズ子（大石）

鬼木　勇雄　鬼木岩五郎　鬼木　公平　鬼木太美男　鬼木　久枝　鬼木　正俊

鬼木マサノ　砥上　好美　中島　昌隆　福住九州男　藤田　勇（吉木）

古川　重徳　安武　政雄　八尋スマ子　八尋ヒサ子（阿志岐）

楠田　正喜（牛島）

整理作業員（筑紫野市文化財整理庫）

大西　ヨネ　村上　喜代　井上　惇子　竹田スミ子

整理補助員（同　　上）

森部　順子　森田くみ子

第Ⅱ章　位置と環境

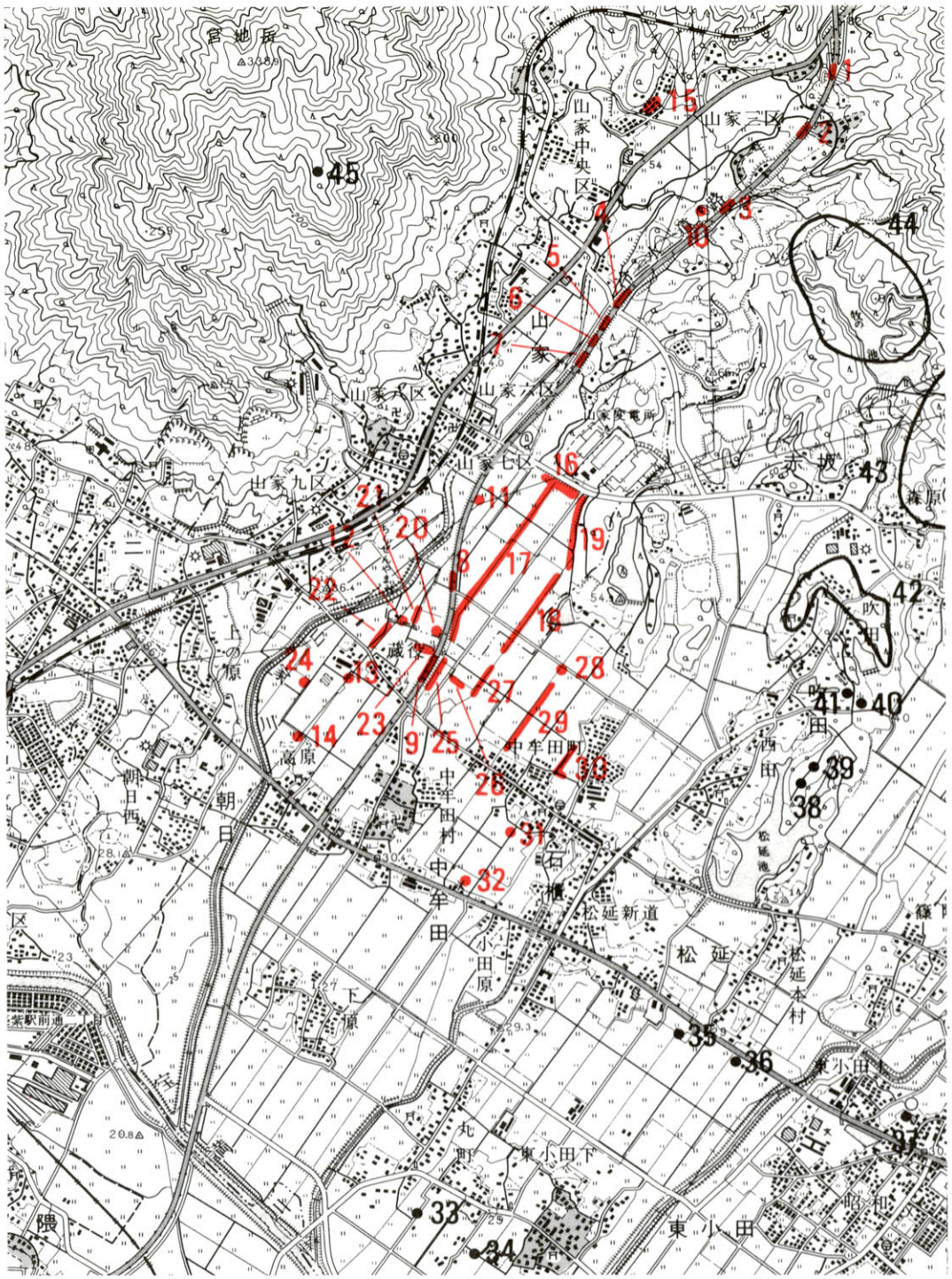
八ヶ坪遺跡第６・７地点の所在地は下記の通りである。

第６地点　福岡県筑紫野市大字山家3930-1
3931-1 ……小字大島（オオシマ）
8299
9161 ……小字境の小川
4188-1
4189-1
第７地点　福岡県筑紫野市大字山家4186-2 ……小字金田（キンダ）
4187-1
4190-1・2
4192-1 ……小柳（コヤナギ）

上記２ヶ所の調査地点に付した遺跡名「八ヶ坪」は、隣接する朝倉郡夜須町大字蔵役の一小字名である。調査時においては山家川流域に広く認められる埋蔵文化財包蔵地をひとつのまとまりとして考え「山家地区遺跡」と仮称し、各調査地点に通し番号を付していた。その後、周辺の調査例が増加し（第１図・表１）、山家川流域左岸における遺跡のまとまり・線引きが概略窺えるようになった。特に、同一遺跡と考えられながらも調査組織や調査地点所在地の行政区の違いによって異なった名称が付されている状況が生じてきた。このため各調査地点の検討・整理および遺跡名の統一が必要となり、福岡県北筑後教育事務所・筑紫野市教育委員会・夜須町教育委員会３者による協議を重ねてきた。その結果、本書で報告する調査地点は後述する遺跡の立地及び内容から昭和55年国道202号バイパス建設に伴い県教育委員会によって調査された「八ヶ坪遺跡」と同一遺跡と考え、その遺跡名を踏襲し周辺の調査地点も含んだ通し番号を採用して「八ヶ坪遺跡第６・７地点」とすることとした（第２図）。

山家地区は、西に宮地岳（標高338.9m）、北に笹尾山（355.3m）・大根地山（652m）、東に砥上岳（496.5m）を配し、北東から南西に流れて宝満川（筑後川支流）に注ぐ山家川によって形成された沖積平野を中心とする地域である。おおよそ南側に扇状に開く地形であるが、東側は砥上岳南西麓より南へ延びる低丘陵によって画されており、南北に細長い感を受ける。八ヶ坪遺跡第６地点は低丘陵周辺部から山家川河岸段丘上段面にかけて立地し、第７地点は河岸段丘上段面に立地する。

山家川流域における遺跡（第１図）の調査例が近年増加し、その結果によってその全体像が僅かではあるが分かりつつある。（表１）



33 中原前遺跡　34 出口遺跡　35 深町遺跡
36 竹崎遺跡　37 大木Ｂ遺跡　38 松延遺跡
39 鷲尾塚１号墳　40 吹田・小路田古墳　41 原古墳
42 吹田古墳群　43 森原古墳群　44 牧の谷古墳群
45 殿様塚１号墳

第１図　山家川流域遺跡分布図（Ｓ＝１／25,000）

第１表－①　山家川流域遺跡一覧表

番号	遺跡（地点）名	所在地	遺跡の内容	調査	文献
1	池田８号古墳	筑紫野市大字山家3304-1	円墳(7.2～7.9m)　単室横穴式石室　６世紀後半	福岡県教委 バイパス関係 昭和56年３月	①
2	池田遺跡	筑紫野市大字山家3442-2	縄文時代早～前期　歴史時代　不整土坑ピット群	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年６～７月	①
3	池田９号古墳	筑紫野市大字山家3720-3	円墳	福岡県教委 バイパス関係 昭和57年３月	① 未報
4	浮殿Ａ遺跡	筑紫野市大字山家3686-4 〃　-5	古墳時代　箱式石棺２基 中世代　地下式横穴１　覆石土坑墓１	福岡県教委 バイパス関係 昭和56年11～12月	①
5	浮殿Ｂ遺跡	筑紫野市大字山家4100	縄文時代後・晩期　土器片・ 時期不明(中世代)　地下式横穴１	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年９月 昭和56年７月	①
6	浮殿Ｃ遺跡	筑紫野市大字山家4113	中世以降の小道	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年９～10月	①
7	浮殿Ｄ遺跡	筑紫野市大字山家4114 4116	縄文時代後・晩期　弥生時代中期　土器・石器 奈良時代末～平安時代初頭　掘立柱建物１ 土坑３　ピット群	福岡県教委 バイパス関係 昭和51年10～12月	①
8	大島遺跡	筑紫野市大字山家4178 4180-3 4181	縄文時代後期　土器・石器片 弥生時代前期～中期　竪穴式住居跡４　貯蔵穴49　土坑14　竪穴２　溝１	福岡県教委 バイパス関係 昭和56年６～８月	①
9	八ヶ坪遺跡　第１地点 （八ヶ坪遺跡）	朝倉郡夜須町大字中牟田 字八ヶ坪	弥生時代後期　溝３ 古墳時代中期　竪穴式住居跡２ 古墳時代以降　溝４ 時期不明　溝１	福岡県教委 バイパス関係 昭和55年７～10月	①
10	浦田遺跡	筑紫野市大字山家3720	時期不明の石組施設内蔵のマウンド状遺構（径10m）	筑紫野市教委 鉄塔関係 昭和63年10月	②
11	山家地区遺跡第３地点	筑紫野市大字山家4176-1 -6	弥生時代前期～中期　竪穴式住居跡４　貯蔵穴４　土坑15　木棺墓３　中期カメ棺墓26 古墳時代前期～中期　竪穴式住居跡４ 縄文時代早期～前期　後期～晩期　土器・石器	筑紫野市教委 鉄塔関係 昭和61年２～５月	③
12	八ヶ坪遺跡　第５地点 （山家地区遺跡 第４地点）	筑紫野市大字山家4191-2 4192-22 -27 -28	縄文時代前期～晩期　土器片 時期不明　土坑１　溝２	筑紫野市教委 鉄塔関係 昭和61年１月	③
13	坂井田遺跡　Ａ地点	朝倉郡夜須町大字朝日 字坂井田	古墳時代前・後期と奈良時代の土坑・ピット群 時期不明　溝１	夜須町教委 鉄塔関係 昭和62年４月	④

第1表 - ②

番号	遺跡（地点）名	所在地	遺跡の内容	調査	文献
14	宮ノ上遺跡	朝倉郡夜須町大字朝日 字宮ノ上	弥生時代後期～終末　竪穴式住居跡12 掘立柱建物12　円形周溝遺構	夜須町教委 鉄塔関係 昭和62年度	④ ⑤ 未報
15	丸隈遺跡	筑紫野市大字山家1906-1	中世代　土坑1　ピット群	筑紫野市教委 宅地関係 昭和61年5～6月	⑥
16	未定 （山家地区遺跡 昭和62年度調査 北側調査地点）	筑紫野市大字山家	弥生時代前期～中期　木棺墓2　貯蔵穴1	筑紫野市教委 圃場整備関係	未報
17	未定 （山家地区遺跡 昭和62年度調査 西側水路調査地点）	筑紫野市大字山家	〈北側高所〉 弥生時代中期前半　竪穴式住居跡　貯蔵穴 奈良時代　掘立柱建物　土坑 〈南側低所〉 古墳時代中期	筑紫野市教委 圃場整備関係	未報
18	未定 （山家地区遺跡 昭和62年度調査 東側水路調査地点）	筑紫野市大字山家	時期不明ピット群	筑紫野市教委 圃場整備関係	未報
19	未定 （山家地区遺路 昭和63年度調査地点）	筑紫野市大字山家	弥生時代終末　石蓋土坑墓3　土坑墓20 箱式石棺墓1　カメ棺墓1 奈良時代　竪穴式住居跡1 時期不明　井戸　土坑 旧石器時代　石器	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和63年8～10月	未報
20	八ヶ坪遺跡　第6地点 （山家地区遺跡 第1地点）	筑紫野市大字山家3930-1 3931-1 4188-1 4189-1 8299 9161	弥生時代後期～終末　竪穴式住居跡18 掘立柱建物5 古墳時代中期　竪穴式住居跡5 時期不明　土坑2　溝5　竪穴式住居跡4	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和60年9～12月	本書
21	八ヶ坪遺跡　第7地点 （山家地区遺跡 第2地点）	筑紫野市大字山家4186-2 4187-1 4190-1 4190-2 4192-1	古墳時代後期～奈良時代　溝28条土坑8 不明遺構4 時期不明　ピット群	筑紫野市教委 圃場整備関係 昭和60年8～9月	本書
22	八ヶ坪遺跡　第8地点 （サヤノ本遺跡）	朝倉郡夜須町大字朝日 字サヤノ本	弥生時代後期末～古墳時代前期　竪穴式住居跡　土坑　溝　ピット群	夜須町教委 圃場整備関係 昭和60年6～8月	未報
23	八ヶ坪遺跡　第9地点 （坂ノ下遺跡？）	朝倉郡夜須町大字朝日 字坂ノ下 （大字中牟田字八ヶ坪？）	弥生時代後期末～古墳時代前期　竪穴式住居跡　掘立柱建物　溝	夜須町教委 圃場整備関係 昭和60年6～8月	未報
24	坂井田遺跡　B地点	朝倉郡夜須町大字朝日 字坂井田	弥生時代後期～古墳時代中期　竪穴式住居跡5　掘立柱建物1 弥生時代終末～古墳時代初頭　方形周溝墓4	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年度	④ ⑤ 未報

第1表 - ③

番号	遺跡（地点）名	所在地	遺跡の内容	調査	文献
25	八ヶ坪遺跡　第2地点 （八ヶ坪遺跡　A地点）	朝倉郡夜須町大字中牟田 字八ヶ坪	弥生時代終末　掘立柱建物1　大溝2 古墳時代前期　土坑5 弥生時代～平安時代　溝11	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年4～5月	⑤
26	八ヶ坪遺跡　第3地点 （八ヶ坪遺跡　B地点）	朝倉郡夜須町大字中牟田 字八ヶ坪	弥生時代前期～中期　大溝1 時期不明　溝7	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年4～5月	⑤
27	八ヶ坪遺跡　第4地点 （八ヶ坪遺跡　C地点）	朝倉郡夜須町大字中牟田 字徳生毛	時期不明　土坑1　溝4	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年4～5月	⑤
28	茶屋原遺跡　第1地点	朝倉郡夜須町大字中牟田 字茶屋原	弥生時代終末　竪穴式住居跡1　溝1 古墳時代中期　竪穴式住居跡6 中世代　井戸1 時期不明　土坑墓1　土坑11　溝10	夜須町教委 圃場整備関係 昭和63年5～8月	⑦
29	茶屋原遺跡　第2地点	朝倉郡夜須町大字中牟田 字井料 字楠木町	時期不明　溝8	夜須町教委 圃場整備関係 昭和63年5～8月	⑦
30	茶屋原遺跡　第3地点	朝倉郡夜須町大字中牟田 字鯉ヶ渕	弥生時代終末　竪穴式住居跡1 古墳時代中期　竪穴式住居跡1 中世代　溝7 時期不明　土坑2	夜須町教委 圃場整備関係 昭和63年5～8月	⑦
31	杓野遺跡	朝倉郡夜須町大字中牟田 字杓野 字長田	弥生時代後期後半　竪穴式住居跡29　掘立柱建物3 弥生時代終末　溝1 平安時代～鎌倉時代　溝3	夜須町教委 圃場整備関係 昭和62年11～12月	⑧
32	下杓野遺跡	朝倉郡夜須町大字中牟田 字下杓野	弥生時代後期～古墳時代初頭　竪穴式住居跡70　掘立柱建物3 古墳時代前期　方形周溝墓1 中世代　溝2　井戸1 時期不明　周溝状遺構　3	夜須町教委 圃場整備関係 平成1年1～2月	未報

旧石器・縄文時代の遺構は現在までのところ確認されていないが、採集資料や発掘資料によれば、旧石器時代は砥上岳山麓より延びる丘陵上に集中しており、他に宮地岳南麓の微高地上にも1ヶ所知られている。縄文時代では、丘陵上だけでなく微高地・河岸段丘上にも包含層が確認されており、面的な広がりが窺える。

弥生時代では、大島遺跡（第1図8）・山家地区遺跡（11）など前期末～中期前半の集落が一部墓地と共存して丘陵上に営まれている。しかし、八ヶ坪遺跡第8地点（20）・サヤノ本遺跡（22）・宮ノ上遺跡（14）など後期後半～終末にかけては、低丘陵周辺部から河岸段丘上段面にかけての微高地に集落が形成され、墓地は、市教育委員会が行った山家地区遺跡の昭和63年度調査地点（19）に見られるように集落の後背地である丘陵縁辺側に営まれている。中期後半～後期前半の集落は現在のところ未確認であるが、後期後半には明らかに集落の占居が低地へ移っている。

この状況は、終末から古墳時代初頭とされる時期においても同様であるが、墓地は坂井田遺跡A地点（24）のように集落に近く低地へ移っている感がある。

古墳時代に入っても、集落は八ヶ坪遺跡第１・８地点（９・20）・茶屋原遺跡第３地点など引き続き低地の微高地に確認できるが、丘陵上の散布地も知られており低地だけとは言い切れない。なお、墓地に関しては調査例が少なく不明確であるが、池田８号古墳（１）など後期には丘陵上に営まれている。

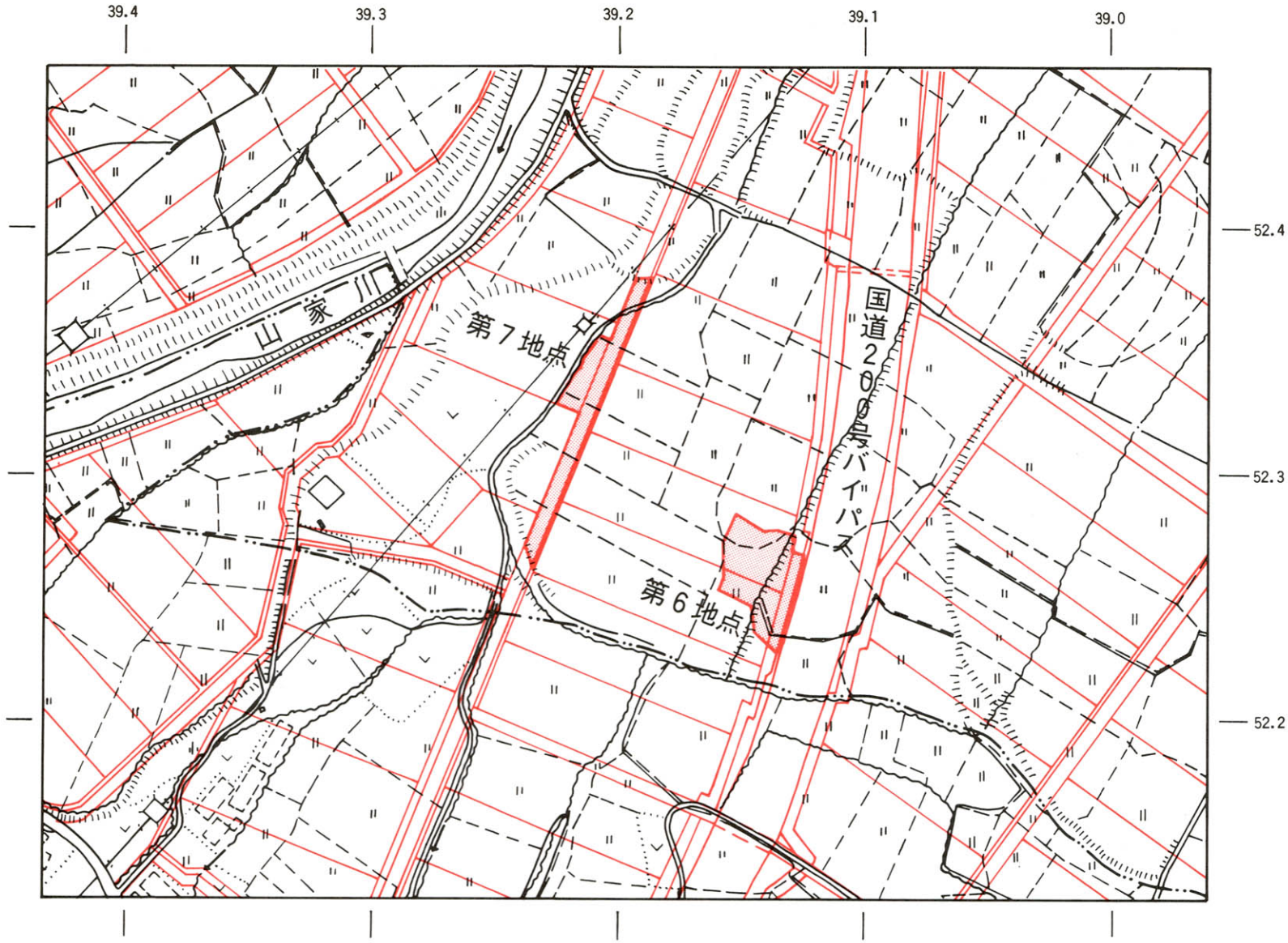
この様な集落の低地への進出は生産基盤としての沖積平野の開発と関係するものであり、生産基盤の低湿地への拡大に伴い集落も低地の微高地上に形成されていったものと思われる。

古代・中世に至っては、八ヶ坪遺跡第１・９地点（８・21）・茶屋原遺跡第３地点（30）・杓野遺跡（31）など多数の溝が検出されており、水利工事による水田開拓が著しく行われていたものと思われる。特に、八ヶ坪遺跡第１地点では小字「八ヶ坪」と古代条里の関係から条里遺構の存在を指摘されている。なお、中世の墓地については、丘陵上に立地する浮殿A・B遺跡（４・５）において検出されている。

近世には、肥後・筑後から江戸への交通路として、山家の北方に聳える三郡山塊の冷水峠を越えて筑豊を経由する街道が整備され、ここ山家に宿場が置かれた。この街道を長崎街道と呼び、博多と日田を結ぶ日田街道が山家宿の南西側で交差している。

＜参　考　文　献＞

① 福岡県教育委員会　『冷水バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』　1982
② 筑紫野市教育委員会　『浦田遺跡』筑紫野市文化財調査報告書第21集　1989
③ 筑紫野市教育委員会　『山家地区遺跡』筑紫野市文化財調査報告書第19集　1987
④ 夜須町教育委員会　『坂井田遺跡Ⅰ』夜須町文化財調査報告書第10集　1988
⑤ 夜須町教育委員会　『夜須地区遺跡群Ⅲ』夜須町文化財調査報告書第９集　1988
⑥ 筑紫野市教育委員会　『丸隈遺跡』筑紫野市文化財調査報告書第16集　1987
⑦ 夜須町教育委員会　『茶屋原遺跡』夜須町文化財調査報告書第13集　1989
⑧ 夜須町教育委員会　『杓野遺跡』夜須町文化財調査報告書第15集　1989
⑨ 福岡県教育委員会　『福岡県遺跡等分布地図―甘木市・朝倉郡編―』　1978
⑩ 福岡県教育委員会　『福岡県遺跡等分布地図―筑紫野市・春日市・大野城市・筑紫郡編―』　1980



第２図　八ヶ坪遺跡　第６・７地点周辺の旧地形及び現況図（Ｓ＝１／2,500）
（黒ー圃場整備前、赤ー圃場整備後）

第Ⅲ章　調査の概要

八ヶ坪遺跡第６・７地点の発掘調査は、重機による表土剝ぎを第６地点→第７地点の順で続けて行い、併せて両地点の遺構検出を行った。遺構検出の結果、第６地点では当初予定の調査区北側で著しく重複した遺構の広がりが認められたため北側を拡張した。第７地点では、用水路部分の幅４m・長さ130mの調査区とその中央北西側に近接して小範囲の調査区を予定していたが、その間の距離が僅か７mと狭いためこの部分も拡張し調査区とした。この調査区を第７地点の「中央拡張区」とし、これを境にして用水路部分北東側を「北側調査区」、南西側を「南側調査区」とした。

各地点の発掘調査は、工事施工の都合上用水路部分に当たる第７地点を先行させ、途中期間並行して第６地点を後に行った。

各調査区の面積・調査期間および検出遺構は下記の通りである。

〔第６地点〕

調査面積　1,113.03㎡

調査期間　昭和63年９月21日～同年12月21日

検出遺構				
	竪穴式住居路	27軒	掘立柱建物路	５棟
	土・坑	2基	溝状遺構	５条
	不明遺坑	2基	ピット	多数

〔第７地点〕

調査面積　885.07㎡（うち中央拡張区 533.4㎡）

調査期間　昭和60年８月19日～同年10月15日

検出遺構　（中央拡張区では上・下２層において遺構を検出した。）

上層	土坑	7基	溝状遺構	28条
	不明遺構	4基	ピット	少数
下層	ピット	多数		

第Ⅳ章　調査の内容

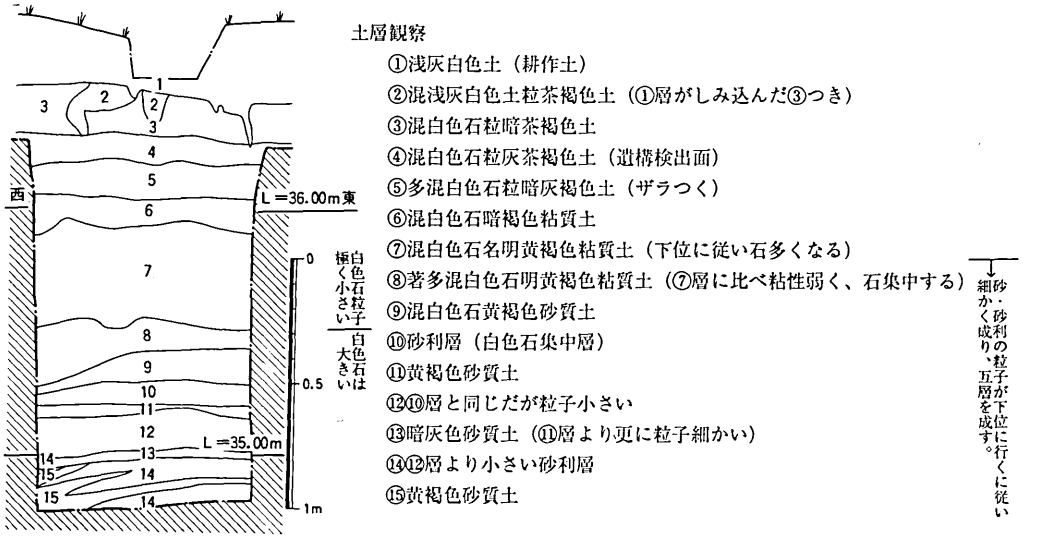
第１節　第６地点の調査成果

１，調査成果の概要（付図１，第３図，図版２）

第６地点における遺構は、北東から南西に流れて小字大島と金田との境をなす小川を挟んでほぼ全面に検出できた。小川より南東側は遺構の切り合いが少なく密度もうすいが、北西側はやや中央に空白がありながらも全体に密度が濃く遺構の切り合いが多い。竪穴式住居跡について見ると大型の長方形プランのもの（３・９・14・18・21号）は長軸方向を同じに取り整然と並んでいるのに対し、小型のもの（６・７・16・19号等）は方向が一定ではなく各々の重複が著しい。古墳時代中期の正方形プランのもの（１・２・22－ab号）は、居住面積の拡張に伴う建て替えと思われる重複はあるものの、ほぼ同じ向きで配置されている。古墳時代以降の溝は、字境をなす小川とほぼ平行に掘られている。

調査区北側に土層観察用のトレンチ（１ｍ四方）を設定し深掘りを行ったが、遺構検出面は一面しか確認できず、以下は石を含む粘質土層（６～８層）からだんだんと粒子が細かくなる砂利層（10・12・14層）・砂質土層（９・11・13・15層）となっていた。

遺構検出面は、耕作面より約45cm下の灰茶褐色土層（第３図４層）上面である。１～３層は後世の撹乱層であり、遺構が本来どの層から切り込んでいたかは不明である。しかし、検出面での弥生時代の竪穴式住居跡と古墳時代の竪穴式住居跡では、前者が深く残っているのに取し、後者は床面から下ぐらいしか残っていなかった。



第３図　第６地点土層観察用トレンチ土層断面実測図（Ｓ＝１／30）

第2表　八ヶ坪遺跡第6地点　竪穴式住居跡一覧表

番号	平面形	長　さ（m）	面積（㎡）	主柱穴 数	主柱穴 長さ（m）	主軸	炉（cm）	ベッド	屋内土坑	備考
1	方形	9.0×6.4以上	56.244	4	P1－P2 4.30 P3－P4 4.40 P1－P3 5.20 P2－P4 5.15	N－16.5°－E	楕円形 (65×35)			北辺西角寄に張出部（1.7m×1.25m）
2	方形	6.4×6.2以上	31.956以上	3(+1)	P1－P2 2.85 P1－P3 3.70	N－55°－W	円形 (64×29)			北東辺に段状遺構有
3	長方形	10.6×7.25	54.811以上	2		N－20°－E	円形 (97×88)	有		南西小口辺中央部に出入口 床下層にベンガラ
4	方形	1.4以上×1.1以上	1.268以上			N－20°－E				床消失
5	方形	4.75×1.0以上	3.578以上			N－34°－E				床消失
6	㠯方形	4.8×3.6以上	15.559以上	1(+1)		N－32°－E	円形 (49×35以上)	有	有	南西側カット
7	㠯方形	4.95以上×4.75	19.643以上	2	P1－P2 3.50	N－53.5°－E			有	床消失
8	㠯方形	4.85以上×4.15以上	15.489以上	1(+1)		N－52.5°－E		有		15住より新
9	長方形	7.55以上×4.55以上	27.501以上	2	P1－P2 3.80	N－29.5°－E	方形 (95×90)	有		南西・南東側カット
10	長方形	4.9×3.4	16.211	2	P1－P2 3.00	N－36°－E			有 ？	11住より古
11	方形	3.45×3.5	12.034			N－20.5°－E				10住より新
12	方形？	4.75以上×2.0以上				N－29°－E				住居跡としては不明確
13	長方形	6.9以上×2.15以上	7.113以上			N－45°－E		有		14住より古
14	㠯方形	7.0×1.95以上	7.729以上			N－39.5°－E				13住より新
15	㠯方形	3.2以上×2.3以上	4.128以上			N－60°－E		有		8住より古
16	長方形	5.6×4.1	21.586	2	P1－P2 3.05	N－84°－W	円形 (64×53)	有		17・18・24 26住より新
17	㠯方形	5.5以上×5.25以上	28.851以上	1(+1)		N－38°－E	円形 (90×82)		有	16・18住より古
18	㠯方形	5.7×6.35以上	38.898以上	2	P1－P2 3.30	N－41.5°－E	円形 (120×120) (81×69)	有	有	17住より新 16・19住より古
19	長方形	5.6×4.0	20.775	2	P1－P2 3.15	N－43.5°－E			有	18·20住より新
20	㠯方形	3.85×3.45以上	15.974以上	2	P1－P2 1.15	N－65°－W	円形 (35以上×40)		有	
21	長方形	10.5×7.6	75.447	2	P1－P2 4.30	N－32°－E	円形 (147×144) (108×105)	有		22住より古
22-a	方形	6.8×6.8	41.800	4	P5－P6 3.20 P7－P8 3.15 P5－P7 2.40 P6－P8 2.55	N－32.5°－E	楕円形 (27×17)			22-bより新
22-b	方形	8.9×8.4	75.646	4	P1－P2 4.50 P3－P4 4.45 P1－P3 3.00 P2－P4 2.70	N－33°－E				22-aより古
23	方形	1.55以上×1.5以上	2.030以上			N－45.5°－E				住居跡としては不明確
24	長方形	7.65×5.8	43.068	2	P1－P2 3.60	N－37°－E	円形 (80×71)	有	有	16・25住より古
25	長方形	4.6×3.7	15.352				楕円形 (80×43)			東辺中央段有（出入口？）
26	方形？	6.2以上×5.5以上				N－50°－E				16より古 17より新？

第1号竪穴式住居跡（第4図、図版3～5）

調査区の最南端に位置する。後世の削平によって全体に残りは浅く検出時には既に床面まで達しており、床面より下層のプランが確認できた。南側は段落ちになっており、柱穴のみ検出できた。長さ9.0×6.4m以上の方形プランを呈し、4本の主柱穴は南北にやや長く配されておりその中間に浅い穴が東西に各1検出できた。屋内中央やや北寄りに径65×35cmの楕円形を呈する炉があり、その主軸方向は主柱穴の方向と同じである。北壁の西角寄りには出入り口と思われる張出しがあり、幅1.7m・長さ1.25mを測る。明確な貼り床は検出できなかったが、床面下層の掘り方は方形周溝状に周辺を掘り下げて中央を台状に成している。

出土遺物

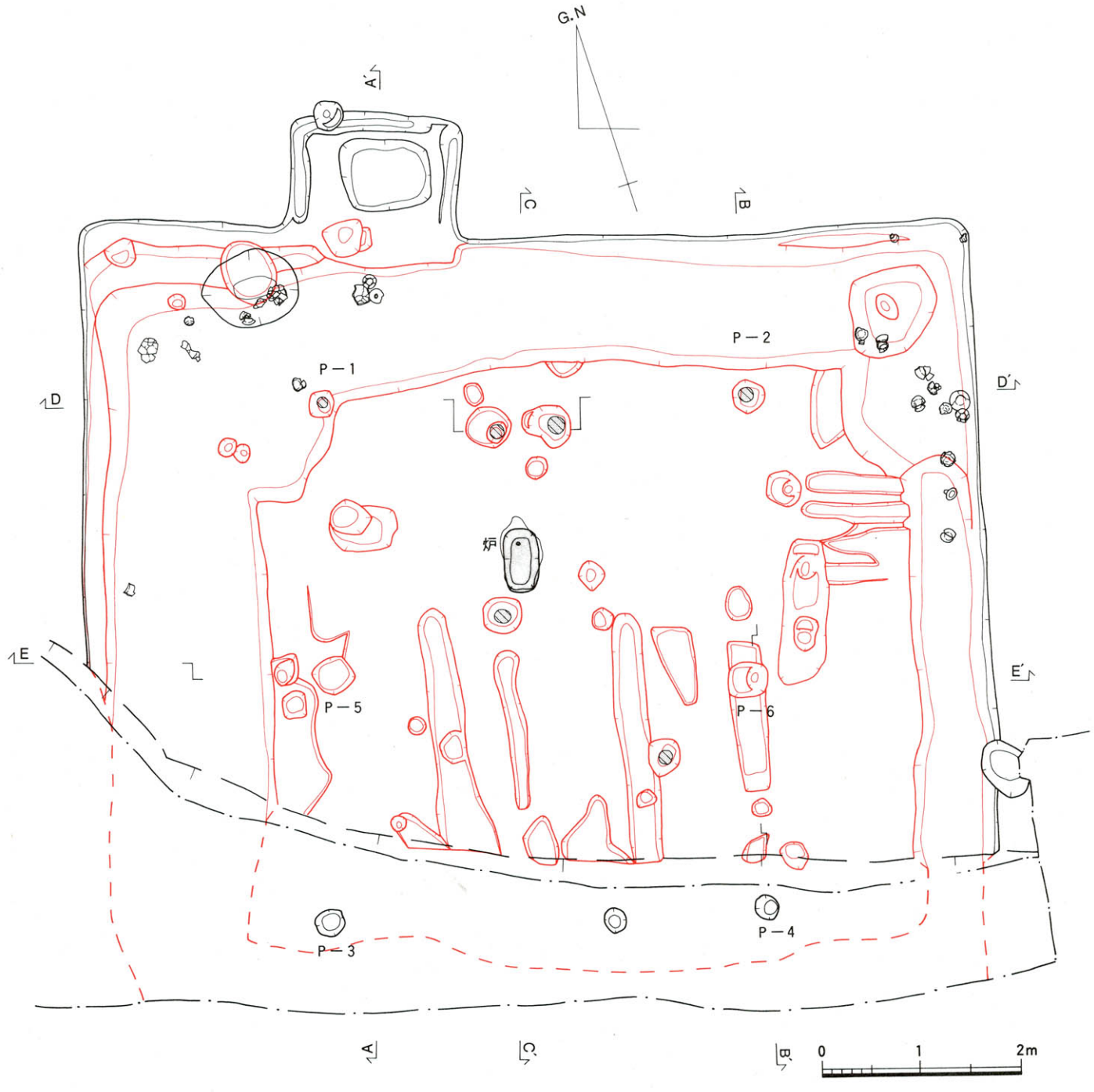
大半は床面直上からの出土であり、一部床面下層より出土している。特に、北西および北東コーナー付近からまとまって出土している。

土器（第5～7図，図版74・74）

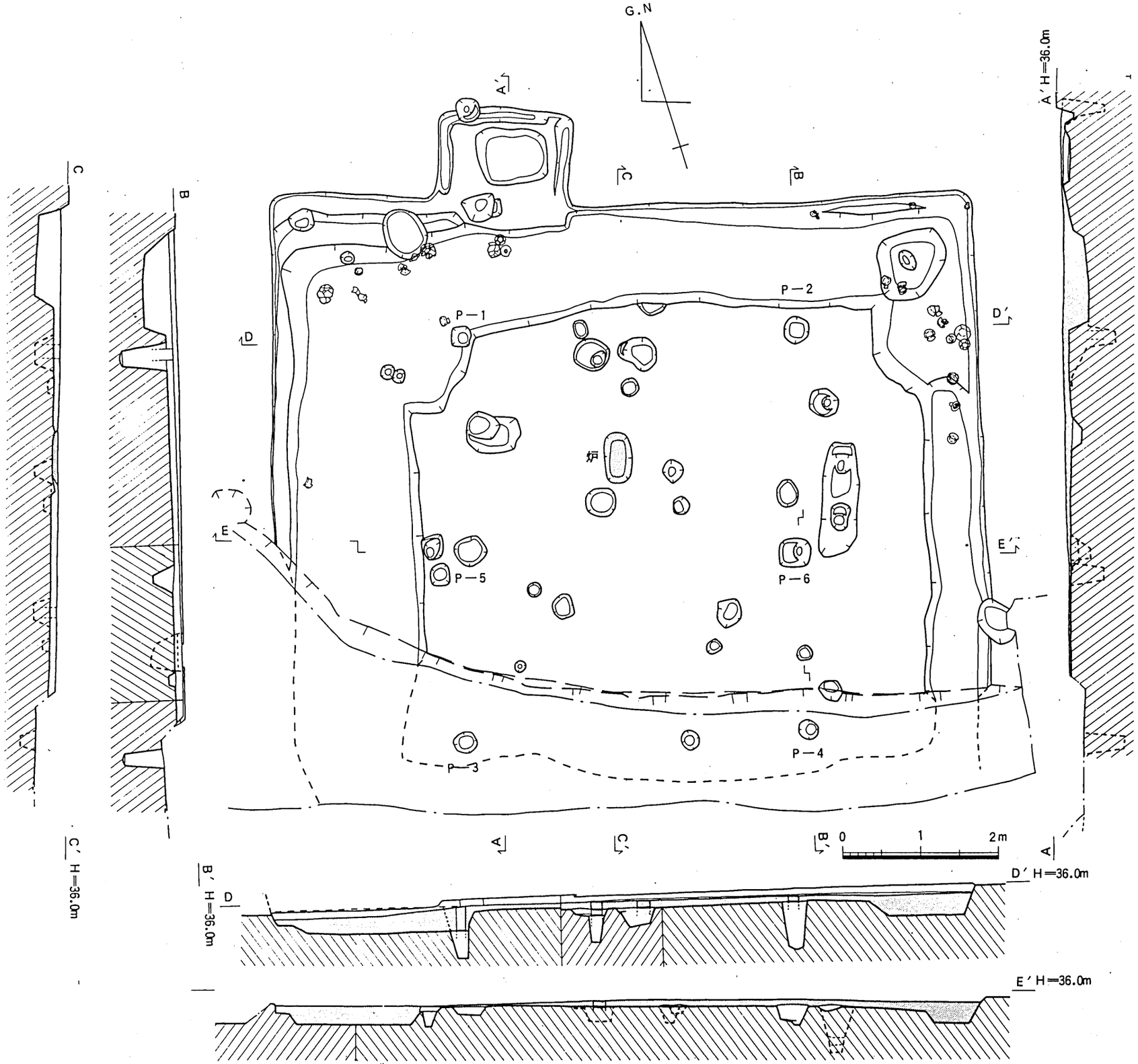
土師器（1～39）が最も多く、破片ながら3片の須恵器（40～41）も共伴している。壺（1～5）は中小2種類あり、小型のものには底部が偏平なもの（2・3）と丸底を呈するもの(3・4）とがある。前者は口縁部の形態に違いはみられるが基本的に同種のものであるが、後者は胴部最大径の位置が異なりその形態に著しい違いがみられ調整技法の違いと併せて別種のものとして細分できる。

甕（6～11）は中小2種類あるが、どちらも丸底を呈している。中型のもの（8）は倒卵形の胴部から直に外傾する頸部がついている。小型のもの（6・7・9～11）のうち、6は球形の胴部から直に立ち上がり口縁部近くで外反する頸部がつくのに対し、7は最大径が中位よりやや上位に位置する球形の胴部に外傾する頸部がついている。11の口唇部は内側やや上方につまみ出している。甕の調整技法は口縁部内外面をヨコナデ、胴部内面をヘラケズリ、胴部外面をハケで調整するのを基本とするが、8・9の口縁部にはハケの跡が残っている。

椀（12～23）は最も多く出土し、その形態もバラエティーに富んでいる。おおよそ、胴部から内湾しながらそのまま口縁部に至るもの（12～19）と、内湾気味に立ち上がる胴部が口縁部近くで外反するもの（20～27）との2種類に大別できる。前者では、口唇部が丸く納まるもの（12～17）と、口唇部が平担面を有しやや口径が大きいもの（18・19）とに細分できる。後者では、前者の形態に近く口縁部がやや弱く外反するもの（20～23）と、深めの胴部から強く外反して口縁部に至るもの（24～27）とに細分できる。特に26・27は、深く強く内湾する胴部から口縁部へ強く外湾するくびれ部を有しており、鉢形を呈している。



第４図　第６地点第１号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝1/60）訂 正 図



第4図　第6地点第1号竪穴式住居跡実測図（S=1/60）

高坏（28～33）は、坏部および脚部とも２種類ある。坏部はいずれも胴部と底部の境に段をなしているが、28・29はやや内湾する胴部から外反する口縁部へと開いているのに対し、30はほぼ直に開いている。脚部では、28・31・33の脚筒部がほぼ直に延びて脚裾部で大きく開くのに対し、32の脚筒部はやや膨らみを有している。調整技法は、坏部にハケとナデを、脚部にヘラケズリとナデを施している。しかし、坏部外面のハケは28・29がタテ方向であるのに対し30はヨコ方向であり、また32の脚裾部には他と異なりハケが残っている。

手捏ね土器（36～37）は、すべて埦形で、著しい指ナデ・オサエの跡が残っている。

40～42は、須恵器あるいは陶質土器と思われる破片である。40は炉址内より出土した壺の口縁～頸部の小片であり、色調灰色を呈する焼きが甘く軟質である。小片のため口唇部の形態に関しては微妙である。41は甕と思われる胴部の破片で、焼成不良で軟質である。器表の調整は内面不明瞭であるが、外面は細い平行線文タタキの後に沈線を施して縄蓆文様を呈している。42は、床面下層周溝内より出土した甕の胴部から底部にかけての破片である。焼成やや不良で、器表の調整は内面ナデ上げ、外面に細い格子目文タタキの後ナデを施している。

土　製　品（第80図，図版93）

炉址内より土製模造鏡（第80図１）１点が出土した。平面形は円形を呈し、背面中央には孔を通した鈕を配している。鏡面は中央がやや膨らんで反りを有している。調整技法はナデ・オサエによるものであり、鈕の周辺は指によるオサエの痕が残っている。胎土は密、焼成良好で、色調はにぶい橙色を呈している。鏡面径3.425～3.47cm、鈕径1.35～1.42cm、鈕孔径0.2cm、鈕高1.26cmを計る。

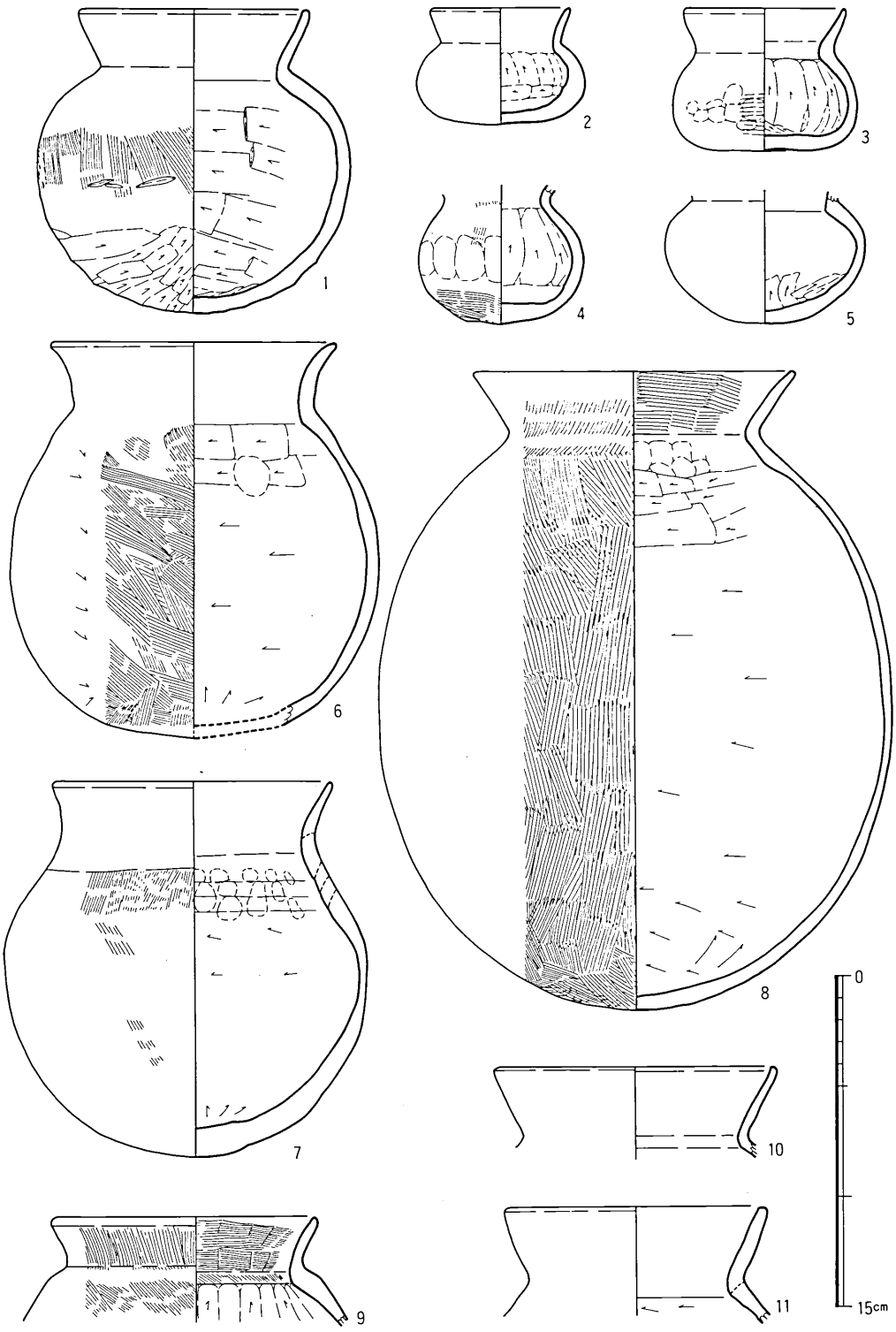
石　　器（第78図，図版92）

不明石器・石包丁・石斧各１の計３点が出土した。

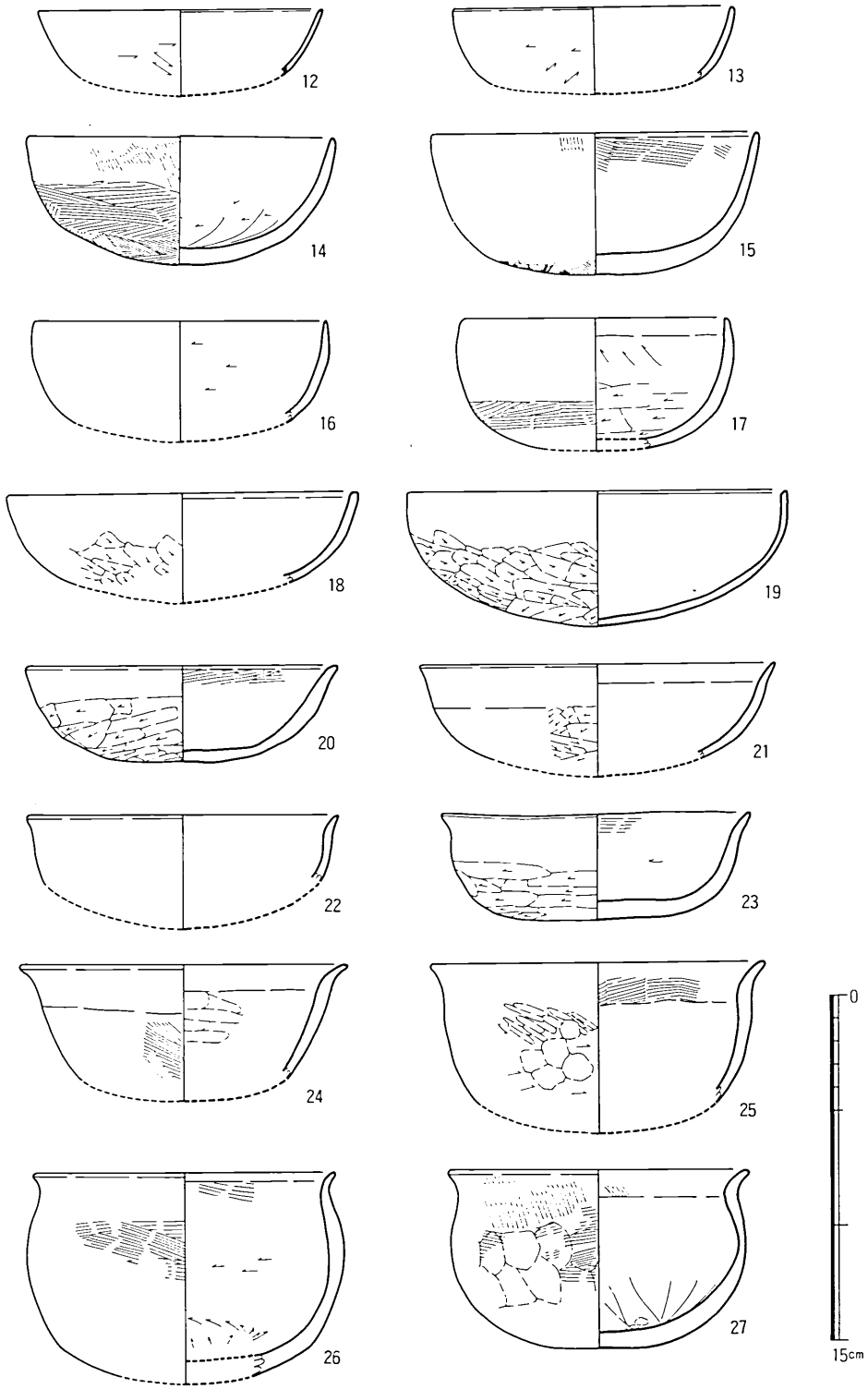
第78図１は、外表全面にベンガラによる赤彩が施されているが、形態・機能が不明な変成岩片である。背部が角張り腹部が丸くえぐれた「コ」の字形をし、腹部の丸みは一方からの穿孔の痕とも観れるが、石製装身具の未製品とは考えにくい。長さ2.4cm、幅1.2～1.65cm、厚さ1.6cmを計る。

同図２は、細粒砂岩製の石包丁片である。背部はやや外弯し、刃部は大きく外弯する形態を呈する。背面は平担面をなしている。孔は背部近くに２ヶ所観られ、両面からの回転穿孔である。残存長7.8cm、残存最大幅4.85cm、背面幅（厚さ）0.6cmを計る。

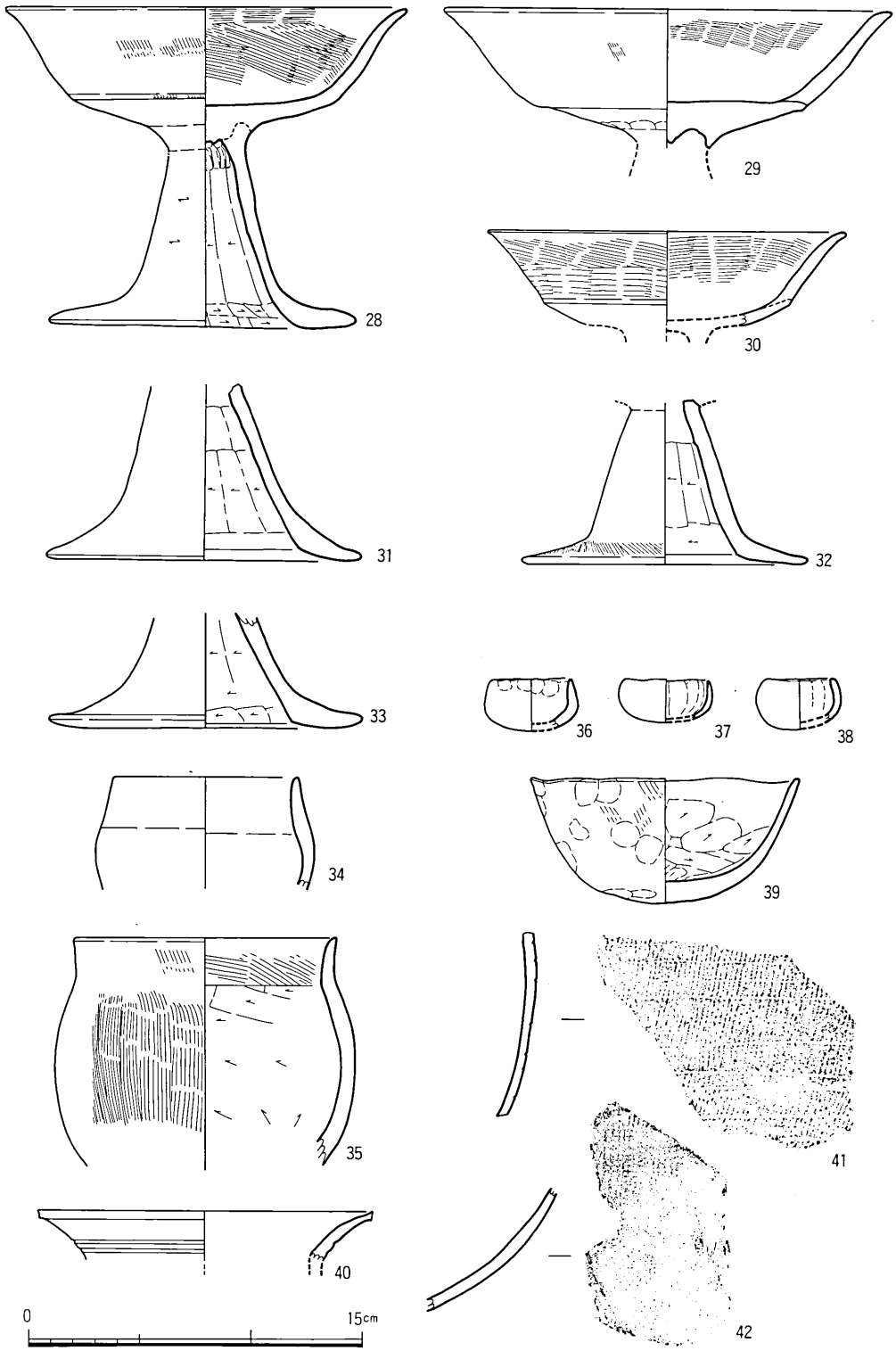
同図３は、緑泥片岩製の打製石斧片である。短冊形を呈し、基部側半分の折損品である。残存長7.0cm、幅4.5～4.8cm、厚さ0.5～0.6cmを計る。



第５図　第６地点　第１号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第6図　第6地点　第1号竪穴式住居跡出土土器実測図②（S＝1／3）



第７図　第６地点　第１号竪穴式住居跡出土土器実測図③（Ｓ＝１／３）

第3表 - ① 第6地点第1号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
5 - 1	壺	口径 10.5 器高 13.8 胴部径 14.1	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部中位以上タテハケの後、上位ヨコナデ中位ナデツケ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部～底部ヘラケズリ。	密。 0.5mm以下。 石粒やや多く含む。	良好	内一黒褐色 ～橙色 外一黄橙色 ～橙色	黒斑 部分的煤付着
5 - 2	小型壺	口径 6.4 器高 5.3 胴部径 7.65	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後ナデ仕上げ。 底部ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部指ナデ。	緻密。	良好	内一橙色 外一橙色	
5 - 3	小型壺	頸径 4.8 器高 6.5 胴部径 8.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヨコハケの後ナデ仕上げ。 底部ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部指ナデ。	緻密。	良好	内橙 ～暗赤褐色 外一黒 ～橙色	煤着色
5 - 4	小型壺	頸径 4.8 器高残 6.4 胴部径 7.5	頸部ヨコナデ。 頸～胴部ヨコハケの後ヨコナデ。 中位指押圧。 底部ヨコ・ナナメハケ。	頸部ヨコナデ。 胴部指ナデツケ。 底部ヨコナデ。	緻密。 0.5mm以下。 石粒多く含む。	良好	内一橙色 外一橙色	
5 - 5	小型壺	頸径 6.6 器高残 6.0 胴部径 9.1	頸部ヨコナデ。 胴部中位ヘラによるヨコナデ。 胴部下位～底部雑なナデツケ。	頸部ヨコナデ。 胴部丁寧なナデ。 底部指ナデツケ。	密。 1mm石粒少し。 0.1mm以下。 石粒多く含む。	良好	内一浅灰橙色 外一橙色 ～暗灰橙色	黒斑
5 - 6	甕	口径 12.9 器高残 17.4 胴部径 16.6	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ハケメの後部分的にナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヨコのヘラケズリ。 底部タテのヘラケズリ。 胴部上位ナデ仕上げ。	密。 1mm以下石粒著しく多く1～2mm石粒少し含む。	良	内一浅黄褐 ～黒色土 外一暗黄褐色	煤付着
5 - 7	甕	口径 12.7 器高 17.0 胴部径 16.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位タテ・ナナメハケの後ナデ仕上げ。 胴部中位～底部ヘラナデの後ナデ仕上げ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位指押圧。 胴部中～下位ヨコのヘラケズリ。 底部タテのヘラケズリ。	密。 1mm以下石粒多く含む。	良好	内一暗灰色 ～黒灰色 ～浅黄橙色 外一浅黄橙色	煤付着
5 - 8	甕	口径 14.6 器高 29.0 胴部径 23.2	口縁部ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後ヨコナデ。 胴部タテハケ。	口縁部ヨコハケ。 頸部ナデツケ。 胴部ヨコのヘラケズリの後、中位以下ナデ。 底部ナナメ・タテのヘラケズリ。	密。 1～5mm石粒多く含む。	良好	内一暗褐色 ～浅橙色 外一浅橙色 ～浅黄灰色 ～黒色	黒斑 煤付着
5 - 9	甕	口径 11.1 器高残 5.1	口縁～頸部タテハケの後、上下ナデ仕上げ。 胴部上位ナナメハケ。	口縁部ヨコハケ。 頸部ナナメハケ。 胴部タテのナデツケ。	やや粗。 0.5mm以下石粒多く、1～2mm石粒若干含む。	良好	内一浅黄灰色 ～暗灰色 外一浅黄灰色 ～黒灰色	
5 -10	甕	口径 12.8 器高残 4.25	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	密。 0.5mm以下石粒多く含む。	良好	内一浅黄褐色 ～暗茶褐色 外一橙～黄橙 ～暗灰色	部分的煤付着
5 -11	甕	口径 11.9 器高残 5.3	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヨコのヘラケズリ。	密。 0.5mm以下石粒多く、1～2mm石粒若干含む。	良好	内一黄褐色 ～浅黒色 外一浅暗灰 ～黒色	
6 -12	椀	口径 12.3 器高残 2.95	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後ナデ仕上げ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。	緻密。	良好	内一橙色 外一橙色	

第3表 - ②

挿入番号	器種	法量 (cm)	調整		胎土	焼成	色調	備考
			外面	内面				
6-13	埦	口径 12.2 器高残 3.3	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ仕上げ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。	緻密。 1mm石粒わずかに含む。	良好	内—橙色 外—橙色	
6-14	埦	口径 13.3 器高 5.6	口縁タテハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ヨコハケ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラによるナデツケ。	密。 1mm石粒少し。0.5mm以下やや含む。	良好	内—暗橙色 外—暗橙色	
6-15	埦	口径 14.2 器高 6.2	口縁～胴部タテハケの後、ヨコナデ。 底部タテハケ。	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部～底部ナデツケ。	緻密。	良好	内—灰黄色 ～橙色 外—灰黄色 ～橙色	
6-16	埦	口径 12.6 器高残 4.5	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。	口縁～胴部ヨコのヘラケズリの後、ヨコナデ。	緻密。	良好	内—橙色 外—浅黄灰色 ～橙色	黒斑
6-17	埦	口径 11.7 器高残 5.7	口縁部ヨコナデ。 胴部ヨコハケの後、中位ナデ仕上げ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上位タテのナデツケ。 胴部下位ヘラケズリ。	密。 1mm石粒少し。0.5mm以下石粒やや多く含む。	良好	内—暗赤褐色 外—暗橙色 ～暗赤褐色	
6-18	埦	口径 15.2 器高残 4.0	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位ナデ。	緻密。	良好	内—赤橙色 外—暗赤褐色	
6-19	埦	口径 16.4 器高 5.9	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位～底部ナデ。	緻密。 1mm若干含む。	良好	内—橙色 外—橙色 ～灰黄色	
6-20	埦	口径 13.5 器高 4.25 ～ 4.4	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	密。 1mm石粒少し。0.5mm以下石粒多く含む。	良好	内—橙色 外—橙 ～浅黄灰色	黒斑
6-21	埦	口径 15.4 器高残 4.2	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリ	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位ナデ。	緻密。	良好	橙色	
6-22	埦	口径 13.5	口縁部ヨコナデ。 胴部上位ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。	緻密。	良好	橙色	
6-23	埦	口径 13.1 ～13.4 器高 4.8	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	密。 0.5mm以下石粒含む。	良好	内—橙色 外—橙色 ～浅口橙色	黒斑
6-24	埦	口径 14.2 器高残 5.0	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、部分的ナデ仕上げ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデツケ。	緻密。	良好	黄橙色	
6-25	埦	口径 14.5 器高残 6.2	口縁部ヨコナデ。 胴部上位ナナメのヘラナデ。 胴部中位ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ナデ。	緻密。	良好	浅黄橙色	
6-26	埦	口径 13.1 器高残 8.9 胴部径 13.8	口縁部ヨコナデ。 胴部上位ヨコ・ナナメハケの後、ナデ仕上げ。 胴部下位ナデ・指押圧。	口縁部ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部中位ヨコナデ。 胴部下位～底部タテナデ。	密。 1～2mm石粒少し。 0.5mm以下石粒多く含む。 金雲母？混		灰橙～橙色	黒斑
6-27	埦	口径 13.0 器高 7.7 胴長部 12.7	口縁～胴部上位タテハケの後、ヨコナデ。 胴部中位ヨコハケの後ナデ・指押圧。 胴部下位～底部ナデ。	口縁部タテハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ヘラによるナデ。	緻密。 1～2mm石粒若干含む。	良好	浅黄灰色 ～橙色	黒斑

第3表 - ③

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
7-28	高坏	口径 18.0 器高 14.5 脚部径 13.8	坏身口縁～胴部タテハケの後、ヨコナデ 底～脚裾部ヨコナデ	坏身口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ヨコナデ。 底部ナデ。 脚筒部ヨコのヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	緻密。 1mm以下石粒ごく少し含むのみ。	良好	坏部内面黒色 他 明橙色	
7-29	高坏 (坏身)	口径 20.1 ～20.4 器高残 6.2	坏身全面ヨコナデ。 胴部に一部タテハケ残る 脚部接合部押圧。	口縁～胴部上位ヨコハケの後、胴部下位までヨコナデ。 底部ナデ。	緻密。	良好	内～浅黄橙色 外一明黄橙色 ～浅灰橙色	
7-30	高坏 (坏身)	口径 16.1 器高残 4.2	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ヨコハケ。 底部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ヨコハケの後、ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	密。 1mm以下石粒多く含む。	良好	内一浅暗褐色 外一浅白桃色 ～浅橙色	
7-31	高坏 (脚部)	器高残 7.9 脚裾径 14.1	筒部ナデ仕上げ 裾部ヨコナデ	筒部上位ナデツケ。 筒部下位ヨコのヘラケズリ。 裾部ヨコナデ。	緻密。	良好	内一橙色 外一浅灰橙色	
7-32	高坏 (脚部)	器高残 7.4 裾部径 12.8	筒部ヘラケズリの後、ナデ仕上げ。 裾部ナナメハケの後、ヨコナデ。	筒部ヨコのヘラケズリ。 裾部ヨコナデ。	密。 1mm以下石粒多く含む。	良好	内一浅暗褐色 外一浅白桃色 ～浅橙色	黒斑
7-33	高坏 (脚部)	器高残 5.2 脚裾部 14.0	筒部ナデ仕上げ。 裾部ハケの後、ヨコナデ。	筒部ヨコのヘラケズリ。 裾部ヨコナデ。	緻密。 1mm以下石粒少し含む。	良好	内一橙色 外一浅灰橙色	
7-34	鉢?	口径 8.4 器高残 5.1 胴部径 9.8	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	密。	不良	浅橙色	
7-35	甕?	口径 11.8 器高残 10.3 胴部径 13.4	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部タテハケ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。	密。 0.5mm以下石粒多く含む。	やや不良	内一黒褐色 外一暗褐色 ～浅白桃色	部分的煤付着
7-36	椀形手捏ね土器	口径 3.6 器高残 2.3	口縁部指押圧。 胴部ナデツケ	口縁部指押圧。 胴部ナデツケ。	緻密。	良好	浅橙色	
7-37	椀形手捏ね土器	口径 3.7 器高残 1.8	口縁～胴部ナデ。	口縁～胴部指ナデ。	緻密。	良好	暗橙色	
7-38	椀形手捏ね土器	口径 3.0 器高残 2.2	口縁～胴部ナデ。	口縁～胴部指ナデ。	緻密。	良好	内一暗橙色 外一暗橙色 口辺部一黒灰色	
7-39	鉢?	口径 11.9 ～12.4 器高残 5.7	口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ。 ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部指ナデ。	緻密。	良好	内一浅灰黄色 ～浅橙色 外一浅黄橙色	黒斑
7-40	壺	口径 15.0	口～頸部ヨコナデ。	口～頸部ヨコナデ。	緻密。	やや不良	灰色	須恵器小片からの復元
7-41	胴部破片		細い平行線文叩きの後、沈線。	不明	緻密。 1㎜以下石粒含む。	不良	内一灰白色 外一浅黄灰色	陶質土器 ?
7-42	胴～底部破片		細い格子目文印の後、ナデ。	全面ナデ。	緻密。 1～3mm石粒含む。	やや不良	にぶい黄褐色 ～暗褐色	陶質土器 ?

第２号竪穴式住居跡（第８図、図版６～10）

調査区の最東端に位置し、全体の１／４ほどが検出できたが東壁側は調査区外へ延びている。長さ6.4×6.2m以上の方形を呈し、推定４本と考える主柱穴は北西―南東にやや長く配されている。屋内中央の北西壁寄りに径64×29cmの楕円形を呈する炉があり、その主軸方向は主柱穴方向と同じである。北東壁中央に段状を呈した張出し部が検出でき、最初は重複した他の遺構と考えたが土層観察（図版７）より本住居跡に伴う出入り口の施設と判断した。床面下層の掘り方は概略方形周溝状に周辺を掘り下げ、各コーナー付近では更に一段掘りくぼめている。

出　土　遺　物

床面直上より多量の土器が出土し、特に埦は重ねてまとめられた状態で出土した。室内中央にはやや少なく、炉址の西側近くには甕が置かれ、埦などの小物は柱の近くや壁際にまとめて置かれている。

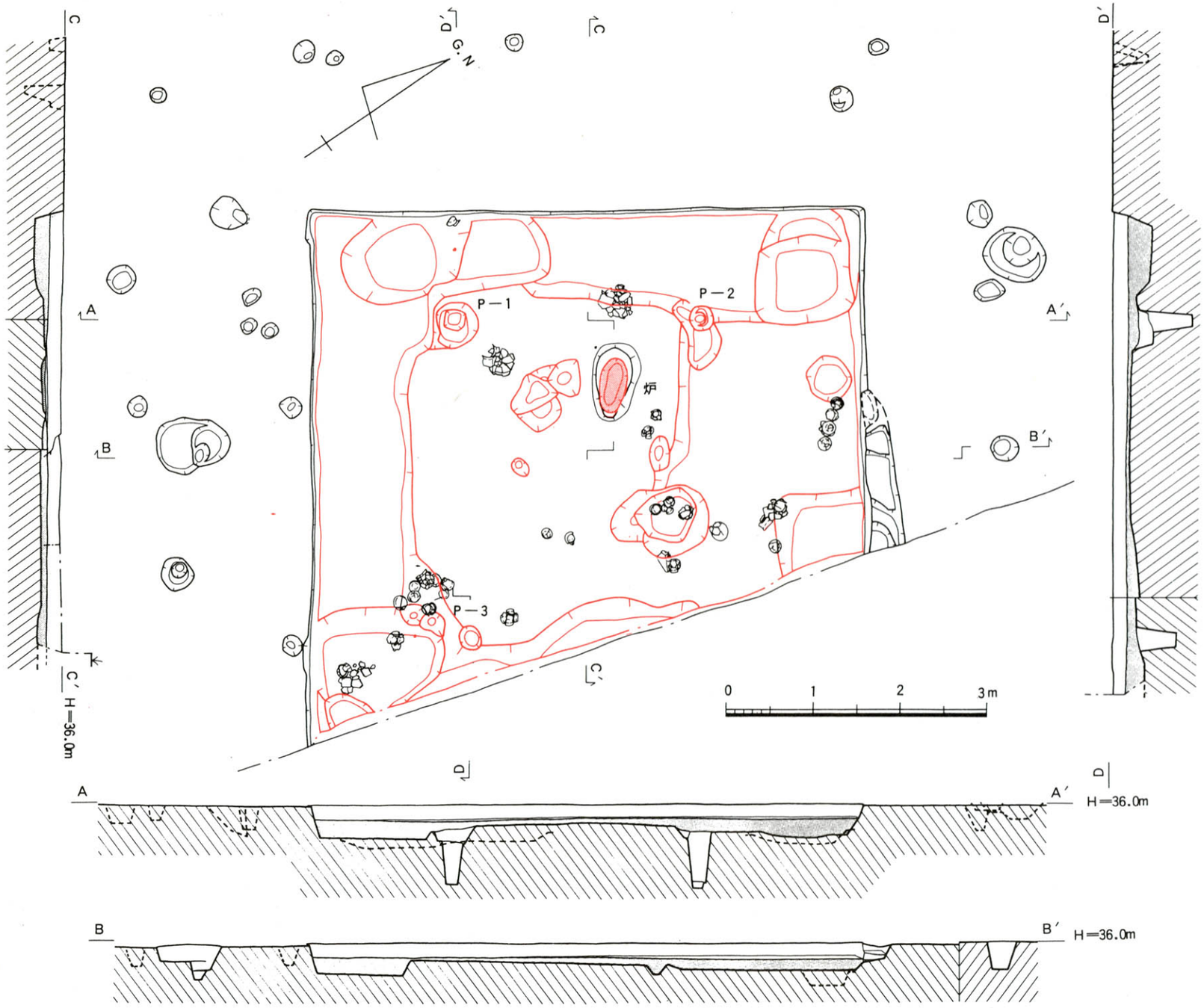
土　　器（第９～16図，図版76～79）

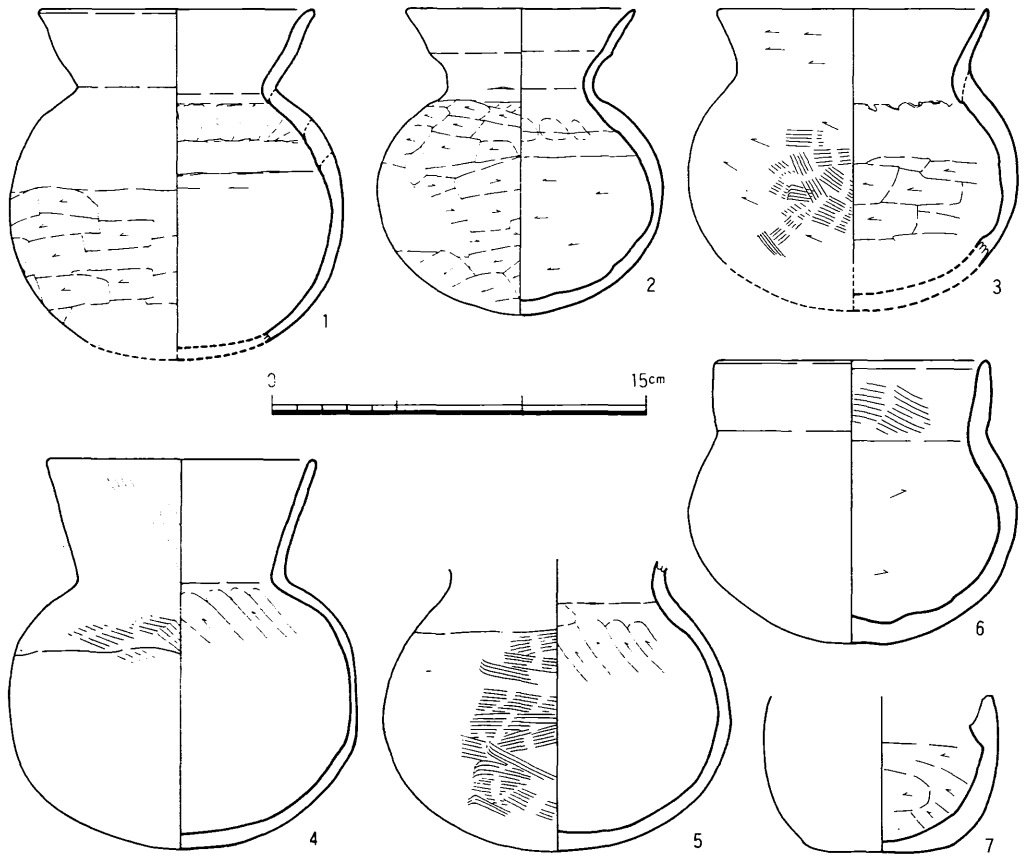
土師器（１～84）が最も多く、破片ながら１片の須恵器（85）も出土している。

壺（１～７）はすべて中型であるが、大きく、丸底のもの（１～５）と平底のもの（６～７）とに分けられる。前者では口縁部から頸部にかけて段を有するもの（１・２）と直行するもの（３・４）との２種類があり、前者がヘラケズリとナデに対し後者はハケを施しており、調整技法においても違いがある。特に２は、いわゆる須恵器の𤭯に模したような形態をしている。

甕（８～17）は中小２種類があるが、どちらも丸底を呈している。小型のもの（８～10・13～15）は、球形の胴部に外傾する頸部がつくもの（８）と、頸部がほぼ直に立ち上がり中程で強く外傾して口縁部に至るもの（９・13～15）とがある。調整技法はすべて外面ハケ・内面ヘラケズリであるが、８だけが内面のヘラケズリが縦方向に施されている。中型のもの（11・12・16・17）は、口頸部が外反するもの（11・16）あるいは直に外傾するもの（17）のほか、頸部がほぼ直に立ち上がり中程で強く外傾し明確な「コ」の字形を呈するもの（12）がある。調整技法は、いずれも外面にハケの後胴部下半から底部にかけてナデを施し、内面では胴部にヘラケズリが施されている。しかし、やや大型の16・17の頸部内面がヨコナデだけであるのに対し、11・12の頸部内面にはヨコハケが施されている。

埦（18～72）が最も多く出土しており、その形態も細部にわたってはバラエティーに富んでいる。口縁部の形態では、素口縁のもの（18～48）と口脇部直下で強く外反させた「S」字状を呈するもの（49～72）の大きく２種類がある。更に、胴部から口縁部にかけての形態では、内弯しながらも外開きするもの、内弯しながら立ち上がるもの、全体的に胴部から内弯したまま口縁部に至り胴部に最大径を有するものの３つに細分できる。底部は丸底のもの（18～70）


C
D′
N.G.
C
D′
A
P－1
P－2
A′
炉
B
B′
P－3
C′
H=36.0m
0
1
2
3m
D
D
A
A′
H=36.0m
B
B′
H=36.0m

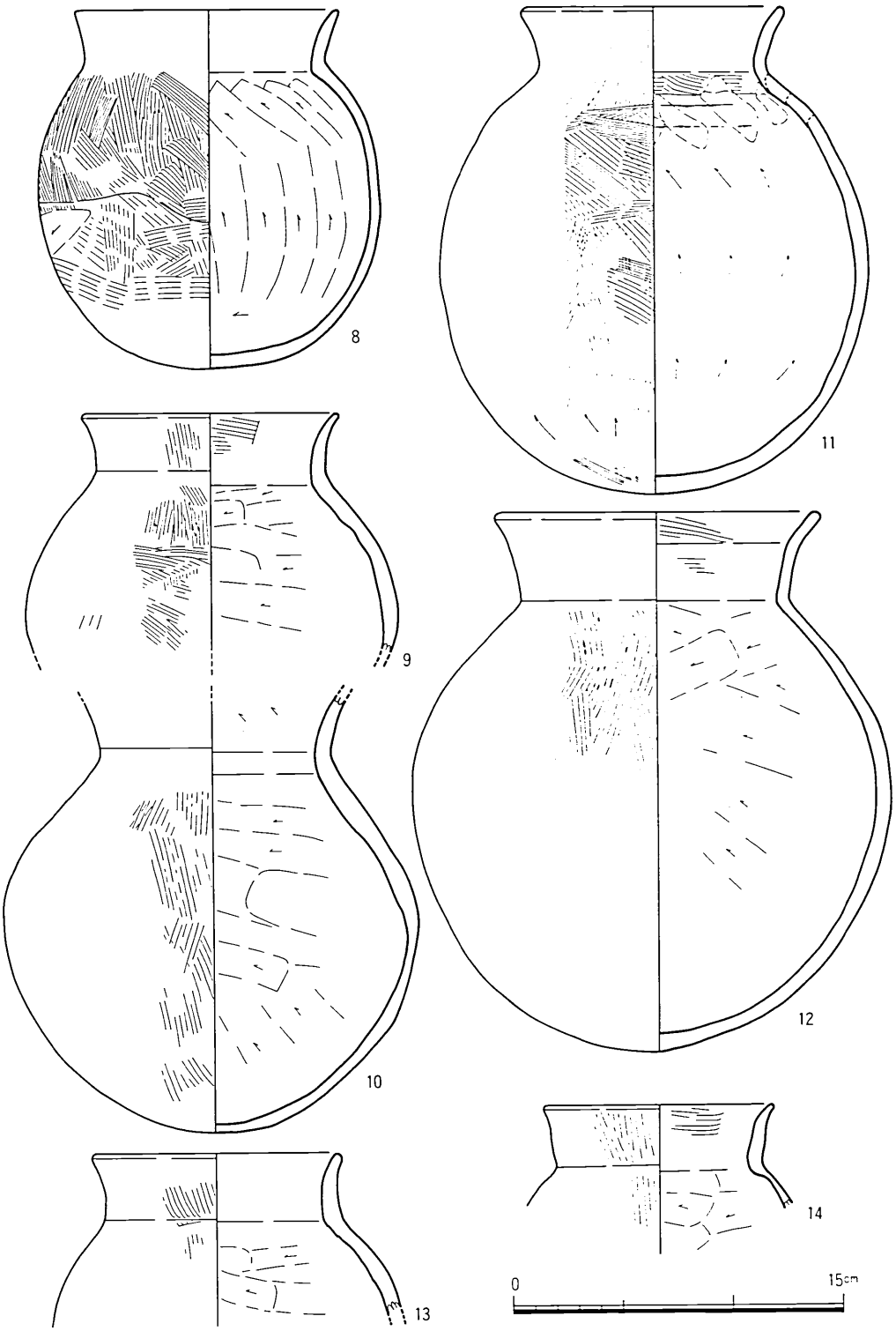


第9図　第2号竪穴式住居跡出土土器実測図 ①（S＝1／3）

が圧倒的に多く、平底と思われるもの（71・72）は「S」字状口縁のものである。特に68・69は、深く強く内弯する胴部から口縁部へ強く外反するくびれ部を有し鉢形を呈している。埦の胎土は総体的に精製されたものであり、調整技法は外面をヘラによる丁寧なケズリ・ナデ、内面を丁寧なナデを施し、総じて丁寧な作りである。焼成も良好で、多くが黒斑を有している。平底のもの（71･72）は胴部外面にハケが施されており、丸底のものとは調整技法においても異なっている。72の底部外面には木葉の圧痕が残っている。

高坏（73・74）の坏部は胴部と底部の境に段を有し、若干内弯する胴部から外反する口縁部へと開いている。脚部は、73の筒部がやや膨らみを有して裾部で大きく開くのに対し、74は筒部から大きく開いており3方に円形スカシが穿たれている。

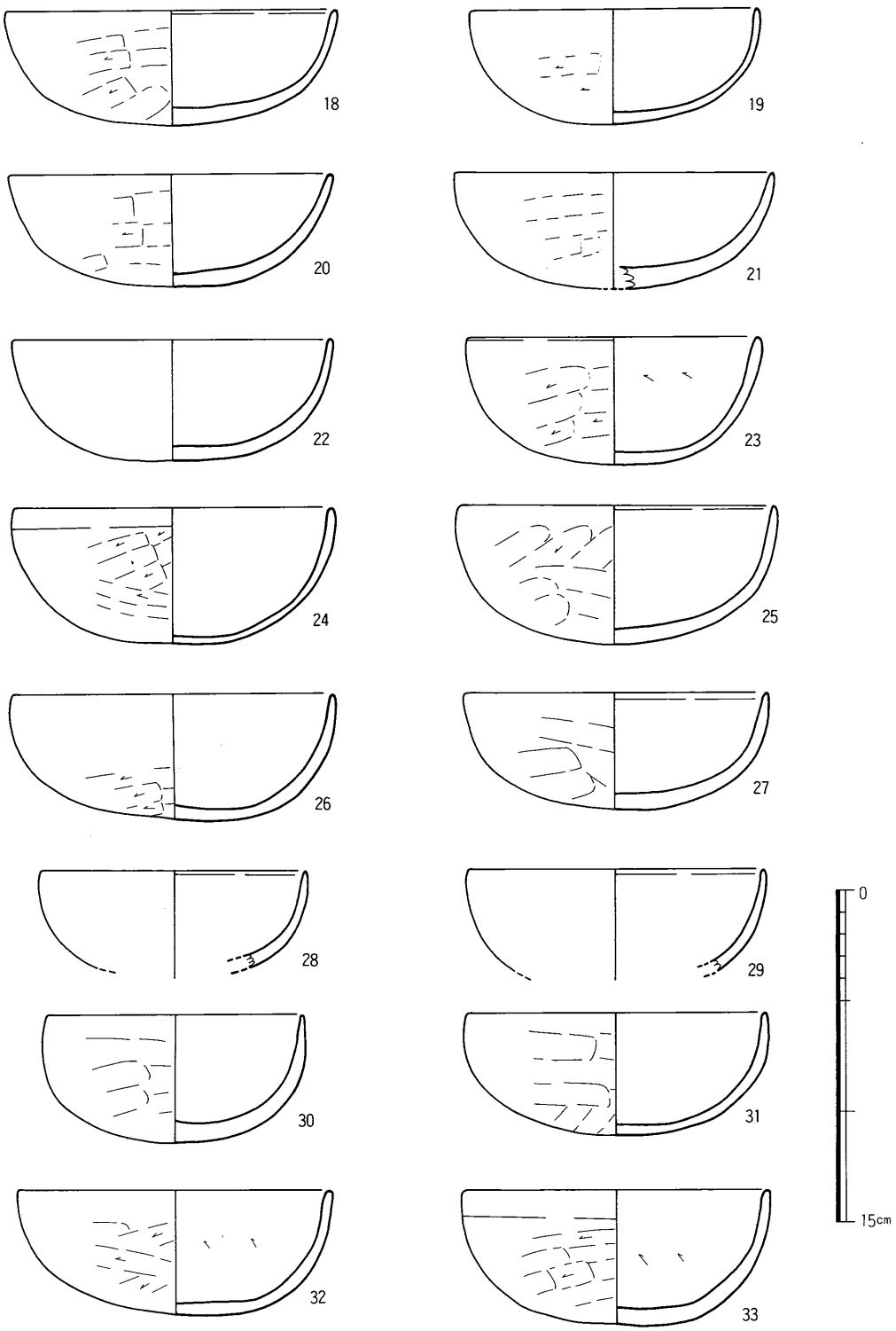
手捏ね土器（75～84）は、その形態から3種類ある。75～80は埦形のものであり、やや浅めのもの（75・76）と深めのもの（77～80）とがある。調整技法は、すべて指によるナデ・オサエである。81・82はいわゆる壺形のものである。82は、いわゆるミニチュアとしてはやや大きめ



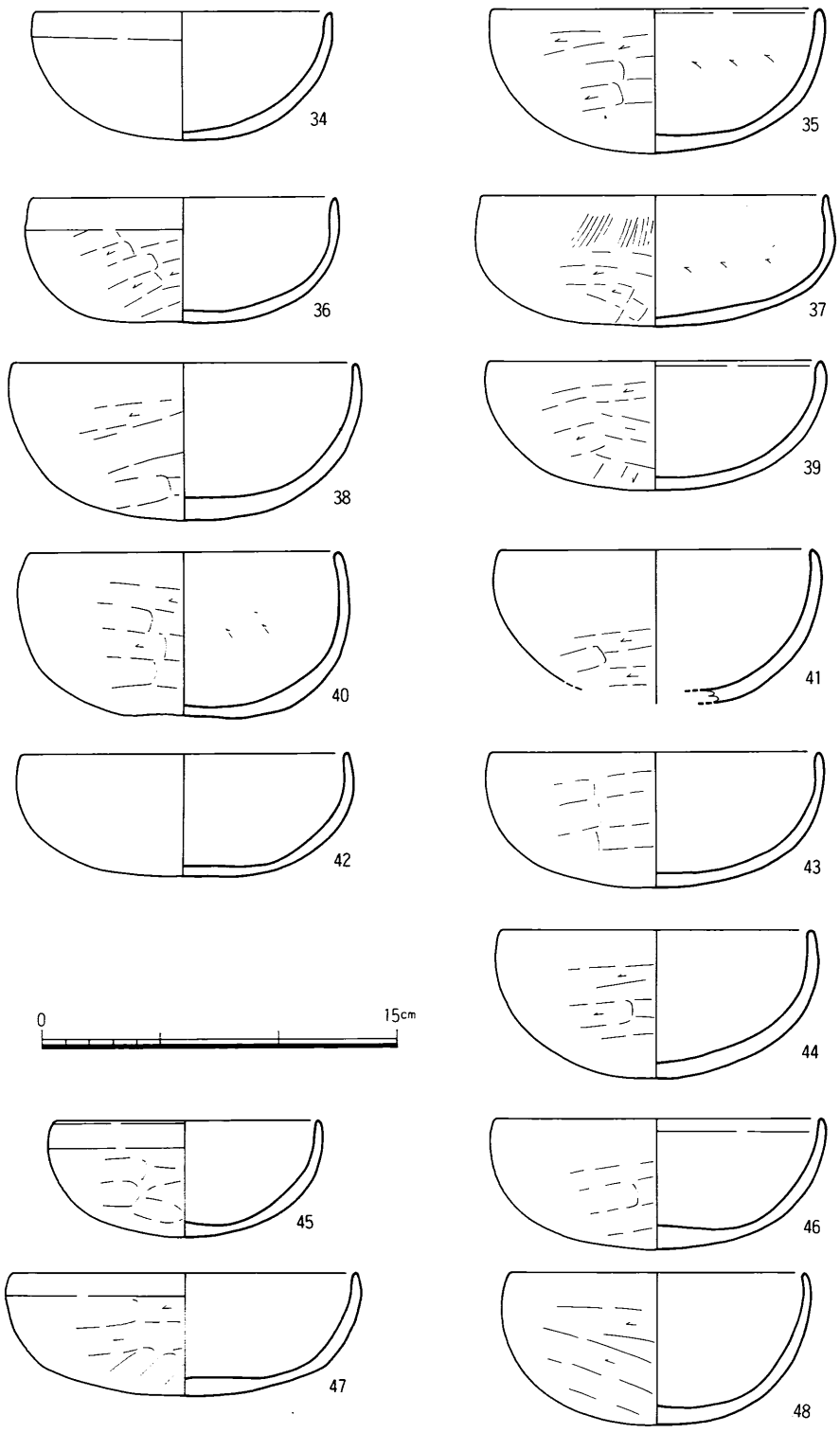
第10図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）



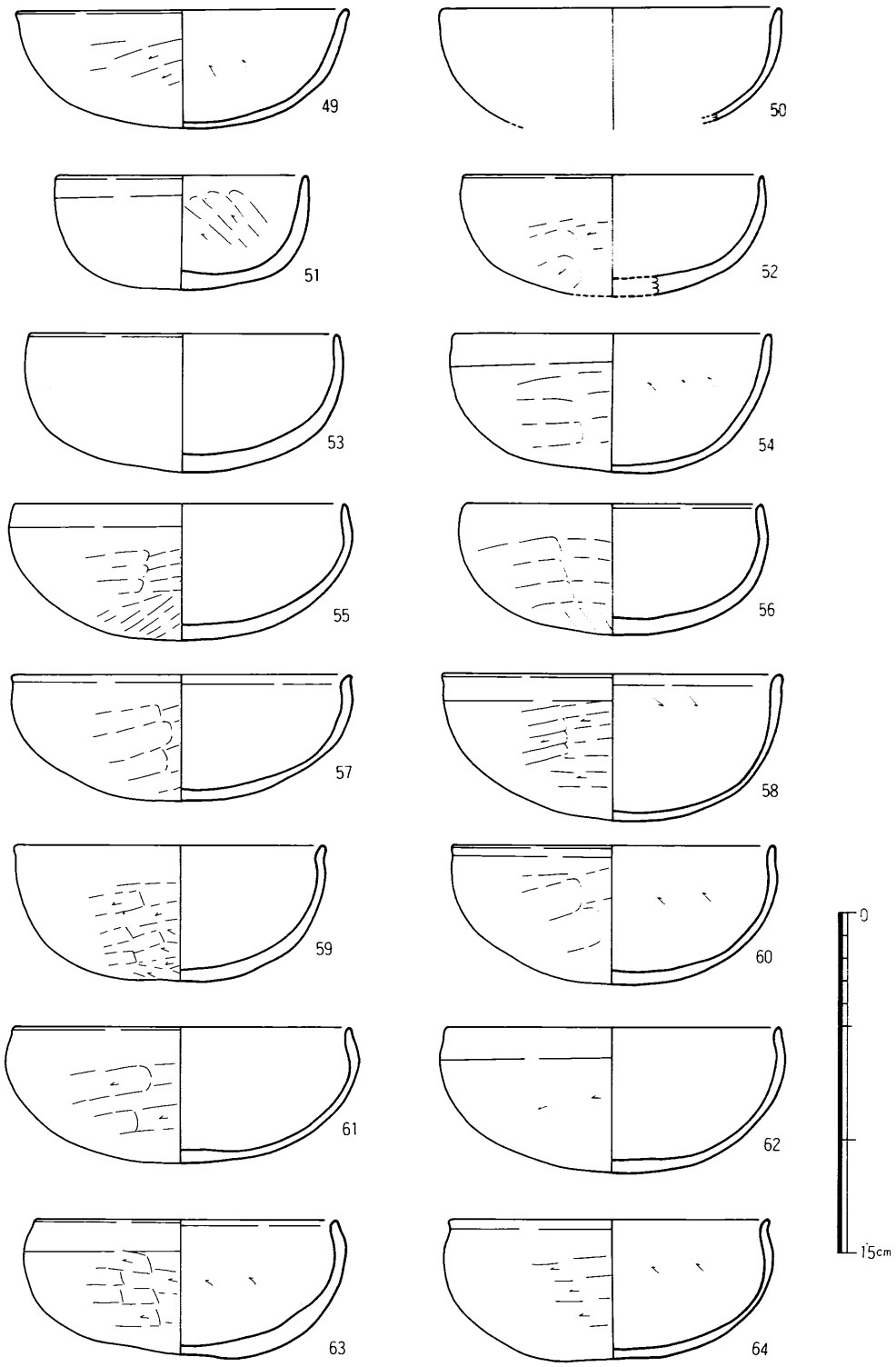
第11図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図③（Ｓ＝１／３）



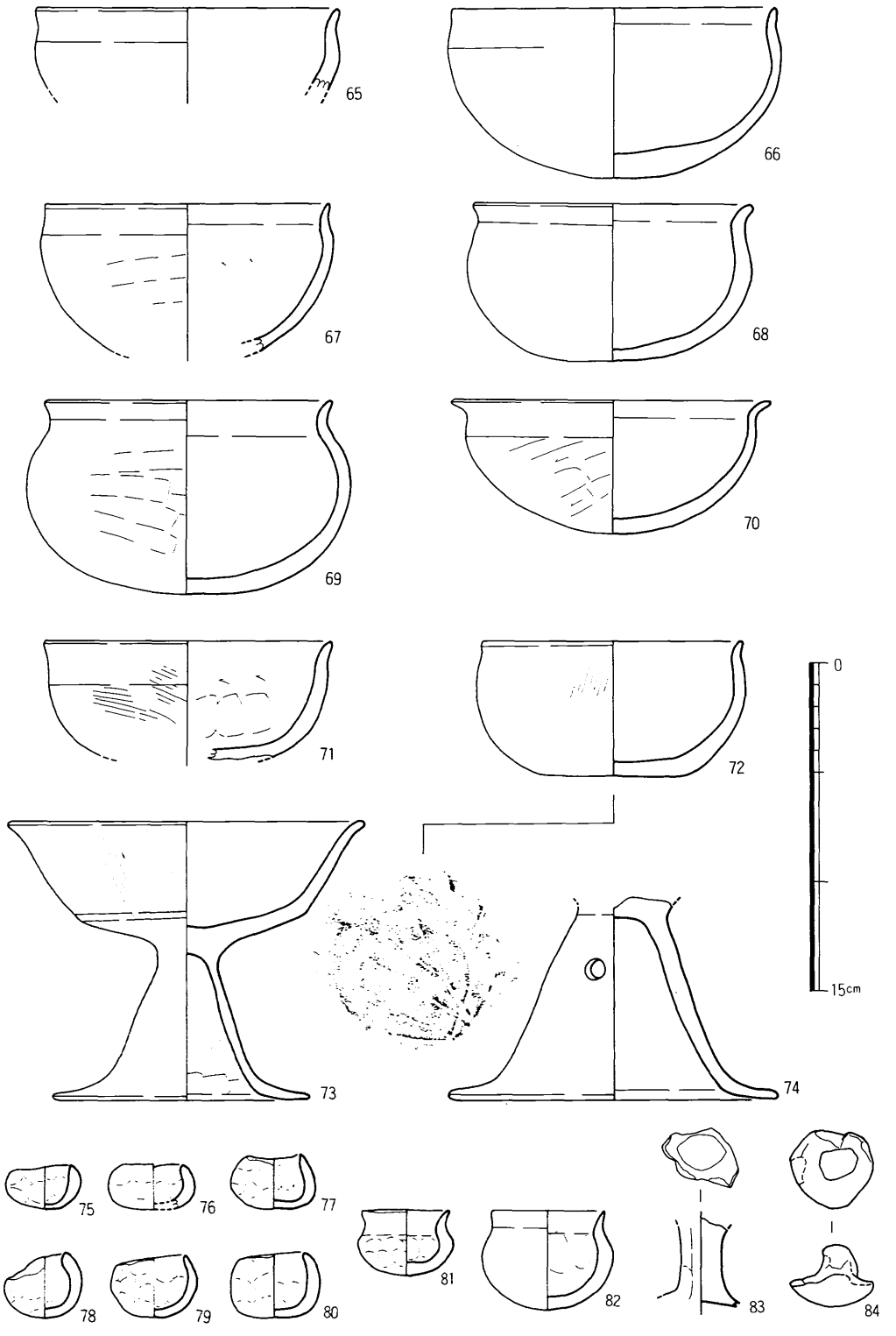
第12図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図④（Ｓ＝１／３）



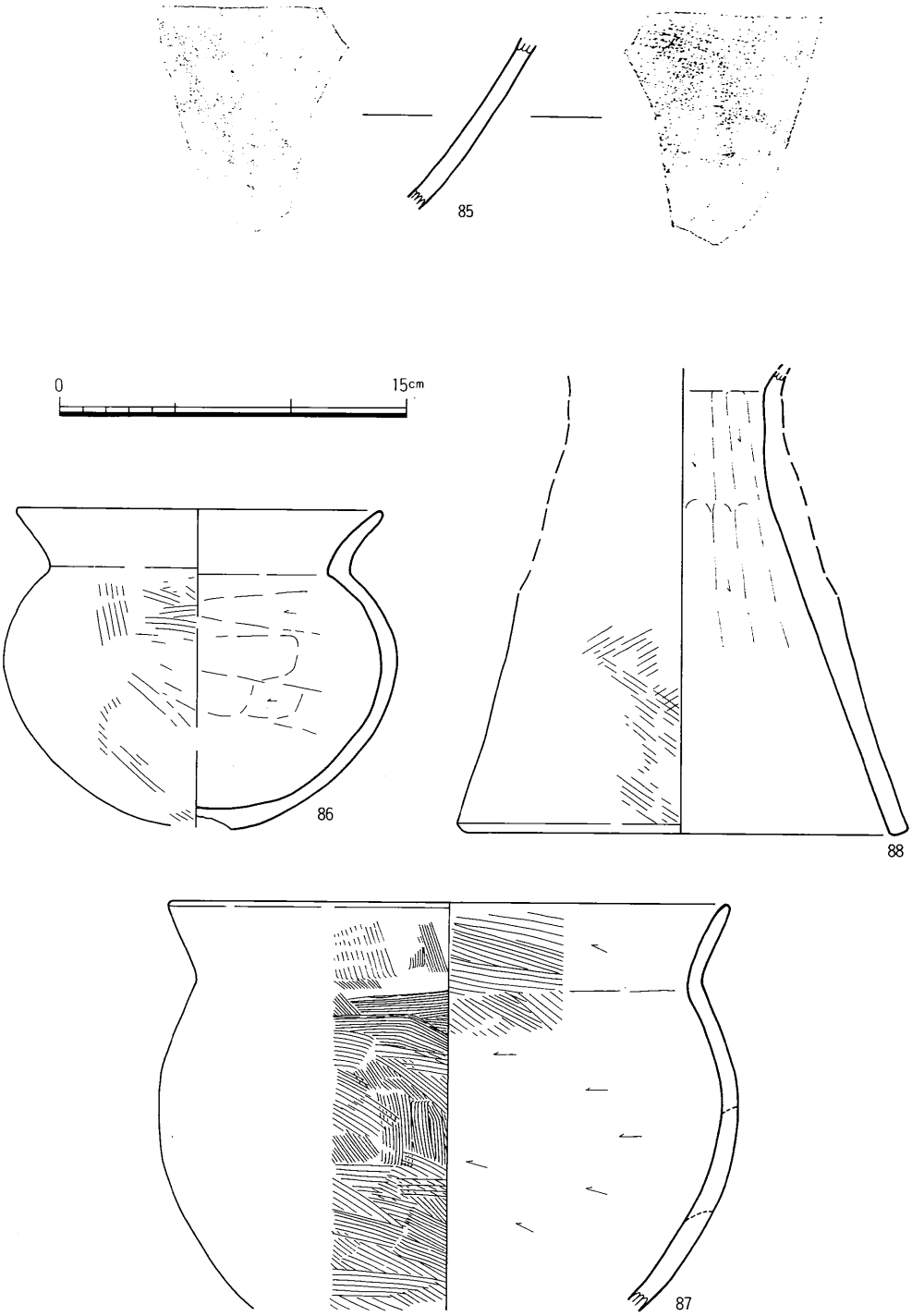
第13図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図⑤（Ｓ＝１／３）



第14図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図⑥（Ｓ＝１／３）



第15図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図⑦（Ｓ＝１／３）



第16図　第６地点　第２号竪穴式住居跡出土土器実測図⑧（Ｓ＝１／３）

であり作りも丁寧である。調整技法は、ナデ・オサエのほか、口縁部から線部にかけてヨコナデが施されている。83・84は、折損品のため明確ではないが高坏形のものと考える。83は脚筒部であるが、中は空洞ではなく充満している。84は一見土製造鏡に思えるが、まだ上位に続いており脚裾部であると考える。

須恵器（85）は、甕胴部の破片である。胎土は緻密で、焼成は良好堅緻である。色調は、内面灰色、外面灰色～暗灰色を呈する。調整技法は、外面を平行線文タタキの後下部をナデ仕上げ、内面を同心円文タタキの後ナデ仕上げしている。

弥生土器（86～87）も出土しており３点を図化した。いずれも埋土中からの出土であり当住居跡に直接伴うものではない。

石　　器（第78図，図版92）

打製石斧１点が出土している。第78図４は、角閃石片岩製の打製石斧である。基端部より刃部の幅が広い短冊形を呈し、基部側が刃部側より倍の厚みをもっている。長さ13.4cm、基端部幅3.5cm、刃部5.8cm、基端部厚さ1.15cm、基部最大厚さ1.6cm、鏃部厚さ0.8cmを計る。

玉　　類（第80図，図版93）

床面下層から小玉１点が出土している。第80図２は、ややダークブルーの色調を呈するガラス小玉である。径0.71～0.76cm、厚さ0.41cm、孔径0.3cmを計る。

第４表－① 第６地点第２号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
9－1	壺	口径 11.1 器高残 13.4 胴部径 13.2 頸径 13.2	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヨコのヘラケズリの後、ナデ仕上げ。 胴部中～下位ヘラケズリ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位指ナデ。 胴部中～下位ナデ。	緻密。	良好	内―暗橙色～黒灰色 外―浅赤褐色～黒灰色	部分的煤付着
9－2	壺	口径 8.9～9.3 器高 12.3 胴部径 11.4 頸部 5.9～6.3	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。 底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 頸～胴部上位ナデ・指オサエ。 胴部ヨコナデ、 底部不定方向のナデ。	緻密。	良好	暗黄橙～橙色	煤付着 底部熱を受けて赤変
9－3	壺	口径 10.8 器高残 10.25 胴部径 13.1	口縁部ヘラ端部によるヨコナデ。 頸～胴部下位ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 頸～胴部上位ヘラによるヨコナデ。 胴部中位ヘラケズリの後、ナデ。	緻密。	良好	淡黄橙色	
9－4	壺	口径 10.6～10.8 器高 15.6 胴部径 13.8～14.1 頸径 8.2	口縁～頸部ナナメハケの後ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラによるヨコのナデツケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナデツケ。 胴部中位～底部ヘラによるナデツケ。	緻密。	良好	黄橙色	黒斑（底部外面）

第4表 - ②

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
9 - 5	壺	口径 11.9 器高 16.3 胴部径 15.5	頸部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケの後、ナデ。 底部ヘラによるナデ。	頸部ヨコナデ。 胴部上位指によるナデツケ。 胴部中位～底部ナデツケ。	緻密。	良好	黄橙色	黒斑（底部外面） 煤付着
9 - 6	壺	口径 11.0 器高 11.3 胴部径 13.1	口縁部ヨコナデ。 頸部～底部ナデ。	口縁～頸部ナナメハケ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	明赤褐色	
9 - 7	壺		胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	胴～底部ナデ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
10- 8	甕	口径 11.9 器高 16.3 胴部径 15.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上～中位タテ・ナナメハケ。 胴部中～下位ヨコ・タテハケの後、ナデ。 底部ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナナメのヘラケズリ。 胴部中～下位タテのヘラケズリ。 底部ヘラによるナデ。	密。 1㎜砂粒少し。 0.5㎜以下石粒多く含む。	良好	内―暗褐色 ～暗黄褐色 外―暗灰褐 ～黒色 ～浅赤褐色	黒斑 煤付着
10- 9	甕	口径 11.7	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上位タテハケ。 胴部中位ヨコ・ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ヨコのヘラケズリ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色 ～暗褐色	
10-10	甕	胴部径 18.8	頸部ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ。	頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリ。 底部不定方向のナデ。	0.5～2㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄橙色 ～灰黄褐色	黒斑
10-11	甕	口径 12.0 器高 22.2 胴部径 19.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ヨコ・ナナメハケ。 胴部中位ハケの後、ナデ。 胴部下位～底部タテハケの後、タテナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 頸部ヨコハケ。 胴部上位ナナメハケの後、指ナデ。 胴部タテハケ。 底部タテハケの後、ナデ仕上げ。	密。 0.5㎜以下石粒多く、1～3㎜やや多く含む。	やや不良	内―浅灰橙色 ～浅橙色 外―浅橙色 ～白黄色	煤付着
10-12	甕	口径 14.9 器高 24.5 胴部径 21.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位タテハケの後、ナデ。 胴部中位～底部タテハケの後、ナデ仕上げ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ナナメのヘラケズリ。 底部ナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。	良好	にぶい橙色	煤付着
10-13	甕	口径 11.3	口縁部ヨコナデ。 頸～胴部上位タテハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	内―黒褐色 外―にぶい橙色 ～暗赤褐色	
10-14	甕	口径 10.2	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上位タテハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヨコのヘラナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
11-15	甕	口径 14.6	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上位タテハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ヨコのヘラナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	良好	褐色	
11-16	甕	口径 19.4 器高残 23.1 胴部径 26.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上～中位ナナメハケ。 胴部中～下位タテ・ナナメハケの後、ナデ仕上げ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上～中位ヨコのヘラケズリ。 胴部中～下位タテのヘラケズリ。	密。 1～2㎜石粒多く含む。	良好	内―浅灰白色 ～浅橙色 外―浅黄褐色 ～茶褐色	煤付着
11-17	甕	口径 15.0 器高 26.8 胴部径 24.4	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ヨコ・ナナメハケ。 胴部中～下位タテ・ナナメハケ。 胴部下位～底部タテのナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上～中位ヨコのヘラケズリ。 胴部中～下位ナナメのヘラケズリ。 底部タテのヘラケズリの後、ナデ仕上げ。	密。 0.5㎜以下石粒多く含む。	良好	内―浅橙色 ～浅灰褐色 外―橙色 ～黒褐色	黒斑

第4表 - ③

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
12-18	埦	口径 14.8 器高 5.3	口縁部をヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	明赤褐色	
12-19	埦	口径 12.9 器高 5.3	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。	良	にぶい黄橙色	黒斑
12-20	埦	口径 13.8 ～14.6 器高 5.0 ～5.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	0.5～2mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	良好	橙色	
12-21	埦	口径 14.4 器高 5.3	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	良好	内一にぶい黄褐色 外一橙色～にぶい黄橙色	
12-22	埦	口径 14.5 器高 5.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
12-23	埦	口径 13.2 器高 5.8	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	黒斑
12-24	埦	口径 14.3 器高 6.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位～底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒少量含む。	やや良好	明赤褐色	
12-25	埦	口径 14.1 器高 6.3	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	橙色	
12-26	埦	口径 14.5 器高 5.8	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒をわずかに含む。	良好	内一橙色 外一橙色	黒斑
12-27	埦	口径 13.6 器高 5.3	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位～底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 微細砂粒多く含む。	良好	橙色	黒斑
12-28	埦	口径 12.2	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
12-29	埦	口径 13.4	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部下位不定方向のナデ。	微細砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
12-30	埦	口径 11.6 ～12.1 器高 5.8	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒少量含む。	良好	明褐色	
12-31	埦	口径 13.4 器高 5.6	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒含む。	良好	赤褐色	
12-32	埦	口径 14.3 器高 5.7	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒少量含む。	良好	内一明褐色～橙色 外一橙色	
12-33	埦	口径 14.0 器高 6.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	良好	橙色	黒斑
12-34	埦	口径 12.5 器高 6.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細砂土をわずかに含む。 細雲母わずかに含む。 1mm大砂粒をわずかに含む。	良好	橙色	黒斑

第4表 - ④

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
13-35	埦	口径 13.6 ～14.0 器高 6.1	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。		良好		
13-36	埦	口径 12.8 ～13.2 器高 5.2 ～ 5.4	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	橙色	
13-37	埦	口径 13.8 ～14.6 器高 5.6	口縁～胴部上位ヨコナデの後、ハケ。 胴部中位～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中～下位ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	黒斑
13-38	埦	口径 14.4 器高 6.7	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	微細雲母多く含む。 0.5mm大砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—にぶい褐色～褐灰色 外—にぶい橙色	黒斑
13-39	埦	口径 14.0 器高 5.4 胴部径 13.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1mm砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色～にぶい橙色	
13-40	埦	口径 13.0 器高 7.1	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	黒斑
13-41	埦	口径 12.9 ～13.2 器高 6.6 胴部径 14.0	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラナデ？	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色	
13-42	埦	口径 13.7 ～14.5 器高 5.0 ～ 5.3	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ仕上げ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色～にぶい黄橙色	
13-43	埦	口径 13.8 器高 5.7	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色	黒斑
13-44	埦	口径 13.1 器高 6.2 胴部径 13.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母わずかに含む。	やや良好	内—橙色 外—明褐色	
13-45	埦	口径 11.4 器高 5.0	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	明赤褐色	黒斑
13-46	埦	口径 13.3 ～13.7 器高 5.6	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	褐色	
13-47	埦	口径 14.6 器高 5.2 胴部径 15.1	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
13-48	埦	口径 12.4 ～13.2 器高 6.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	赤明褐色	
14-49	埦	口径 14.2 ～14.7 器高 5.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細砂粒少量含む。	良好	にぶい褐色	黒斑

第4表 - ⑤

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
14-50	壺	口径 15.0	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部不定方向のナデ。	微細砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	にぶい黄褐色 ～暗褐色	
14-51	壺	口径 10.6 ～11.2 器高 5.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ仕上げ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母多く含む。	やや良好	明赤褐色	黒斑
14-52	壺	口径 13.2	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	明褐色	
14-53	壺	口径 13.7 器高 6.1 胴部径 14.0	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	黒斑
14-54	壺	口径 14.0 ～14.7 器高 6.0 ～6.3	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	赤明褐色	
14-55	壺	口径 14.4 ～14.7 器高 6.0 胴部径 15.1	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位ヨコのヘラナデ。 胴部下位～底部ナナメのヘラナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
14-56	壺	口径 13.0 器高 5.8	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	にぶい黄褐色 ～橙色	黒斑
14-57	壺	口径 15.0 器高 5.6	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラナデ。	口縁～胴部上位ナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	明褐色	
14-58	壺	口径 15.0 器高 6.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上位ナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。		良好	にぶい橙色	内外面黒斑
14-59	壺	口径 13.7 器高 6.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
14-60	壺	口径 14.4 器高 6.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	良好	明赤褐色	
14-61	壺	口径 14.9 器高 6.0	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	明赤褐色	
14-62	壺	口径 14.2 ～14.7 器高 6.5	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不定方向のナデ。	微細砂粒多く含む。	良好	明赤褐色 ～にぶい褐色	黒斑（内面胴～底部）
14-63	壺	口径 13.4 器高 6.1 胴部径 14.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ、 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	黒斑
14-64	壺	口径 14.1 器高 6.2 ～6.4	口縁部ヨコナデ。 胴部ヨコのヘラナデ。 底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ、 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	内—黒褐色 外—にぶい褐色 ～暗褐色	黒斑
14-65	壺	口径 13.9	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。	微細雲母わずかに含む。	やや良好	明赤褐色	

第4表 - ⑥

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
15-66	壺	口径 14.9 器高 7.8 胴部径 15.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。 底部ハケの後、ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	明赤褐色	黒斑
15-67	壺	口径 13.0 器高 13.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上～中位ナデ。 胴部下位不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	内—にぶい黄橙色 外—橙色～にぶい黄橙色	
15-68	壺	口径 12.2～12.7 器高 7.3 胴部径 12.9	口縁～胴部中位ヨコナデ。 胴部下位～底部ヘラナデ。	口縁～胴部中位ヨコナデ。 胴部下位～底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
15-69	壺	口径 13.1 器高 8.9 胴部径 14.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ナデ、 底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色	黒斑
15-70	壺	口径 14.6 器高 6.1	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒少量含む。	良好	明褐色	
15-71	壺	口径 13.2 器高残 5.5	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ナデ・指オサエ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい黄褐色	
15-72	壺	口径 11.9 器高 6.3	口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ。 底部ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	微細砂粒多く含む。	やや良好	橙色	木葉痕(底部外面)
15-73	高坏	口径 16.4 器高 12.7 底径 11.7	坏身口縁～胴部タテハケの後、ヨコナデ。 坏身底部ヘラナデ。 脚筒部ヘラナデ。 脚裾部ヨコナデ。	坏身口縁～胴部ヨコナデ。 坏身底部ナデ。 脚筒部ヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。	良好	橙色	
15-74	高坏(脚部)	器高残 9.2 脚部径 14.9	筒部不明瞭。 裾部ヨコナデ。	筒部ヘラケズリ。 裾部ヨコナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	円形3方スカシ
15-75	壺形手捏ね土器	口径 2.7 器高 1.8～2.1	全面指によるナデ・押圧。	全面指によるナデ・押圧。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
15-76	壺形手捏ね土器	口径 2.4～2.7 器高 2.1	全面指によるナデ・押圧。	全面指によるナデ・押圧。	微細雲母少量含む。 微細砂粒少量含む。	やや良好	明赤褐色	
15-77	壺形手捏ね土器	口径 2.6～3.3 器高 2.0～2.5	全面指によるナデ・押圧。	全面指によるナデ・押圧。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。	やや良好	橙色	
15-78	壺形手捏ね土器	口径 3.2 器高 1.8～3.1	全面指によるナデ・押圧。	全面指によるナデ・押圧。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	内—にぶい黄橙色 外—にぶい黄橙色～橙色	
15-79	壺形手捏ね土器	口径 3.2 器高 2.3～2.9	全面指によるナデ・押圧。	全面指によるナデ・押圧	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	橙色	
15-80	壺形手捏ね土器	口径 3.0 器高 2.7～3.0	全面指によるナデ・押圧。	全面指によるナデ・押圧。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい橙色	黒斑
15-81	壺形手捏ね土器	口径 4.1 器高 3.0	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部指によるナデ・押圧。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部指によるナデ・押圧。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	橙色	

第4表 - ⑦

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
15-82	壺形手捏ね土器	口径 5.1 器高 4.6 胴部径 6.1	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部指によるナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部指によるナデ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい褐色	
15-83	高坏形手捏ね土器	脚筒径 1.8 器高残 4.2	脚筒部ヘラケズリの後、ナデ。 脚裾部ナデ。	脚裾部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	良好	明赤褐色	
15-84	高坏形手捏ね土器	脚裾径 3.8 器高残 2.8	全面指によるナデ・押圧。		微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい橙色	
16-85	甕胴部片		平行線文叩きの後、下位ナデ仕上げ。	同心円文叩きの後、ナデ仕上げ。	緻密。	良好	内一灰色 外一灰色 ～暗灰色	須恵器
16-86	壺	口径 15.8 器高残 13.8 胴部径 16.0	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヨコ・タテハケの後、ナデ。 胴部中位～底部ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヨコのヘラケズリ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母多く含む。 0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい橙色 ～褐灰色	
16-87	甕	口径 24.5 器高残 17.5 胴部径 25.2	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ナナメ・ヨコのヘラケズリの後、ヨコナデ。	密。 0.5mm以下石粒多く含み、1～2mmやや多く含む。	良好	内一淡白橙色 ～暗褐色 ～暗色 外一白橙色 ～橙色 ～黒褐色	内外面煤付着
16-88	器台	底部径 19.4 器高残 20.0	ナナメハケ。	上位タテの指ナデ。 下位ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 2mm大砂粒少量含む。 0.5mm雲母はわずかに含む。	やや良好	にぶい黄褐色	

第３号竪穴式住居跡（第17図、図版11～16）

調査区北東コーナー近くに位置する。小字境を成す小川によって中央付近は床面以下まで縦断されており、住居跡北東コーナー部分は調査区外へ延びている。長さ10.6×7.25m の長方形を呈し、主柱穴は２本と思われるが、１本は調査区外であり、検出した１本も住居跡の規模に比して浅く断定できない。屋内中央に径97×88cmの円形を呈する炉があり、これを挟むかたちで２本の主柱が建つものと思われる。

南・北各短壁に沿ってベッド状遺構が設置されている。北壁側のベッド状遺構は幅1.1m で、北西コーナーから折れて西側長壁に沿って更に２m 程続いている。南壁側のベッド状遺構は幅1.1m で、南東コーナーから1.9m 、南西コーナーから2.2m までしかなく、その間は途切れている。

このベッド状遺構が途切れている南側短辺中央では出入り口状の遺構（図版13・14）を検出した。出入り口状遺構は、土層観察においてやや緩やかながらも３段の階段状を呈している。階段は地山からの削り出しではなく、床面形成後に土と粘土を盛って作られている。面的に出入り口の規模を把握することはできなかったが、この盛り土による階段を撤去した後の下層において18本の杭穴と共に長辺2.15m 、西側短片0.6m 、東側短片0.75m を計る「コ」の字形を呈する幅10cm前後の浅い溝が検出できた。この溝の長辺は住居跡の南側短壁に接してあり、同じ位置の壁上部には地山の亀裂が同じ範囲にわたって生じている。このことから、下層の溝は出入り口状遺構に伴う下部構造であり、壁上部の地山の亀裂は出入り口通過時の重圧による崩壊と思われる。幅約2.0m の出入り口状遺構と西側ベッド状遺構との間には0.5～0.6 m の空間がある。

東側長壁中央に接して1.0×0.8m の略方形の落ち込みがあるが下層での検出であり屋内土坑とは断定し得ない。

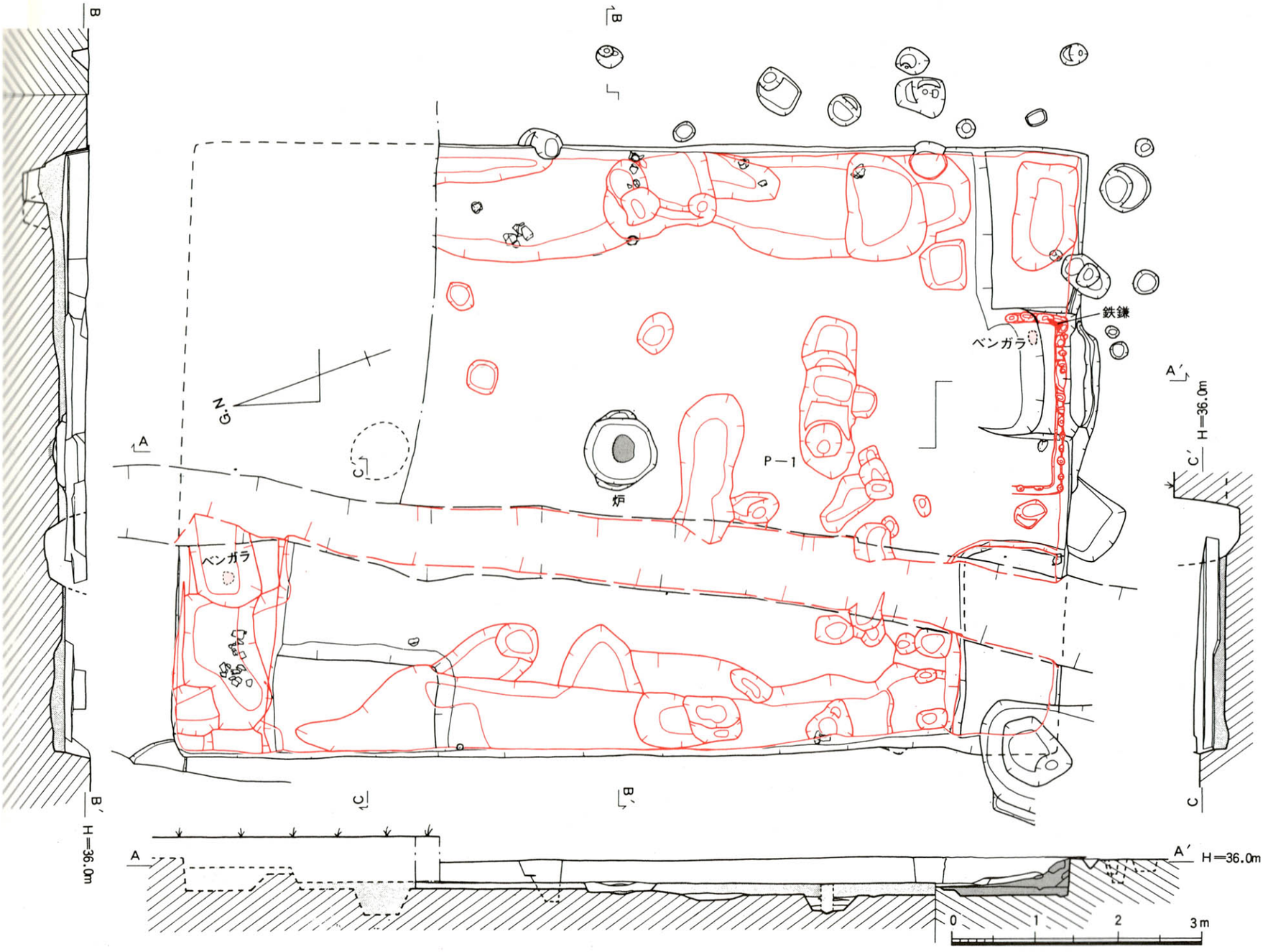
北壁側ベッド状遺構の下層および出入り口用階段状遺構の盛土中よりベンガラの小塊が出土した。

出　土　遺　物

土器・鉄器および未製品のガラス小角柱片が出土した。床面およびベッド状遺構直上出土のほか、ベンガラ同様出入り口用階段状遺構の盛土中より土器・鉄器が非日常的な状況で出土している。

土　　器（第18～20図，図版80）

壺（１～４）は中小２種類あり、２～４の底部は弱い凸レンズ状を呈している。中型のもの（１・２）は口頸部が不明確であるが、２は胴部中央に最大径を有する球形の胴部に長い頸部がつくと思われる。小型のもの（３・４）は、胴部最大径がやや下位にあって強く張る胴部に短く立ち上がる頸部がついている。調整技法は、外面をハケの後丁寧なナデ・ヘラミガキで仕上げ、内面にナデを施すのを基調とするが、２の胴部内面はハケ調整のままである。


B
B′
H=36.0m
B
B′
N.
A
C
P−1
炉
ベンガラ
ベンガラ
鉄鎌
A′
H=36.0m
C′
C
A
A′
H=36.0m
0
1
2
3m

甕（5～12）は大中小3種類あり　すべて長胴・砲弾形の胴部に「く」の字状の頸部を付している。口辺部は平担面を成す。底部は弱い凸レンズ状を呈しているが、10の脚台も甕につくものと思われる。小型のもの（5）の胴部は最大径が上位にあるが、中型（6・7）大型（8・12）のものは最大径が中位にある12のくびれ部および胴部最大径部に三角形突帯を各1条巡らせている。調整技法は内外面ともハケを基調とするが、胴部外面下半にはヘラによるナデツケ（ヘラナデあるいはヘラケズリ）を施している。5の胴部外面上半にはタタキが施されている。

鉢（13～21）の定義および形態分類に関しては疑問の余地を充分に残すが、ここでは一応鉢として扱うこととする。大中小の3種類がある。

大型のもの（13）はいわゆる浅い甕形を呈するもので、胴部最大径を上位に有し肩の張った胴部に「く」の字状に外反する頸部を付しているくびれ部に三角形突帯を1条巡らせている。中型のもの（14・15）は胴部最大径を中位に有し、強く張った胴部に「く」の字状に外反する頸部を付している。大中型とも底部が部分的であり明確ではないが弱い凸レンズ状を呈すると思われる。大中型の調整技法は、内外面ともハケの後ナデを基調とするが、13の胴部外面上半にはタタキが施されている。

小型のもの（16～21）はいわゆる埦形を呈するものである。底部は、僅かながらも丸底の底部を有するもの（16・17）、弱い凸レンズ状を呈するもの（18～20）、平底を呈するもの（21）の3つに細分できる。16の胴部には刻み目突帯1条を巡らせている。調整技法は内面をナデ仕上げるのを基調とするが、外面は16にナデ・ヘラミガキ、18・19にヘラケズリ（ヘラナデ？）、20・21にハケが施されている。

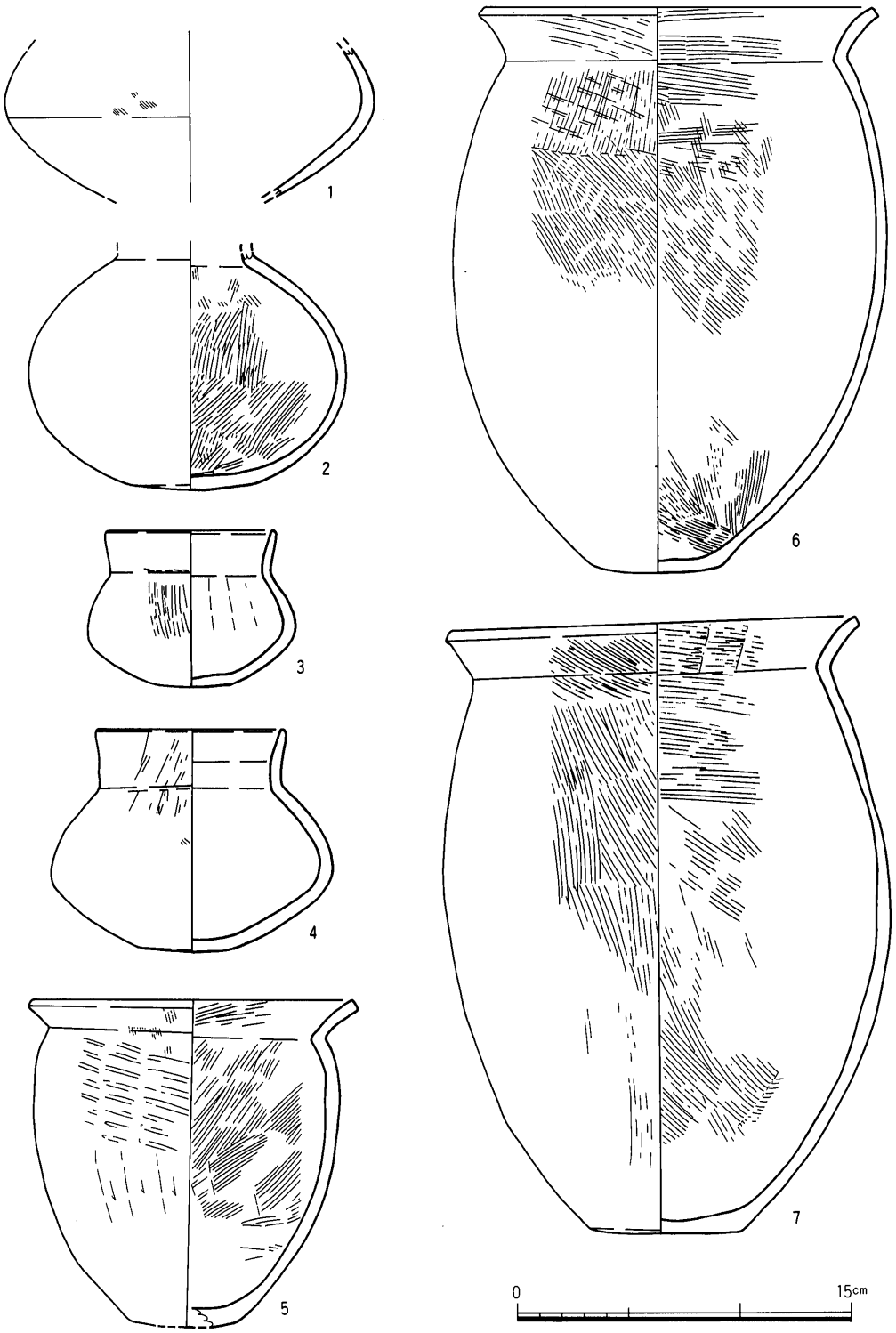
高坏　（22）は、脚裾部の破片である。円形のスカシ孔が認められるが、数は不明である。調整技法は、外面にヘラによる強いミガキ（ケンマ）、内面にナデが施されている。

手捏ね土器（23）は、埦形を呈する鉢形のものである。底部は、僅かながら小さな平底を呈している。調整技法は、全面ヘラナデ・指オサエである。

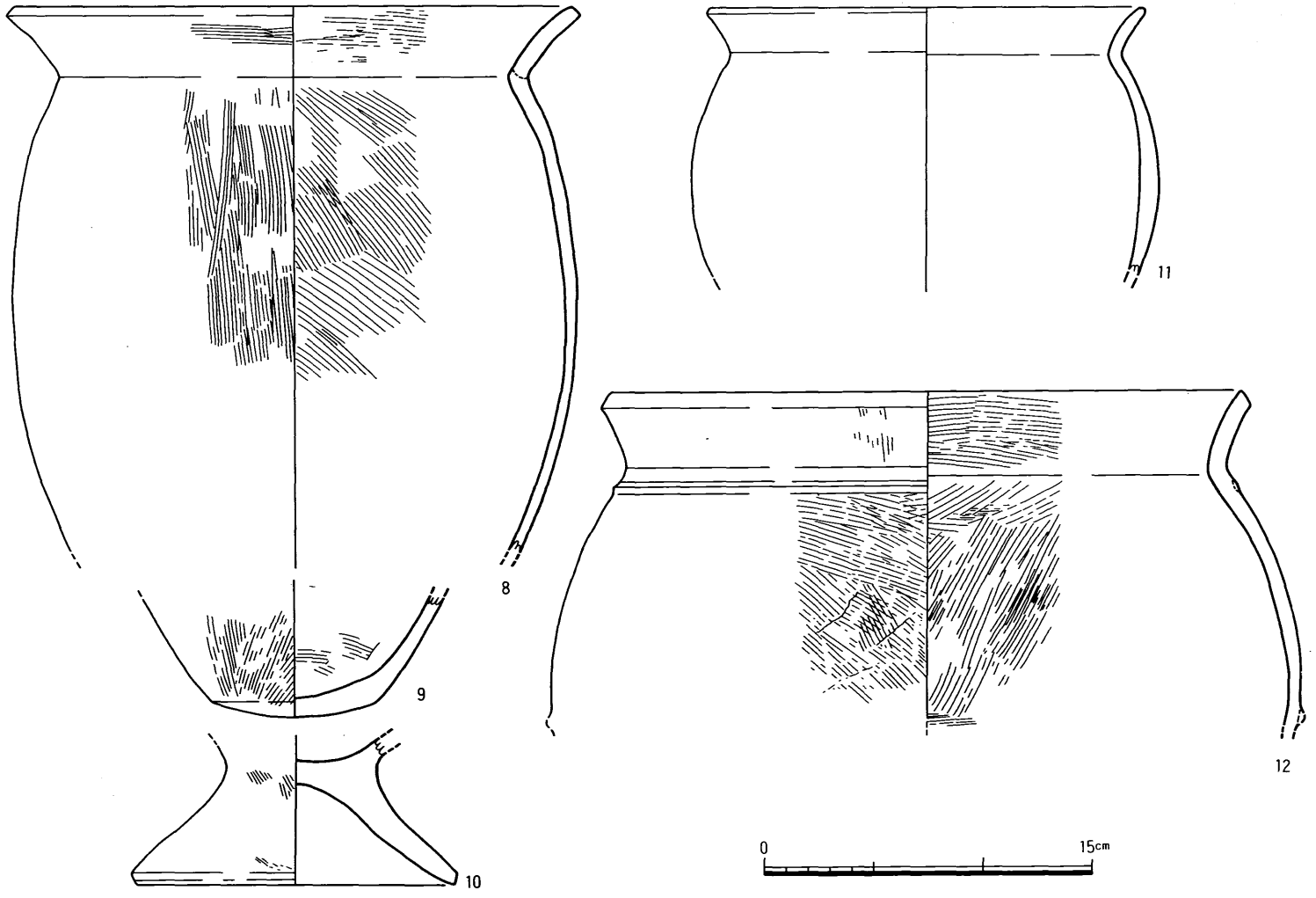
器台（24～28）のうち、24・25は複合口縁部壺の口縁部の可能性もあるが、ここでは一応器台の受部として扱う。受部（24～26）の口縁部は、24・26が強く内傾するのに対し、25はやや立ち上がり気味に内傾している。脚部（27・28）のうち、27は直に大きく開くのに対し、28は膨らみを有して開いている。

玉　　類（第80図）

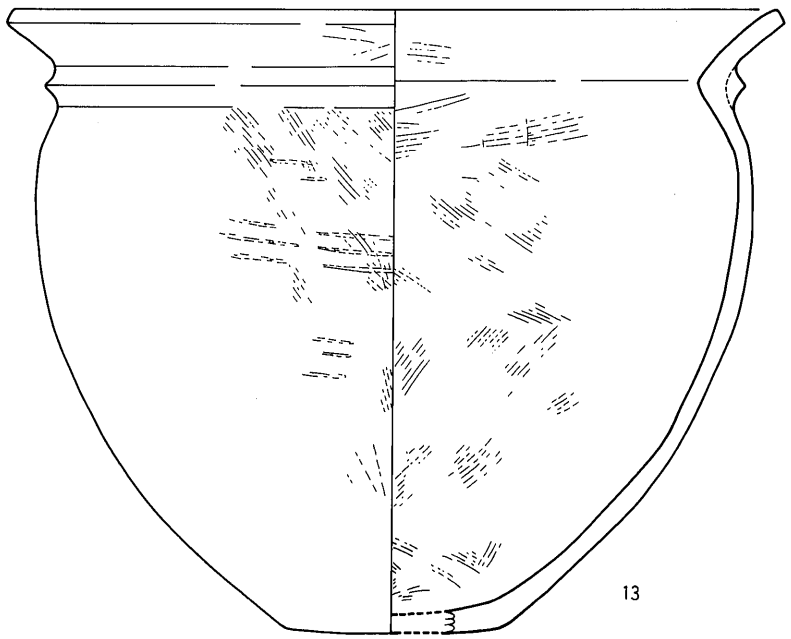
製品ではないが、玉類の材料と思われるガラス片1点が出土した。第80図3は、幅0.37×0.4cm、長さ1.34cmの角柱状を呈する鉛ガラスである。表面は浅い凹凸があり、部分的に風化が進んで白けている。

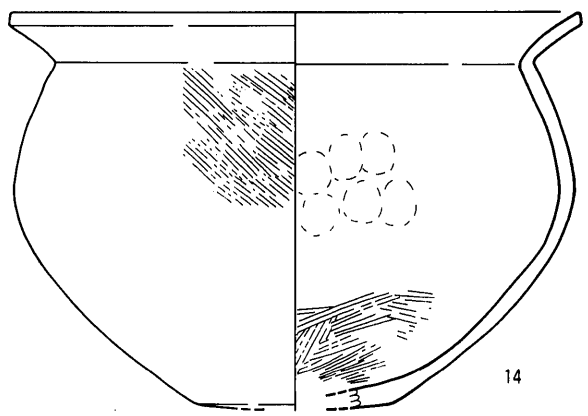


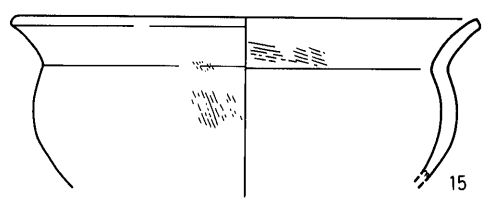
第18図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第19図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）

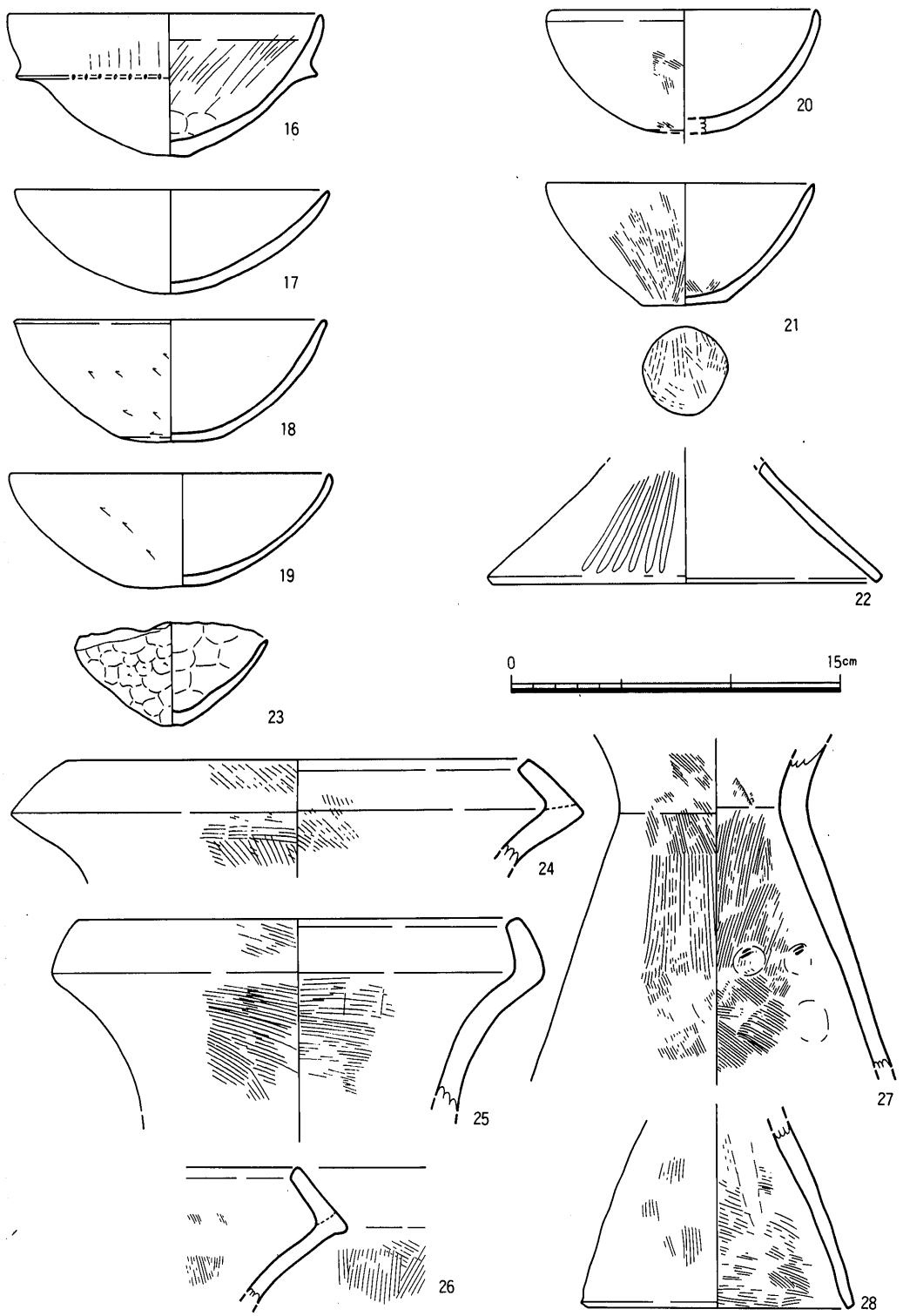








第20図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図③（Ｓ＝１／３）



第21図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図④（Ｓ＝１／３）

鉄　　器（第80図，図版93）

第80図７は鎌で、出入口用階段状遺構の盛土中から出土したものである。平面形は、棟の３／４および刃部側着装部分は直線で、刃部および棟部の切っ先側は内弯し、切っ先が幅広くなる形態を呈する。一端を斜位に折り返して（棟側で約１cm）柄の装着部とし、残存する木質から柄は鎌に対して斜位に鎌を挟んで装着されている。全長20.8cm、装着部側幅4.5cm、刃部幅2.8cm、棟幅0.2～0.25cmを計る。

同図８・９は鉇であり、８は北西側ベッド状遺構からの出土である。断面形は、柄装着の茎部分は上面凸・下面凹の弱い丸みを成すが、刃部の下面は平坦を成している。刃部は切っ先のみで、切っ先はややふくらみを有している。刃部の反りは僅かながら認められる。全長17.9cm、茎幅1.0cm、刃部幅1.1cmを計る。９は、茎部から刃部にかけての破片であり、残存長3.0cmを計る。

第５表－① 第６地点第３号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
18-1	壺	胴部径 16.6	胴部上半ナナメハケの後、ナデ。 胴部下半ヘラケズリ。	胴部ナデ	0.5mm大砂粒を多く含む。 1~2mm大砂粒少量含む。	良好	内―褐灰色 外―にぶい褐色	
18-2	壺	胴部径 14.0 器高残 10.8	胴部上半ハケの後、ミガキ。 胴部下半ハケの後、ナデ仕上げ。 底部ナデ。	胴部上位ハケの後、ナデ。 胴部中位～底部ハケ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。 0.5mm大雲母わずかに含む。	良好	内―褐灰色 外―にぶい橙色～褐灰色	頸部付壺 黒斑
18-3	小型壺	口径 7.4 器高 5.1 胴部径 9.3	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半タテのヘラミガキ。 胴部下半～底部ヘラナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半指によるナデ・押圧。 胴部下半～底部ナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。 微細砂粒少量含む。	良好	明褐色～橙色	黒斑
18-4	小型壺	口径 8.6 器高 10.1 胴部径 12.6	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ヘラミガキ。 胴部下半～底部ヘラナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 0.5mm大雲母わずかに含む。	良好	内―灰黄色 外―灰黄色	黒斑
18-5	甕	口径 14.6 器高 14.5～14.9	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部タタキの後、ナデ。 胴部下半ヘラケズリ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上～中位ナナメハケ。 胴部下位～底部ハケの後、ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 0.5～1mm大雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色～黄灰色	黒斑
18-6	甕	口径 17.9 器高 25.5 胴部径 19.4 底径 5.6	口縁～頸部タタキの後、ナデ。 胴部上位タタキの後、タテハケ。 胴部中位ナナメハケ。 胴部下位ヘラケズリ。 底部ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ヨコハケ。 胴部中位ナナメハケの後、ナデ。 胴部下位～底部ナナメ・タテハケ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色	

第5表－②

挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
18-7	甕	口径 18.3 器高 27.0 ～27.8 胴部径 19.8 底径 6.5	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上半タテハケ。 胴部下半タテハケの後、ヘラナデ。 底部ハケ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ヨコハケ。 胴部中～下位ナナメハケ。 底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい褐色	黒斑
19-8	甕	口径 26.0 胴部径 25.2	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半タテハケ。 胴部下半ヘラナデ。？	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半不明瞭。	0.5mm以下砂粒多く含む。 1～3mm大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	内—にぶい橙色～にぶい褐色 外—黒褐色～にぶい褐色	
19-9	甕(底部)	脚部径 7.6	胴部下位タテハケ。 底部ハケの後、ナデ。	胴部下位～底部ヨコハケの後、ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒少量含む。	やや良好	内—橙色 外—灰褐色	
19-10	甕(脚台部)	底部径 14.8	ナナメハケの後、ヨコナデ。	甕底部不定方向のナデ・指オサエ。 脚台部ナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒多く含む。 2～3mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好		脚部のみ黒斑
19-11	甕	口径 20.0 胴部径 21.3	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半ヘラナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部不明瞭。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	黒褐色	
19-12	甕	口径 29.6	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ヨコハケの後、ナナメハケ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～2mm大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄褐色～暗褐色	頸部直下と胴部に各1条三角突帯
20-13	鉢	口径 31.0 器高 24.8	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部タタキの後、ナナメハケ。 底部タタキ。？	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナナメ(↖)ハケ。 胴部下半ナナメ(↗)ハケ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 細雲母少量含む。	やや良好	内—にぶい黄橙色 外—橙色～にぶい黄橙色	黒斑 頸部三角突帯一条
20-14	鉢	口径 22.8 器高 15.9	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半～底部ハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上～中位ナデ・指オサエ。 胴部下位～底部ナナメハケの後、ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒少量含む。	良好	内—浅黄橙色 外—にぶい黄橙色～灰黄褐色	黒斑 (口縁内外面)
20-15	鉢	口径 18.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半タテハケの後、ナデ。 胴部下半不明瞭。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。	良好	にぶい黄橙色	黒斑
21-16	鉢	口径 14.4 器高 6.5	口縁部～突帯ヘラミガキ。 突帯～底部不明瞭。 突帯周辺ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ。 底部指オサエ。	0.5～1mm大雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑 胴部に刻目突帯1条

第5表 - ③

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
21-17	鉢	口径 14.3 器高 4.8	全面不明瞭。	全面不明瞭。	0.5～2mm大砂粒多く含む。	不良	内—浅黄橙色 外—浅黄橙色～褐灰色	黒斑
21-18	鉢	口径 14.2 器高 5.7	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリ。 底部不明瞭。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部不明瞭。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	内—褐灰色～にぶい橙色～橙色 外—橙色	黒斑
21-19	鉢	口径 14.8 器高 5.4	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ(ケズリ？)。 底部不明瞭。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデツケ。	0.5mm大雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—にぶい黄褐色～にぶい橙色 外—にぶい橙色～明褐灰色	黒斑(口縁部内外)
21-20	鉢	口径 12.6 器高 5.7	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナナメハケの後、ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	内—橙色～灰褐色 外—橙色	
21-21	鉢	口径 12.2～12.5 底径 3.7～4.0	口縁部ヨコナデ。 胴部タテハケ。 底部右廻りのハケ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部タテハケの後ナデ。	細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	橙色	黒斑
21-22	高坏脚部	脚裾径 18.0	全面タテのミガキ。	全面ヨコナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～2mm大砂粒わずかに含む。	良好	明褐色	円形スカシ3方？
21-23	鉢形手捏ね土器	口径 7.4～9.1 器高 3.5～4.8	全面ヘラナデの後、指オサエ。	全面ヘラナデの後、指オサエ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 2～3mm大砂粒わずかに含む。	不良	暗灰黄色	
21-24	器台(受部)	口径 21.1 屈曲部径 26.2	口縁部ナナメハケの後、ヨコナデ。 頸部タテハケの後、ヨコハケの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後、ナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	橙色	
21-25	器台(受部)	口径 20.1 屈曲部径 22.5	口縁部ナナメハケの後、ヨコナデ。 頸部ナナメハケ。	口縁部ヨコナデ。 頸部ヨコハケ。	0.5mm大雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。	良好		
21-26	器台(受部)		口縁部ヨコナデ。 頸部タテ・ナナメハケ。	口縁部ヨコナデ。 頸部タテハケの後、ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
21-27	器台	くびれ部径 8.6	全面タテハケの後、部分的ナデ。	全面タテ・ナナメハケ。 下位指オサエ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
21-28	器台(脚部)	脚部径 12.4 器高残 8.6	全面タテハケの後、ナデ。	上位ナナメハケの後、ナデ・指オサエ。 下位ナナメ・ヨコハケ。	細砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒わずかに含む。 1mm大雲母わずかに含む。	やや良好	内—褐灰色～にぶい褐色 外—黒褐色～にぶい橙色	

第４号竪穴式住居（第22図、図版17）

調査区の最北東端に位置する。南西コーナーの南辺1.4m・西辺1.1mを検出しただけで、大半は調査区外に伸びている。後世の削平により残りは著しく悪く、床面より下層での検出であり、竪穴式住居跡とは断定し得ない。

出土遺物

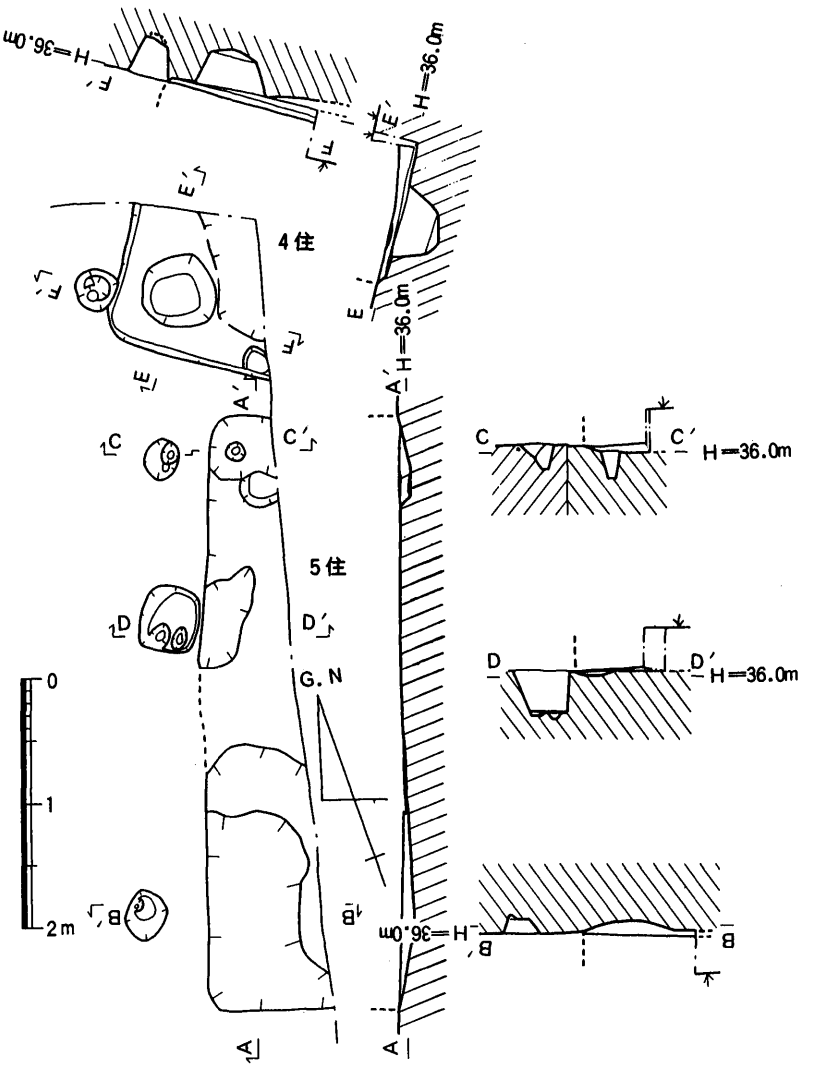
時期を知り得る土器その他の遺物は出土していない。

第５号竪穴式住居跡（第22図、図版17）

調査区の最北東端、第４号竪穴式住居跡の南側に位置する。西辺および南西・北西各コーナーのみの検出であり、東側の大半は調査区外に伸びている。第４号竪穴式住居跡と同様、後世の削平により残りは著しく悪く、床面より下層での検出である。西辺中央で浅くなっていったん切れている。竪穴式住居跡とは断定し得ない。西辺4.75m、北辺0.5m、南辺1.0mを計る。

出土遺物

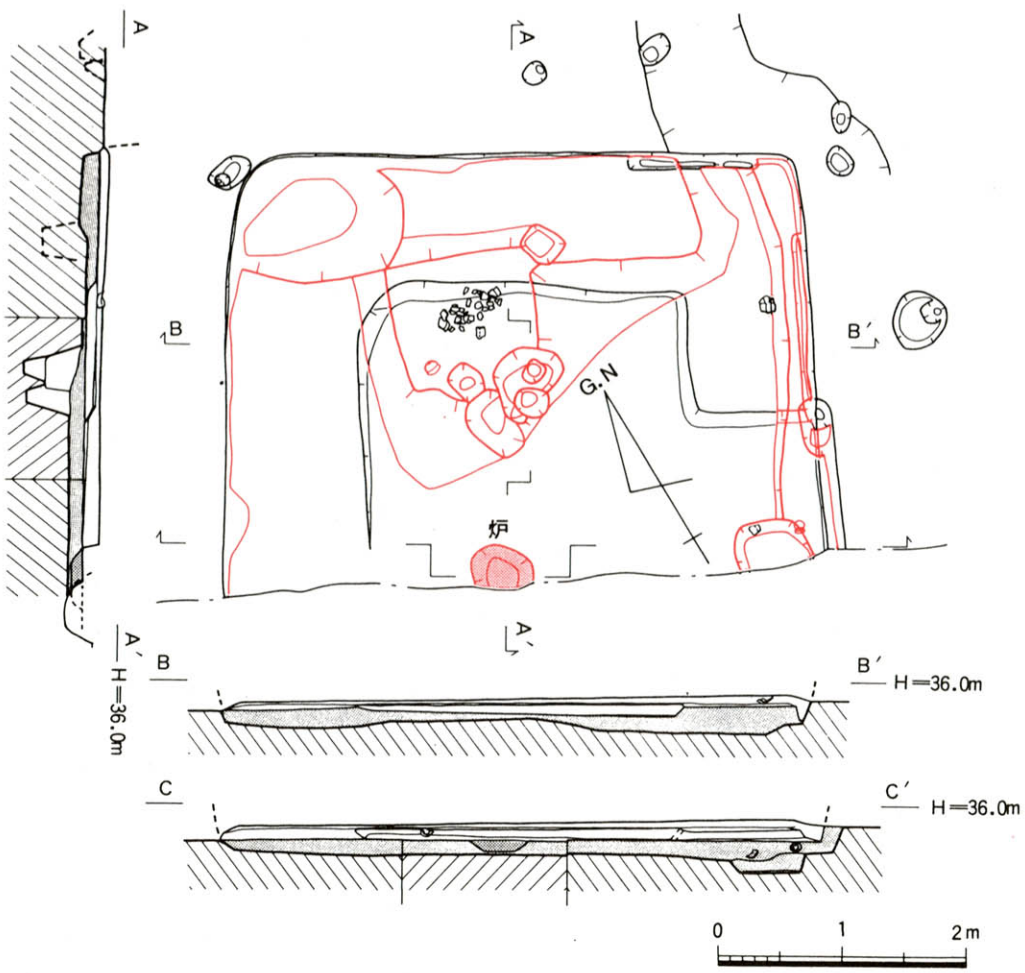
時期を知り得る土器その他の遺物は出土していない。



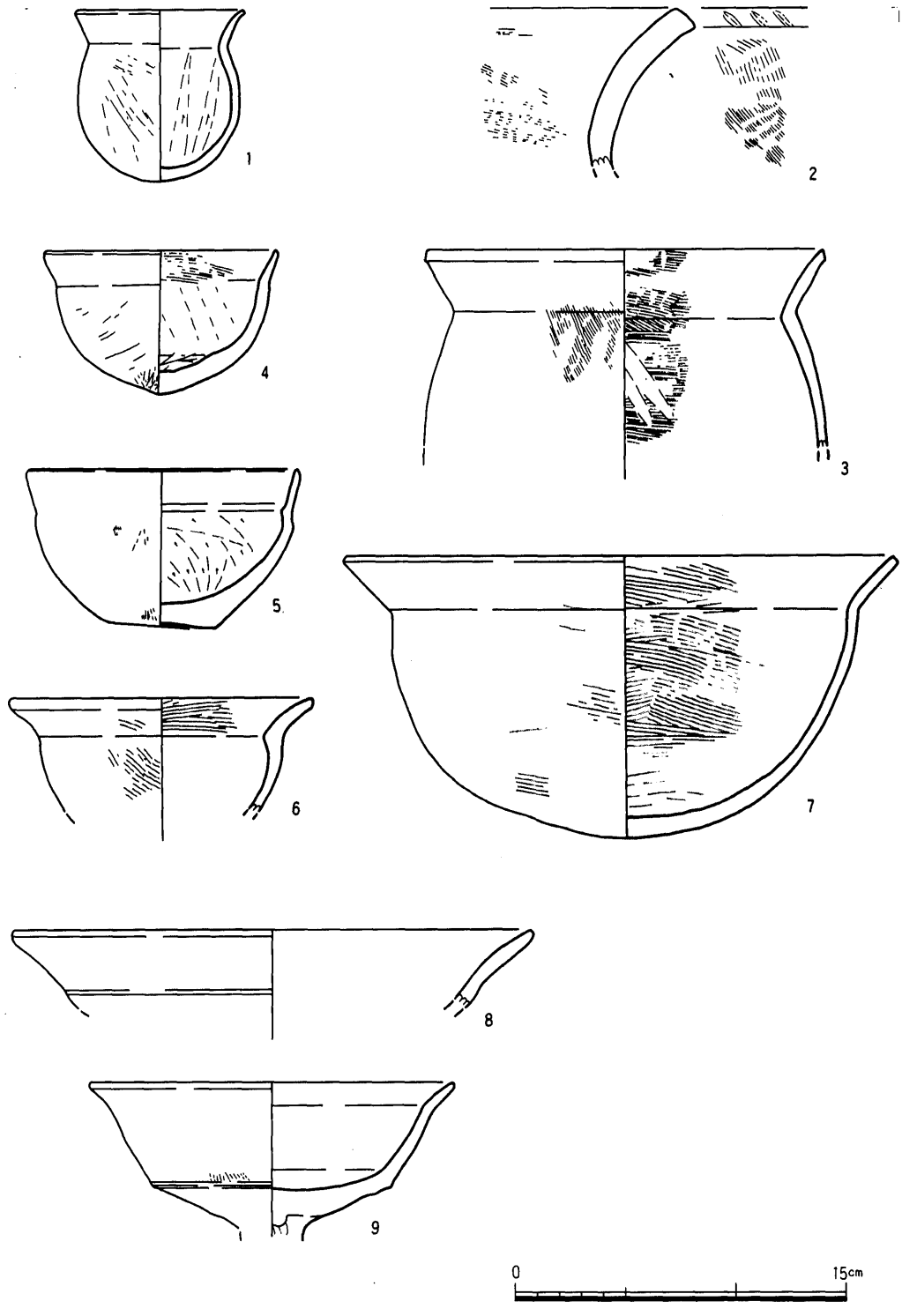
第22図　第６地点第４・５号竪穴式住居跡実測図（S＝1／60）

第６号竪穴式住居跡（第23図、図版18・19）

小川より北西側調査区の南西角近くに位置する。南西側は削平されて段になっており、しかも調査区外のためその全容は不明確である。幅0.9～1.0m のベッド状遺構を有しており、東辺途中から北辺～西辺途中までを検出できたが、西辺南西側は削平のため残りが悪くさらに南側へと続くのか不明である。ベッド状遺構は屋内床面と同様に盛土（下層）によって作られており、東辺および北辺側の一部の壁際には溝が検出できた。南西側調査区境ほぼ中央に径49×35cm以上の円形を呈する炉があり、炉と北側ベッド状遺構との真ん中に主柱穴と思われるピットが切り合って２つ検出できた。また、東辺調査区境の東側壁際に60×40cmの方形を呈すると思われる土坑を検出したが、下層での検出であり屋内土坑とは断定し得ない。他の例から本竪穴式住居跡は、壁際にベッド状遺構を配し、屋内の中央に炉を設け、主柱穴２本を有する、4.8×7.0m 前後の長方形を呈するものと考える。



第23図　第６地点　第６号竪穴式住居跡出土土器実測図（Ｓ＝１／60）



第24図　第６地点　第３号竪穴式住居跡出土土器実測図（Ｓ＝１／３）

出　土　土　器

床面・ベッド状遺構直上および床面下層から土器のみが出土した。床面下層の土器は、東辺の土坑上からの出土であり土坑に伴うとも思われる。

土　　器（第24図、図版81）

壺(1)は小型のもので、球形の胴部に外反する口頸部が付く。底部は僅かながら小さな平底を呈している。

甕（2・3）は、大中の2種類ある。大型のもの(2)は口頸部の破片であり、口唇部の平坦面に刻み目が施されている。中型のもの(3)は肩の張らない胴部に「く」の字状の口頸部がつくものである。2・3とも内外面ハケが施されている。

鉢（4～6）は、大小2種類がある。小型のもの（4～6）は、くびれ部内面に稜を有し内弯しながら外傾する口頸部のもの（4・5）と、内面に稜を成すぐらい強く外弯する口頸部のもの(6)の2つに分けられる。前者は底部の形態によってさらに細分され、4は尖り気味の丸底を呈するのに対し、5はやや上げ底気味の平底を呈する。大型のもの(7)は、半球形の胴部に強く外傾する口頸部を有しヘルメット形を呈する。調整技法は、4・5がナデ仕上げされているのに対し、6・7はハケを基調としている。

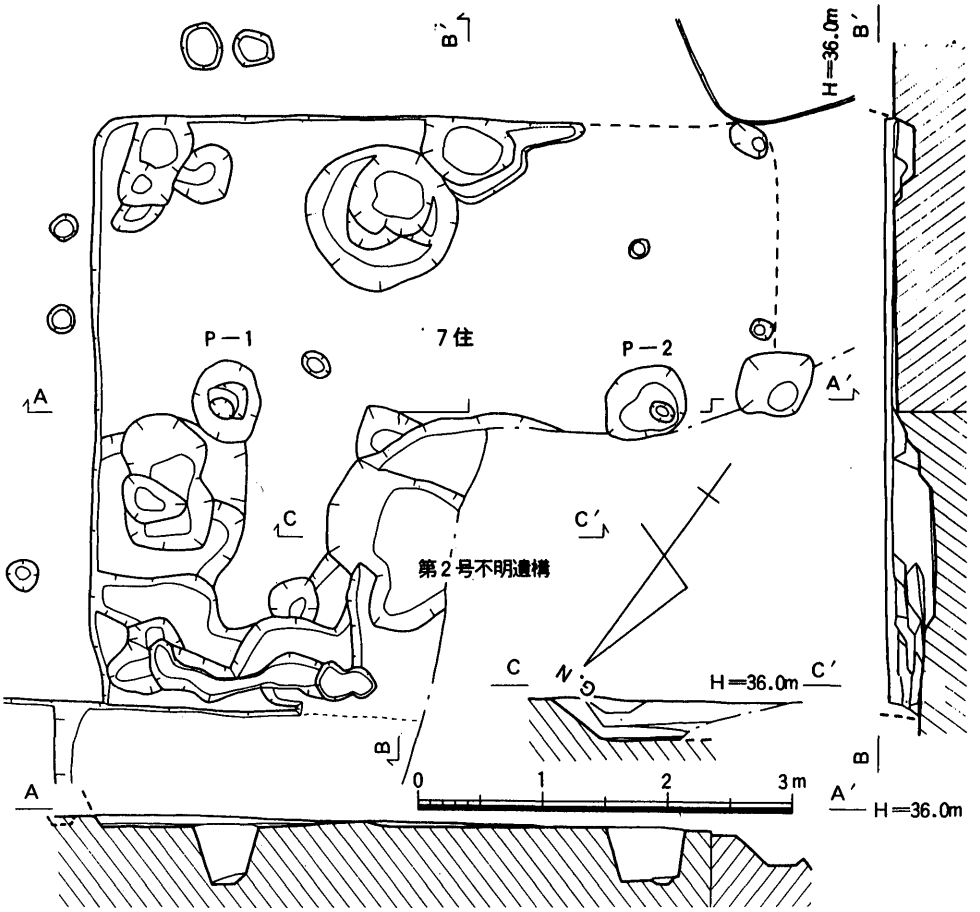
高坏（8・9）は、全くタイプの異なる2種類のものが出土している。8は床面下層の出土であり、段を有し胴部中途から短く大きく外弯するものである。9は東側ベッド状遺構直上からの出土であり、浅い底部と深い胴部の境に弱い稜を有するもので、やや内弯気味に立ち上がる胴部は口縁部近くで大きく外反している。9は他の土器とは時期が異なるかと思われるが、その出土状況がベッド状遺構直上としっかりしているので一応取り上げた。

第6表－① 第6地点第6号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
24-1	小型壺	口径 7.8 器高 7.8	口縁部ヨコナデ。 胴部上半雑なナデ。 胴部下半～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデの後、タテのナデツケ。 底部不定方向のナデ・指オサエ。	微細雲母多く含む。 細砂粒多く含む。 0.5～1mm細砂粒少量含む。 1mm大雲母わずかに含む。	良好	明褐色	黒斑
24-2	大型甕		全面ナナメハケ。	全面ナナメ・ヨコハケの後、ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄褐色	口縁端部に刻目
24-3	甕	口径 18.0	口縁～頸部ヨコハケ。 胴部上半ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ヨコハケの後、ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色	煤付着
24-4	鉢	口径 10.6 器高 6.4 ～6.7	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タタキかハケの後、ナデ仕上げ。 底部タタキかハケ。？	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ヨコのナデ。 底部ヘラナデ。	細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや	明褐色～褐色	黒斑

第6表－② 第6地点第6号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
24-5	鉢	口径 12.5 器高 7.2～7.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ仕上げ。 底部ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 0.5mm大雲母わずかに含む。	やや良好	内—にぶい橙色 外—にぶい褐色	
24-6	鉢	口径 13.8	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	明褐色	
24-7	鉢	口径 24.5～24.9 器高 12.5～13.2	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ナナメハケ。 胴部ナナメ・ヨコハケ。 底部ヨコハケの後、ナデツケ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。 2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—橙色～にぶい赤褐色 外—明赤褐色～暗赤褐色	黒斑
24-8	高坏(身部)	口径 23.7	不明瞭。	不明瞭。	0.5mm大砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい橙色	
24-9	高坏(身部)	口径 16.5	口縁～胴部タテハケの後、ヨコナデ。 底部ナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	微細砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色～浅黄橙色	黒斑



第25図　第6地点　第7号竪穴式住居跡・第2号不明遺構実測図（S＝1／60）

第７号竪穴式住居跡（第25図、図版17・20）

調査区西側端に位置し、第８号竪穴式住居跡・第２号不明遺構に切られており全容は不明である。上層の削平著しく床面は全く残っておらず、東コーナーおよび北東・南東辺の一部を検出したのみである。主柱穴は２本（Ｐ－１・２）で、南東辺途中壁際に75×55cmの不正な楕円形を呈した落ち込みが検出でき屋内土壙かと思われる。主柱穴および屋内土壙状遺構の配置から本竪穴式住居跡は、5.5×4.7m程の長方形を呈するものと思われる。

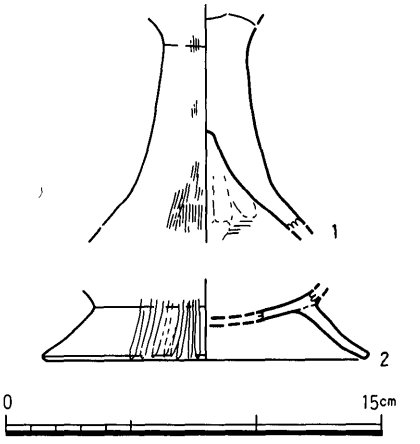
出　土　遺　物

床面下層から土器のみ少量出土しており、２点が図化できた。

土　　器（第26図，図版21）

高坏（１）は脚筒部の破片であり、内側の空洞は途中までで上半は充実している。

脚台（２）は鉢形土器の脚台部と思われる。外面に縦方向のミガキ（ケンマ）が施されて暗文が残っている。



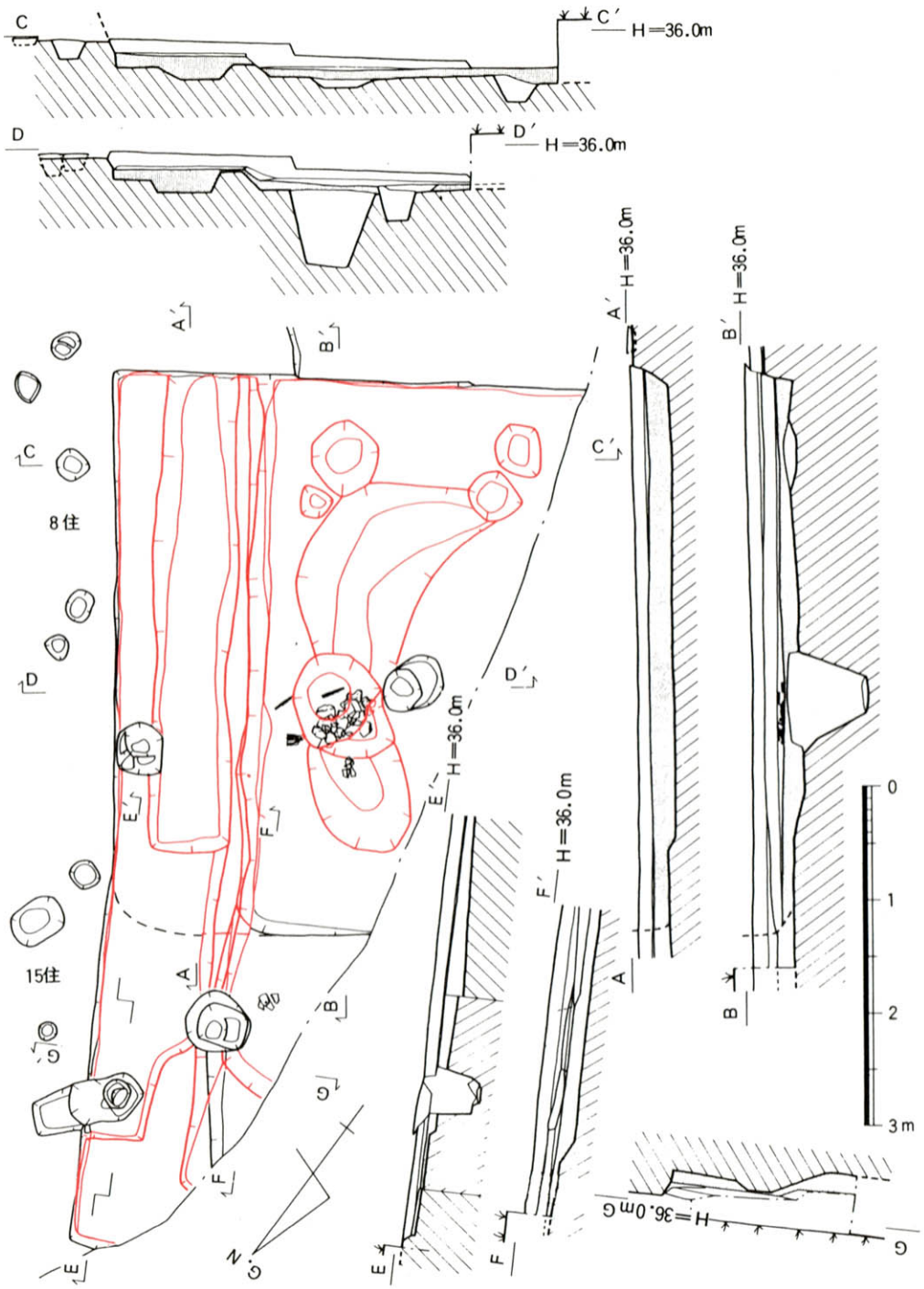
第26図　第６地点　第７号竪穴式住居跡出土土器実測図（S＝1/3）

第７表　第６地点第７号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
26-1	高坏（脚部）	くびれ部径 3.3	タテハケの後、ナデ。	脚筒部指オサエ。脚裾部近くヨコハケ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	内―褐灰色 外―にぶい黄褐色	床面下層出土
26-2	脚台部	脚台径 13.0	底部不定方向のナデ。脚台部ヨコナデ・タテのミガキ。	底部不定方向のナデ。脚台部ヨコナデ。	0.5～2mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	床面下層出土

第８号竪穴式住居跡（第27図、図版25・26）

調査区最西端に位置し、西側の大半は調査区外である。南西側で第７号竪穴式住居跡を、北西側で第15号竪穴式住居跡を切っており、また第４号掘立柱建物跡を切って、それぞれと重複している。第15号竪穴式住居跡との重複の状況はそれぞれの北東辺の壁およびベッド状遺構が概略一直線に続いており、同じ遺構かとも考えたが、僅かながら途中において方向を変えていることおよび下層の掘り形の状況から２軒の竪穴式住居跡の重複と判断した。短辺4.9m、長辺



第27図　第６地点第８・15号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）

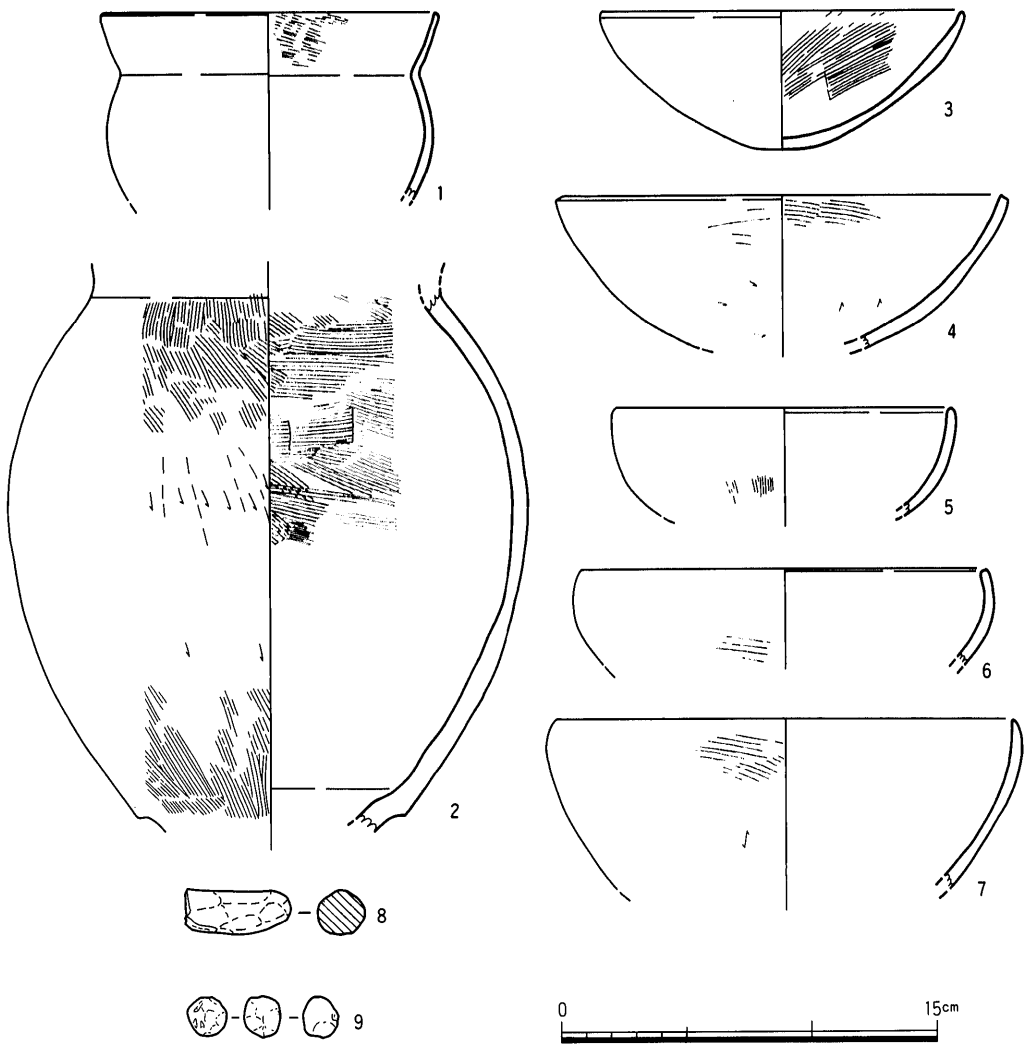
4.15m 以上の長方形を呈し、北東辺に沿って幅1.1m のベッド状遺構を有している。ベッド状遺構は地山を一段高く削り出しその床面を掘り窪めた後さらに土を入れて床面を作っている。主柱穴は１本を検出したが２本柱であると考える。

出　土　遺　物

土器および炭化物片が、主柱穴横の床面直上にまとまって出土した。他に土製品も出土している。

土　　器（第28図，図版81）

甕（２）は胴部のみ残っており、最大径を中位に有し倒卵形を呈している。底部に移行する部分の外側が段を成して接合痕を見せており、脚台が付くものと思われる。調整技法はハケを



第28図　第６地点　第８号竪穴式住居跡出土土器・土製品実測図（Ｓ＝１／３）

基調とするが、外面中位は縦方向のヘラケズリ、内面下半はナデ仕上げが施されている。

鉢（1・3～7）には大きく2種類ある。1は、球形の胴部からくびれてやや内弯気味に外傾する口頸部を有するものである。小型の広口壺に近い形状を呈するが、復元した胴部最大径が口縁部径よりやや小さいので鉢として扱った。3～7は、おおよそ胴部から口縁部にかけてそのまま移行する形態のものであり、胴部からそのまま大きく開くもの（3・4）と、口縁部近くで内弯気味に立ち上がるもの（5～7）とがある。ただし、5はいわゆる土師器の埦形土器の形態によく似ている。底部を残すものは3のみであり、完全な丸底ではなく僅かながら小さな底部（弱い凸レンズ状を呈する平底）を有している。調整技法は、すべてハケの後ナデが施されている。

土　製　品（第28図）

いわゆる手捏ねの類であろうが、棒状のもの(8)と球形のもの(9)とがある。

第8表　第6地点第8号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
28-1	鉢	口径 13.5	不明瞭。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。胴部ハケの後、ナデ仕上げ。	微細雲母少量含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
28-2	甕	胴部径 20.7	胴部上位タテ・ナナメハケ。胴部中位ハケの後、ヘラケズリ。胴部下位ナナメハケ。	頸部ナナメハケ。胴部上半ヨコハケ。胴部下半ナデ。	微細砂粒少量含む。微細雲母少量含む。1～3mm大砂粒わずかに含む。	良好	内—橙色 外—橙色～にぶい赤褐色	黒斑
28-3	鉢	口径 14.5 器高 5.5	不明瞭。	口縁～胴部ナナメハケ。底部不定方向のナデ。	微細砂粒少量含む。0.5～2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—にぶい黄橙色 外—浅黄橙色	
28-4	鉢	口径 18.0	口縁部ヨコハケの後、ナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコハケの後、ナデ。胴部ナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良	内—褐色～黒褐色 外—褐色	
28-5	鉢	口径 13.8	口縁部ヨコナデ。胴部タテハケの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	微細雲母わずかに含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色～褐灰色	
28-6	鉢	口径 16.2	口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	明赤褐色	
28-7	鉢	口径 18.0	口縁～胴部上位ナナメハケの後、ヨコナデ。胴部下位タテのヘラケズリ。	全面ナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。0.5～2mm大砂粒多く含む。	やや良好	明赤褐色	
28-8	棒形	胴部径 1.8×1.9	指オサエ・ナデ。		微細雲母少量含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色	
28-9	玉形	胴部径 1.65×1.4	指オサエ・ナデ。		微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒わずかに含む。微細雲母少量含む。	やや良好	橙色	

第９号竪穴式住居跡（第30図、図版21）

調査区中央の南端に位置する。南東側は子字境の小川によって深く掘削され、南西側も削平されて調査区外に延びている。北側において第３号掘立柱建物跡を切り、また中央を北東—南西方向の第３号溝状遺構によって浅く切られ、それぞれと重複している。北東辺4.55m、北西辺7.55m を検出し、南東側の小川を越えては認められないので、長方形を呈するものと思われる。北東側短辺に幅1.1m のベッド状遺構を検出したが、南西側は明確にし得なかったベッドは、中窪みの掘り形に土を盛って床面を成している。主柱穴は２本で、その中間に95×90cmの方形を呈する炉がある。北西側長辺の壁に沿って壁材の板痕跡と思われる幅５cm前後の細い溝を部分的に検出できた。

出　土　遺　物

遺物の出土は極めて少なく、２点の土器と本竪穴式住居跡に伴うと思われる周辺出土の石器１点のみ図化できた。

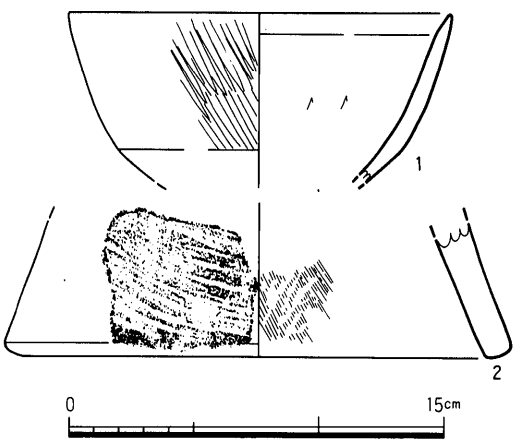
土　　器（第29図）

１は、口縁部が尖る深めの鉢と思うものである。調整技法は、外面にハケの後ミガキを、内面にナデを施している。

２は、器台の脚端部である。調整技法は、外面にタタキの後ハケを、内面にハケを施している。

石　　器（第78図，図版92）

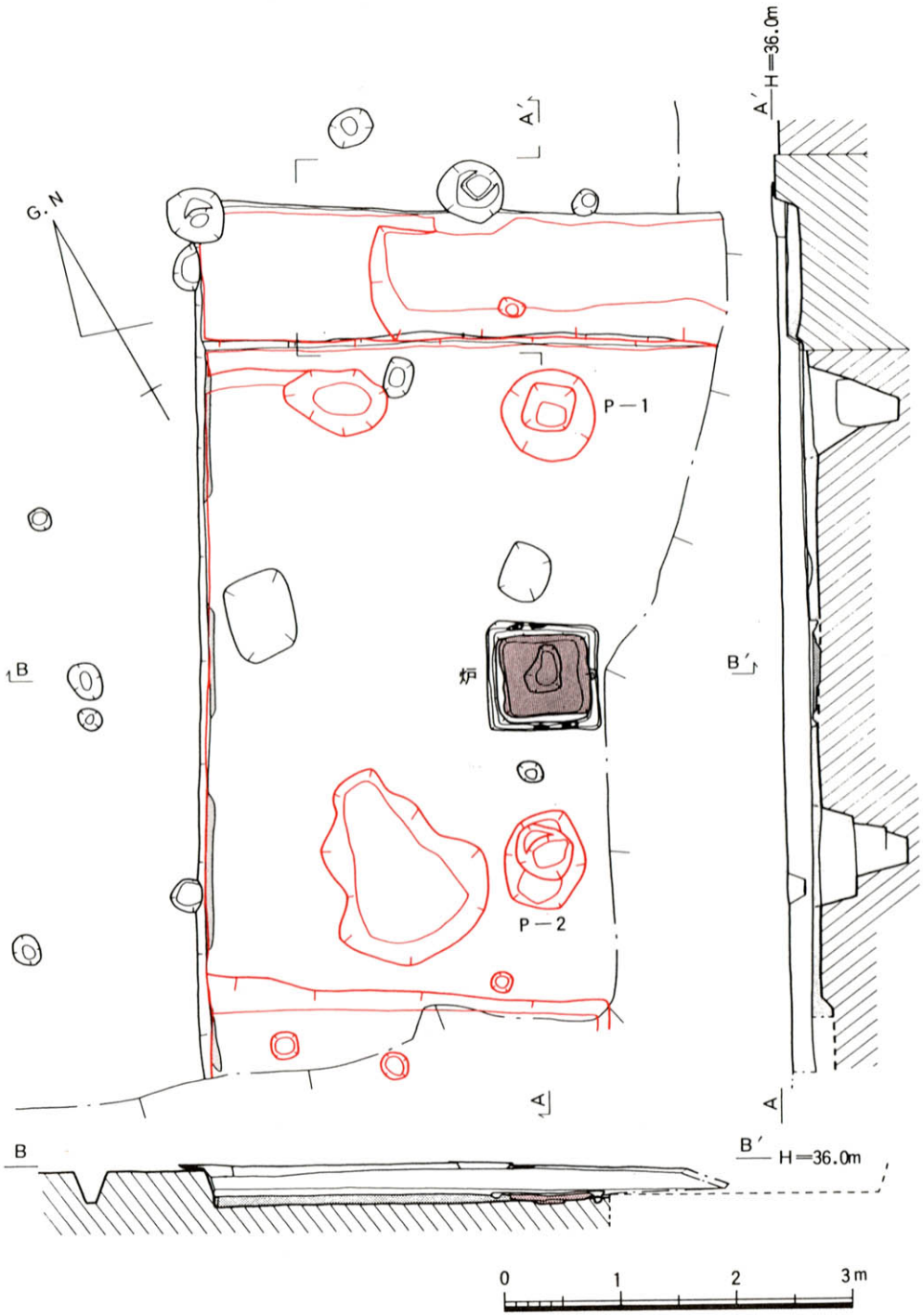
第78図の５は、機能不明の石器である。磨製石斧に似た形を呈するが、刃部が認められず、石質も柔らかいアップライト様の岩石である。一面はやや滑らかで擦痕も見られるが、多面および一側面は打ち欠いてある。



第29図 第６地点 第９号竪穴式住居跡 出土土器実測図（S＝1/3）

第９表 第６地点第９号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
29-1	鉢	口径 15.1 器高残 6.7	口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケの後、ミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	微細雲母わずかに含む。0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—にぶい黄橙色 外—赤褐色	
29-2	器台	器高残 5.3 底径 20.0	タタキの後、ハケ。端部ヨコナデ。	ナナメハケ。	微細雲母多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	橙色	



第30図　第６地点　第９号竪穴式住居跡出土土器実測　（Ｓ＝１／３）

第10号竪穴式住居跡（第31図、図版22・23）

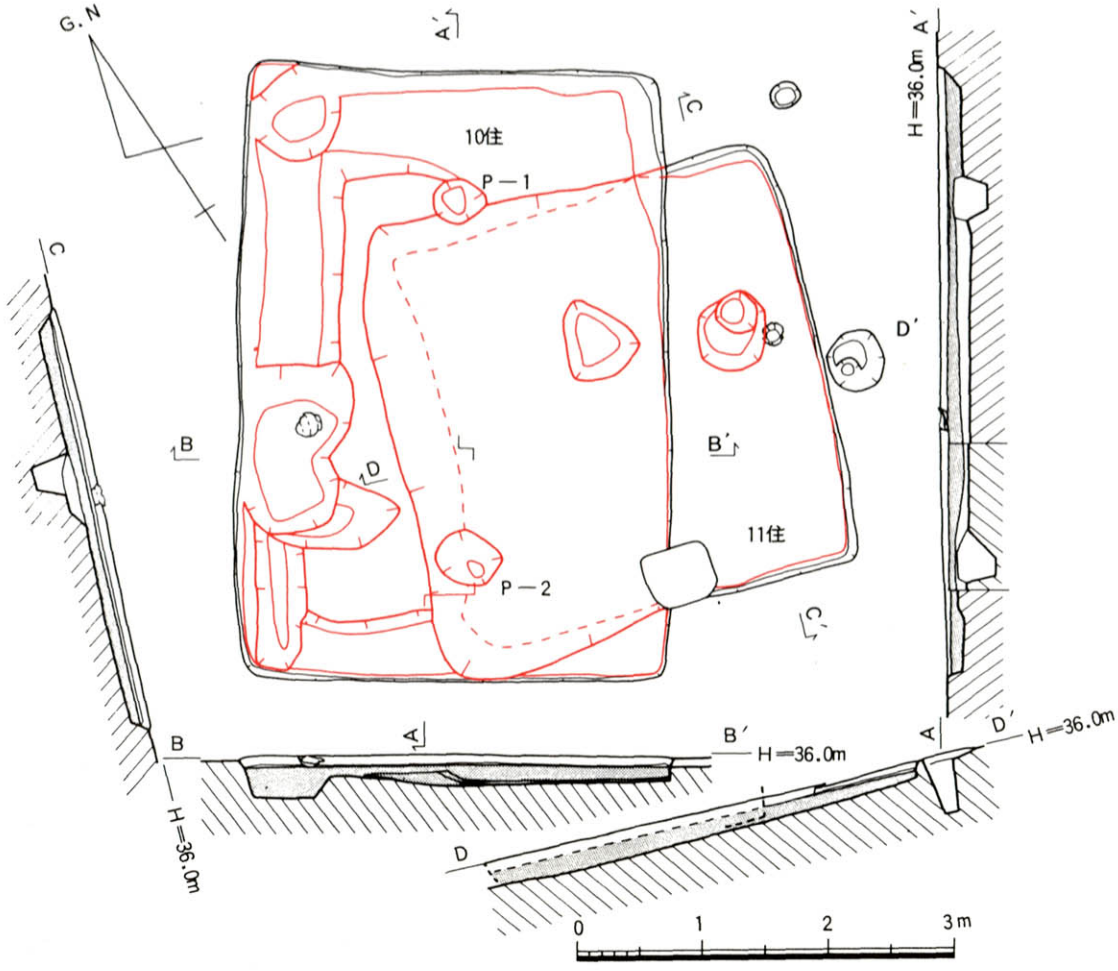
調査区の中央やや南西寄りに位置し、第11号竪穴式住居跡に切られて重複している。長さ4.9×3.4mの長方形を呈している。２本の主柱穴を有し、北西側長辺のやや南寄り床面下において長さ1.35×0.7～0.9mの不定形の落ち込みを検出した。床面は、四周を掘り窪めて中央を台状にした掘り形に土をもって形成している。

出　土　遺　物

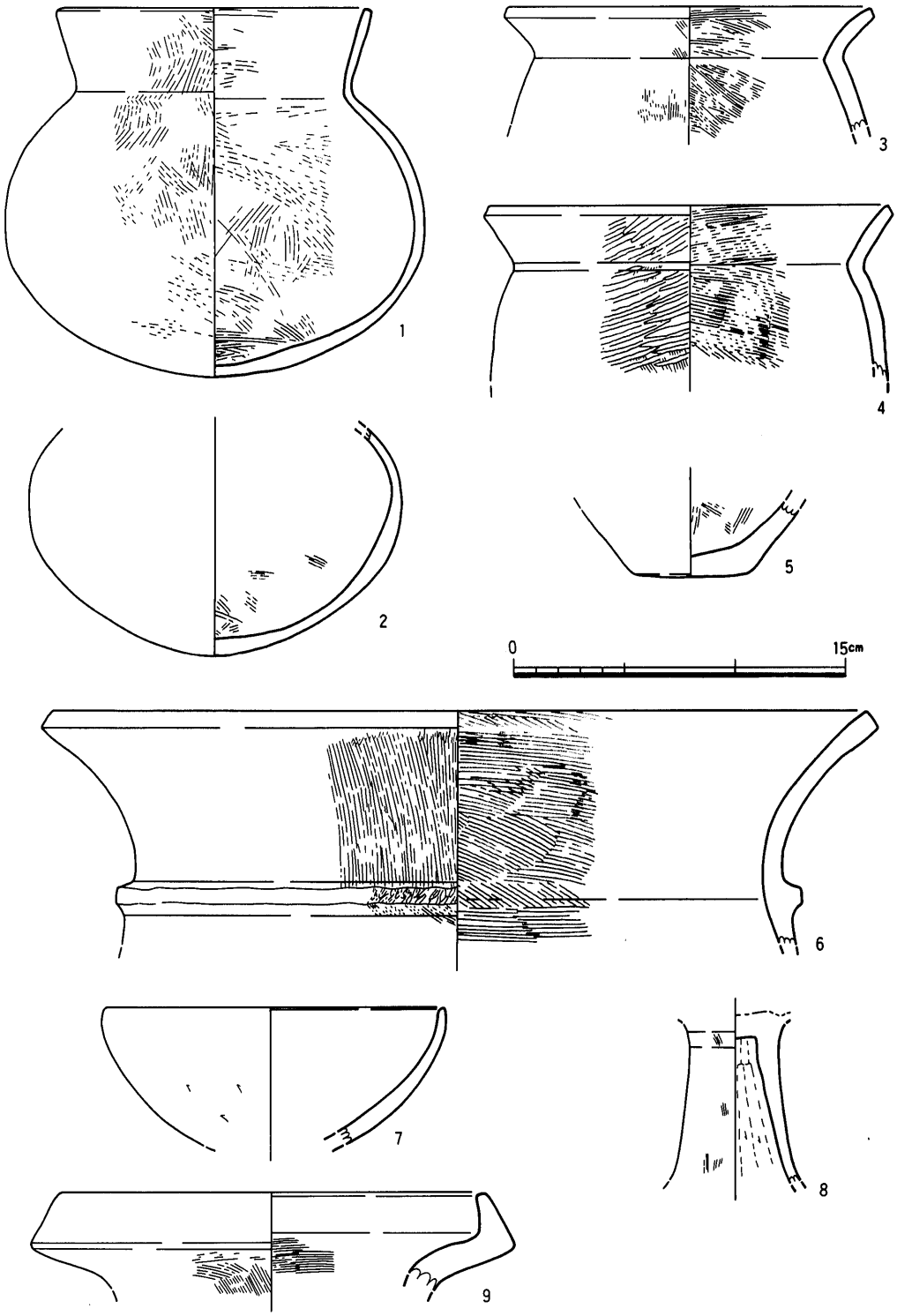
土器だけが床面直上および下層から出土した。

土　　器（第32図，図版81）

壺（１・２）は、胴部中位が強く張ってやや偏平気味の球形胴部を呈するものである。１の口頸部は僅かな傾きをもって直に外傾し、口唇部は平坦面を成している。両者とも丸底であるが、２の底部はやや尖った丸底を呈している。調整技法は、内外面ともハケの後ナデを施して



第31図　第６地点　第10･11号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）



第32図　第６地点　第10号竪穴式住居跡出土土器実測図（Ｓ＝１／60）

いる。

甕（3～6）は、大中の2種類がある。中型のもの（3～5）は、口頸部～胴部上半の破片（3・4）と底部（5）がある。3・4は肩が張らない長胴を呈するものであるが、3の頸部が外弯するのに対し、4の口頸部は直に外傾する。調整技法は、3の内外面ともハケを施しているが、4の外面には斜位のタタキの後ハケを施している。5の底部はほぼ平であるが、僅かながら中程が外へ膨らんでいる。6の大型甕は、口頸部の破片で、線部が強く外弯して平坦面を有する口縁部に続くものである。頸部下に刻み目を施した台形の突帯1条が巡っている。

鉢（7）は半球形を呈するものであり、内外面ともナデが施されている。床面下層からの出土である。

高坏（8）は脚部の破片であり、床面下層からの出土である。

器台（9）は受部部分であり、口縁部は直に内傾する。

第10表　第6地点第10号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
32-1	壺	口径 18.8 器高 16.8 胴部径 19.0	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケの後、ナデ。 胴部下半～底部ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。 底部ヨコハケ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 0.5～1mm大雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑
32-2	壺	器高残 10.3 胴部径 16.7	不明瞭。	胴部下位～底部ナナメハケの後、ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm砂粒わずかに含む。	不良	外－橙色～にぶい橙色 内－にぶい橙色～明褐灰色	外面全面赤彩 黒斑
32-3	甕	口径 16.8 器高残 5.7	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上位タテハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコ・ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケ。	0.5mm大砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい黄橙色	
32-4	甕	口径 18.5 器高残 8.0	口縁～頸部タタキの後、ヨコナデ。 胴部上位タタキの後、一部ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケ。	微細雲母多く含む。 0.5～1mm大砂粒多く含む。	良好		
32-5	甕	器高残 3.5 底径 5.0	胴部下位～底部ヘラナデ。	胴部下位タテ・ナナメハケの後、ナデ。 底部ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
32-6	大型甕	口径 37.8 器高残 10.7	口縁～突帯部タテハケ。 突帯部ハケ目の後端面ナデ。	口縁～頸部ナナメハケ。 胴部上位ヨコハケ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい黄橙色	頸部直下刻目突帯1条
32-7	鉢	口径 15.2 器高残 6.3	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい橙色	
32-8	高坏（脚部）	器高残 7.8	全面タテハケの後、ナデ仕上げ。	タテのナデ・指オサエ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい橙色	
32-9	器台（受部）	口径 19.2 器高残 4.4	口縁部ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 頸部ヨコハケ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	内－にぶい黄橙色 外－にぶい橙色。	

第11号竪穴式住居跡（第31図、図版22・23）

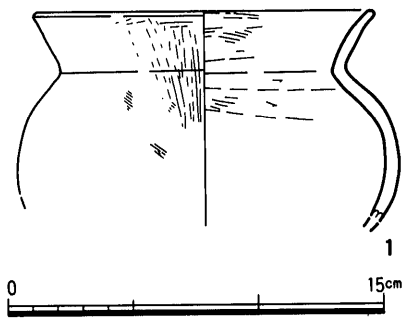
第10号竪穴式住居跡の南東側に重複して位置する。第10号竪穴式住居跡および第３号掘立柱建物跡を切っている。遺構検出面でのプラン確認をし得ず、下層の掘り形の状況から概略3.45×3.5m の方形をていするものであることが判った。しかし、掘り形においても明確に主柱穴となる穴は検出できなかった。

出　土　遺　物

第10号竪穴式住居跡との混同が考えられるため、重複していない床面直上から出土した土器１点を図示した。

土　　器（第33図，図版81）

壺(1)はやや小型のもので、中位に最大径を有する球形の胴部に外反する口頸部が付くものである。調整技法は、外面にハケの後ナデ仕上げがされており、線部にはヘラミガキによる暗文が見られる。
内面にはハケの他に胴部上半にヘラケズリと思われる調整が見られる。



第33図 第６地点 第11号竪穴式住居跡 出土土器実測図（S＝1/3）

第11表 第６地点第11号竪穴式住居跡 出土土器観察表

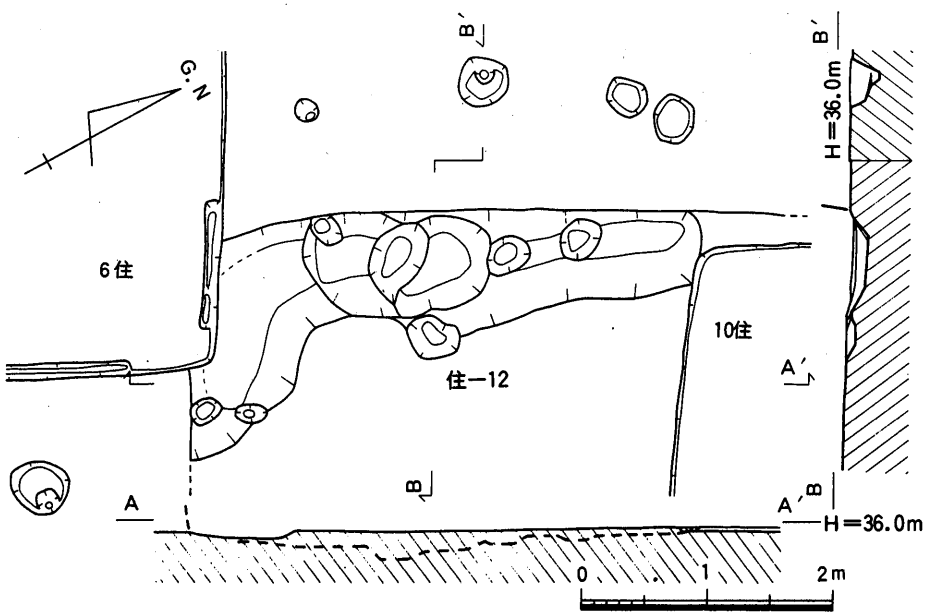
挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
33-1	壺?	口径 13.8 器高残 8.5 胴部径 15.3	口縁～頸部ヨコハケの後、タテのヘラミガキ。 胴部ナナメハケの後、ナデ仕上げ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ヨコのヘラケズリ。? 胴部中位ナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	にぶい黄色	

第12号竪穴式住居跡（第34図）

調査区南西側に第６・10号竪穴式住居跡の間に位置する。全体に削平著しく下層と思われる掘り形を北西辺4.75m 南西辺2.0m を僅かに検出したに過ぎず、主柱穴も不明である。
竪穴式住居跡とするのに疑問を抱くが、北西側長辺の方向が他の竪穴式住居跡の主軸方向とおおよそ同じであり、ここでは一応竪穴式住居跡として扱った。

出　土　遺　物

時期を知り得る土器その他の遺物は出土していない。



第34図　第６地点　第12号竪穴式住居跡実測図（S＝1／60）

第13号竪穴式住居跡（第35図、図版24）

調査区西端の北寄りに位置し、北西側の大半を調査区外に残している。北側で第17号竪穴式住居跡を切り第５号溝状遺構に浅く切られ、南西側を第14号竪穴式住居跡に浅く切られ、それぞれと重複している。南東辺6.9m、北東辺2.15m を検出し、北東側に幅1.1m のベッド状遺構を有するが、主柱穴は不明である。他の竪穴式住居跡からベッド状遺構が位置する北東辺を短辺とする長方形プランの竪穴式住居跡と思われる。

出　土　遺　物

遺物は少なく、土器だけが出土した。

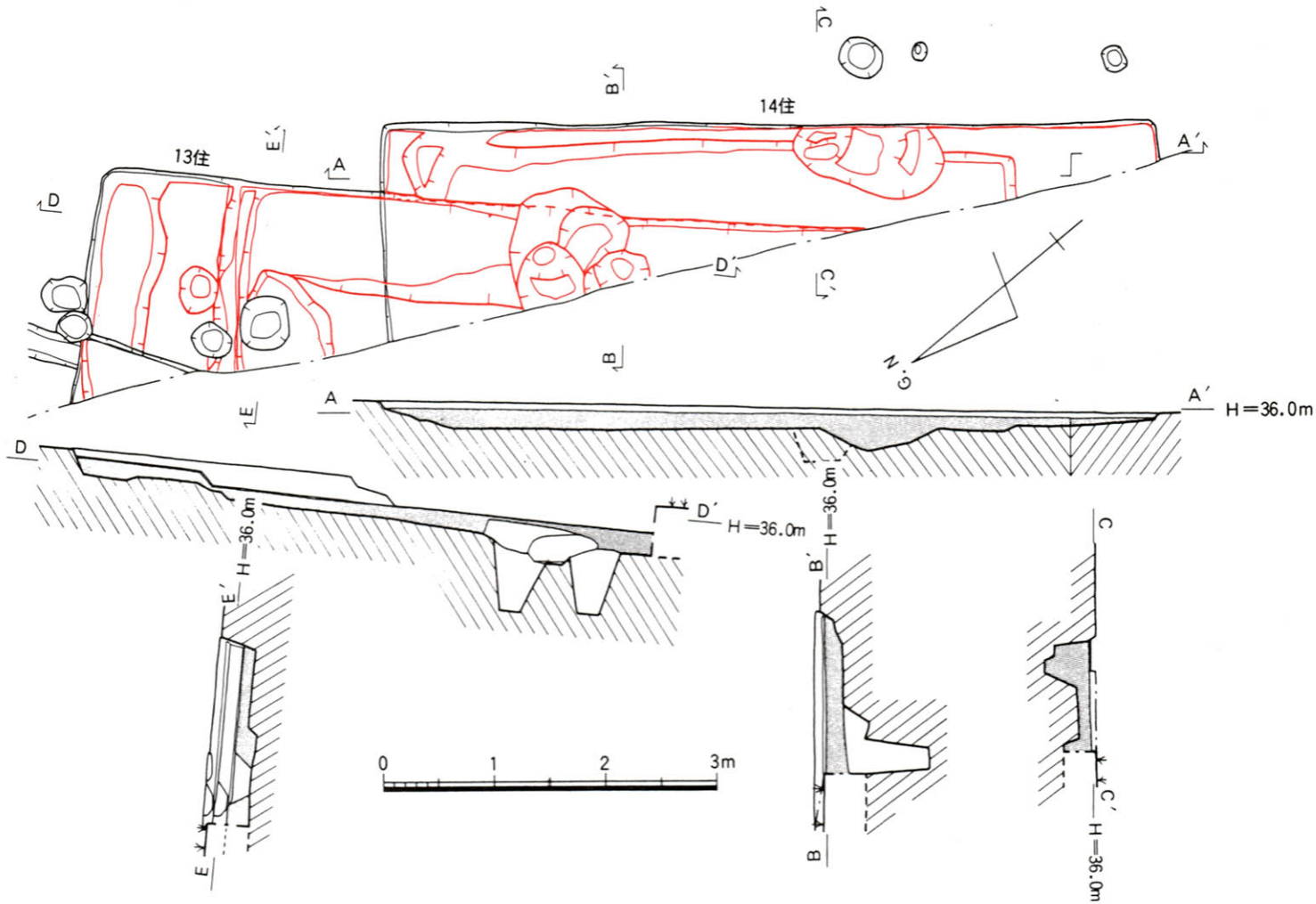
土　　器（第36図）

壺（１）は複合口縁壺の頸部であり、頸部下位に三角形突帯を１条巡らしている。調整技法は、内外面ともハケが施されている。

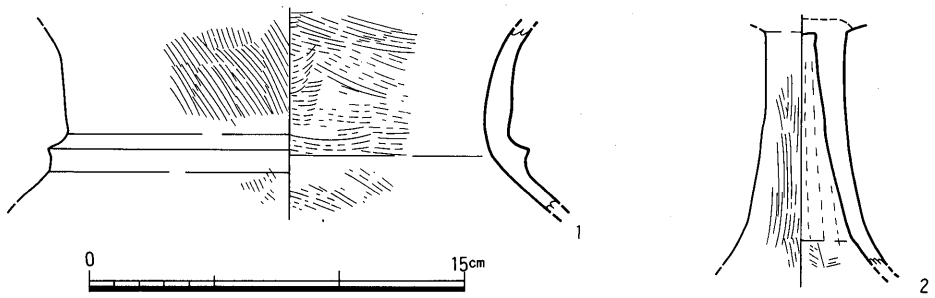
高坏（２）は脚部であり、細く長い筒部は直に伸びて下位で大きく開いている。

第12表　第６地点第13号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
36−1	壺？	頸径 17.6 器高残 7.4	頸部ナナメハケ 突帯部ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケの後、ナデ。	頸部ヨコハケ。 胴部上位ナナメハケ。	0.5〜1mm大砂粒わずかに含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	内−にぶい黄橙色 外−赤褐色	頸部直下三角形突帯１条
36−2	高坏（脚部）	器高残 9.9	全面タテハケの後、ナデ。	筒部タテナデ・指オサエ。 裾部ヨコハケの後、ナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。	良好	明赤褐色	



第35図　第６地点　第13・14号竪穴式住居跡出土土器実測図（S＝1／60）



第36図　第６地点　第13号竪穴式住居跡出土土器実測図（Ｓ＝１／３）

第14号竪穴式住居跡（第35図、図版24）

調査区西端のやや北寄りに位置し、北西側の大半を調査区外に残している。第13号竪穴式住居跡を切って重複している。南東辺7.0m 北東辺1.95m 南西辺0.35m を検出したが、上部の削平によって残りは浅く全容を把握し得なかった。下層の掘り形において幅1.3m の低い段が見られたがベッド状遺構に伴うものであるのか不明確である。

出　土　遺　物

土器・石器および土製品が出土したが、下層出土のものの中には第13号竪穴式住居跡との混同も十分考えられる。

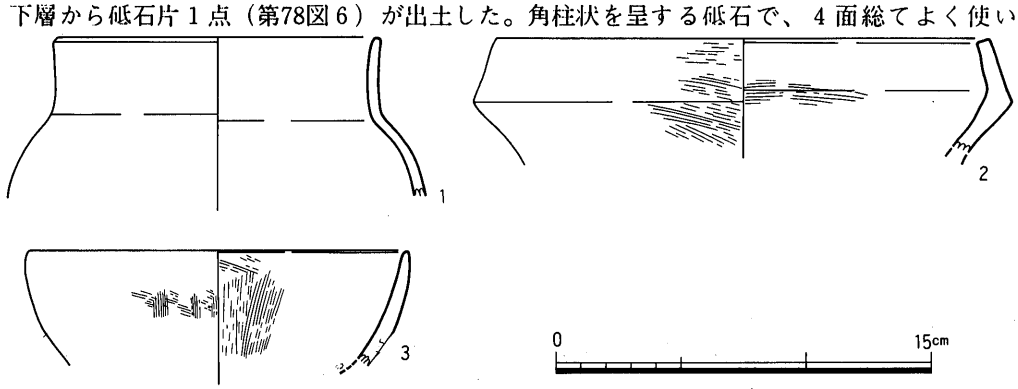
土　　器（第37図）

壺（１・２）は大中の２種類ある。小型のもの（１）は、口頸部が直に立ち上がるものである。大型のもの（２）は複合口縁壺の口縁部で、下層からの出土である。

鉢（３）は口縁部から胴部にかけての破片で、半球形を呈するものである。下層からの出土である。

石　　器（第78図，図版92）

下層から砥石片１点（第78図６）が出土した。角柱状を呈する砥石で、４面総てよく使い



第37図　第６地点　第14号竪穴式住居跡出土土器実測図（Ｓ＝１／３）

込まれている。砂岩に近い黒色シルト岩製である。

土　製　品（第80図，図版93）

下層から土玉１点（第80図４）が出土した。中央よりやや外寄りに0.2cm程の孔が穿たれている。胎土密で、焼成良好であるが、部分的に亀裂が走っている。色調はにぶい暗橙色を呈し、径1.88～2.055cm、厚1.645cmを計る。

第13表　第６地点第14号竪穴式住居跡　出土土器観察表

挿図番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
37-1	壺	口径 12.8 器高残 6.4	不明瞭	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナデ。	細雲母わずかに含む。微細砂粒わずかに含む	やや良好	褐色	
37-2	鉢	口径 15.2 器高残 4.3	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメ・タテハケの後、ナデ。	口縁部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部タテハケ。	微細雲母多く含む。0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	明赤褐色	黒斑（口縁部内面）
37-3	器台（受部）	口径 19.7 器高残 4.6	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後、ナデ。	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 頸部ヨコハケの後、ナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	浅黄橙色	

第15号竪穴式住居跡（第27図、図版25・26）

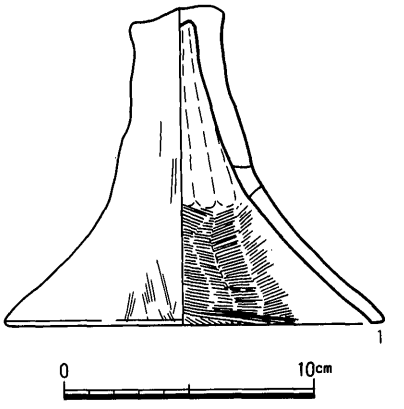
調査区最西端に位置し、西側の大半は調査区外である。南東側を第８号竪穴式住居跡によって切られ、また第４号掘立柱建物跡を切って、それぞれと重複している。北東辺に幅0.9～1.1ｍのベッド状遺構があるが、全容は不明である。主柱穴も、第４号掘立柱建物跡のものであり、不明確である。

出土遺物

土器のみ出土した。

土　器（第38図，図版82）

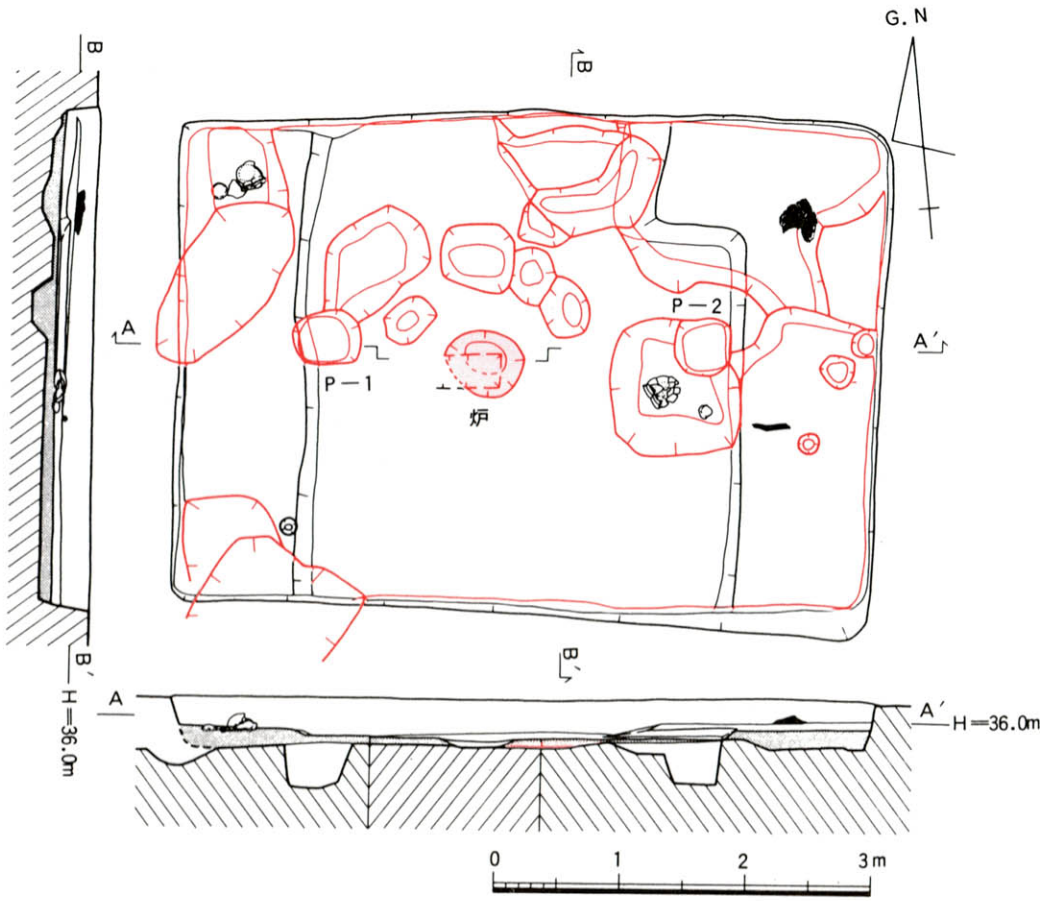
高坏(1)は、脚部の破片である。中位に円形のスカシが穿たれているが、その数は不明である。スカシを境にして裾部へ大きく開く形態を呈する。



第38図　第６地点　第15号竪穴式住居跡
出土土器実測図（S＝1/3）

第14表　第６地点第15号竪穴式住居跡　出土土器観察表

挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
38-1	高坏（脚部）	器高残 12.8 底径 15.1	筒～裾部タテハケの後、ナデ。	筒部タテナデ・指オサエ。 裾部ヨコハケ。	微細砂粒多く含む。1～2mm大砂粒少量含む。	良好	内—浅黄橙色 外—橙色	円形スカシ



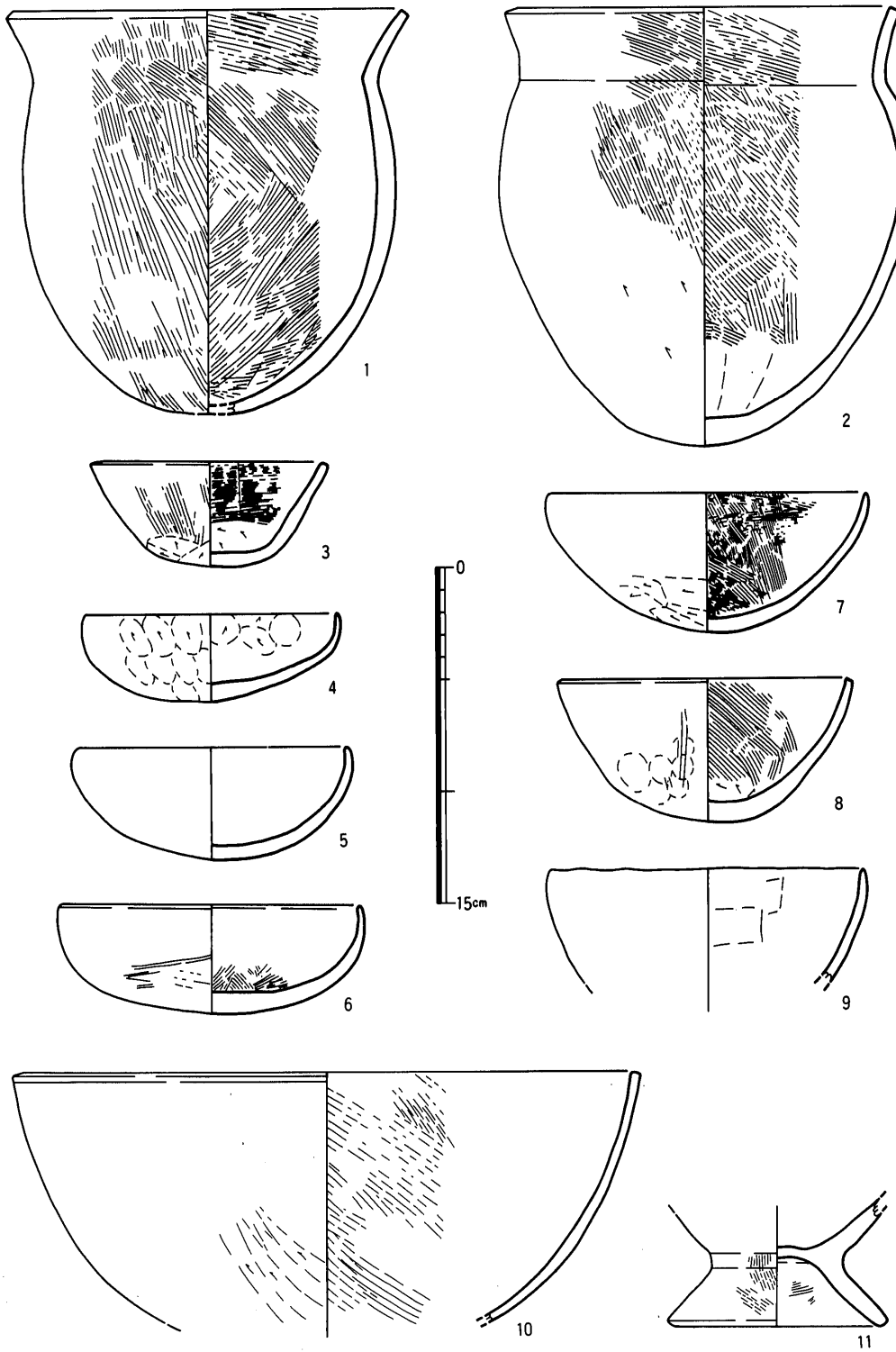
第39図　第６地点　第16号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）

第16号竪穴式住居跡（第39図、図版27・28・29）

調査区北端やや西寄りに位置する。東側で第24号竪穴式住居跡を切り、西側で第17・18・26号竪穴式住居跡を切って、それぞれと重複している。5.6×4.1mの長方形を呈し、２本の主柱穴を有している。屋内の中央には径64×53cmの炉があり、東西両短辺には幅1.0m前後のベッド状遺構が設けられている。東側のベッド状遺構は、北東コーナーから西に折れて北側長辺に沿って更に0.6m程続いており、鍵形を呈している東側ベッド状遺構が切れる北側長辺の中央では、下層掘り形において落ち込みを検出した。主軸方向は略東西方向を取り、他の同じ長方形を呈する竪穴式住居跡の方向と全く異なっている。

出　土　遺　物

土器と玉が出土し、他に東側ベッド状遺構床面より炭化物が出土している。土器は屋内床面およびベッド状遺構床面の直上から出土し、少量床面下層から出土している。



第40図　第６地点　第16号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）

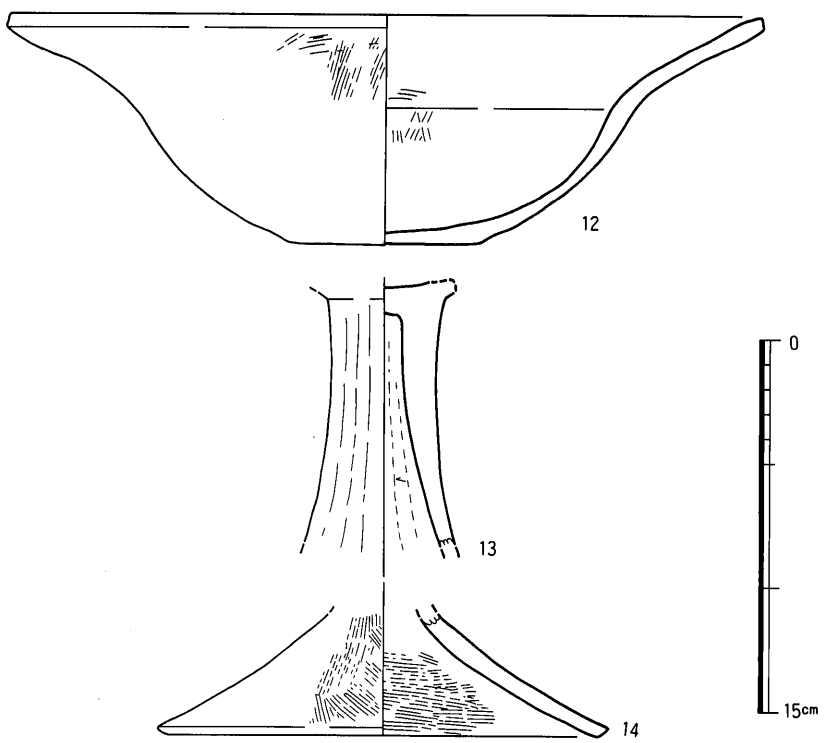
土　　器（第40・41図，図版83）

甕（1・2）は小型のもので、丸底を呈する。1は、胴部の最大径は中位に位置するが口縁部径より小さいもので、「く」の字状に強く外傾する口頸部がついている。2は、最大径が胴部上位に位置し、口頸部の傾きも弱くやや立ち上がり気味である。両者は調整技法においても違いが見られ、1は内外面ともハケであるのに対し、2はハケの後に内部下半～底部にナデを、外部下半～底部にヘラケズリを施している。

鉢（3～10・12）には大小あり、その形態からおよそ3種類がある。小型のもの（3～9）は、やや深めで外に開く通常の鉢形を呈するもの（3·7～9）と、内弯しながら立ち上がるいわゆる椀形を呈するもの（4～6）とに分けられる。前者は、口唇部が平担面を有するもの（3・8）と、やや尖り気味に丸く収めるもの（7・9）とに細分できる。9は、下層からの出土である。大型のもの（10・12）には2種類ある。10は、半球形のボール状を呈している。11は、深めの胴部（胴部下半）から大きく長く開く口頸部（胴部上半）を有するもので、高坏の坏身の形態によく似ているが、底部は完結しており平底を呈している。

脚台部（11）は、甕のものと思われ、内外面共ハケの後ナデが施されている。

高坏（13・14）は共に破片である。13は脚筒部で、外面はヘラケズリによって弱い多角面を成している。14は大きく開く裾部で、端部は平担面を有している。



第41図　第6地点　第16号竪穴式住居跡出土土器実測図②（S＝1／3）

玉　　類（第80図，図版93）

床面より浮いて埋土中から小玉１点が出土した。第80図５は、ややダークブルーの色調を呈するガラス小玉である。径0.51～0.56cm厚さ0.34～0.405cm孔径0.2～0.25cmを計る。

第15表－①　第６地点第16号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿図番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
40-1	甕	口径 17.8 器高 18.2	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。(↖) 胴部下半～底部ナナメハケ。(↗)	0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒わずかに含む。 0.5～1mm大雲母多く含む。	良好	内一にぶい黄橙色 外一浅黄橙色～暗褐色～褐灰色	黒斑
40-2	甕	口径 17.4 器高 19.3～19.6 胴部径 18.2	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ナデ。 胴部下半～底部ナナメハケの後、ヘラケズリ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上～中位ナナメハケ。 胴部下位～底部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい褐色～暗褐色	黒斑 煤付着
40-3	鉢	口径 10.5 器高 4.6～5.0	口縁部端面ヨコナデ。 胴部タテハケ。 底部ヘラケズリ。	胴部ヨコハケ。 底部ナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内一暗黄褐色 外一浅黄橙色～にぶい黄褐色	黒斑
40-4	鉢	口径 10.4～11.1 器高 4.0	口縁～胴部上位ナデ・指オサエ。 胴部中位～底部ナデ・指オサエ。	口縁～胴部ナデ・指オサエ。 底部不定方向のナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内一浅黄橙色～灰黄褐色 外一にぶい黄橙色～灰黄褐色	黒斑
40-5	鉢	口径 11.7 器高 5.1 胴部径 12.5	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ヘラナデの後、ナデ。	0.5～2mm大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。	良好	内一浅黄橙色～にぶい黄橙色 外一にぶい黄橙色～灰黄褐色	
40-6	鉢	口径 13.6 器高 4.9	口縁部ヨコナデ。 胴部ハケ？の後、ナデ。 底部不定方向のナデツケ。	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半ナナメハケ。 底部ハケの後、ナデ。	0.5mm大雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい黄橙色	
40-7	鉢	口径 13.3～14.3 器高 6.4～6.6	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部ヘラケズリ。	口縁部タテ・ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ナナメハケ。 ハケは右廻りで外から中心へ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。	良好	内一黄橙色 外一橙色～にぶい橙色	黒斑
40-8	鉢	口径 12.5～13.3 器高 6.3～6.8	口縁部端面ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ・指オサエ。 底部ヘラケズリの後、ナデ。	胴部ナナメハケ。 底部ナデ。 ハケは右廻り。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母多く含む。	良好	内一明黄褐色 外一にぶい黄褐色～黄褐色	
40-9	鉢	口径 13.8 器高残 5.1	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	内一褐色 外一黒褐色	

第15表 - ②

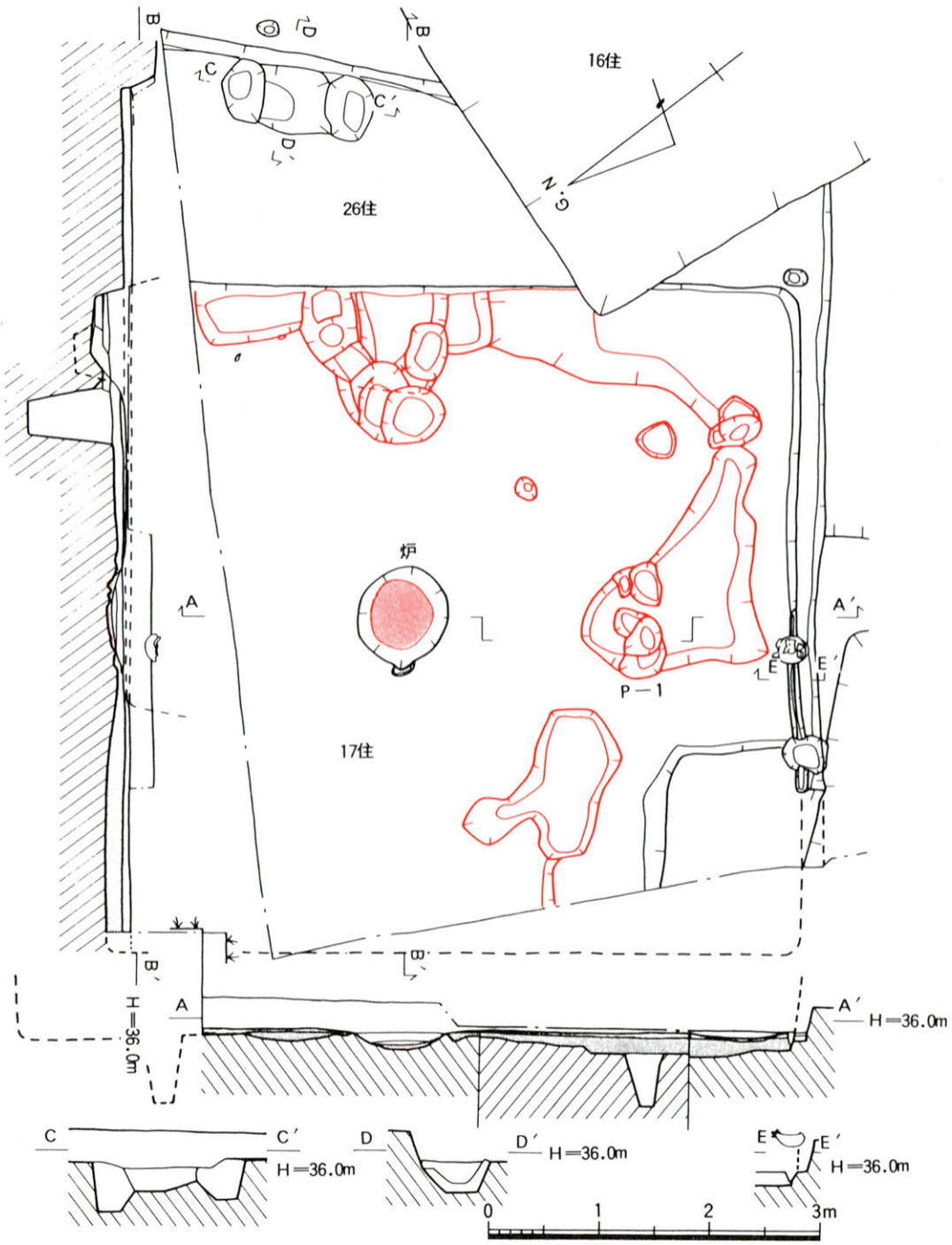
挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
40-10	鉢	口径 27.9 器高残 11.2	口縁～胴部上位タテハケの後、ヨコナデ。 胴部中位タテハケの後、ナデ。 胴部下位ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒少量含む。	良好	明赤褐色	
40-11	脚台部	器高残 5.7 底径 9.8	胴部下位ハケの後、ナデ。 台部ナナメハケの後、ナデ。	胴部下位～底部不明瞭。 台部ヨコハケの後、ナデ。	微細雲母多く含む。 0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	橙色	
41-12	鉢？	口径 30.0 器高 9.2 底径 7.8	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半タテハケの後、ナデ。 胴部下半不明瞭。 底部不定方向のナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ヨコハケの後、ナデ。 胴部下半タテハケの後、ナデ。 底部ナデ。	1mm大砂粒わずかに含む。	良好	内—にぶい黄橙色 外—にぶい橙色	黒斑
41-13	高坏(脚部)	器高残 10.7	全面ヘラケズリ。	全面ナデ・指オサエ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	赤褐色	
41-14	高坏(脚部)	器高残 4.9 底径 18.0	裾部タテ・ナナメハケ。 裾端部ハケの後、ヨコナデ。	裾部ヨコハケ。 裾端部ハケの後、ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい黄褐色	端部内外黒斑

第17号竪穴式住居跡（第42図、図版29～31）

調査区最北端の北西角に位置し、大半を調査区外に残している。南東辺5.5m、南西辺5.25mを検出調査できた。南東側を第16・18号竪穴式住居跡によって切られ、北西側を北東—南西方向の第5号溝状遺構によって浅く切られている。また、大部分を第26号竪穴式住居跡と重複しており、17号が26号を切っていると判断したが、遺物の出土状態から逆の可能性もある。中央に径90×82cmの円形を呈する炉があり、炉の南西側に主柱穴と思われる柱穴を1本検出した。また、南東辺には炉と対応する位置に方形を呈する屋内土壙が他の穴と重複して検出できた。南西側では部分的であるが、ベッド状遺構と思われる段を幅1.1～1.25m、長さ1.2m分検出した。以上の、炉跡・主柱穴・屋内土壙およびベッド状遺構などの位置から、本竪穴式住居跡は略北東—南西に長軸方向を取る約7.0～6.0mの長方形を呈するものと考えられる。

出土遺物

土器・石器が出土した。多くは床面直上や埋土中のもので本竪穴式住居跡に伴うものである。しかし、南西側中央壁際で床面よりかなり浮いた状態で出土した甕（第44図10）は、平面的に第26号竪穴式住居跡にもかかっており、他のものも含めて両竪穴式住居跡の遺物の混同が有り得る。他に、埋土中よりベンガラが出土している。



第42図　第６地点　第17・26号竪穴式住居跡出土土器実測図（Ｓ＝１／３）

土　　器（第43・44図，図版84）

壺（1・7～9）は、大型のものである。1と9は同一個体のものと思われるが、全体形を復元できなかった。1は複合口縁壺で、内傾する複合口縁部は中位で立ち上がり気味にも内傾し、口唇部は内側に少しつまみ出されて弱い稜を成している。頸部直下に三角形突帯1条を巡らしている。9の底部は破片のため明確ではないが完全な平底ではなく、7・8の底部も極めて弱い凸レンズ状の平底を呈している。

甕（2～6・10）は、中小2種類がある。小型のもの（2）は、肩の張らない胴部に短く直に外傾する口頸部がつき、底部は平底を呈する。調整技法は、内外面ともハケの他外面下半にヘラケズリが施されている。中型のもの（3～6・10）のうち、全体形がわかるのは10だけである。3は中型の中でもやや小型のもので、肩の張った胴部に著しく外傾する口頸部がついており甕としてはやや異質である。4は肩の張らない胴部に外反する口頸部がつくものである。6の底部は僅かながら弱い凸レンズ状の平底を呈する。10は器壁が薄く、丸底・長胴のもので、口頸部の外傾度は小さくほぼ直に立ち上がっている。

鉢（11～15）は、3種類ある。11・12は内弯する胴部に外反する口頸部がつき、全体「S」字状を呈するものである。13は底部からそのまま口縁部へ直に開くもので、調整技法も内外面ともハケの後ヘラケンマが施されており、他の鉢とはやや異なっている。14は底部から内弯して立ち上がる素口縁のもので、口唇部は平担面をなし、底部は僅かに凸レンズ状を呈する小さな平底を呈している。15は台付き鉢の破片であり、台部は大きく「八」の字に開くものと思われる。

高坏（16・17）は、脚部の破片である。17の下位に円形のスカシ孔があるが、その数は不明である。

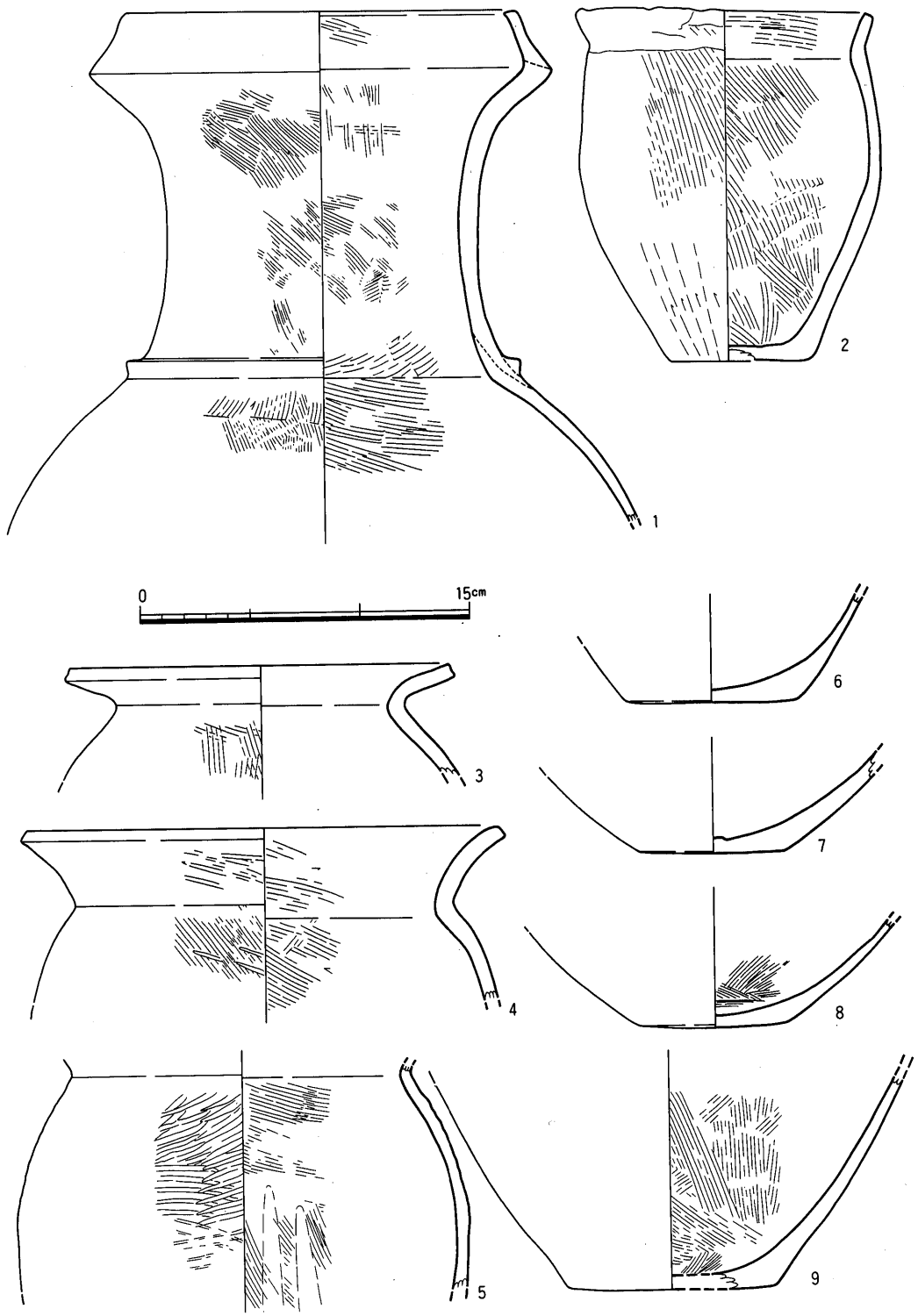
石　　器（第78図，図版92）

第78図7は、凝灰質シルト岩製の石包丁であり、半分以下の折損品である。背部は僅かに外弯し、刃部は大きく外弯する形態を呈し、背面は平担面をなしている。孔は背部近くに両面から回転利用によって穿たれている。残存長6.0cm、背面幅0.4cmを計る。

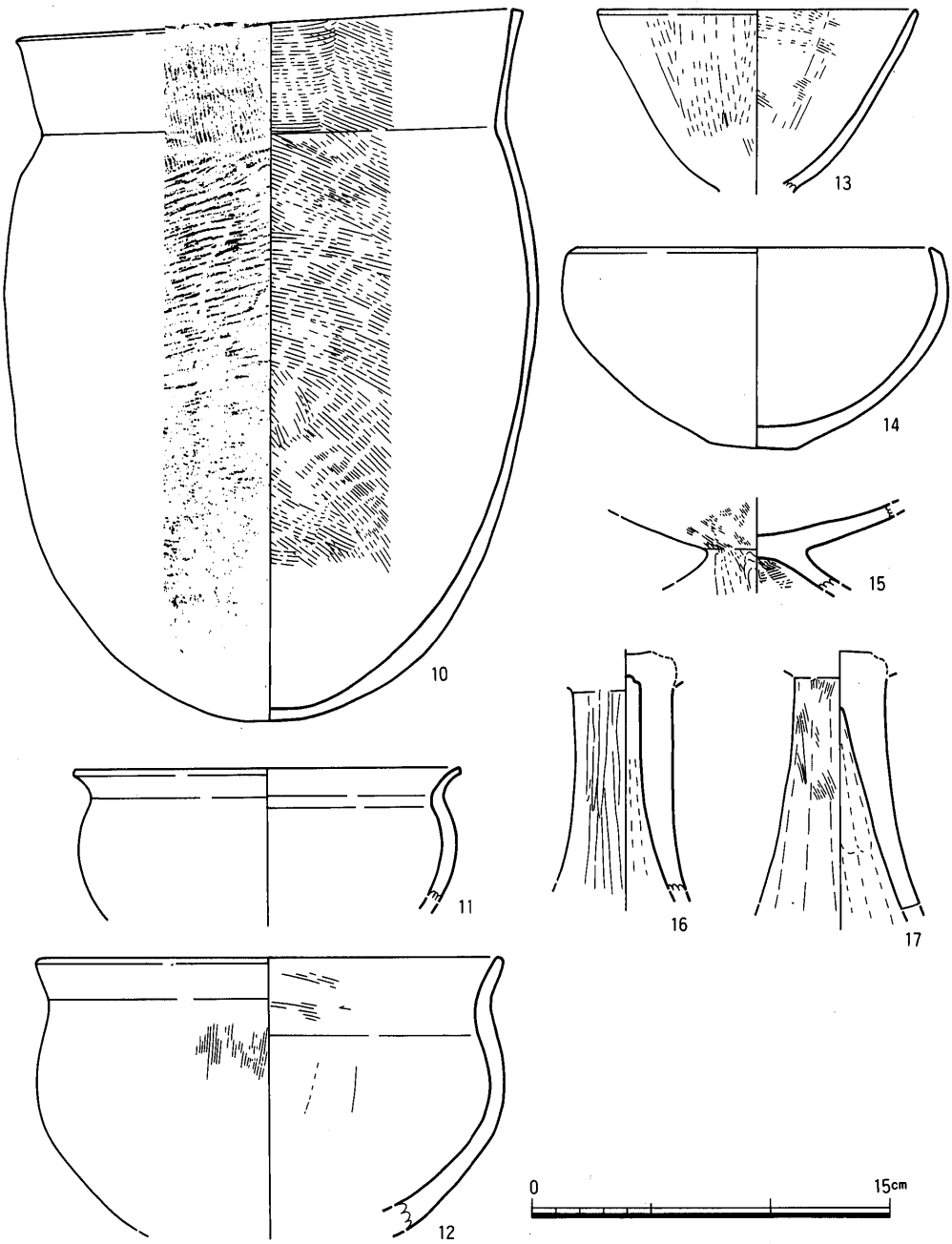
鉄　　器（第80図，図版93）

第80図10は、小型の鎌の折損品である。棟は直線であるが、刃部は僅かに内弯するようである。端部の折り返しは斜位にされており棟側で0.9cm刃部側で0.7cmを計る。残存長5.8cm、装着部側幅3.3cm、棟幅0.2～0.25cmを計る。

同図11は、刀子と思われるものであり、切っ先部分と関・茎部分でその間がない。木葉形の鏃あるいは鉇の切っ先とも考えたが、楔形を呈する断面形から刀子と判断した。茎長1.3cm、関側身幅1.6cm、切っ先側幅1.05cm、切っ先側棟幅0.4cmを計る。



第43図　第６地点　第17号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第44図　第６地点　第17号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）

第16表－①　第６地点第17号竪穴式住居跡出土土器観察表

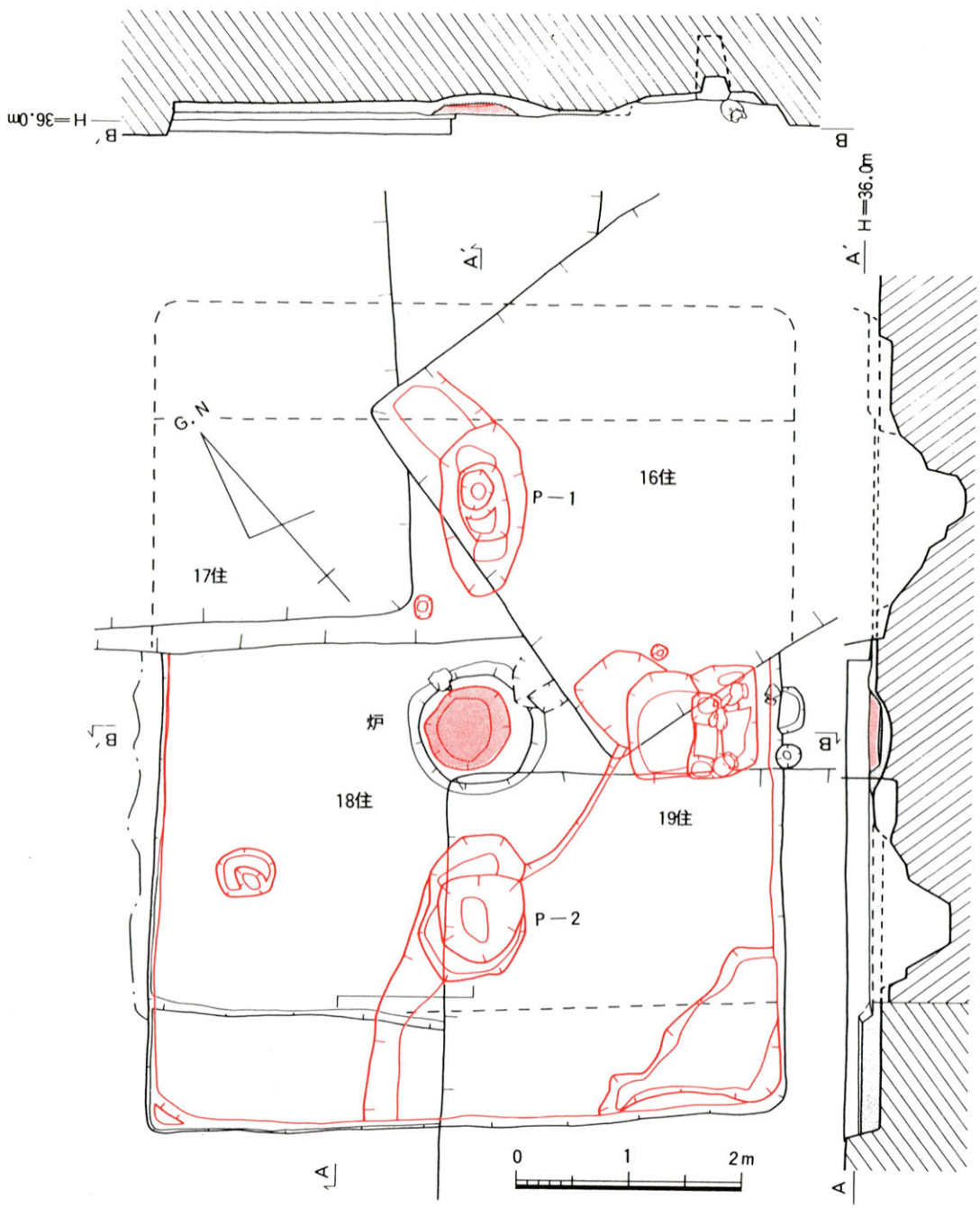
挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
43- 1	壺	口径 17.7 器高残 23.4	口縁部ヨコナデ。頸部ナナメハケの後、ナデ。突帯部ヨコナデ。胴部上位タテハケ。	口縁部ナナメハケの後、ヨコナデ。 頸部タテ・ナナメハケの後ナデ。 胴部上位ヨコハケ。	微細。	やや良好	にぶい褐色 ～にぶい橙色	頸部直下に三角形突帯１条
43- 2	甕	口径 13.5 器高 15.8 ～16.2 底径 13.7	口縁～頸部ナナメハケの後ヨコナデ。胴部上半ナナメハケ。胴部下半ヘラケズリ（ヘラナデ？）。底部ヘラケズリ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ナナメ・タテハケ。 底部ハケ・指オサエ。	0.5㎜大粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	良好	内－橙色 外－明赤褐色 ～橙色	黒斑
43- 3	甕	口径 17.8 器高 17.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナナメ・タテハケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	良好	にぶい黄褐色	
43- 4	甕	口径 22.2 器高 22.0	口縁部端面ヨコナデ。 頸部タタキの後、ナナメハケ。 胴部上位タタキの後、ナナメハケ。	口縁～頸部ナナメハケの後ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケ。	0.5～1㎜大砂粒少量含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	良好	褐色	
43- 5	甕	胴部径 20.7	胴部上位タタキ。 胴部中位タタキの後、ヘラケズリ。	胴部上位ナナメハケの後、ナデ。 胴部中位タテハケの後、ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－にぶい黄褐色 外－暗褐色	
43- 6	甕（底部）	器高 5.0 底径 7.8	胴部下位ハケの後ナデ。 底部ハケの後、ナデ。	胴部下位ハケの後、ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母多く含む。 0.5～1㎜大砂粒多く含む。	良好	内－褐色 外－暗褐色	網代痕？
43- 7	甕（底部）	器高 4.7 底径 6.0	胴部下位ナデ。 底部タタキ？。	胴部下位～底部ナデ。	微細雲母多く含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好 やや	褐色	
43- 8	甕（底部）	器高 4.9 底径 6.8	胴部下位ハケの後、ナデ。 底部ハケの後、ナデ。	胴部下位～底部ヨコ・ナナメハケ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	内－黒褐色 外－灰褐色 内－にぶい橙色	
43- 9	甕（底部）	器高 9.7 底径 9.4	胴部不明瞭底部ハケ。	胴部下位～底部ナナメハケ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 2㎜大砂粒わずかに含む。 0.5～1㎜大雲母わずかに含む。	やや良好	内－にぶい橙色 ～にぶい褐色 外－にぶい赤褐色	
44-10	甕	口径 20.6 ～21.8 器高 28.2 ～29.7 胴部径 22.0	口縁～頸部タテハケ。 胴部上半タタキ。 胴部下半タタキの後ナナメハケ。 底部ヘラケズリ。	口縁～頸部ヨコハケ。 胴部ナナメハケ。 底部不定方向のナデ。	0.5～2㎜大砂粒多く含む。	良好	橙色	
44-11	鉢	口径 16.4 器高残 5.7 胴部径 15.9	不明瞭。	ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒多く含む。	良好	明褐色	

第16表 - ②

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
44-12	鉢	口径 19.5 器高残 11.5 胴部径 19.6	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半タテハケの後、ナデ。 胴部下半不明瞭。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	暗褐色	
44-13	鉢 ?	口径 13.5 器高残 7.7	口縁部ヨコナデ。 胴部ハケの後、ヘラケンマ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケの後、ヘラケンマ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色～明黄褐色	器種不明確
44-14	鉢	口径 16.1 器高 8.2～8.5 胴部径 16.2	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴～底部不明瞭。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴～底部不明瞭。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 0.5mm大雲母わずかに含む。	良好	にぶい黄橙色	
44-15	鉢 ?	器高残 3.6	底部ナナメハケの後、ナデ。 脚台部ナナメハケの後、ナデツケ。	底部ナデ。 脚台部ヨコハケ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい黄橙色	脚台付鉢
44-16	高坏（脚部）	器高残 10.1	筒部タテのヘラケンマ。	筒部ナデ。指オサエ。	微細雲母多く含む。 0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒わずかに含む。	良好	赤褐色	
44-17	高坏（脚部）	器高残 11.4	筒部ナナメハケの後、ナデ。	筒部ナデ。指オサエ。	微細雲母わずかに含む。 0.5mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい黄橙色	円形スカシ

第18号竪穴式住居跡（第45図、図版32・33）

調査区北西角近くに位置する。北側で第17号竪穴式住居跡を、南東側で第20号竪穴式住居跡を切り、また、東角を第16号竪穴式住居跡に、南側角を第19号竪穴式住居跡に切られて、それぞれと重複している。第17号竪穴式住居跡との新旧関係は、当初第18号→第17号の順番と判断して発掘したが、発掘途中において第17号竪穴式住居跡内に第18号竪穴式住居跡のベッド状遺構を検出したため、北側角周辺の壁を検出できないながらも、最終的には第17号→第18号と判断した。長方形を呈し、北西長辺4.25m、南西短辺5.7m、南東長辺4.05mを検出できた。南西短辺に沿って幅0.85～1.05mのベッド状遺構を長さ2.6m分検出したが、本来両方の短辺いっぱいに設けられていたものと思われる。ベッド状遺構は、一旦下層を掘り込んだ後に土を盛り固めて作っている。床面中央には、周辺を土手状に盛り上げた内径81×69cmの円形を呈する炉がある。主柱穴は、炉を挟んで2本ある。南東長辺のほぼ中央壁際には、0.95×1.0mの方形を呈する落ち込みがあり、屋内土壙と考える。北西長辺の壁外では長さ3.25mにわたって地山の亀裂が見られたが、第3号竪穴式住居跡で見られた出入り口状遺構に伴うものではなかった。炉・主柱穴・屋内土壙・およびベッド状遺構の位置から、本竪穴式住居跡は7.0×5.7mの長方形を呈するものと思われる。



第45図　第６地点　第18号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）

出　土　遺　物

土器だけが出土した。特に、屋内土坑からは甕・支脚がまとまって出土した。なお、第17号竪穴式住居跡との重複部分における遺物の混同が有り得る。

土　　器（第46・47図，図版82）

壺・甕・器台・支脚・高坏が出土した。

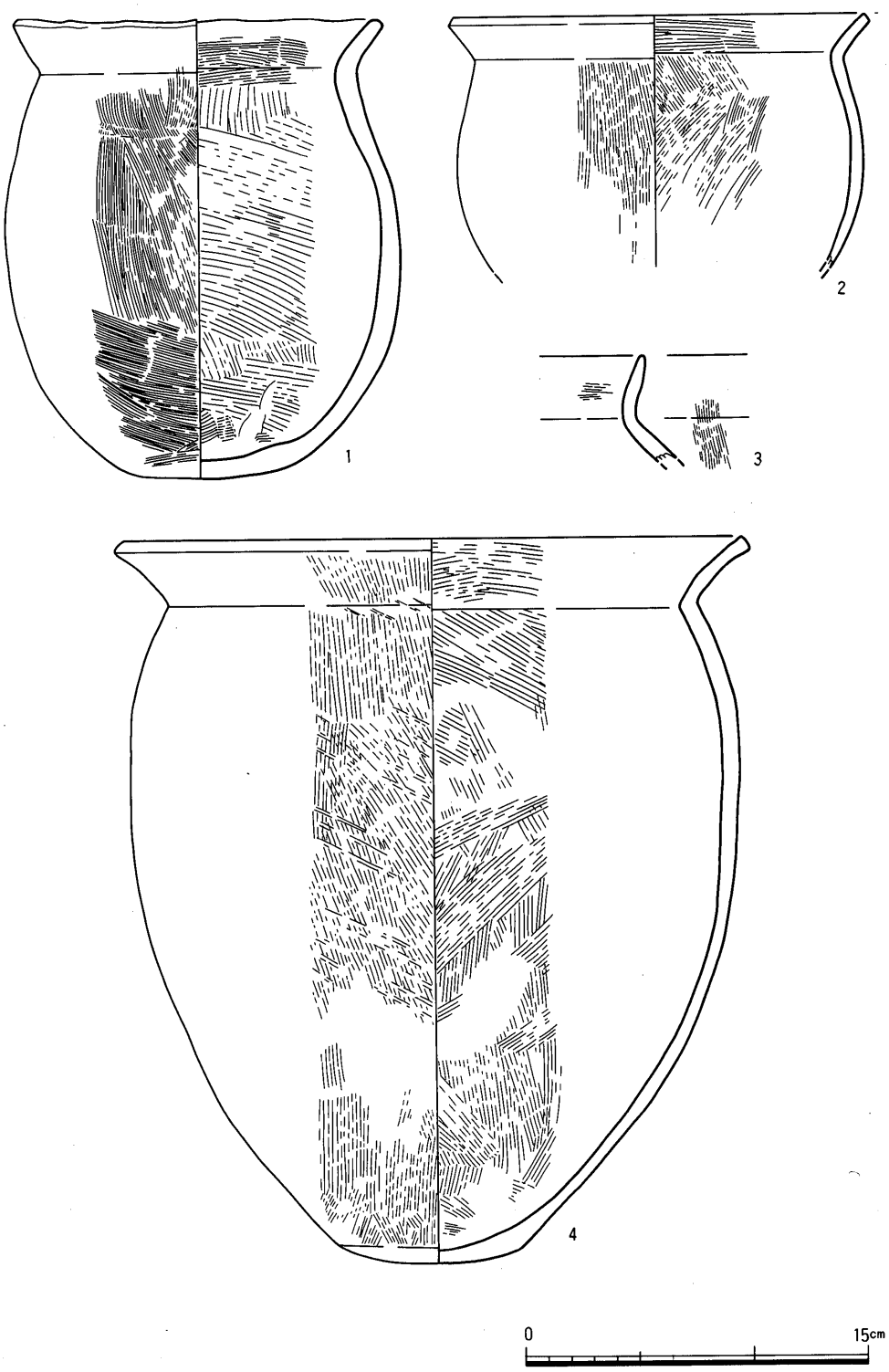
甕（1・2・4）は、中小がある。1は小型の甕であり、全体に器壁は肉厚である。底部は凸レンズ状の平底を呈し、最大径が下位に下がった胴部から「く」の字状に外傾する口頸部を呈する。調整技法は内外面ともハケ調整であるが、内面のものは粗いハケである。2は口頸部が「く」の字状を呈する鉢あるいは短頸の壺とも思われるが、ここでは小型の甕として扱う。胴部より口縁部に最大径があり、偏平気味の胴部から「く」の字状に強く外傾する口頸部を有している。調整技法は、内外面ともハケである。4は、中型の甕である。胴部最大径は上位にあるが、口縁部径より小さい。一旦すぼまった胴部から「く」の字状に強く外反する口頸部を有し、平担面を成す口唇部はやや肥厚している。底部は、凸レンズ状を呈している。調整技法は、内外面ともハケである。

壺（3・5）は、大小がある。3は小片であり不明確であるが、短く直行する口頸部を呈するものと思われる。5は、胴部上位から頸部にかけての破片であり、頸部直下に三角形突帯が1条巡っている。調整技法は、内外面ともハケである。おそらく複合口縁壺と思われ、復元した大きさは異なるが、第17号竪穴式住居跡出土のもの（第43図1・9）と同一の可能性がある。

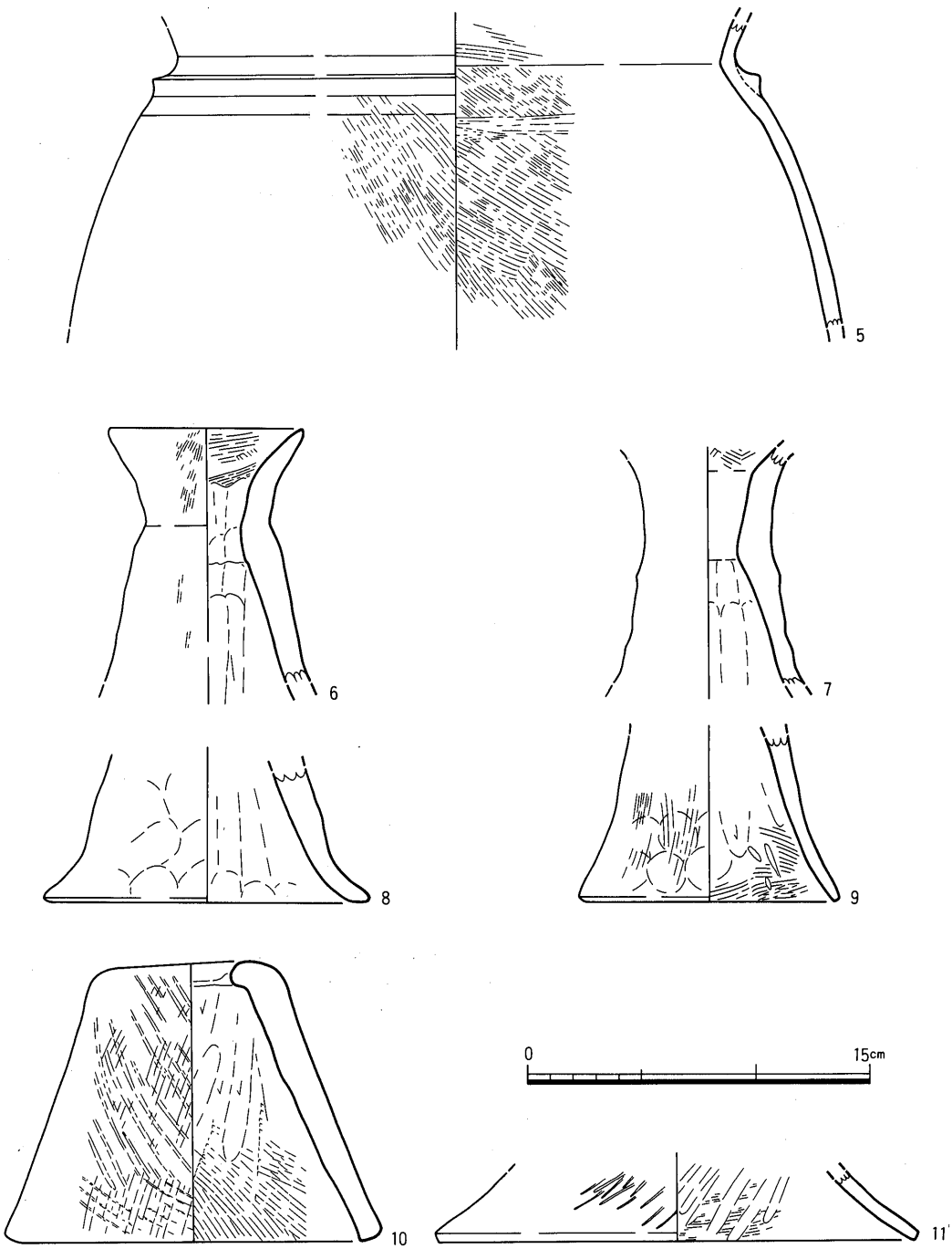
器台（6～9）は、明瞭なくびれ部を有する円筒形のものである。くびれ部（6・7）は円筒形の上位に位置しやや外傾気味に立ち上がり、強く外傾して開く受け部へと続いている。脚部（8・9）は長くほぼ直に外傾し、下位において一旦すぼまり、脚裾部において更に大きく開いている。調整技法は、受け部の内外面にはハケが見られるが、くびれ部以下においては外面をナデ・指オサエ、内面を指によるナデ・オサエがやや雑に施されている。9の脚部内外面にはハケが残っている。6～9は器壁が肉厚で、胎土・焼成・色調および調整技法が良く似ているが、9は器壁が薄く他のものとはやや異なる。

支脚（10）は断面形台形を呈するものである。中央に穴を穿った平担な受け部から直に外傾して開く脚部を呈する。器壁は肉厚である。調整技法は、外面にタタキの後ハケを施し、内面にハケの後上半を指によるナデ・オサエが施されている。

高坏（11）としたものは破片からの復元である。大きく開く脚裾部で、端部は平担面をなす。調整技法は、外面にナデの後ヘラケンマを施し、内面にハケの後ヘラケンマ（ヘラナデ？）が施されている。



第46図　第６地点　第18号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第47図　第６地点　第18号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）

第17表　第６地点第18号竪穴式住居跡出土土器観察表

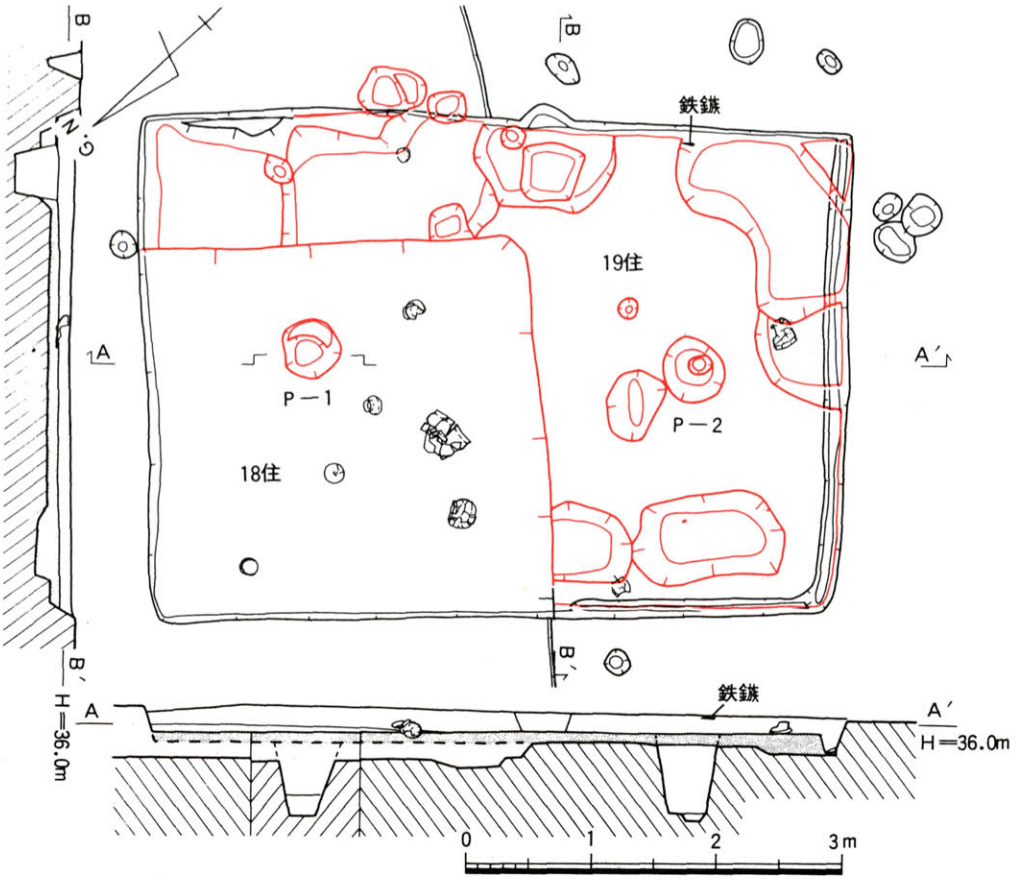
挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
46-1	甕	口径 15.7 器高 20.1 胴部径17.2 底径 5.9	口縁～頸部ヨコナデ。 胴上部～中位タテハケ。 胴部下位ナナメハケ。 底部下明瞭。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナナメハケ。 底部ナデ。	細砂粒多く含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	内－にぶい黄橙色 外－にぶい黄橙色・黒褐色	
46-2	甕	口径 19.0 器高残 11.2 胴部径 17.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タテハケ。	口縁～頸部ヨコハケ。 胴部ナナメハケの後、ナデ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む	やや良好	内－明褐色 外－黒褐色	鉢？
46-3	甕		口縁部ヨコナデ。 頸～胴部タテハケ。	口縁部ヨコナデ。 頸部ヨコハケ。 胴部不明瞭。	0.5㎜大砂粒多く含む。	やや良好	内－にぶい黄褐色 外－黒褐色～にぶい黄褐色	
46-4	甕	口径 27.8 器高 31.9 胴部径 26.8 底径 8.1	口縁部ヨコナデ。 頸部タテハケ。 胴部上～中位タタキの後、タテ・ナナメハケ。 胴部下位タテハケ。	頸部ヨコハケ。 胴～底部ナナメ・タテハケ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 2㎜大砂粒少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5㎜大雲母少量含む。	やや良好	内－明褐色～暗褐色 外－黒褐色～にぶい褐色	黒斑 煤付着
47-5	壺	突帯径 26.6 胴部径 33.9	突帯部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	頸部ヨコハケ。 胴部ナナメハケ。	0.5㎜大雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	明赤褐色	頸部直下に三角形突帯１条
47-6	器台	口径 8.4 器高残 11.2 くびれ径 5.4	受部タテハケ。 脚部タテハケの後、ナデ。	受部上半ナナメハケ。 受部下半ナナメハケの後、ナデツケ。 脚部ナデツケ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい褐色	
47-7	器台	器高残 10.4 くびれ径 5.5	全面ナデ。	受部ハケの後、ナデ。 くびれ部ナデ。 脚部ナデツケ・指オサエ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 2～3㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい褐色	
47-8	器台	器高残 5.9 底径 14.4	全面ナデ・指オサエ。	全面ナデツケ・指オサエ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい褐色	
47-9	器台	器高残 7.35 底径 11.3	全面タテハケの後、ナデ・指オサエ。	全面ナナメハケの後、ナデツケ・指オサエ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－橙色 外－にぶい橙色～橙色	
47-10	支脚	受部径 8.1 器高 12.1～12.4 底径 16.4	受部面不明瞭。 脚部タタキの後、ナナメハケ。 脚部端面ヨコナデ。	脚部上半ナデツケ・指オサエ。 胴部下半ナナメハケ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	良好	内－橙色～にぶい褐色 外－橙色	黒斑
47-11	高坏？	器高残 3.1 脚部径 21.0	脚部端面ヨコナデ。 脚裾部ヘラケンマ？	脚裾部ヨコハケの後、ヘラケンマ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	褐色	器種不明確

第19号竪穴式住居跡（第48図、図版34～36）

調査区南西側に位置する。北西側で第18・20号竪穴式住居跡を切って、それぞれと重複している。重複部分での遺構検出には、土層断面の観察を行いながらもかなり戸惑ったが、最終的には遺物の出土状況で判断した。南東側長辺5.65m、南西側短辺3.85mの長方形プランを呈し、2本の主柱穴は長軸線上に配されている。床面下層発掘において、南東側長辺ほぼ中央の壁際に1.05～1.15×0.7mの略方形の落ち込みを検出できた。南西側短辺および北東側長辺の壁沿いに、幅10～15cmの溝状遺構を床面において検出した。屋内炉およびベッド状遺構は検出できなかった。

出　土　遺　物

土器と鉄器が出土した。土器は、大半がほぼ床面直上で、全体的に散在したような状態で出土しており、特にまとまった状況は見られなかった。鉄器は、南東側長辺壁際の床面より10cm余り浮いた状態で出土した。



第48図　第６地点　第19号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）

土　　器（第49・50図，図版85）

壺・甕・鉢が出土した。

壺（1～5）は中小がある。小型のもの（1・2）は、丸底に偏平球の胴部から頸部が直に外傾するものであるが、2は鉢の可能性もある。中型のもの（3～5）は、球形の胴部に短い頸部が付くものであり、頸部が直行するもの（3）と外反するもの（4・5）との2種類がある。底部は、3・5とも完全な平底ではなく、3は僅かながら凸レンズ状の平底を呈しており、5は角が丸味を有した平底を呈している。なお、5は鉢型に近いが口縁部径よりも胴部径が大きいので壺とした。調整技法は、小型のものの外面はハケの後ナデ・ケンマなどで丁寧に仕上げられて器壁も薄いのに対し、中型のものはハケの後やや雑なナデ（4）や下半にヘラケズリ（3・5）が施されている。

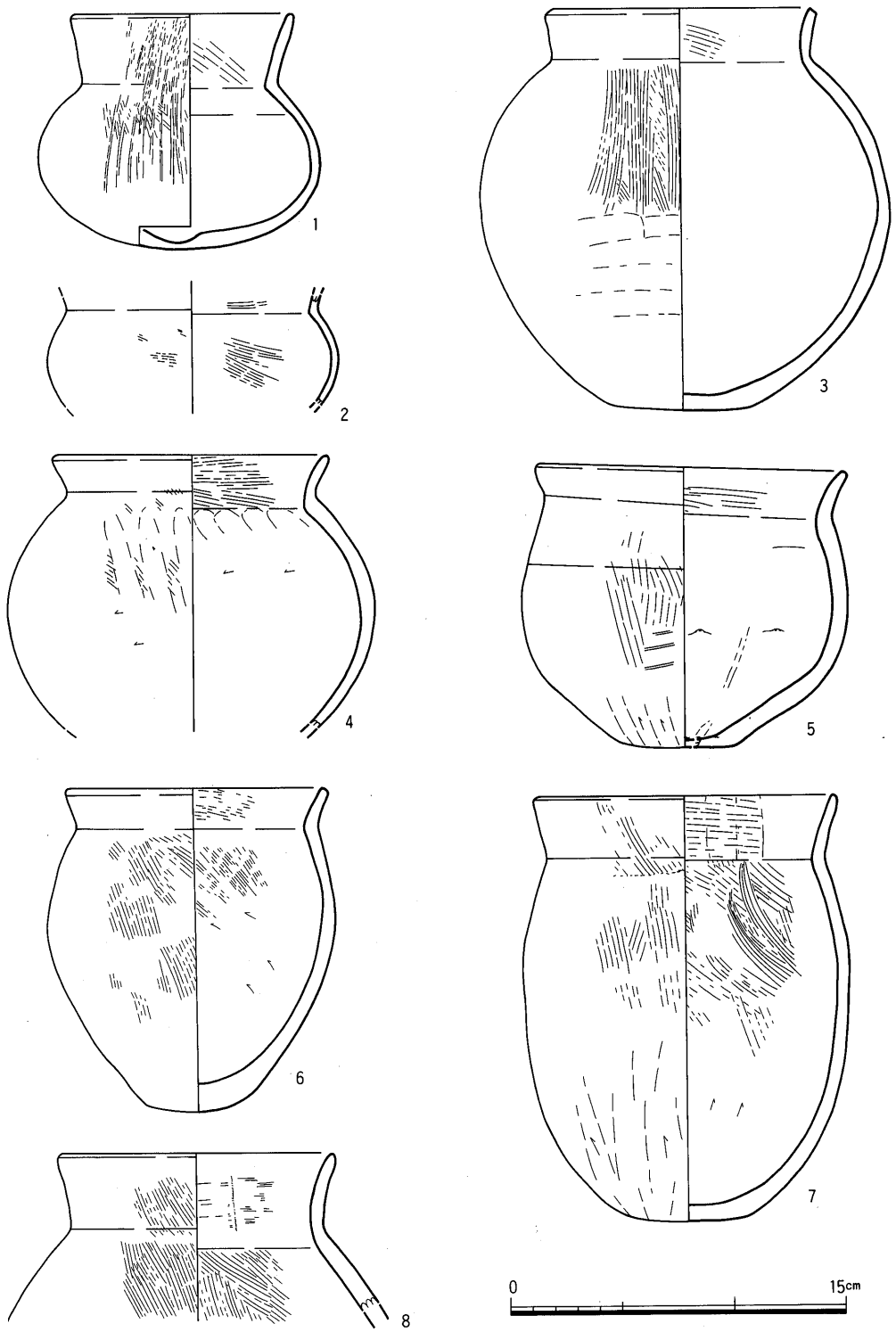
甕（6～9）も中小がある。小型のもの（6・7）には、2種類の形態がある。6は凸レンズ状の平底とやや長目の胴部に「く」の字状の口頸部が付くものであり、胴部最大径は中位よりやや上位に位置し下半は細くすぼまる形態を呈している。7は、下膨れ状を呈した胴部に立ち上がり気味に少し外傾する口頸部が付くものであり、底部は角が丸味を有する平底に近い形態を呈している。6・7の形態差は外面の調整技法においても見られ、ハケの後に胴部下半を6はナデツケ、7はヘラケズリが施されている。中型のもの（9）は底部を欠くが、基本的に小型の6と似ているが、胴部最大径がやや下位に移っている。胴部中位にタタキが残っている。

鉢(10～16）は椀形のもの(10～15）と高坏の坏身形を呈するもの(16）との2種類がある。椀形のものには、身の深いいわゆる仿形を呈するもの（10～12）と、内弯しながらも大きく外に開き口縁部径に比べやや身が浅い椀形を呈するもの（13～15）とがある。前者はその形態が更に細分できるが、いずれも作りがやや雑である。後者の底部は、僅かな凸レンズ状のごく小さな平底を呈している。調整技法は、前者は指によるナデ・オサエがやや雑に施されているのに対し、後者は外面ハケ、内面ハケの後ナデ仕上げが施されている。15の外面底部近くにタタキが残っている。高坏の坏身形を呈するもの（16）は、内弯して立ち上がる浅い球形の胴部に著しく外反して長い口頸部（胴部上半部？）が付くものであり、底部は僅かながら弱い平底を呈している。

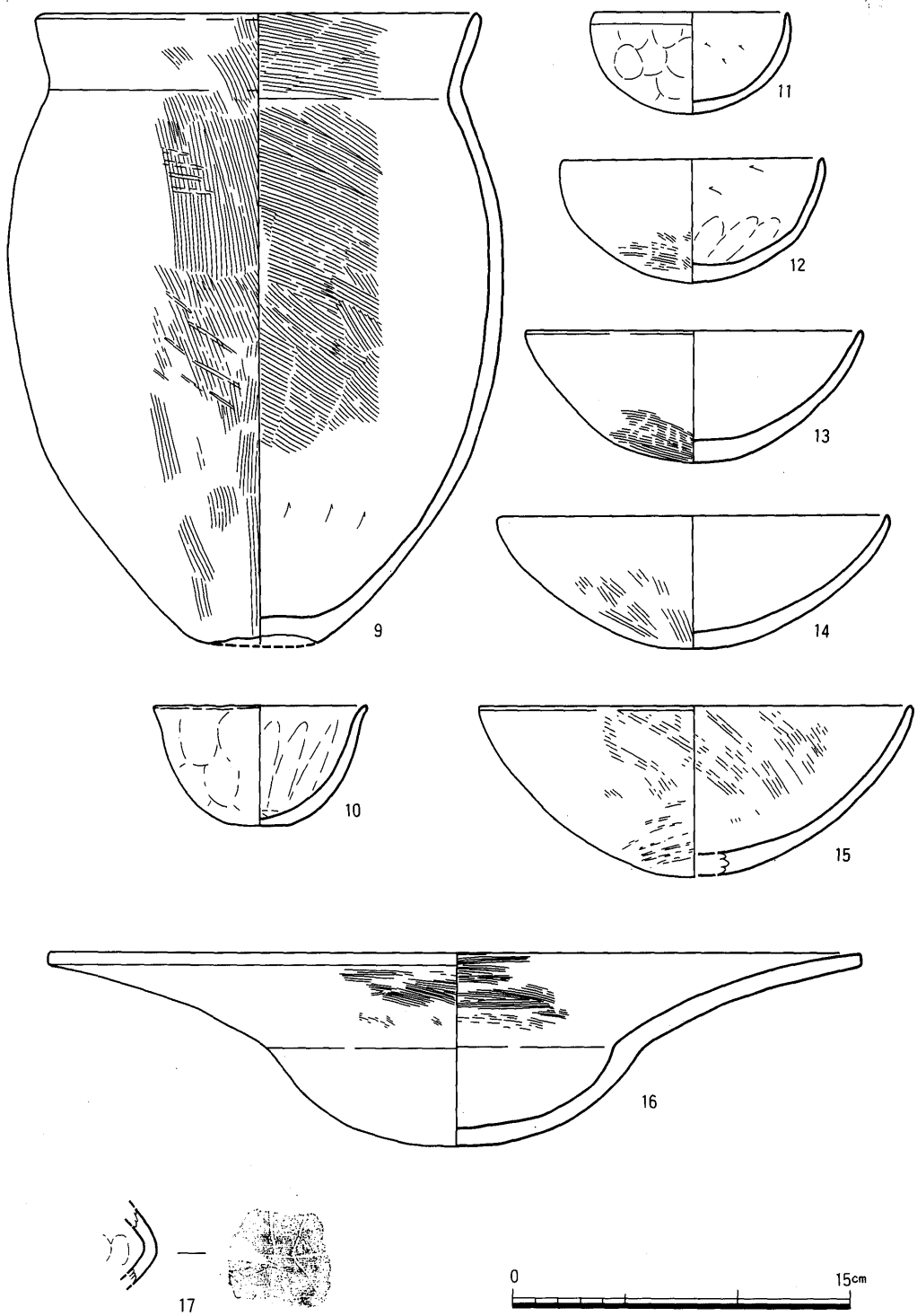
17は小片であるが、小型壺の胴部片と思われる。丁寧なナデが施された外面には、ヘラ状工具による文様が施されている。

鉄　　器（第80図，図版93）

第80図12は、小型の圭頭斧箭形式鏃とされるものである。刃部は切っ先にのみ在り、切っ先はふくらを有しており円頭斧箭形式鏃にも見える。全体に錆著しいが、全長8.8cm、身幅2.3cm、茎幅0.3～0.5cmを計る。



第49図　第６地点　第19号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第50図　第６地点　第19号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）

第18表－① 第６地点第19号竪穴式住居跡 出土土器観察表

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
49-1	壺	口径 9.2～9.8 器高 10.6 胴部径 12.6	口縁部ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後、ヘラケンマ。 胴部上半ナナメハケの後、ヘラケンマ。 胴部下半ナナメハケの後、ヘラケズリ。 底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後、ナデ。 胴部ナデ。 底部ヘラケズリの後、ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	良好	にぶい橙色～橙色	赤彩
49-2	壺？	器高残 4.8 胴部径 13.0	頸部ナデ。 胴部ナナメ・ヨコハケの後、ナデ。	頸部ヨコハケの後、ナデ。 胴部ナナメハケの後、ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－灰褐色 外－にぶい黄褐色	
49-3	壺	口径 11.5 器高 18.1 胴部径 18.4 底径 6.1	口縁～頸部ヨコナデ 胴部上半タテハケ。 胴部下半ヘラケズリ。 底部タタキ(スノコ痕？)。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ナデツケ。 底部不明瞭。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 2～3㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色～にぶい黄褐色	黒斑 底部外面スノコ痕？
49-4	壺？	口径 12.4 器高残 12.4 胴部径 16.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ナデツケ。 胴部下半ナデ。	口縁～頸部ヨコハケ。 胴部ナデ。 頸部直下に指オサエ。	微細雲母小量含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－褐色 外－暗褐色	
49-5	鉢？	口径 13.8 器高 12.4～12.8 胴部径 14.5 底径 5.3	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部上～中位タテハケの後、ナデ。 胴部下位ヘラケズリ。 底部ヘラケズリ？。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナデ。 胴～底部ナデツケ。	0.5㎜大砂粒少量含む。 1㎜大砂粒わずかに含む。	良好	内－黒褐色 外－にぶい褐色～褐色	
49-6	甕	口径 11.3 器高 14.5～14.7 胴部径 13.0 底径 3.9	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上～中位ナナメハケ。 胴部下位タテハケの後、ナデツケ。 底部不明瞭。	口縁～頸部ヨコハケ。 胴部上位ナナメハケの後、ナデ。 胴部中～下位ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。 0.5㎜大雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑
49-7	甕	口径 13.5 器高 19.2 胴部径 14.5 底径 5.0	口縁～頸部ナナメハケの後、ナデ。 胴部上半タテハケの後、ナデ。 胴部下半ヘラケズリ。 底部下明瞭。	口縁～頸部ヨコハケ・指オサエ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半ヘラナデ。 底部不明瞭。	0.5～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－にぶい橙色 外－淡橙～褐色	煤付着
49-8	甕	口径 12.4 器高 7.25	口縁～頸部ナナメハケの後、ナデ。 胴部上位ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ナデ。 胴部上位ナナメハケ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒多く含む。	良好	にぶい黄橙色	
50-9	甕	口径 18.7 19.2 器高残 28.2 胴部径 21.9 底径 4.9	口縁～頸部ナナメハケ。 胴部上～中位タタキの後、タテハケ。 胴部下位タテハケの後、ナデツケ。	口縁～頸部ヨコハケ。 胴部上～中位ナナメハケ。 胴部下位ハケの後、ナデ仕上げ。 底部下明瞭。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒少量含む。 0.5～3㎜大砂粒少量含む。	良好	内－にぶい黄橙色 外－にぶい黄橙色～黒褐色	煤付着 底部外面剥離
50-10	鉢	口径 9.4 器高 5.5 底径 2.8	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部ナデ・指オサエ。 底部不明瞭。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデツケ。	微細砂粒少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	内－橙色～にぶい黄橙色 外－橙色	
50-11	鉢	口径 8.6 器高 4.6	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ・指オサエ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色	

第18表 - ②

挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
50-12	鉢	口径 5.5～5.7 器高 10.8～11.4	口縁部部ヨコナデ。 胴部上半ナデツケ。 胴部下半～底部ヨコハケ。 (ハケは左廻り)	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナデツケ。 胴部下半～底部ナデ・指オサエ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—にぶい橙色 外—暗褐色	内側黒斑
50-13	鉢	口径 14.0～14.7 器高 5.8～6.0	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位ハケの後、ナデツケ。 胴部下位～底部ヨコハケ。 (ハケは左廻り)	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中～下位ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	内—にぶい黄橙色 外—にぶい橙色	
50-14	鉢	口径 17.1 器高 6.0	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ナナメハケ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部～底部ナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	内—にぶい橙色	
50-15	鉢	口径 18.9 器高 7.7	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半～底部タタキの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上～中位ナナメハケ。 胴部下位～底部ハケの後、ナデ。	微細砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—にぶい黄橙色 外—にぶい橙色	
50-16	鉢	口径 36.2 器高 8.6	口縁部端面ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ナデ。 胴部下半～底部ヘラナデ。	胴部上半ヨコナデ。 胴部下半ナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 2～3mm大砂粒わずかに含む。 細雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑
50-17	不明		全面ナデ。	屈曲部指オサエ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	外面にヘラ状工具による文様あり。

第20号竪穴式住居跡（第51図、図版37・38）

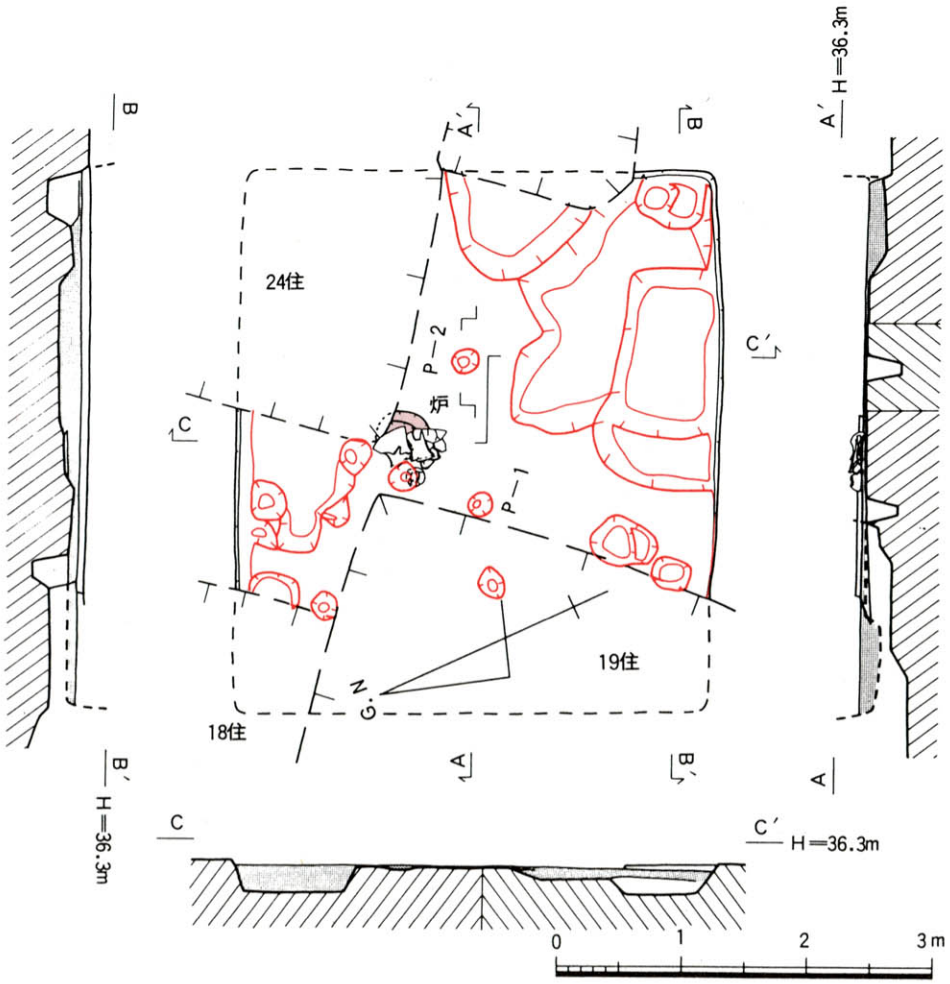
調査区北北西寄りに位置する。西側を第18・19号竪穴式住居跡と、東側を第22・24号竪穴式住居跡と重複しているが、それぞれとの新旧関係は把握し得なかった。上面の削平著しく検出時は既に床面直上であった。その全容は不明確であるが、床面下層の掘り形によって短辺3.85m×長辺3.45m以上の長方形を呈し、長軸を北西—南東方向に取るものと思われる。主柱穴は2本で、中央よりやや北寄りに40×35cmの略円形を呈する炉が配されていた。

出土遺物

土器と鉄器が出土した。検出できた遺構の面積の割には多くの土器が出土し、特に、炉の直上から器台がまとまった状態で出土した。

土器（第52～54図，図版86）

壺・甕・高坏・鉢・支脚・器台が出土した。

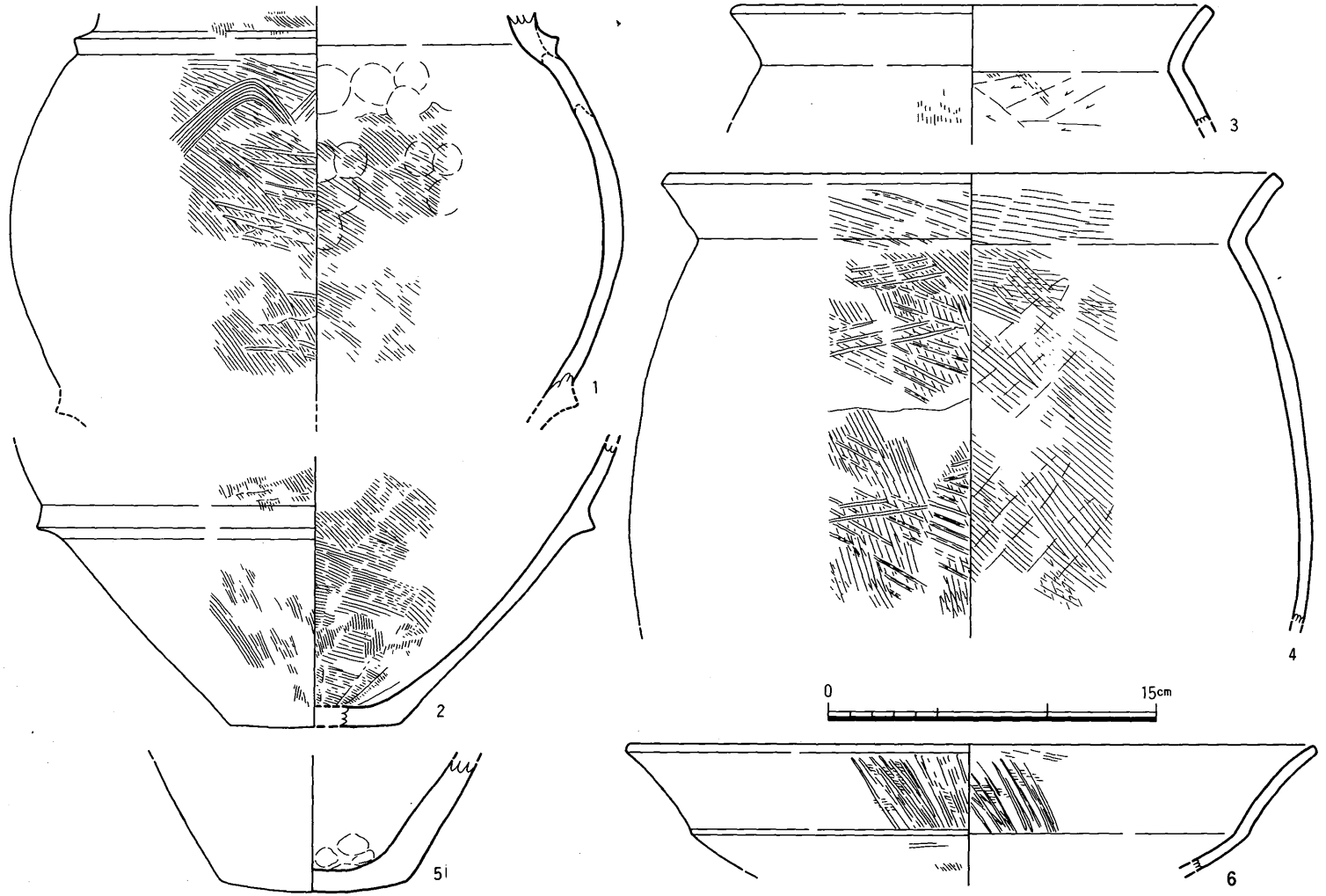


第51図　第６地点　第20号竪穴式住居跡実測図（S＝1／60）

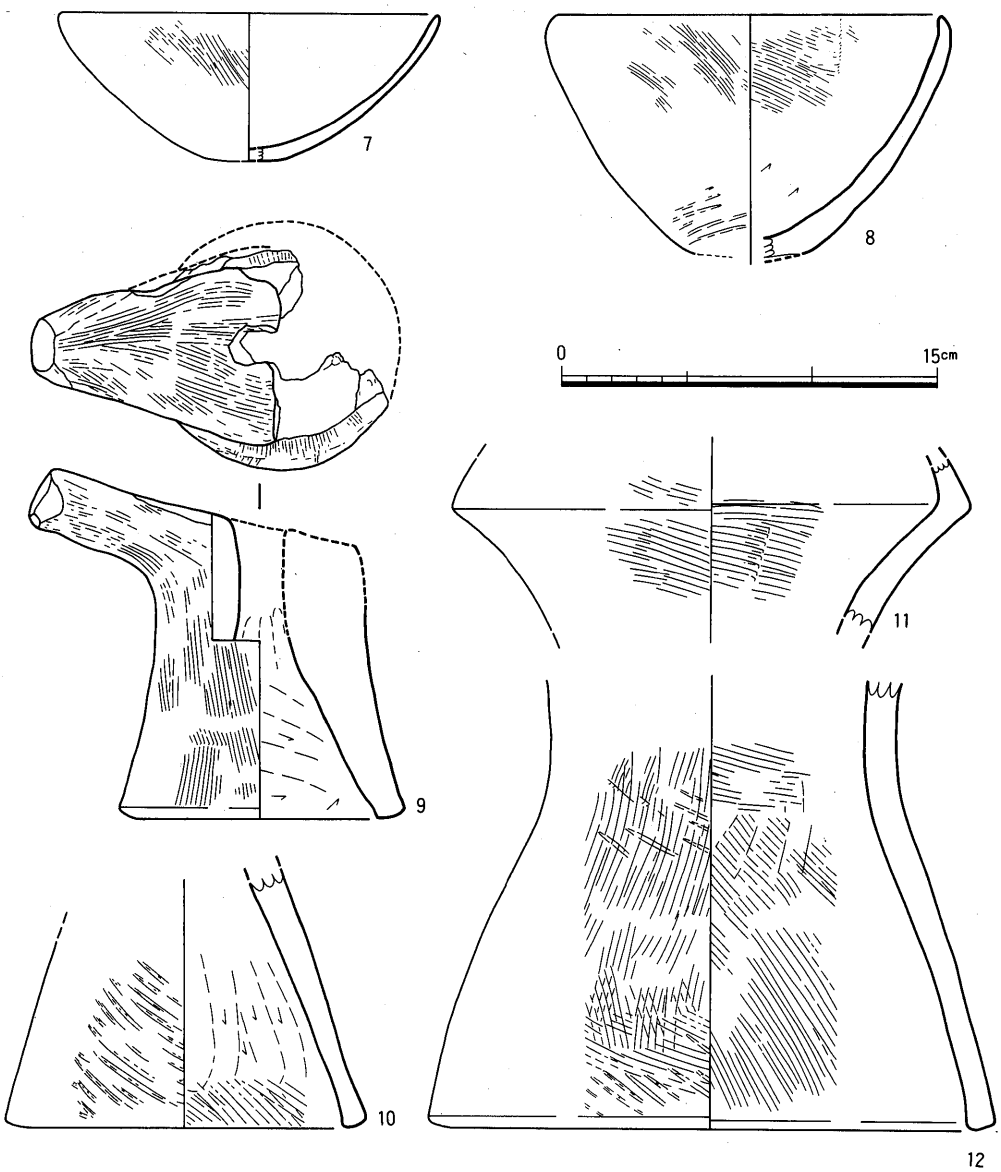
壺（1・2）は、どちらも複合口縁壺のものかと思われる。1は球形の胴部を呈し、最大径は中位に位置し、下半部途中と頸部直下に三角形突帯を各1条巡らせている。2は胴部から底部にかけての欠損品であり、胴部下半途中に三角形突帯1条を巡らせている。底部は平底を呈し、胴部から底部にかけての部分はやや直線的である。調整技法は内外面ともハケであるが、1の外面にはタタキが残っており、部分的に波状文風のハケが施されている。

甕（3～5）は中型のものであるが、4はその中でも大型に近い。3・4とも「く」の字状を呈する口頸部を有するものである。4の胴部は最大径が口縁部径よりも大きく、長胴を呈している。5の底部は凸レンズ状の平底を呈している。調整技法は、内外面ともハケを基調とするが、内面にはハケの後ナデが施され、4の外面にはタタキが残っている。

高坏（6）は、坏部の破片である。胴部（坏部）下半部から弱い段を境に上半部が大きく外反するものであり、段は高坏部のほぼ中位に位置すると思われる。



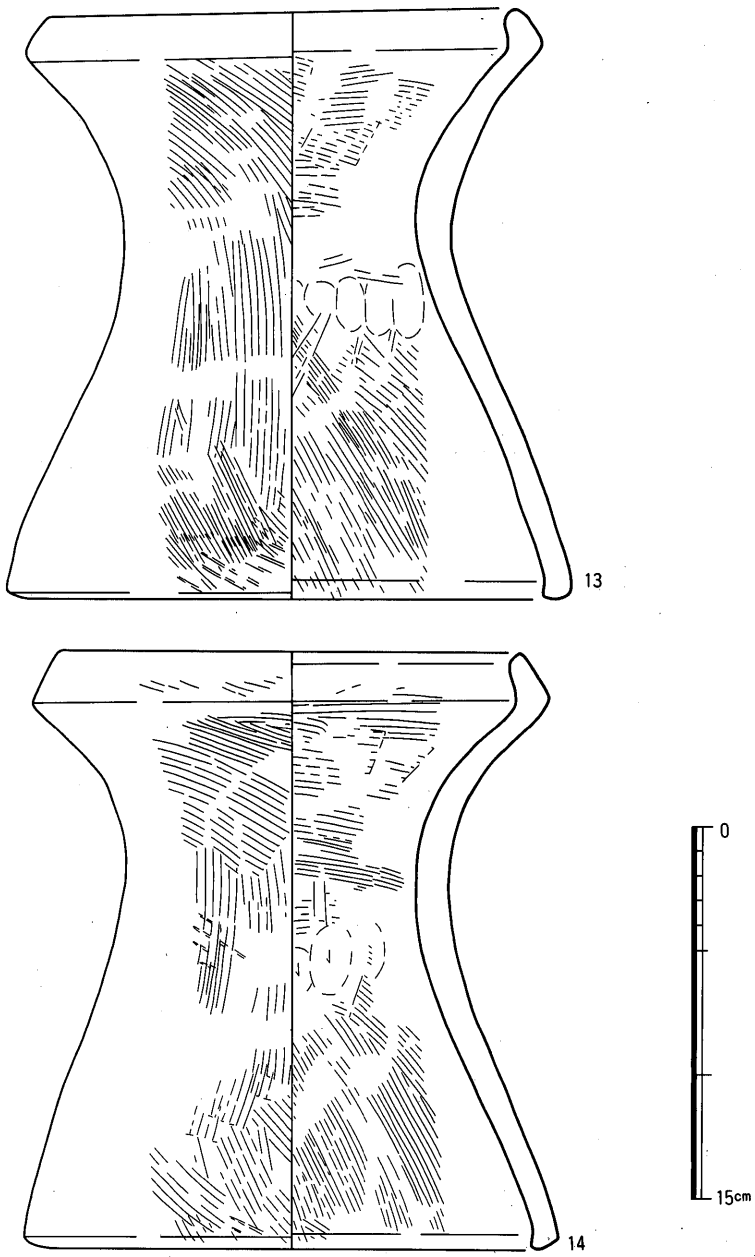
第52図　第６地点　第20号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第53図　第６地点　第20号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）

鉢（７・８）は、内弯しながら外に開く形態のもので、浅いもの（７）と深いもの（８）との２種類がある。どちらも底部の残りが少なく不明確であるが、僅かな凸レンズ状の平底を呈している。８の外面にはタタキが残っている。

支脚（９）は、沓型支脚である。器壁は厚く、受部の突出部も著しく長く作られている。受部中央に径1.6cmの孔が穿たれており、脚部と通じている。



第54図　第６地点　第20号竪穴式住居跡出土土器実測図③（Ｓ＝１／３）

器台（10～14）は、大小ある。小型のもの（10）は脚部だけの欠損品である。大型のもの（11～14）は、受け部が複合口縁部状を呈して明瞭な稜を成して内側に屈折する形態のもので

ある。脚部はやや内弯気味に外に開き、端部において内側がつまみ出されている。くびれ部はやや上位に位置している。調整技法は内外面ともハケであるが、くびれ部内面にはナデが施されており、12・14の外面にはタタキが残っている。

鉄　　器（第80図，図版93）

第80図13は、鉇の折損品で、刃部片と思われる。刃部には反りが僅かながら有り、断面形は上面凸・下面平坦を成している。残存長2.4cm・幅1.0cmを計る。

同図14は、刀子の折損品で、切っ先と茎部分を欠する。棟部はほぼ直線的であるが、刃部はやや内弯している。残存長5.2cm・身幅1.2～1.3cm・棟幅0.2～0.25cmを計る。

第19表 - ① 第6地点第20号竪穴式住居跡 出土土器観察表

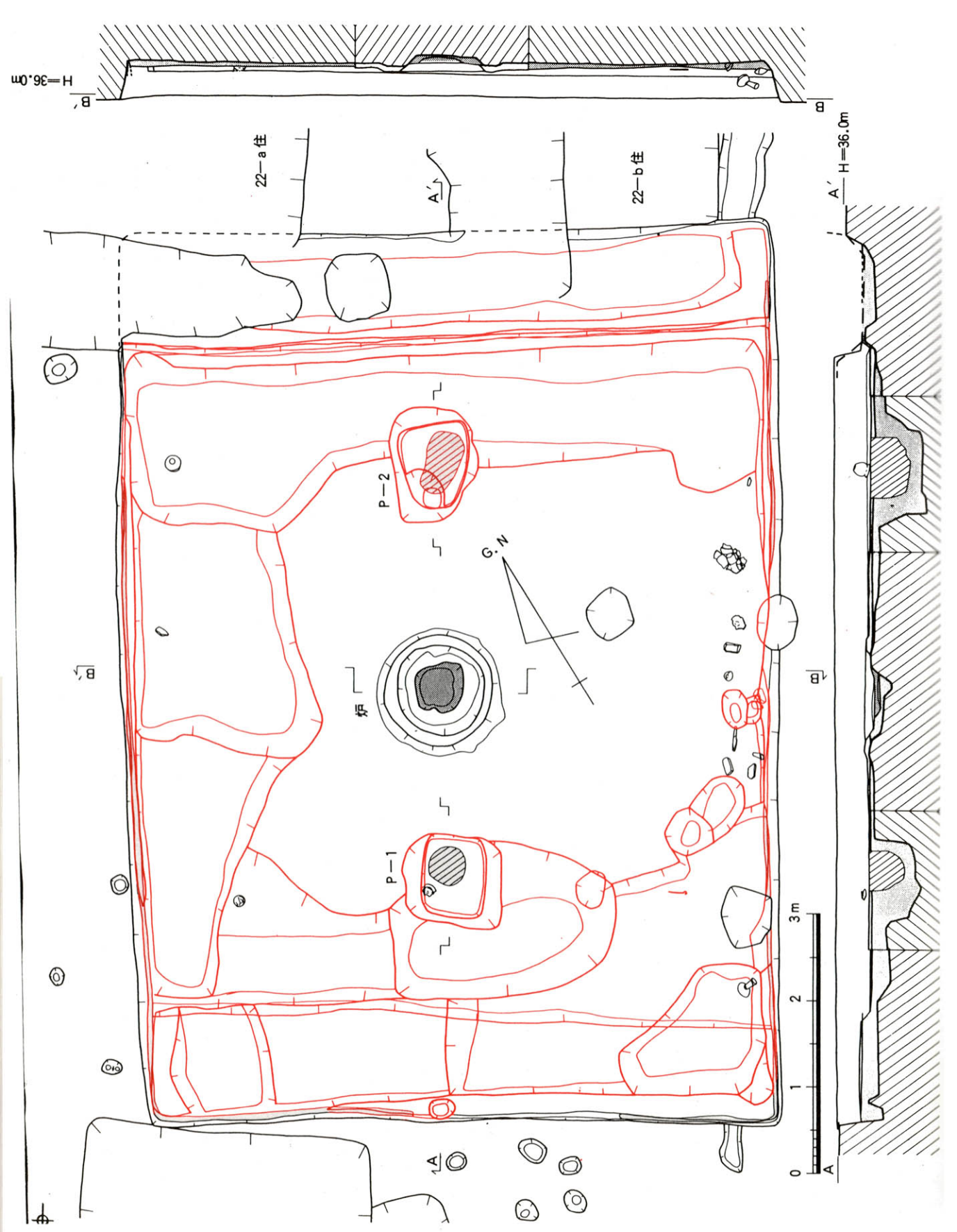
挿図番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
52-1	壺	器高残 17.6 胴部径 28.0	頸部ハケ。 突帯部ヨコナデ。 胴部タタキの後、ナナメハケ。	頸～胴部上位ナデ・指オサエ。 胴部ナナメハケ、上半指オサエ。	細砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒少量含む。 細雲母少量含む。	良好	内—明褐色 外—褐色～暗褐色	頸部直下に三角形突帯1条
52-2	壺	器高残 13.0 底径 8.0	突帯部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。 底部ハケ。	胴部ナナメ・ヨコハケ。 底部ハケ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。 2～3mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	良好	内—にぶい橙色 外—橙色	胴部に三角形突帯1条
52-3	甕	口径 22.0 器高残 5.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ヘラナデ。	微細雲母多く含む。 0.5mm大砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内—にぶい褐色 外—にぶい黄褐色	
52-4	甕	口径 28.4 器高残 20.5 胴部径 31.4	口縁部端面ヨコナデ。 頸部タタキの後、ヘラナデ 胴部タタキの後、ナナメハケ。	頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。胴部ナナメハケの後、ナデ・指オサエ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 0.5～1mm大雲母わずかに含む。	良好	内—にぶい橙色 外—にぶい黄橙色～黒褐色	
52-5	甕	器高残 6.0 底径 8.6	胴部不明瞭。 底部不定方向のヘラナデ。	胴部ナデ。 底部指オサエ。	0.5～2mm大砂粒多く含む。 細雲母わずかに含む。	やや良好	内—淡黄色～黄灰色 外—浅黄橙色～褐灰色	
52-6	高坏	口径 31.4 器高残 5.7	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ヘラケンマ。 胴部下半ハケの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ヨコハケの後、ヘラケンマ。 胴部下半ナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	黄褐色	黒斑
53-7	鉢	口径 15.2 器高 5.7 底径 3.3	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半～底部ヘラナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。 3mm大砂粒わずかに含む。 細雲母少量含む。	良好	にぶい橙色	

第19表 - ②

挿図番号	器種	法量 (cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
53-8	鉢	口径 16.2 器高 9.1 底径 4.3	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半タタキの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半～底部ナデ。	微細雲母多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい橙色	
53-9	支脚	器高 14.1 底径 9.8	受部面ハケ目。 脚部タテハケ。 脚部端面ヨコナデ。	脚部上半タテのナデツケ。 脚部下半ナナメのナデツケ。	微細砂粒多く含む。 0.5～2mm大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	内—にぶい橙色～にぶい褐色 外—にぶい橙色～橙色	
53-10	器台	器高 10.5 底径 14.3	脚部全面タタキの後、ナデ。 脚部端面ハケの後、ナデ。	脚部中位ハケの後、ヘラケズリ。 脚部下位ナナメハケ。	細雲母わずかに含む。 0.5～2mm大砂粒少量含む。	良好	内—にぶい橙色～にぶい褐色 外—にぶい橙色	
53-11	器台	器高残 7.0	口縁～頸部ナナメハケの後、ナデ。	口縁部ナデ。 頸部ヨコハケ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。	良好	灰黄褐色	
53-12	器台	器高残 18.0 くびれ径 13.8 底径 22.5	全面タタキの後、ナナメハケ。(ハケは上～中位が↗、下位が↘) 脚端部ヨコナデ。	くびれ部ヨコナデ。 脚部ナナメハケ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。	良好	橙色～褐灰色	
54-13	器台	口径 17.4 ～18.2 器高 23.8 ～24.2 くびれ径 13.1 底径 21.2 ～22.0	受部口縁部ヨコナデ。 受部頸部～脚部上半タテハケ。 脚部下半タタキの後、ナナメハケ。 脚端部ヨコナデ。	受部口縁部ヨコナデ。 頸部ヨコ・ナナメハケ。 くびれ部指オサエ。 脚部ナナメハケ。	0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒少量含む。	やや良好	橙色～	
54-14	器台	口径 20.0 ～20.4 器高 23.3 ～23.8 くびれ径 12.9 底径 22.0 ～22.3	受部口縁部ナナメハケの後、ヨコナデ。 頸部ナナメハケ。 くびれ部～脚部上半タタキの後、タテハケ。 脚部下半ナナメハケ。 脚部端面ハケ。	受部口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 頸部ヨコハケ。 くびれ部指オサエ。 脚部ナナメハケ。	微細雲母少量含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細砂粒多く含む。	良好	内—にぶい橙色～灰褐色 外—にぶい橙色～橙色	

第21号竪穴式住居跡 (第55図、図版39～45)

調査区中央に位置する。南東側で第5号掘立柱建物跡を切り、南東側長辺に沿って第3号溝状遺構に、また北東側短辺を第22号竪穴式住居跡によって切られて、それぞれと重複している。長辺10.5×短辺7.6mの長方形を呈し、2本の主柱穴を有している。主柱穴の掘り方は、一辺が1.0m前後の略方形を呈する大きなものであるが、深さは0.5m前後で平面形に比べて浅い。屋内中央、主柱穴の中間には、周辺を土手状に盛り上げた内径1.08×1.05mの円形を呈する炉がある。北東および南西側の両短辺には幅1.1～1.2mのベッド状遺構が設けられている。ベッド状遺構は、一旦下層を掘り込んだ後に土を盛り固め、さらにその上面に粘土を張って床面としている。



第55図　第６地点　第21号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／60）

出 土 遺 物

土器・石器・鉄器が床面直上から出土した。特に、南東側長辺の中央周辺に遺物のまとまりが見られた。

土　　器（第56・57図，図版87）

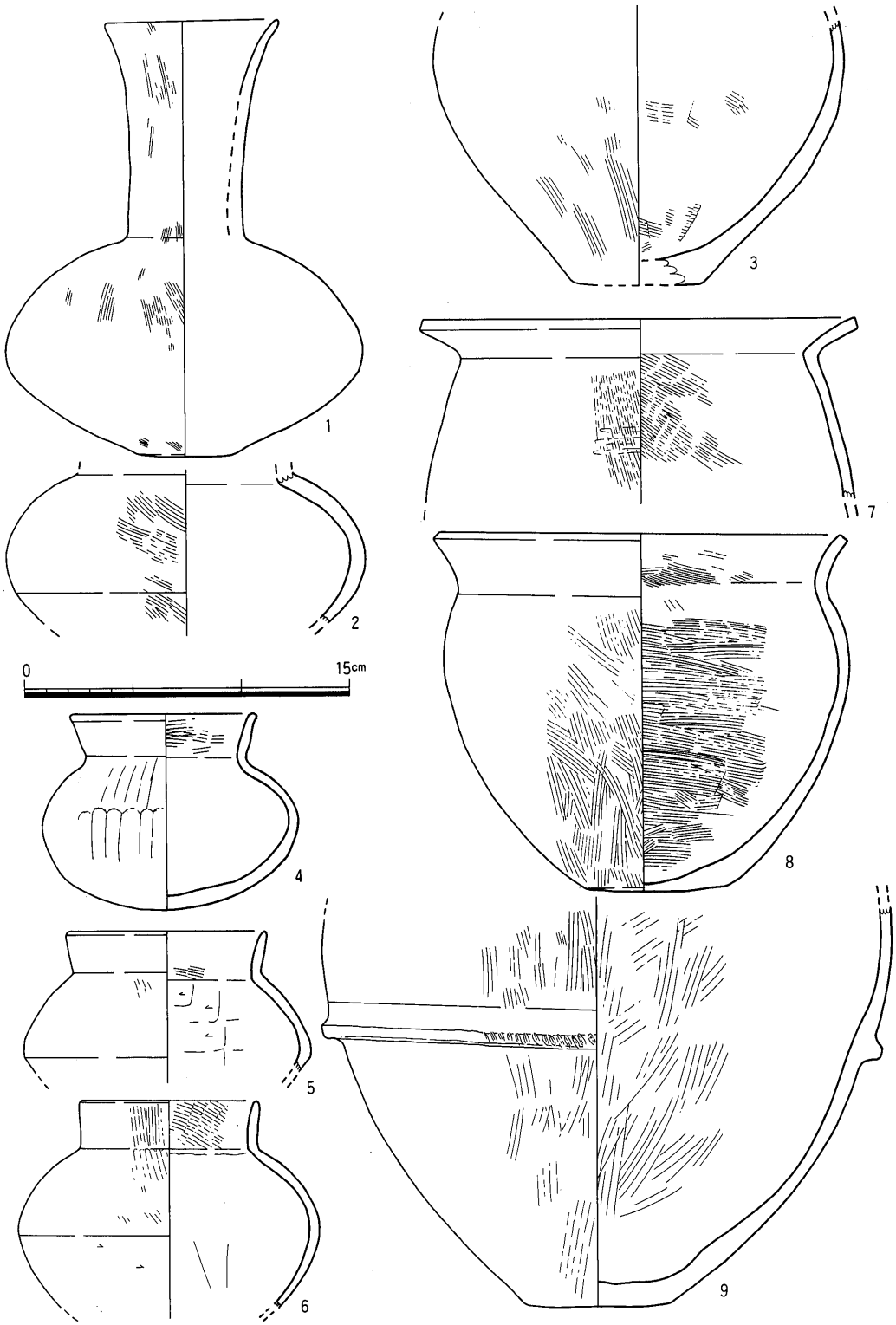
壺・甕・鉢・高坏が出土した。

壺（1～6・9）は、大中小がある。小型のもの（4～6）は、中位に最大径を有する偏平気味の球形胴部に、短く直に立ち上がる口頸部が付くものである。4の底部は丸底である。中型のもの（1～3）は、偏平な球形胴部に長い頸部が付くもの（1・2）と、深い胴部を呈し口頸部の形態が不明なもの（3）の2種類がある。前者の底部は僅かな凸レンズ状を呈するのに対し、後者は平底を呈している。大型のもの（9）は、胴部下位に1条の刻み目突帯を巡らすものである。調整技法は、ハケの後ナデが施されているが、1・5・6の外面にはケンマが施されている。

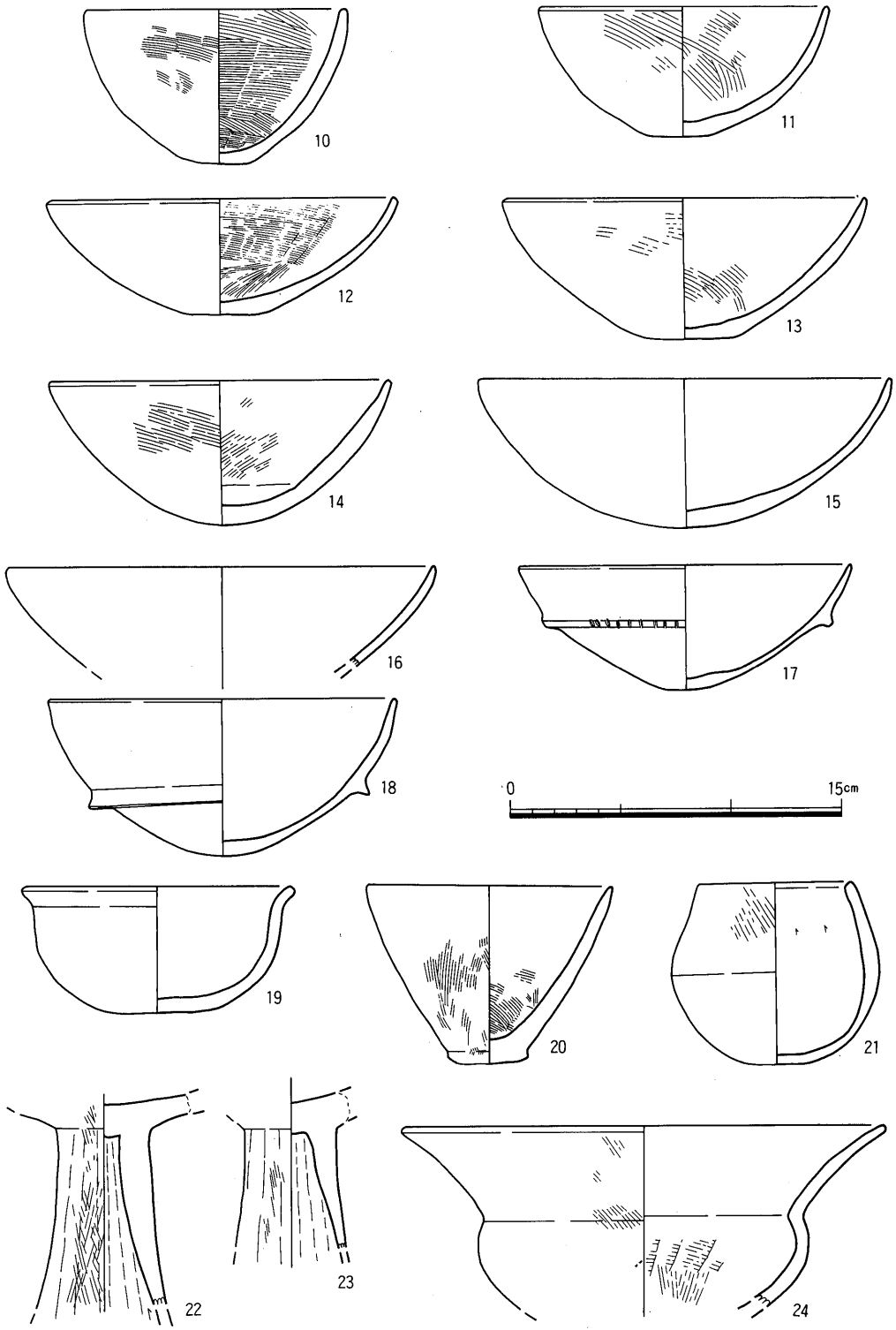
甕（7・8）は、中小がある。中型のもの（7）は、長胴の胴部に傾きが大きい「く」の字状の口頸部が付くものである。調整技法は、内外面ともハケが施されているが、外面にタタキが残っている。小型のもの（8）は、胴部が浅く鉢形に近いが、口縁部径より胴部最大径がやや大きいものである。上位に最大径を有する胴部に外弯する口頸部が付き、底部は僅かに凸レンズ状を呈している。調整技法は、内外面ともハケの後口頸部および底部にナデが施されている。

鉢（10～21・24）は最も多く、その形態もバラエティーに富んでいる。10・11は、内弯しながら立ち上がりやや深めのもので、小さな底部を有している。12・13は、やや内弯しながらも大きく開くもので、やや小さい平底を有している。14・15も、12・13同様内弯しながら大きく開くものであるが、丸底を呈している。17・18も、基本的には12～15と同じく内弯しながら大きく開くものであるが、胴部中位に突帯を1条巡らせている。17の突帯には刻み目が施されている。17の底部は僅かながら凸レンズの平底を呈しているのに対し、18は丸底を呈している。19は、平底の底部から胴部が内弯しながら立ち上がり、口縁部において短く外反するものである。20は、小さな底部から口縁部まで長く逆「八」の字状に開き深い胴部を呈するもので、底部は段を成して厚く凸レンズ状を呈している。21は、小さな平底に強く張った胴部からそのまま口縁部まで内傾するものであり、胴部最大径より口縁部径が小さい。調整技法は、内外面ともハケの後ナデを施しているが、15～19は丁寧にナデ仕上げされている。24は、偏平な球形胴部（身部下半部）から長く大きく外反する口頸部（身部上半部）が付くものである。脚台が付くものと思われる。

高坏（22・23）は、脚筒部の破片である。外面は、ヘラケズリによって多角柱を成している。調整技法は、外面をハケの後ナデ、内面をナデが施されている。



第56図　第６地点　第21号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第57図　第６地点　第21号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）

石　　器（第79図、図版92）

第79図８は、黒曜石製の剥片石器である。一端を切断し、一側辺部にのみ細かい二次加工を施している。床面下層からの出土である。

同図は、黒色シルト岩製の砥石である。角柱状を呈し、３面を使い込んでいる。完形品で、全長27.75cmを計る。

鉄　　器（第80図、図版93）

鏃・刀子・斧・鎌が各１点出土した。

第80図15は、無茎鏃の欠損品である。切っ先はふくらを有し、基部は弧状に抉り込んでいる。現在長4.05cm・最大幅2.25cmを計る。

同図16は、素環頭刀子である。素環頭部の一部と身部の切っ先を欠損する。関は刃側のみの片関である。現在長20.0cm・素環頭部外径2.7～2.8cm・茎部長6.95cmを計る。

同図17は、錆膨れ著しく明確ではないが、斧あるいは鑿と思われるものである。刃部（斧頭部あるいは鉄身部）のみの欠陥品であり、柄の形態は不明である。現在長5.1cm・刃部幅1.9cm以上を計る。

同図18は、手鎌（摘鎌）の欠陥品である。片面に柄の木質が残っているが、両短辺を欠損しているため柄を受ける構造が明確ではない。刃部は、砥ぎ減りによってやや内弯しているが、本来は直線刃であろう。現在長8.9cm・幅3.2cmを計る。

第20表－①　第６地点第21号竪穴式住居跡出土土器観察表

挿入番号	器種	法量（cm）	調整		胎土	焼成	色調	備考
			外面	内面				
56-1	長頸壺	口径 7.8～8.1 器高 20.0～20.2 胴部径 16.3～16.5 底径 4.4	口縁部ヨコナデ。頸部タテハケの後、ケンマ。	胴部ナナメハケの後、ケンマ。底部ナデ。口縁～頸部上位ヨコナデ。	他は不明瞭。微細砂粒多く含む。0.5～2㎜大砂粒少量含む。	良好	明赤褐色	黒斑
56-2	壺	器高残 6.8 胴部径 16.5	胴部ナナメハケの後、ナデ。	胴部ナデ。	0.5㎜～1㎜大砂粒多く含む。微細雲母少量含む。	やや良好	にぶい橙色	
56-3	壺	器高残 12.3 胴部径 19.0 底径 5.9	胴部タテハケの後、ナデ。	胴部ヨコ・ナナメハケの後、ナデ。	微細砂粒多く含む。0.5㎜～2㎜大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。	良好	内－明赤褐色 外－明赤褐色～にぶい赤褐色	
56-4	壺	口径 8.0～8.5 器高 9.2 胴部径 11.2～11.7	口縁～頸部ヨコナデ。胴部上～中位ナナデツケ？。胴部下位～底部ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。胴部上～中位ナデ。胴部下位～底部ヘラナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。1～2㎜大砂粒わずかに含む。	良好	にぶい黄橙色	

第20表－②

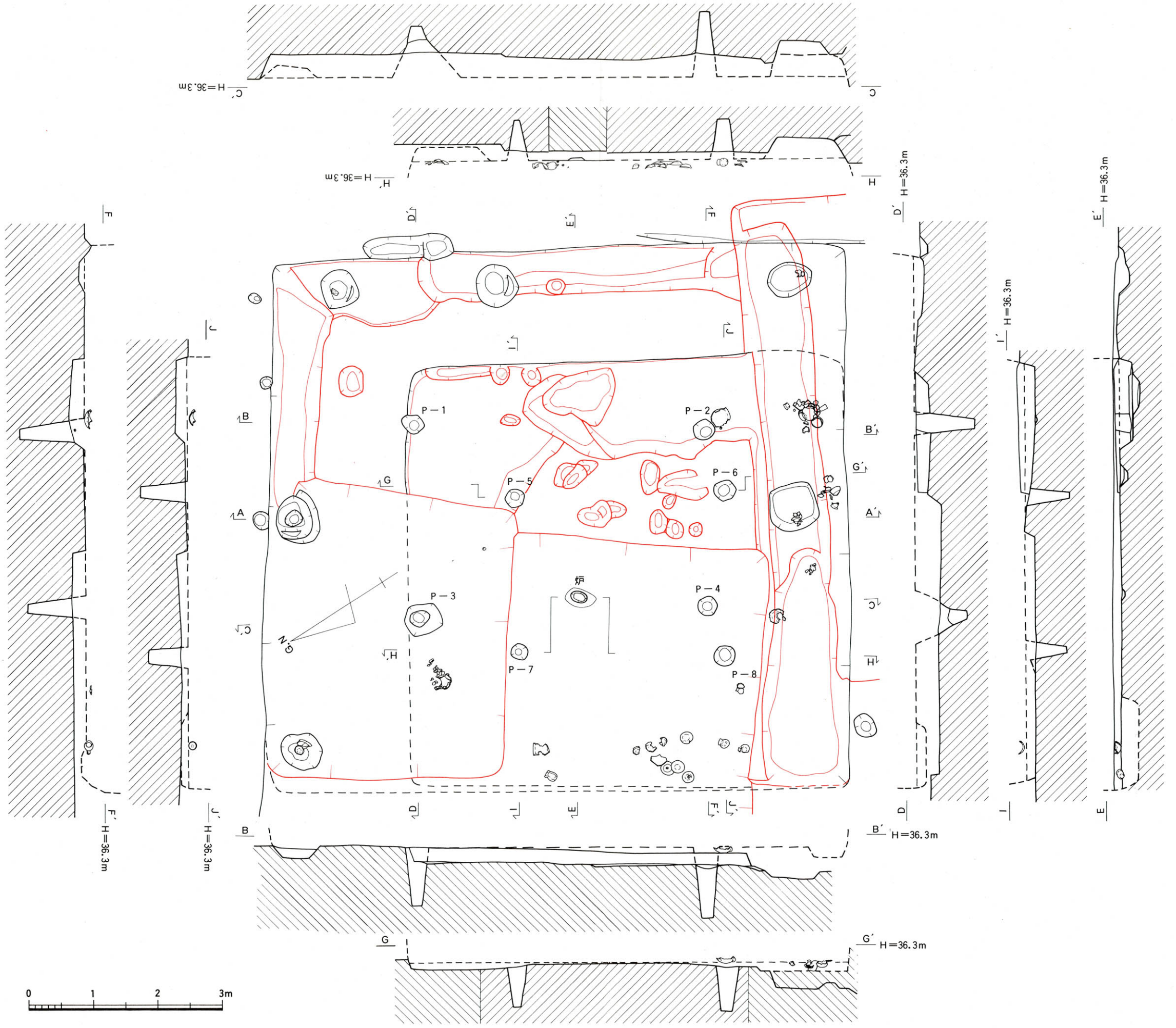
挿入番号	器種	法量（cm）	調整		胎土	焼成	色調	備考
			外面	内面				
56-5	壷	口径 9.2 器高残 6.6 胴部径 13.2	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ケンマ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ヘラナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5㎜～1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	内－灰褐色 外－褐色～灰褐色	
56-6	壷	口径 8.3 器高残 9.7 胴部径 13.9	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ケンマ。 胴部下半ナデ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上半ナデ。 胴部下半ヘラナデ。	0.5㎜～1㎜大砂粒少量含む。 2～3㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
56-7	壷	口径 20.2 器高残 8.5	口縁部端面ヨコナデ。 頸部タタキの後、ヨコナデ。 胴部上位タタキの後、タテハケ。	口縁～頸部ハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケ。	微細砂粒多く含む。 0.5㎜～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	褐色	煤付着
56-8	壷 ？	口径 17.8 ～18.4 器高 16.3 ～16.6 胴部径 18.7 底径 6.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タテ・ナナメハケ。 底部ハケの後、ナデツケ。	口縁～頸部ヨコナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上位タテハケの後、ヨコハケ。 胴部ヨコハケ。 底部ナデツケ。	微細～1㎜大砂粒多く含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	橙色	黒斑
56-9	壷	器高残 18.6 胴部径 26.3 底径 6.8	胴部タテハケ。 突帯部ヨコナデ。 底部ナデツケ。	胴部タテ・ナナメハケ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜～1㎜大雲母わずかに含む。 微細砂粒多く含む。 0.5㎜～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－にぶい橙色 外－にぶい黄橙色	黒斑 胴部に刻目突帯1条
57-10	鉢	口径 11.5 11.8 器高 7.1 底径 2.2	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半～底部ナデツケ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメ・ヨコハケ。 底部ナデ。	微細砂粒わずかに含む。 0.5㎜～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	橙色	黒斑
57-11	鉢	口径 13.1 器高 5.9 底径 2.6	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半～底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。 底部ナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	良好	明褐色	
57-12	鉢	口径 16.0 器高 5.3 底部 2.7	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ仕上げ。 底部ナデ。	口縁～底部ナナメ・ヨコハケ。	0.5㎜～1㎜大雲母少量含む。 0.5㎜～1㎜大砂粒多く含む。	良好	褐色	煤付着
57-13	鉢	口径 16.1 器高 6.3 ～6.5 底径 4.2	口縁部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケの後、ナデ。 底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ナデ。 底部ナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜～2㎜大砂粒少量含む。 0.5㎜大雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色～褐色	外全面煤付着
57-14	鉢	口径 15.4 器高 6.5 ～6.7	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。 胴部下半～底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、ナデ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	良好	にぶい褐色	黒斑

第20表－③

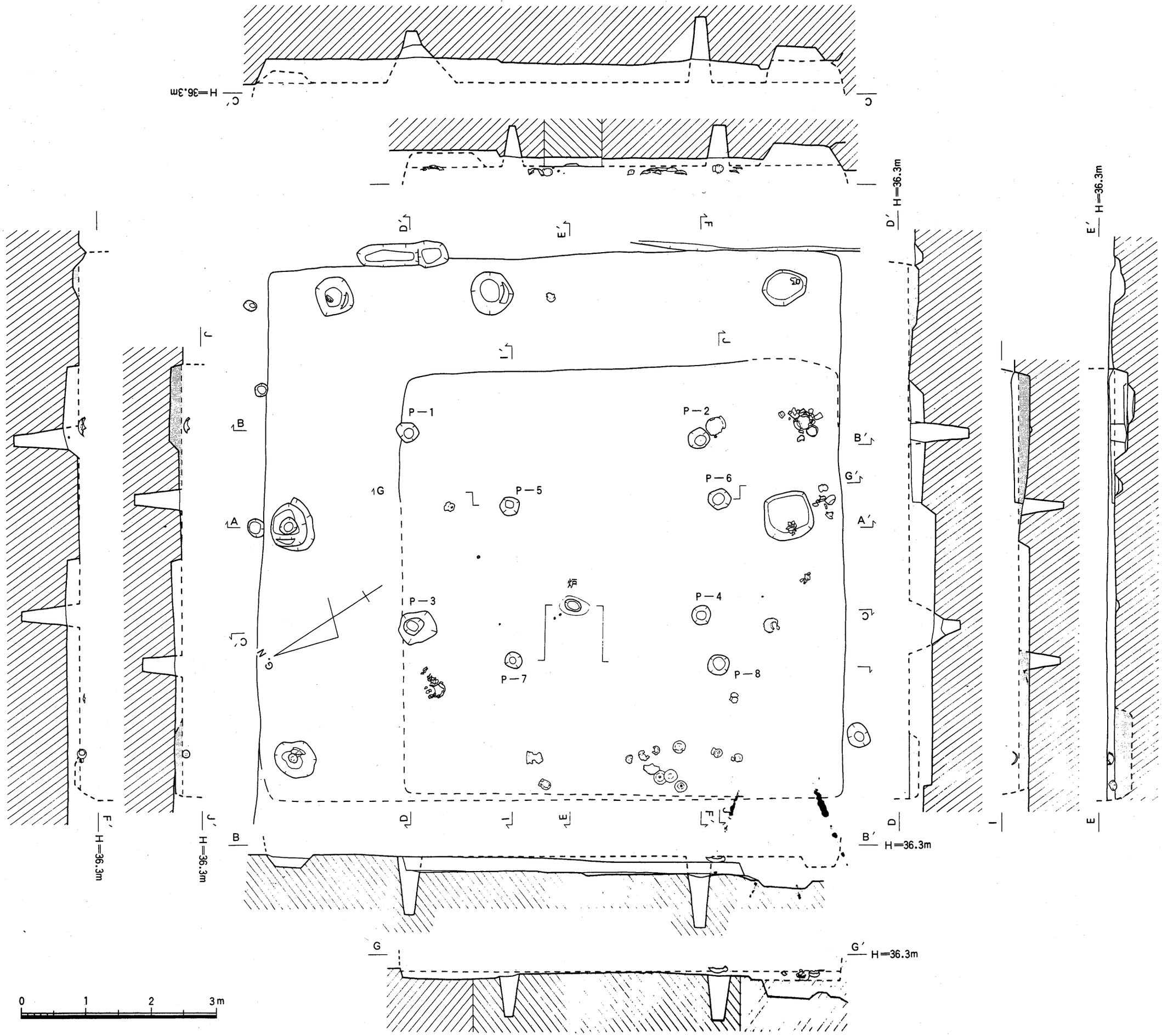
挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
57-15	鉢	口径 18.2 器高 6.7 ～6.9	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴～底部ヘラナデ。	0.5～2㎜大雲母わずかに含む。 細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	良好	内－橙色 外－にぶい赤褐色	黒斑
57-16	鉢	口径 19.4 器高残 4.6	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 1㎜大雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑（内面）
57-17	鉢	口径 15.0 器高 5.7 底径 2.0	口縁～胴部上位ヨコナデ。 突帯部ヨコナデ。 胴部下位～底部ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ナデ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	橙色	胴部に刻目突帯1条
57-18	鉢	口径 15.7 器高 7.2	口縁～胴部上位ヨコナデ。 突帯部ヨコナデ。 胴部下位～底部ナデ。	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部ナデ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄褐色	胴部に刻目突帯1条
57-19	鉢	口径 12.3 器高 5.8 底径 4.7	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上～中位ヘラナデ。 胴部下位～底部不定方向のナデ。	0.5～1㎜大砂粒少量含む。	良好	橙色	内外面丹塗
57-20	鉢	口径 10.6 ～11.3 器高 8.2 底径 3.6	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中～下位タテハケの後、ナデ。 底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナデ。 胴部下半ナナメハケ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色～褐灰色	煤付着
57-21	鉢？	口径 6.8 器高 8.3 胴部径 9.4	口縁部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケの後、ナデ。 胴部下半～底部ナデツケ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい橙色	内外とも黒斑
57-22	高坏（脚部）	頸径 4.2 器高残 9.6	身底部ハケの後、ナデ。 脚筒部ヘラケズリの後、タテハケ。	身底部不定方向のナデ。 脚筒部指ナデ・オサエ。	微細雲母少量含む。0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	赤褐色	
57-23	高坏（脚部）	頸径 4.2 器高残 7.2	脚筒部ヘラケズリの後、タテハケの後、ナデ仕上げ。	身底部ナデ。 脚筒部指ナデ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	褐色	
57-24	鉢？	口径 21.8 器高残 8.3 胴部径 15.0	口縁部ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後、ナデ。 胴部不明瞭。	口縁部ヨコナデ。 頸部ナデ。 胴部タテハケの後、ヨコハケ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい橙色	

第22号竪穴式住居跡（第58図、図版46～52）

調査区の中央北側に位置する。西側で第20・24・25号竪穴式住居跡を、南側で第21号竪穴式住居跡を切って、それぞれと重複している。なお、本住居跡自体、同じ形態を成す大小2基の竪穴式住居跡が重複しており、小さいものを22-a、大きいものを22-bとした。後世の削平によって全体に残りは悪く、検出時には既に壁は無く床面下層の掘り形によってプランを確認で



第58図　第６地点第22－ａ・ｂ号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝1/60）訂 正 図



第58図　第６地点第22－ａ・ｂ号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）

きた。床面も遺物及び炉址の検出レベルからしか復原できなかった。a(小)・b(大)どちらも、床面下層の掘り方を方形周溝状に周辺を掘り下げて中央を大状に成しており、各4本の主柱穴は長方形に配しその長軸方向も全く同じである。また、床面下層からの復原では、西側コーナー及び北西・南西壁を同じ線上取っている。a(小)・b(大)の新旧関係は、遺物の大半がa(小)のプラン内に収まっている出土状況から、b(大)が古くa(小)が新しいものと判断した。以上のことから、本住居跡は同一住居が建て替えられたものと思われる。しかし、新旧関係が逆のa(小)→b(大)であれば、同一住居の拡張に伴う建て替えと理解しやすく、あるいは判断に誤りがあるかもしれない。a(小)は長さ6.8×6.8mを、b(大)は8.9×8.4mを計る。a(小)の中央やや北寄りに径27×17cmの楕円形を呈する炉がある。

出土遺物

多くの土器が床面直上から出土した。特に、北西壁・南西壁寄りに遺物のまとまりが見られた。

土　　器（第59～63図、図版88・89）

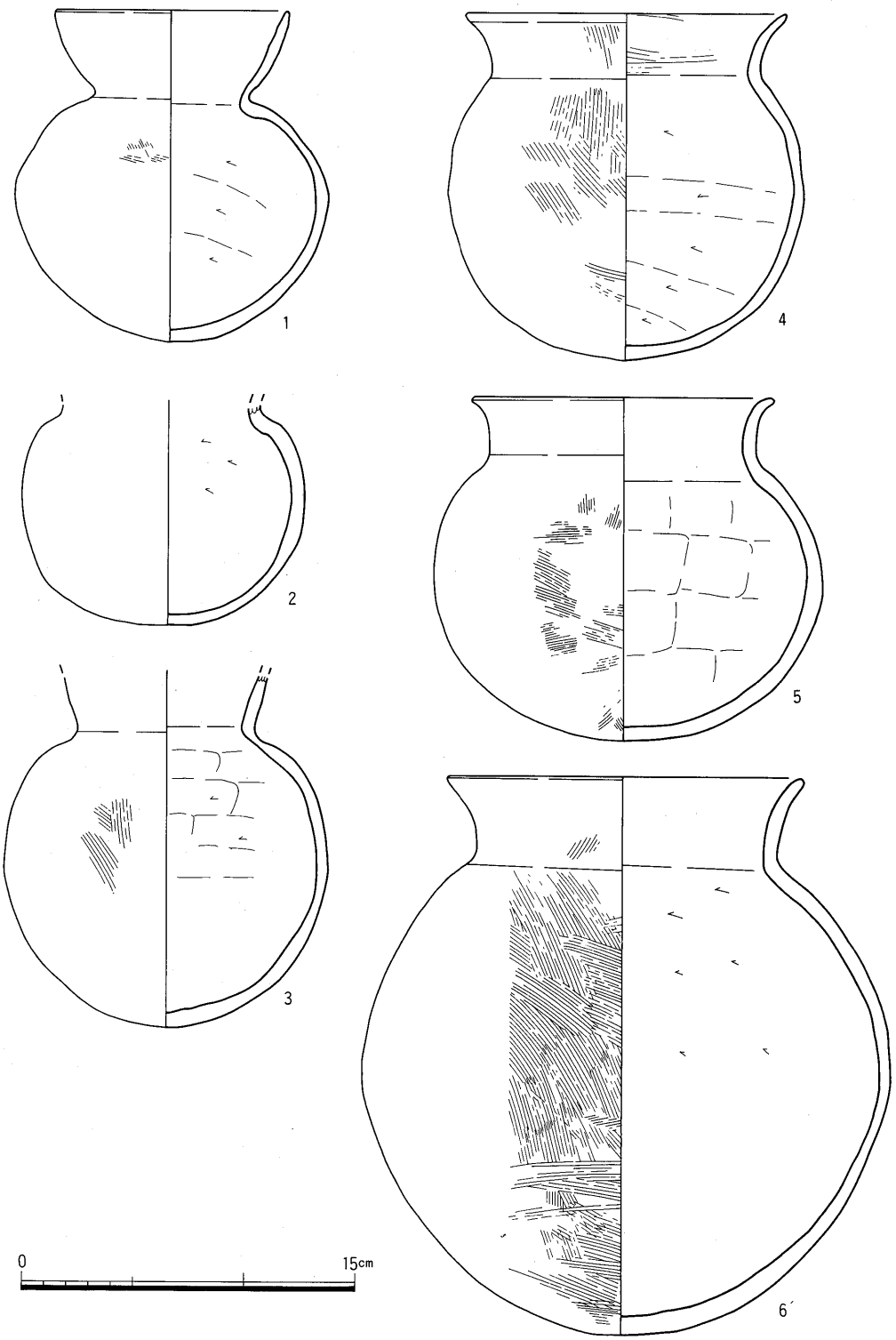
大半は土師器であり、須恵器が1点と若干の弥生土器が出土している。土師器は壷・甕・椀高坏・脚付き壷・脚付き鉢・手捏ね土器であり、須恵器は器台である。

壷（1～3）は、中型のものであり、ほぼ中位に最大径を有する球形胴部である。1は、頸部が強く締まり内弯気味に立ち上がる口縁部が付くものである。調整技法は、口～頸部はヨコナデを施し、胴～底部は外面をなで仕上げ、内面をヘラによるナデツケを施している。

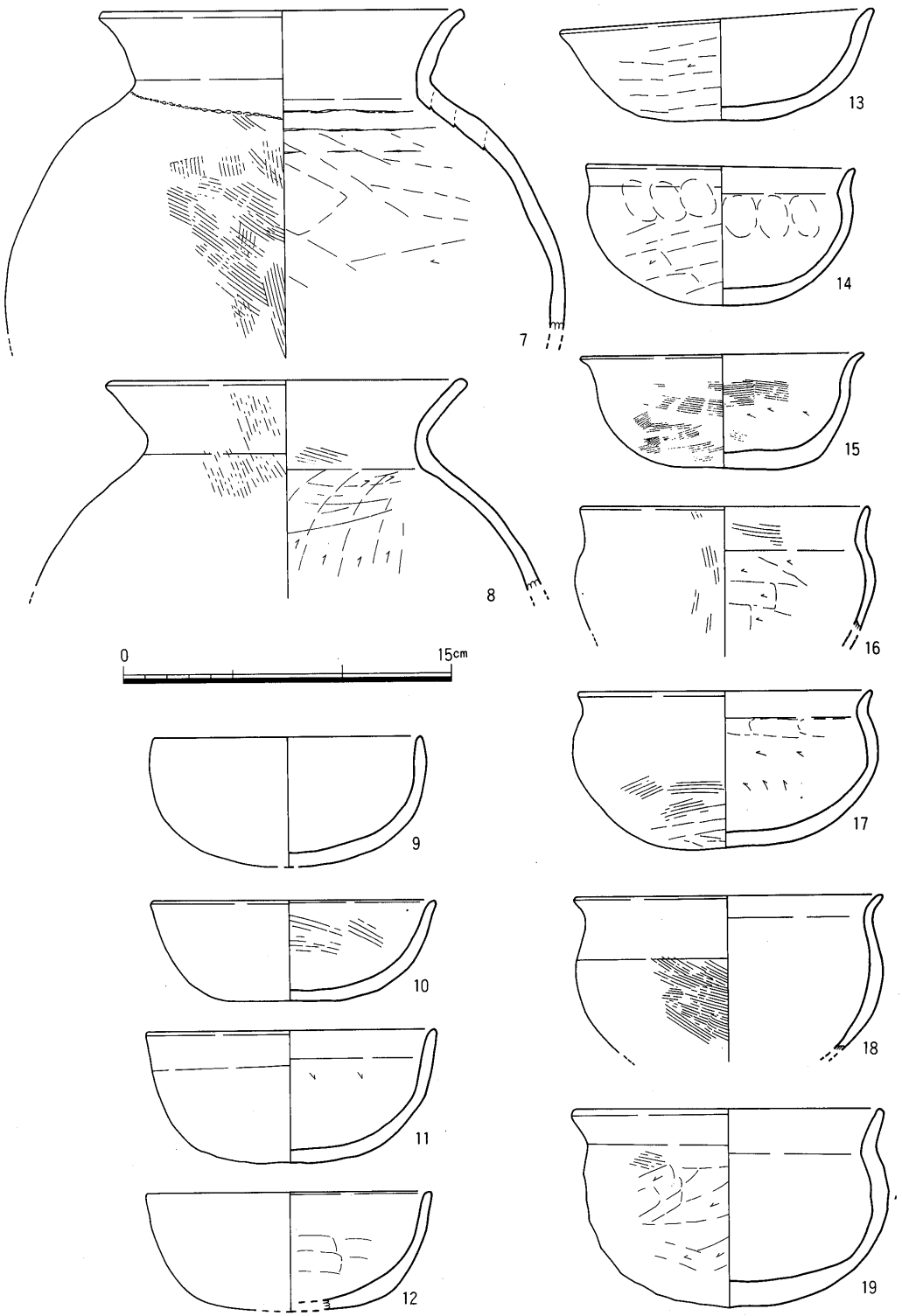
甕（4～8・44・45・47）は、中小2種類あるが、どちらも丸底を呈する球形胴部である。中型のもの（6～8）の頸部は、中位までやや直に立ち上がり途中から外反するもの（6）と、胴部から直に外傾するもの（7・8）とがある。小型のもの（4・5・47）の頸部は胴部に比してやや締まりが弱い感がある。調整技法は、口縁部内外面をヨコナデ、胴部内面をヘラケズリ、胴部外面をハケの後ナデているが、6の胴部外面はハケ調整のみである。4・6・8の口縁部にはハケの跡が残っている。44・45は、弥生土器である。

椀（9～19）は多く出土し、口～頸部の形態から大きく2種類に分けられる。扁平気味の丸底からそのまま内弯気味に口縁部へ開くもの（9～12）と、頸部でいったんすぼまってから口縁部が外反するもの（14～19）がある。13は両者の中間形態である。調整技法は、口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ともヘラケズリ・ハケ調整の後にナデ仕上げを貴重としている。

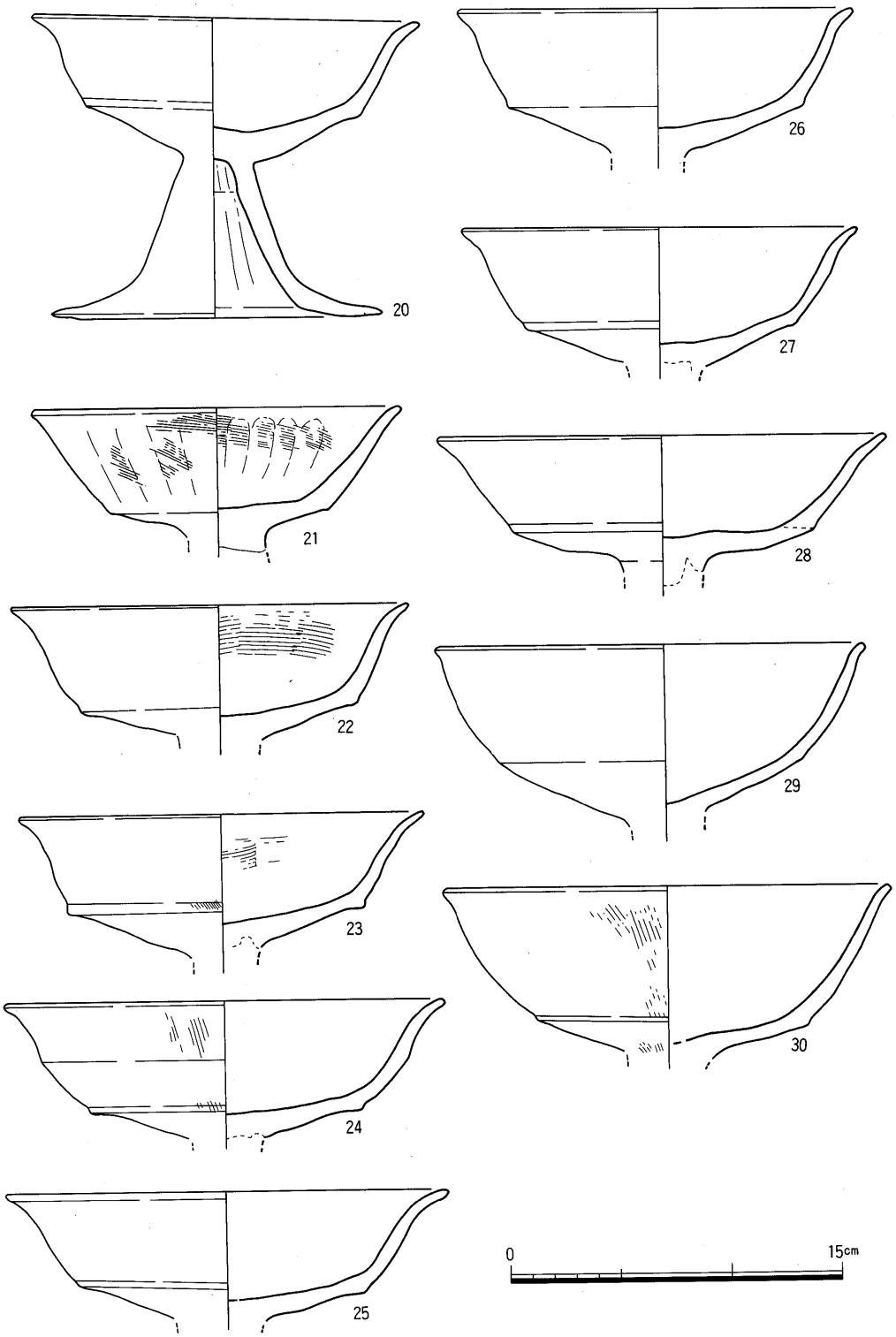
高坏（20～35・46）は最も多く出土しており、細部の形態から坏部及び脚部とも2種類に分けられる。坏部はいずれも胴部と底部の境に段を有しているが、21の胴部は直線的に口縁部に外傾するのに対し、20・22～30はやや強く外反しながら開いている。脚部では、35の脚筒部がやや直線的に開くのに対し、20・31～34のそれはやや膨らみを有しながら開いている。調整技法は、坏部内外面ともハケ調整などの後ナデ仕上げ、脚部にヘラケズリとナデを施している。



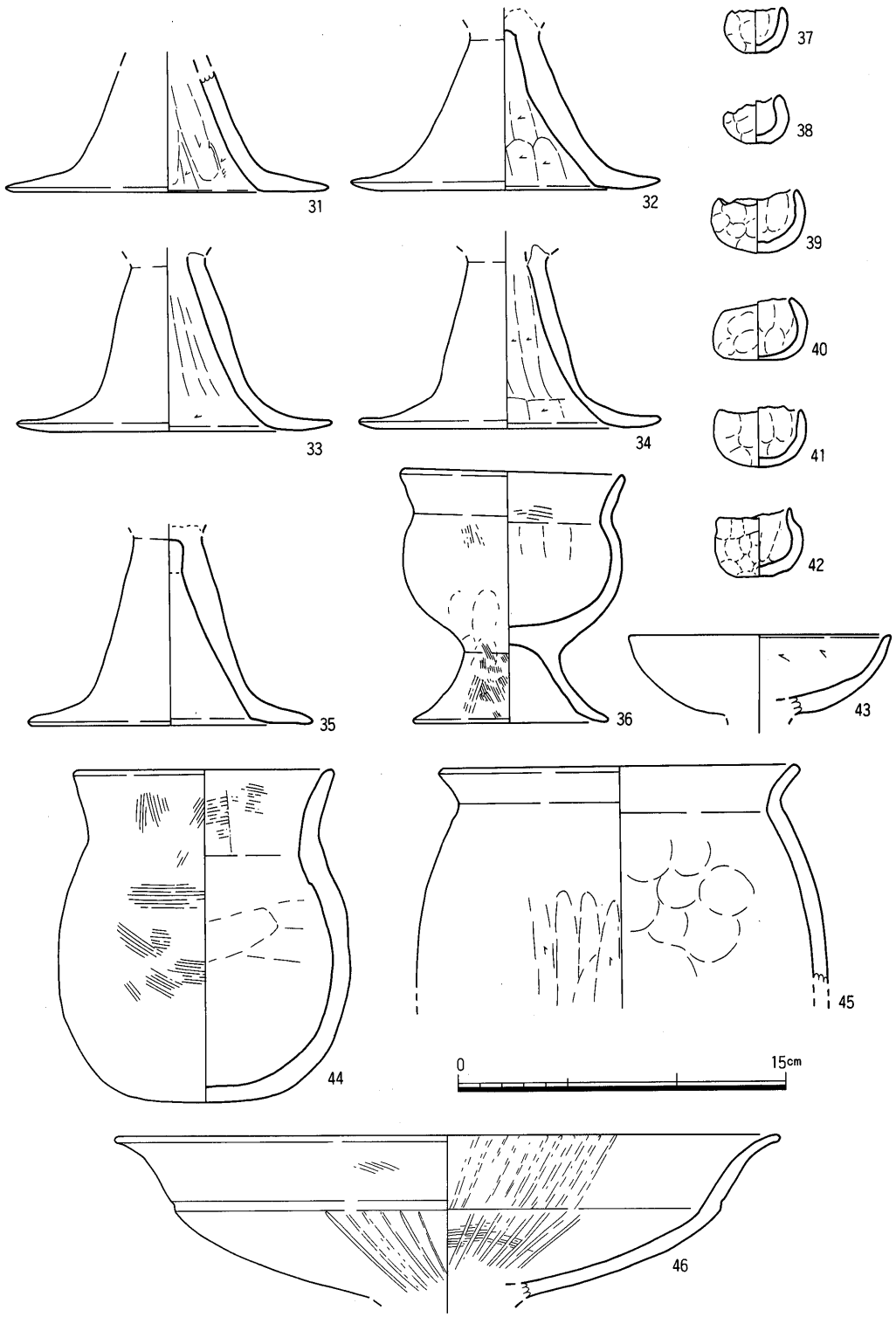
第59図　第６地点　第22ａ・ｂ号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）
（すべてａ）



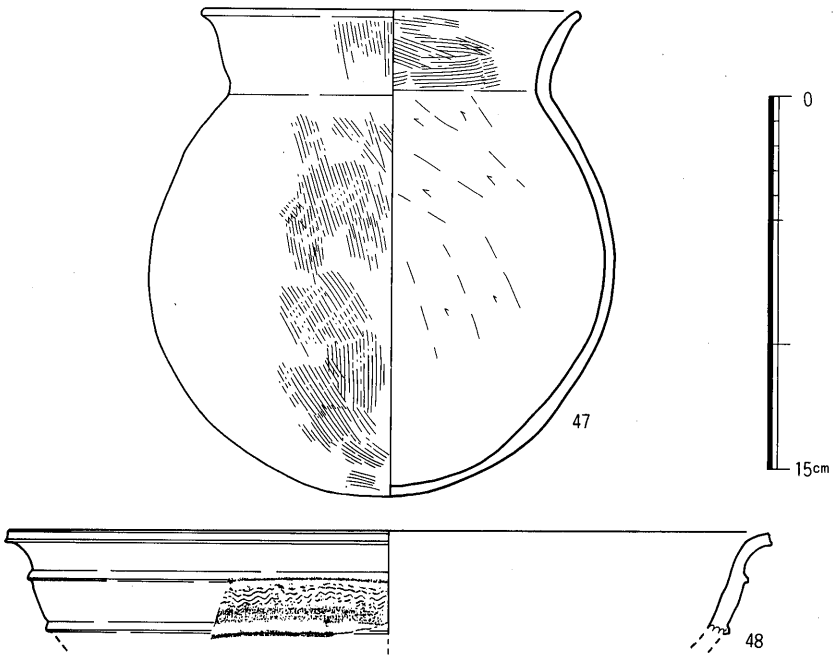
第60図　第６地点　第22ａ・ｂ号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）
（14はｂ、他はａ）



第61図　第６地点　第22ａ・ｂ号竪穴式住居跡出土土器実測図③（Ｓ＝１／３）
（26はｂ、他はａ）



第62図　第６地点　第22ａ・ｂ号竪穴式住居跡出土土器実測図④（Ｓ＝１／３）
（36はｂ、他はａ）



第63図　第６地点　第22ａ・ｂ号竪穴式住居跡出土土器実測図⑤（Ｓ＝１／３）

46は、弥生土器である。

脚付き壷（36）は、最大径が口縁部にあり頸部の締まりも弱いため、壷とするより脚付きの鉢（椀）と呼ぶべきかもしれない。脚部は丸底から大きくラッパ状に開いている。

脚付き鉢としたもの（43）は破片のため断定し得ないが、底部剥離面より判断したものである。

手捏ね土器（37～42）はすべて椀形で、著しい指ナデ・オサエの跡が残っている。

48は須恵器の器台受部の破片である。復元で直径30.7㎝の口縁下に最大径があり、口縁下に断面三角形の突帯が２条あり、その間に波状文が櫛描きされている。

鉄　　器（第80図）

刀子の見部と思われる鉄片（19）が１片出土している。両端を欠損し、残存長3.2㎝・身幅1.35㎝、背幅0.35㎝を計る。

第21表－①　第６地点第22号竪穴式住居跡出土土器観察表

挿入番号	器種	法量（cm）	調整		胎土	焼成	色調	備考
			外面	内面				
59-1	壷	口径 10.5 器高 15.0 胴部径 14.0	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ハケの後、ナデ仕上げ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラによるナデツケ。	微細雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色～橙色	黒斑
59-2	壷	器高残 10.0 胴部径 12.7	胴～底部ナデ。	胴～底部ヘラによるナデツケ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1～3㎜大砂粒少量含む。	やや良好	赤褐色～暗褐色	煤付着
59-3	壷	器高残 15.9 胴部径 14.5	頸部ヨコナデ。 胴～底部タテ・ナナメハケの後、ナデ仕上げ。	頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラによるナデツケ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 微細砂粒多く含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	褐色～茶褐色	煤付着
59-4	甕	口径 14.4 器高 15.7 胴部径 16.0	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケ。 胴部下半～底部ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	明赤褐色	
59-5	甕	口径 13.8 器高 15.5 胴部径 17.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好		煤付着
59-6	甕	口径 16.0 器高 25.1 胴部径 23.5	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上～中位ナナメハケ。 胴部下位～底部ヨコ・ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半ヘラケズリ。 胴部下半～底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい橙色～暗褐色	煤付着
60-7	甕	口径 16.6 器高残 14.7 胴部径 25.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半ヘラケズリ。	0.5～2㎜大砂粒多く含む。 微細砂粒多く含む。	やや良好	内－褐灰色 外－にぶい黄褐色	内面黒斑外面頸部下に連続した刺突痕１条 煤付着
60-8	甕	口径 15.9 器高残 9.8	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部上位ヘラケズリ。	0.5～3㎜大砂粒わずかに含む。 細雲母わずかに含む。	良好	赤褐色	
60-9	椀	口径 12.6 器高 6.1	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部ナデツケ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色～褐色	黒斑
60-10	椀	口径 12.9 器高 4.7	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部ヘラケズリの後、ナデ仕上げ。	口縁～胴部中位ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部下位～底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。		橙色	
60-11	椀	口径 12.8 ～13.7 器高 5.8 ～6.1	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデツケ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑

第21表－②

挿入番号	器種	法量（cm）	調整		胎土	焼成	色調	備考
			外面	内面				
60-12	埦	口径 13.0 器高残 5.5	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中位～底部不明瞭。	口縁～胴部上位ハケの後、ヨコナデ。 胴部中位～底部ナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 0.5㎜大雲母わずかに含む。	やや良好	橙色	
60-13	埦	口径 13.8 ～14.3 器高 4.8	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
60-14	埦	口径 12.0 ～12.4 器高 6.3 ～6.6 胴部径 12.1	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。 胴部上位指オサエ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。 胴部上位指オサエ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒少量含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	良好	橙色	
60-15	埦	口径 12.9 器高 5.2 ～5.4 胴部径 11.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヨコ・ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ハケの後、ナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
60-16	埦	口径 13.1 器高残 5.8 胴部径 13.7	口縁～頸部ハケの後、ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ヘラによるナデツケ。	微細雲母わずかに含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
60-17	埦	口径 13.4 器高 6.9 ～7.3 胴部径 13.9	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケの後、ナデ。	底部ヘラケズリの後、ナデ。 口縁～頚部ヨコナデ。 胴～底部ヘラによるナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色～にぶい褐色	ヘラ記号
60-18	埦	口径 14.0 器高残 7.2 胴部径 14.0	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中～下位ナナメハケ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中～下位ナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
60-19	埦	口径 14.4 器高 9.2 胴部径 13.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色～にぶい黄褐色	黒斑
60-20	高坏	口径 17.0 ～17.4 器高 13.3 ～13.8 身部稜径12.5 脚部裾径14.3 ～14.8	坏身口縁～胴部ヨコナデ。 坏身底部ナデ。 脚筒部ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	坏身口縁～胴部ヨコナデ。 坏身底部ナデ。 脚筒部ヨコのヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
61-21	高坏（身部）	口径 16.6 器高残 6.4 稜径 9.8	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、指ナデ。 底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナナメハケの後、指ナデ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。	やや良好	明赤褐色	黒斑 煤付着
61-22	高坏（身部）	口径 17.9 器高残 6.2 稜径 12.6	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	口縁～胴部中位ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部下位～底部ナデ。	1㎜大砂粒わずかに含む。 微細砂粒少量含む。	やや良好	橙色	
61-23	高坏（身部）	口径 18.2 器高残 6.2 稜径 13.5	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。 稜部ハケ残。	口縁～胴部ヨコハケの後、ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	黒斑

第21表－③

挿入番号	器種	法量（cm）	調整		胎土	焼成	色調	備考
			外面	内面				
61-24	高坏（身部）	口径 19.8 器高残 6.3 稜径 12.3	口縁～胴部タテハケの後、ヨコナデ。 底部ナデ。	口縁～胴部ヨコハケの後、ヨコナデ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	褐色	
61-25	高坏（身部）	口径 19.8 器高残 6.0 稜径 13.0	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～2㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
61-26	高坏（身部）	口径 17.7 器高残 6.8 稜径 13.4	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ヨコナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	微細雲母多く含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。	やや良好	内－橙色 外－にぶい褐色～橙色	
61-27	高坏（身部）	口径 17.8 器高残 6.4 稜径 12.4	口縁部ヨコナデ。 胴部ヨコハケの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	黒斑
61-28	高坏（身部）	口径 20.2 器高残 6.2 稜径 13.7	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	褐色～にぶい橙色	
61-29	高坏（身部）	口径 19.2 器高残 7.7 稜径 13.8	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－橙色 外－褐色～にぶい橙色	
61-30	高坏（身部）	口径 19.8 ～20.2 器高残 8.0 稜径 12.3			微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい黄褐色	
62-31	高坏（脚部）	器高残 5.6 底径 14.8	脚筒部ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚筒部ナデ・指オサエ。 脚裾部ヨコナデ。	0.5㎜大砂粒少量含む。	良好	橙色	
62-32	高坏（脚部）	器高残 8.3 底径 14.2	脚筒部ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚筒部ヨコのヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	0.5～1㎜大砂粒少量含む。	良好	橙色	
62-33	高坏（脚部）	器高残 8.2 底径 14.4	脚筒部ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚筒部上～中位ヘラナデ。 脚筒部下位ヨコのヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒少量含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	黒斑（脚裾部内外）
62-34	高坏（脚部）	器高残 8.5 底径 13.8 ～14.0	脚筒部ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚筒部ヨコのヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	微細雲母多く含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。	やや良好	橙色	
62-35	高坏（脚部）	器高残 9.2 底径 13.0	脚筒部ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚筒部ヨコのヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい橙色	
62-36	小型脚付壺	口径 10.3 器高 11.4 ～11.8 胴部径 10.1 脚径 8.9	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ナナメハケの後、ナデ。 脚部ナナメハケの後、ナデ。 脚裾部ハケの後、ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ナデ。 脚部ナデツケ。 脚裾部ヨコナデ。	微細雲母多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	褐色	黒斑

第21表－④

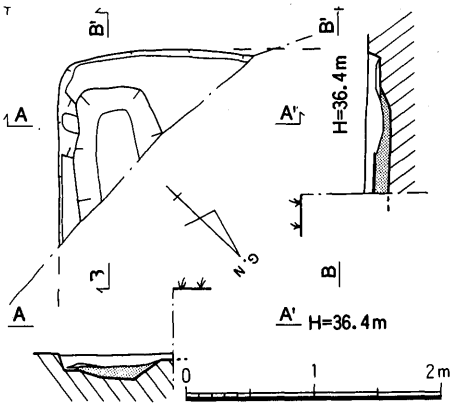
挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
62-37	手捏ね土器	口径 2.4～2.6 器高 1.5～2.3 胴部径 2.9	全面指によるナデ・オサエ。	全目指によるナデ・オサエ。	微細雲母多く含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
62-38	手捏ね土器	口径 1.8～2.3 器高 2.1 胴部径 3.0 底径 1.0	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細雲母多く含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色	
62-39	手捏ね土器	口径 2.3～3.4 器高 2.5～3.0 胴部径 4.3	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細雲母多く含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい橙色	
62-40	手捏ね土器	口径 2.7～3.2 器高 2.3～2.9 胴部径 4.4 底径 2.8	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	橙色	
62-41	手捏ね土器	口径 3.3～3.8 器高 2.6～2.8 胴部径 4.3	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細雲母わずかに含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
62-42	手捏ね土器	口径 3.4～4.0 器高 2.8～3.2 胴部径 4.1 底径 1.7	口縁～頸部ヨコナデ・指オサエ。 胴～底部指によるナデ・オサエ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部指によるナデ・オサエ。	微細砂粒多く含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	明褐色	
62-43	脚付鉢？	口径 12.0 器高残 3.3	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ仕上げ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	明褐色	
62-44	甕	口径 11.8 器高 15.4 胴部径 13.3	口縁～頸部ハケの後、ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケの後、ナデ。 胴部下位～底部不明瞭。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴～底部不明瞭。（胴部ヘラケズリ？。）	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 2㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	橙色～にぶい褐色	黒斑（煤？）
62-45	甕	口径 16.5 器高 10.2 胴部径 18.9	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナデ。 胴部中位ヘラによるナデツケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ハケの後、ナデ・指オサエ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	褐色～褐灰色	
62-46	高坏	口径 30.4 器高残 7.5 稜径 25.0	口縁～胴部ナナメハケの後、ヨコナデ。 底部ヘラケンマ・暗文。	口縁部～胴部ヨコナデの後、ヘラケンマ・暗文。 底部ヨコハケの後、ヘラケンマ・暗文。	0.5㎜大雲母多く含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	良好	にぶい褐色	
63-47	甕	口径 15.2 器高 19.6 胴部径 18.5	口縁～頸部タテハケの後、ヨコハケ。 胴～底部ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコ・ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	0.5～1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	良好	赤褐色	黒斑
63-48	器台（受部）	口径 30.7	口縁部ヨコナデ。 突帯部ヨコナデ。 突帯間櫛描波状文。	全面ヨコナデ。				三角突帯2条以上

第23号竪穴式住居跡（第64図、図版53）

調査区の最北端中央に位置する。南コーナーの南西辺1.55m・南東辺1.5mを検出しただけで、大半は調査区外に伸びている。床面および下層を検出しており、竪穴式住居跡と考えている。

出土遺物

次期を知り得る土器その他の遺物は出土していない。



第64図　第6地点第23号竪穴式住居跡実測図（S＝1／60）

第24号竪穴式住居跡（第65図、図版53・54）

調査区中央北端に位置する。南西コーナーで第20号竪穴式住居跡を切り、東側半分は第22号竪穴式住居跡－a・bおよび第25号竪穴式住居跡に切られ、また西側中央部分では第16号竪穴式住居跡に切られて、それぞれと重複している。長辺7.56m×短辺5.8mの長方形を呈し、2本の主柱穴を有している。屋内中央には主柱穴の中間やや南西寄りに径0.8×0.71mの円形を呈する炉がある。東側壁沿いには炉と対応する位置に、長辺1.5×短辺1.05mの方形の屋内土坑が検出できた。南および北側の両短辺には、幅1.0～1.2mのベッド状遺構が設けられている。ベッド状遺構は、いったん下層を掘り込んだ後に新たに土を盛り固めて築いている。

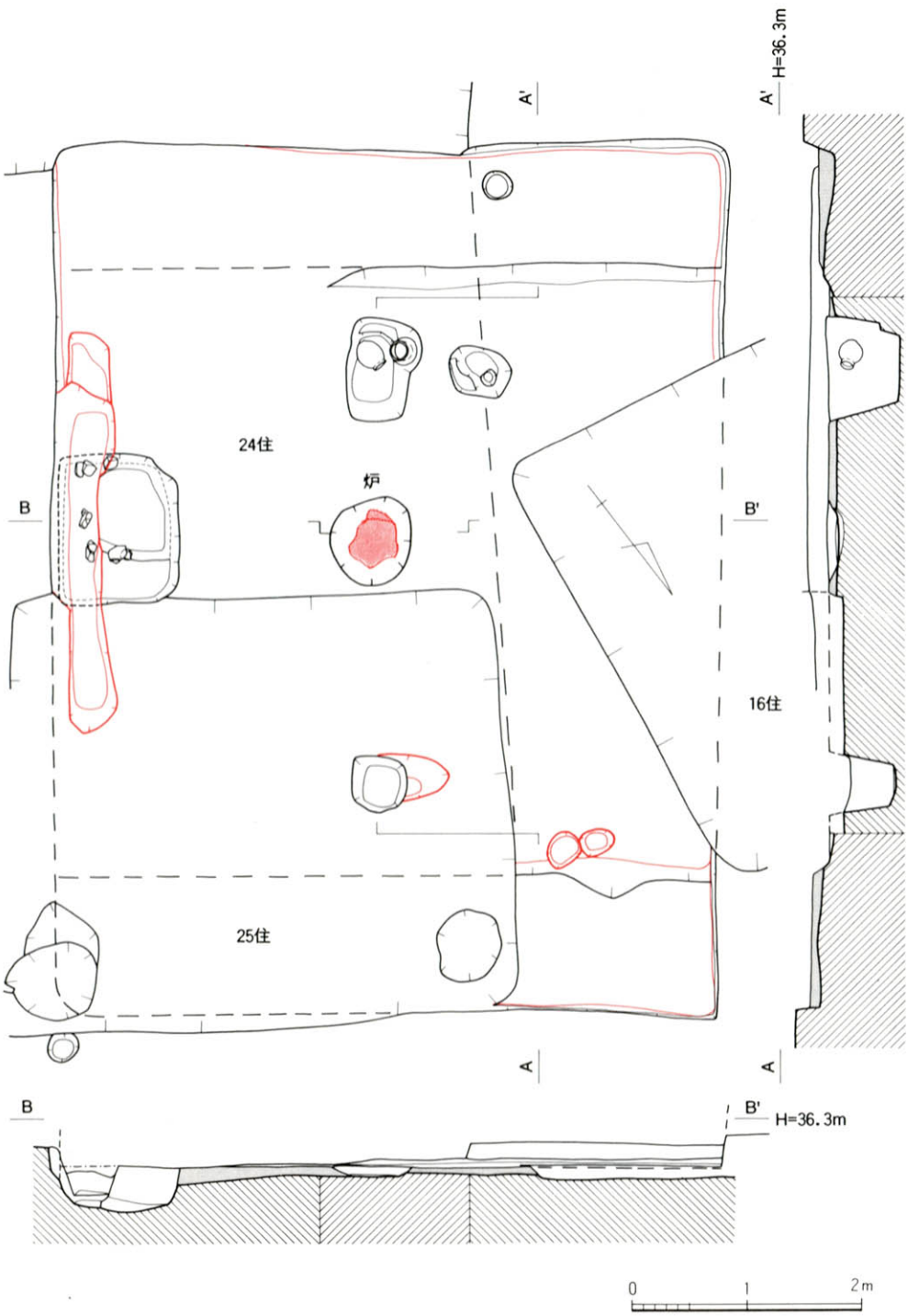
出土遺物

土器が出土した。特に、南西側主柱穴からは浮いた状態ながら完形の甕と壷の口～頸部が出土した。

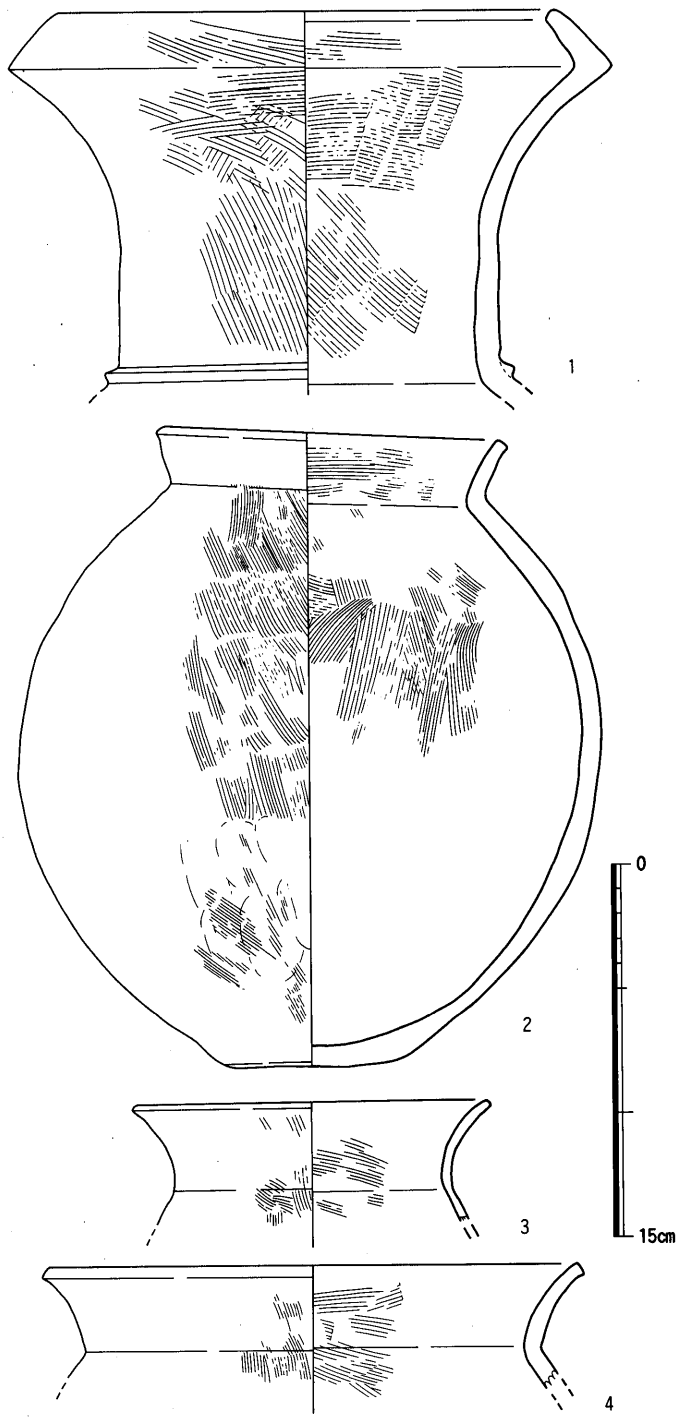
土　器（第66図）

壷（1）は大型の複合口縁壷の口～頸部であり、胴部と頸部との接合部外面には断面三角形の突帯が1条巡っている。調整技法は、内外面ともハケが施されている。

甕（2～4）は、中小2種類がある。中型（2・4）のうち、2は完形品であり、弱いレンズ状の平底から中位に最大径を有する球形の胴部を呈し、締まりのある頸部は直に外傾している。小型の3と中型の4は破片からの復原であり明確ではないが、片の張りが弱く胴部は倒卵形を呈するものと思われる。調整技法は、内外面ともハケを施している。



第65図　第６地点　第24号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）



第66図　第６地点　第24号竪穴式住居跡出土土器実測図（Ｓ＝１／３）

第22表　第６地点第24号竪穴式住居跡出土土器観察表

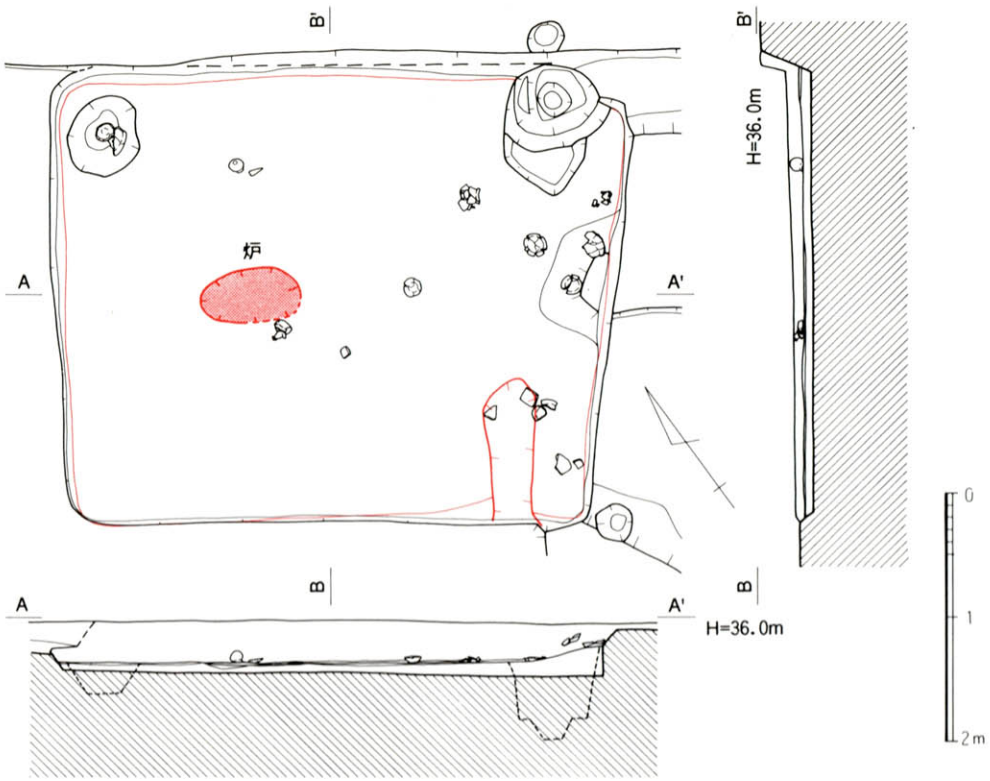
挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
66-1	壷	口径 19.6 器高残 15.7	口縁部ナナメハケの後、ヨコナデ。 頸部上半ヨコ・ナナメハケ。 頸部下半タテハケ。 突帯部ヨコナデ。	口縁部ヨコハケの後、ヨコナデ。 頸部上半ヨコハケ。 頸部下半ナナメハケ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	良好	にぶい黄橙色	頸部直下に三角形突帯１条
66-2	壷	口径 13.3 器高 25.0～25.6 胴部径 23.2 底径 7.2	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケ。 胴部下半ナナメハケの後、ナデ。 底部ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケの後、ナデ。 胴～底部ナデ。	0.5～2㎜大砂粒少量含む。 微細砂粒多く含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	浅黄橙色	煤付着
66-3	甕	口径 14.3 器高残 5.0	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上位タテ・ナナメハケ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコハケ。 胴部上位ナナメハケ。	0.5㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい褐色	黒斑
66-4	甕	口径 21.6 器高残 5.2	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上位タテハケ。	口縁～頸部ヨコ・ナナメハケの後、ヨコハケ。 胴部上位ナナメハケ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。 1～2㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	内－橙色 外－暗褐色	煤付着

第25号竪穴式住居跡（第67図、図版55～57）

調査区中央北端寄りに位置する。全体が第22・24号竪穴式住居跡と重複していたため、第24号竪穴式住居跡の発掘途中で確認できたものである。第24号竪穴式住居跡を切っている。長辺4.6×短辺3.7ｍの長方形を呈している。中央やや北西壁寄りには長径0.8×短径0.43ｍの楕円形を呈する炉が検出できたが、柱穴と思われる穴は北・東コーナーの２箇所で検出したが、本竪穴式住居跡に伴うものか断定できない。床面は、一旦下を平らに掘り下げた後に土を埋め戻し、床を貼って築いている。張り床面を追って発掘すると、南東壁中央周辺に向かって高く傾斜しており、本竪穴式住居跡の出入口部分と考えられる。

出土遺物

土器と石器が出土した。大半が床面直上からの出土であり、出入り口部分でも傾斜に沿って出土している。



第67図　第６地点　第25号竪穴式住居跡実測図（Ｓ＝１／60）

土　　器（第68・69図、図版90）

大半は土師器であり、甕・高坏・椀・手捏ね土器が出土している。少し前代の弥生土器も出土している。

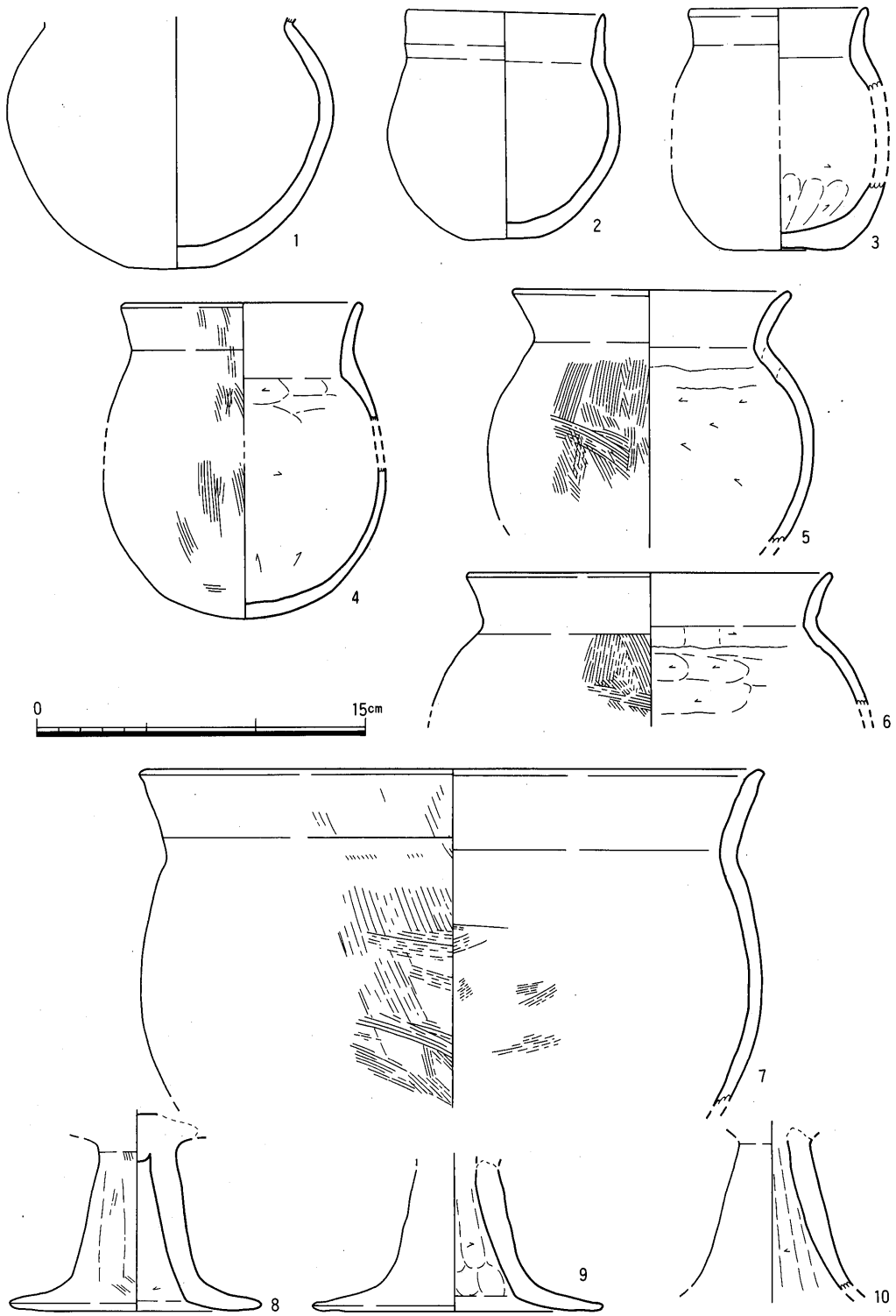
壷（１）は弥生土器であり、扁平気味の平底に球形の胴部を呈するものである。

甕（２～７）は大中小あるが、大型の７と小型の２・３は弥生土器であろう。小型の４は全体形が２・３と似るが、丸底の底部と調整技法に差が認められる。中型の５・６は、球形の胴部に直に外反する頸部が続いている。４～６の調整技法は外面にハケを、内面にヘラケズリを施している。

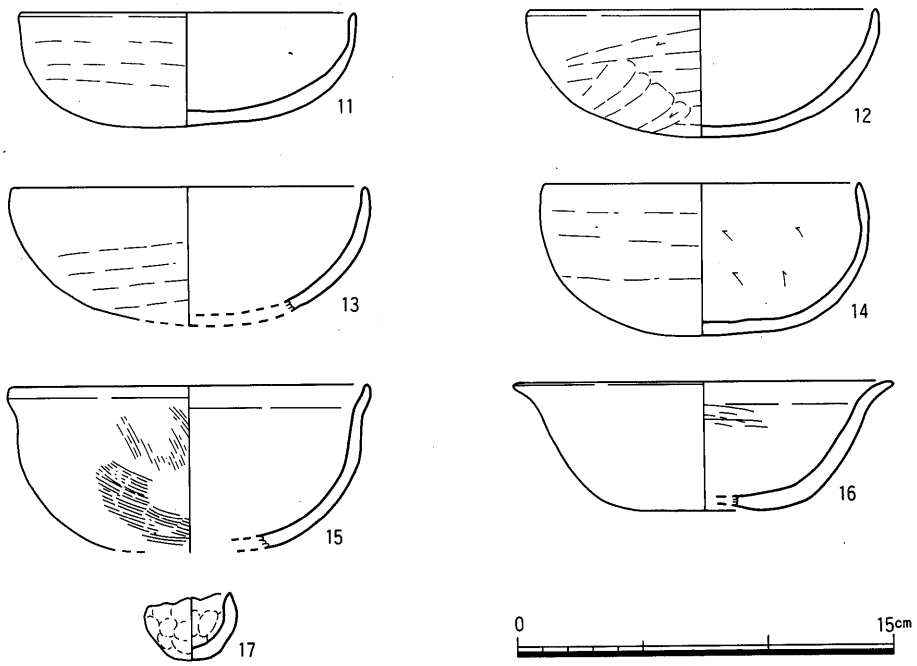
高坏（８～10）は、いずれも脚部のみであるが、８・９は脚筒部がやや膨らみを有して裾部で大きく開いている。

椀（11～16）は、大きく２種類ある。扁平気味の丸底から内弯しながらそのまま口縁部へ立ち挙げる胴部を呈するもの（11～14）と、内弯しながら立ち上がって来た胴部が口縁部近くで外反し鉢形を呈するもの（15・16）である。後者のうち16の復原形は確実ではないが、口縁部の反り形に差が認められる。

手捏ね土器（17）は、椀形である。調整技法は、指によるナデ・オサエである。



第68図　第６地点　第25号竪穴式住居跡出土土器実測図①（Ｓ＝１／３）



第69図　第６地点　第25号竪穴式住居跡出土土器実測図②（Ｓ＝１／３）

石　　器（第79図、図版93）

第79図10は、性格不明の石器である。平面形略長三角形を呈し幅広い方が欠損している。最大幅5.7cm・厚さ3.5cmを計り、横断面は方形を呈している。石材は細粒の花崗岩の柔らかいものである。明確な擦痕は認められない。

第23表－①　第６地点第25号竪穴式住居跡出土土器観察表

挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
68-1	壺	器高残 11.5 胴部径 14.9 底径 3.9	不明瞭。	不明瞭。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1～2㎜大砂粒わずかに含む。	不良	浅黄橙色	内面赤彩
68-2	甕	口径 8.5～8.9 器高 10.2～10.6 胴部径 10.5～10.9 底径 3.4	不明瞭。	口縁～頸部不明瞭。 胴～底部ナデ。	0.5～2㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	浅黄橙色	内面赤彩
68-3	甕	口径 8.1 器高推定11.1 底径 5.7	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ハケの後、ナデ。 胴部下位～底部不明瞭。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位不明瞭。 胴部下位～底部ナデ・指オサエ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。	やや良好	にぶい橙色	黒斑
68-4	甕	口径 11.0 器高推定14.5 胴部径 12.9	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部タテハケの後、ナデ。 底部不明瞭。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。	良	橙色	

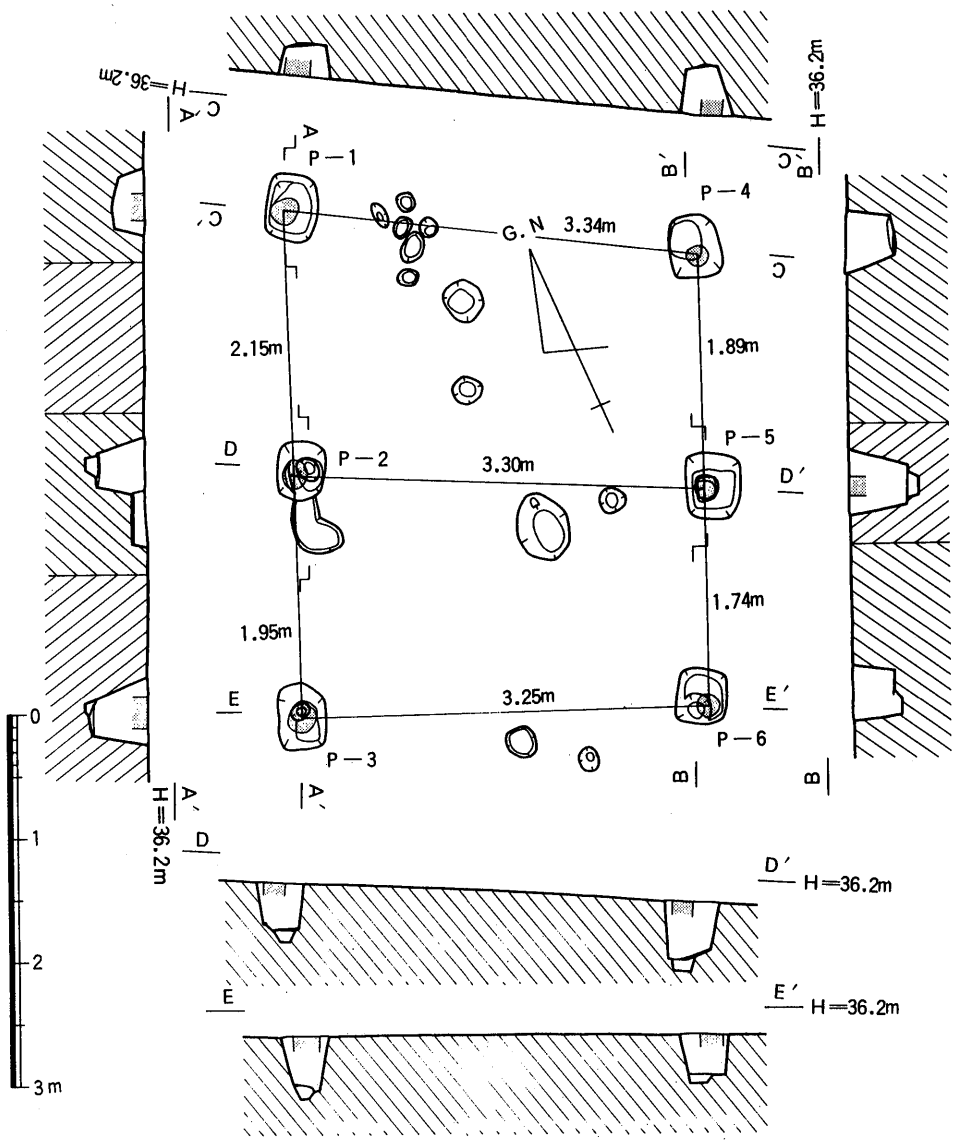
第23表－②

挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
68-5	甕	口径 14.7 器高残 11.5 胴部径 14.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タテ・ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ナデツケ。 胴部中～下位ヘラナデ。	0.5～1㎜大砂粒多く含む。 2～3㎜大砂粒少量含む。	やや良好	橙色	煤付着
68-6	甕	口径 16.6 器高残 6.1	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位タテ・ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヘラケズリ。	0.5～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	褐色	
68-7	甕	口径 28.4 器高残 15.5 胴部径 28.4	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヨコ・ナナメハケの後、ナデ。	細砂粒多く含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	浅黄橙色～橙色	黒斑
68-8	高坏（脚部）	器高残 9.1 脚裾径 11.5	脚筒部ヘラケズリの後、ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚筒部ヨコのヘラケズリ。 脚裾部ヨコナデ。	0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。		内－にぶい橙色 外－橙色	
68-9	高坏（脚部）	器高残 6.9 脚裾径 13.2	脚筒部ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚筒部ヨコのヘラナデ。 脚裾部ヨコナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
68-10	高坏（脚部）	器高残 6.9	脚筒部ナデ。	脚筒部ヨコのヘラナデ・指オサエ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒少量含む。	良好	橙色	
69-11	埦	口径 13.2～13.7 器高 3.9～5.3	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部不定方向のナデ。	微細砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
69-12	埦	口径 13.8 器高 5.0～5.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部ナデ。	微細砂粒少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
69-13	埦	口径 13.7～14.1 器高 5.6～5.7	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中～下位ナデ。		やや良好	内－にぶい橙色 外－橙色～明赤褐色	
69-14	埦	口径 器高	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細砂粒わずかに含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
69-15	埦	口径 14.4 器高残 6.6 胴部径 13.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。 1㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	橙色	黒斑
69-16	埦	口径 15.2 器高 5.2	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部不明瞭。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヨコハケ。 胴部下位～底部不明瞭。	0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	橙色	黒斑
69-17	手捏ね土器	口径 2.9～3.4 器高 2.1～2.7	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。 微細砂粒少量含む。			

第26号竪穴式住居跡（第42図、図版29）

調査区最北端の北西角寄りに位置し、その大部分を第16～18号竪穴式住居跡と重複しており、僅かに南西壁5.5mと南東壁2.6mおよび屋内土坑と思われる土坑を検出しただけである。第16号竪穴式住居跡より古いが、第17・18号竪穴式住居跡との新旧関係は断定し得ない。

次期を知り得る土器その他の遺物は出土していない。



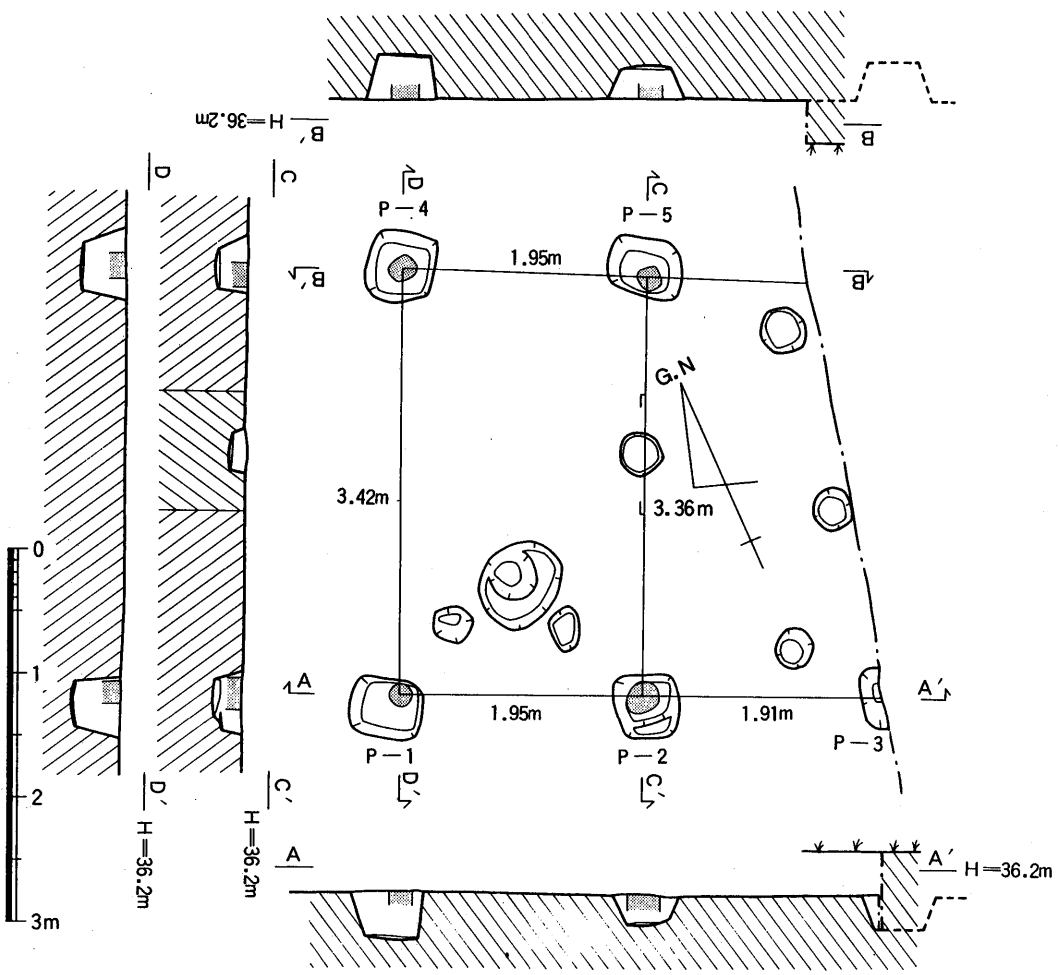
第70図　第６地点　第１号掘立柱建物跡実測図（Ｓ＝１／60）

第１号掘立柱建物跡（第70図、図版58）

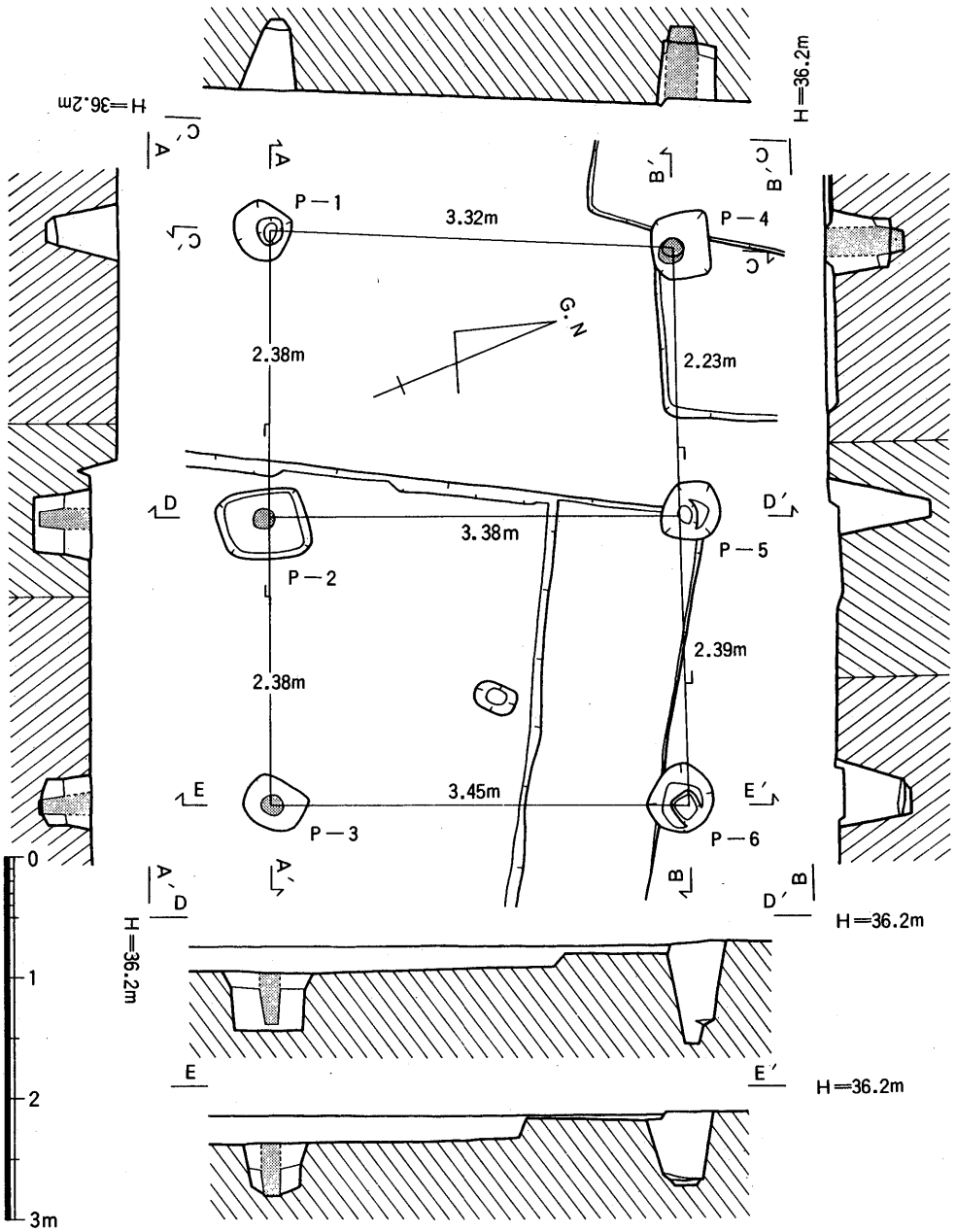
調査区の南東寄り、第１号竪穴式住居跡の北側、第２号竪穴式住居跡の北西側に位置する。１×２間の建物である。柱穴の平面形は全て略方形を呈しており、径15～25cmの柱痕跡を検出した。最長寸法は梁行3.34m（Ｐ－１～４）×桁行4.10m（Ｐ－１～３）を計り、桁行方位はＮ－22.5°－Ｅをとる。

第２号掘立柱建物跡（第71図、図版58）

調査区東端中央で、第２号竪穴式住居跡の北々東側に接して位置する。東側未調査区へさらに伸びているが、柱穴の平面形が第１号掘立柱建物跡と同じ略方形を呈しており、１×２間の建物であろう。Ｐ－１・２・４・５で径18～28cmの柱痕跡を検出した。最長寸法は梁行3.42m（Ｐ－１～４）×桁行3.86m（Ｐ－１～３）を計り、桁行方位Ｎ－66°－Ｗをとる。



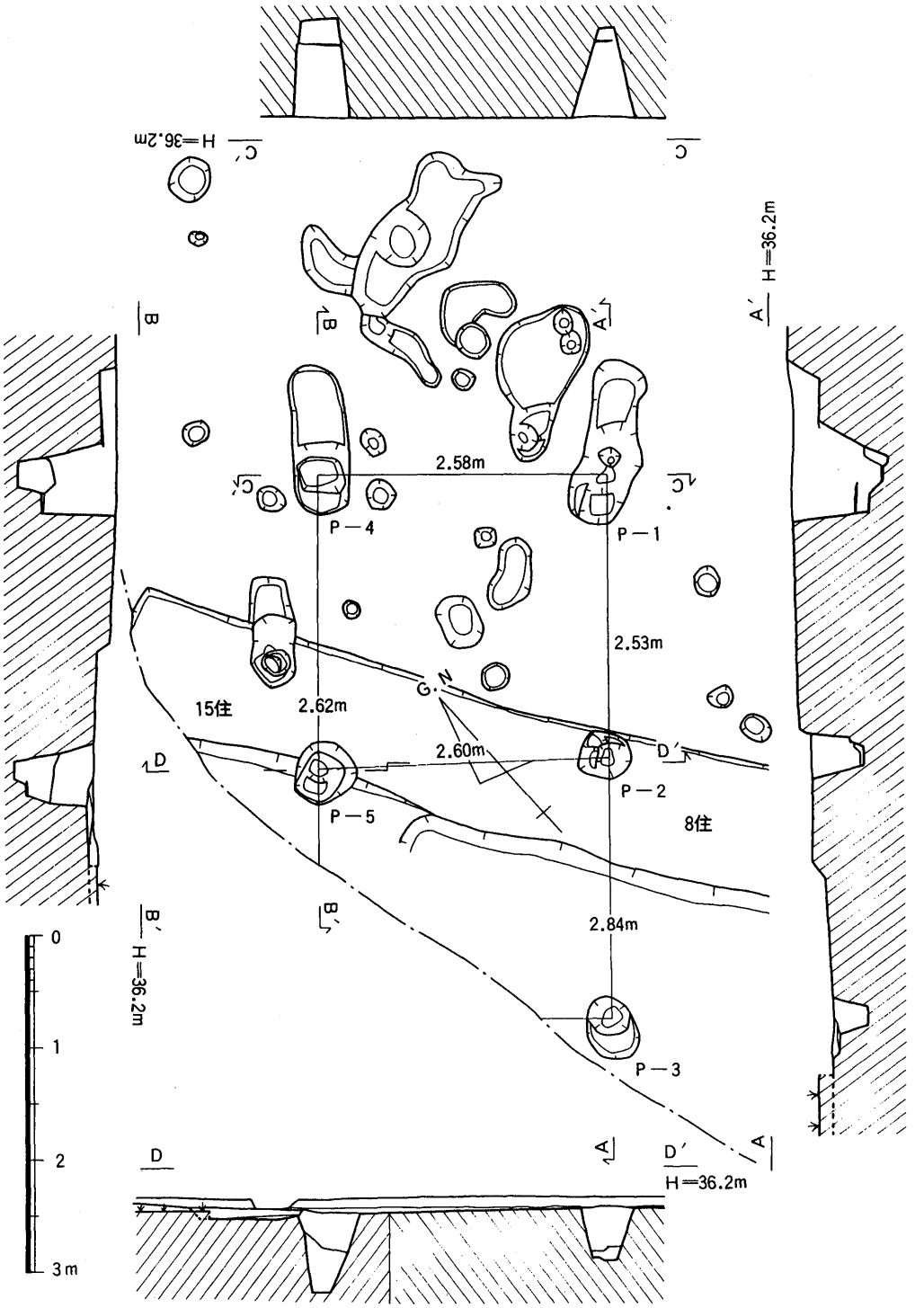
第71図　第６地点　第２号掘立柱建物跡実測図（Ｓ＝１／60）



第72図　第６地点　第３号掘立柱建物跡実測図（Ｓ＝１／60）

第３号掘立柱建物跡（第72図、図版59）

調査区中央の南端寄りに位置し、第９～11号竪穴式住居跡に切られている。１×２間の建物である。平面形が略方形を呈するＰ－２～４で径15～20㎝の柱痕跡を検出した。最長寸法は梁行3.45m（Ｐ－３～６）×桁行4.76mを計り、桁行方位はＮ－68.5°－Ｗをとる。



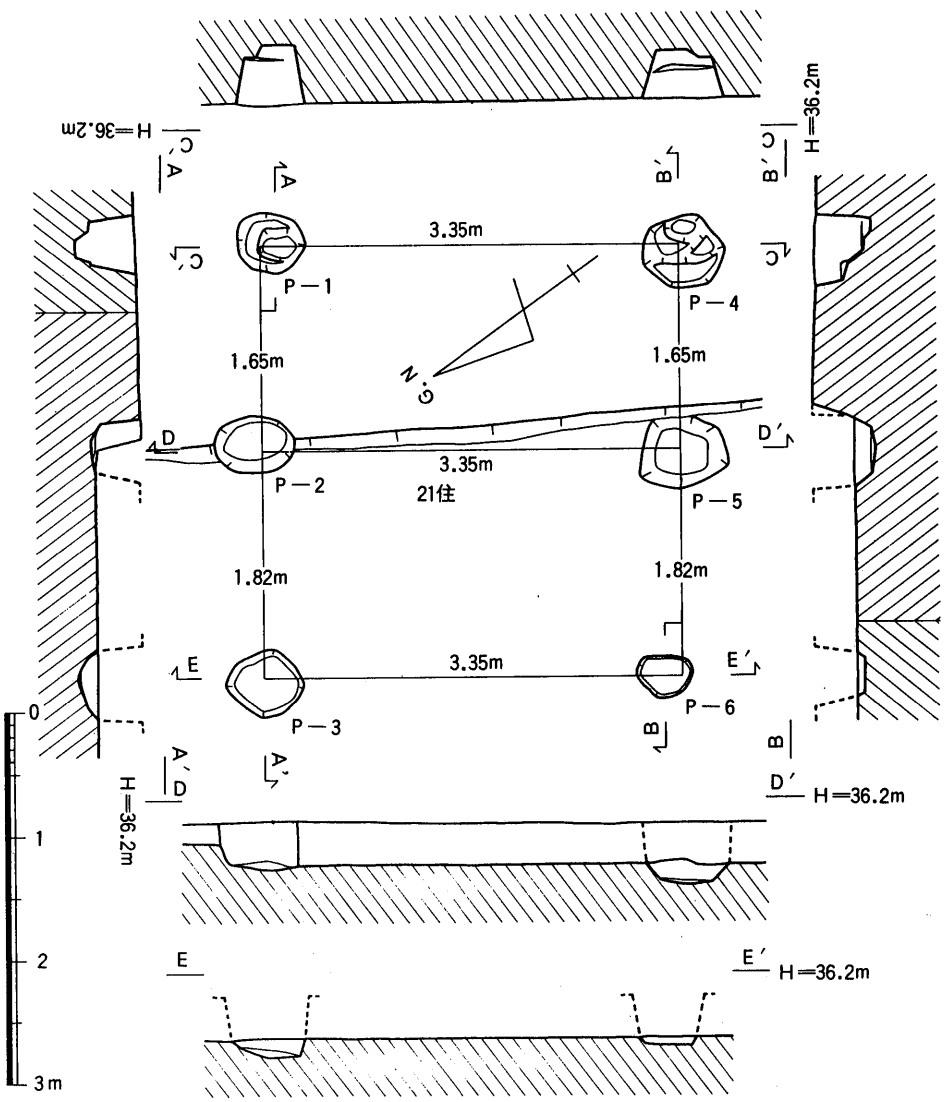
第73図　第６地点　第４号掘立柱建物跡実測図（Ｓ＝１／60）

出土遺物（第77図）

Ｐ－５から土器片１点が出土した。小型甕か鉢の底部と思われ、ややレンズ状を呈している。

第４号掘立柱建物跡（第73図、図版59）

調査区最西端に位置し、第８・15号竪穴式住居跡に切られている。西側未調査区へさらに伸びているが、１×２間の建物と思われる。Ｐ－１・４だけは、その平面形が長方形を呈しており、中で段を有している。最長寸法は梁行2.60m（Ｐ－２～５）×桁行5.37m（Ｐ－１～３）を計り、桁行方位Ｎ－41.5°－Ｅをとる。



第74図　第６地点　第５号掘立柱建物跡実測図（Ｓ＝１／60）

第５号掘立柱建物跡（第74図）

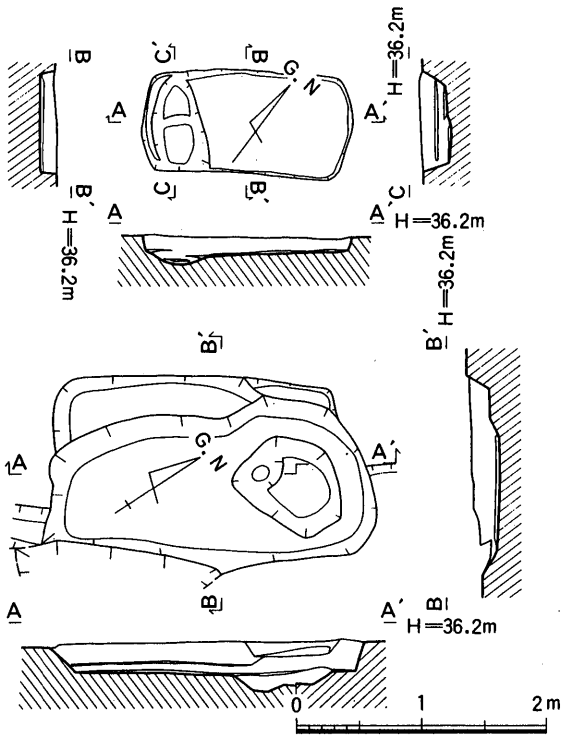
調査区中央に位置し、西側半分は第21号竪穴式住居跡に切られている。１×２間の建物である。最長寸法は各区間均等に梁行3.35×桁行3.47ｍを計り、桁行方位Ｎ－54.5°－Ｗをとる。

第１号土坑（第75図、図版62）

調査区北東コーナー寄りに位置し、第３号竪穴式住居跡を切って重複している。平面形は、長軸1.67ｍ×短軸0.82ｍの長方形を呈し、長軸方位はＮ－53°－Ｅをとる。底面は平坦で検出面からの深さ0.1～0.15ｍを計るが、南西側短辺寄りではさらに２段深くなっている。

第２号土坑（第75図）

調査区北東寄りに位置し、小川の西側に接している。浅い長方形の土坑と一段深い不正楕円形の土坑との重複したものと思われるが、検出時には明確にし得なかった。不正楕円形の北東側でさらに２段深くなっている。長軸2.65ｍ×短軸1.6ｍを計り、長軸方位はＮ－32.5°－Ｅをとる。東半は第４号溝状遺構と重複しており、北東コーナーでは第３号竪穴式住居跡を切っている。



第75図　第６地点　第１・２号土坑実測図（Ｓ＝１／60）

出土遺物（第77図）

高坏の身部（第77図２）が出土している。胴部は底部との境で弱い段を成し大きく口縁部へ開いており、口径29.0㎝を計る。

溝状遺構（付図１、図版60・61）

合計５条の溝状遺構を検出した。第２～５号溝状遺構は幅がおおよそ0.5ｍ前後で検出面からの深さも浅く、他の遺構を浅く切っている。各走行方位もＮ－30°－Ｅ前後をとっており（第２号－33°、第３号－32°、第４号－29°、第５号－35°）、ほぼ並行している。しかし、第１号溝状遺構は幅0.8～1.5ｍと広く、西側に内弯しながらもほぼ南北に走行している。

出土遺物（第77・80図、図版61・91・93）

第１号溝状遺構から手捏ね土器に近い小型の椀形土器（第77図３）が出土した。

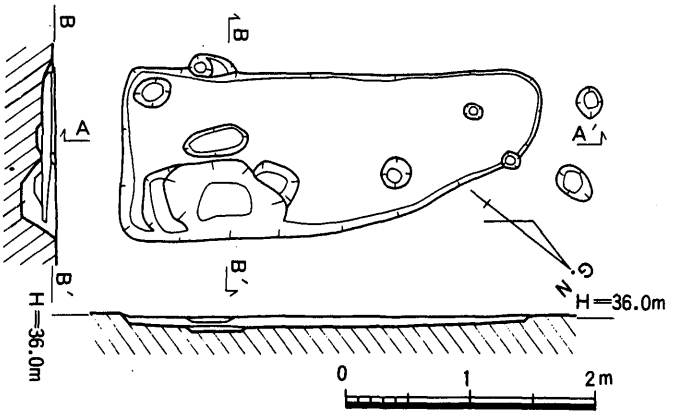
第３号溝状遺構から土器と玉が出土した。土器は脚部に４方に方形スカシを施した大型器台の受部（同図４）と、脚付きの鉢（同図５）が出土した。玉は碧玉製の管玉（第80図６）で、長さ2.52cm・直径0.82～0.885cmを計る。穴は、一方からの穿孔であり、直径は広い方が0.4～0.45cm、狭い方が0.1cmを計る。

第４号溝状遺構から鉢が出土した。

以上の出土遺物は、各溝状遺構の他の遺構との切り合い関係から考えるならば、各溝状遺構の時期を示すものとは考えにくい。

第１号不明遺構（第76図）

調査区中央やや西よりに位置し、第21号竪穴式住居跡の西側に接している。検出当初、埋土の色調から竪穴式住居跡とも考えたが、平面形を完結し得なかったため不明遺構とした。不正形な長方形を呈し、南西側長辺で3.3m、南東側短辺で1.4mを計る。長軸方位はN－37.5°－Wをとる。



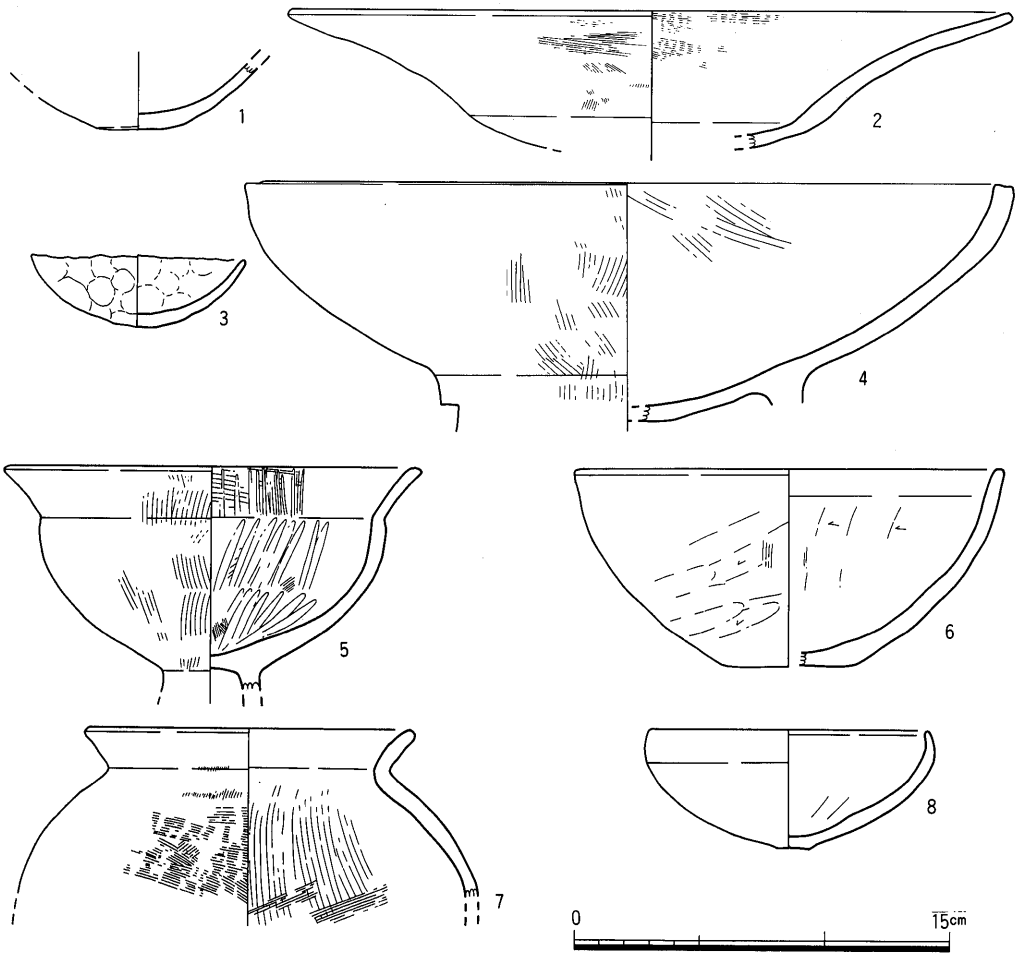
第76図　第６号地点　第１号不明遺構実測図（S＝1／60）

第２号不明遺構（第25図）

調査区西端に位置し、第７号竪穴式住居跡を切って、さらに西側調査区外へ伸びている。不定形な方形を呈しており、約1.7×1.7mを検出した。第７号竪穴式住居跡寄り20cm程深く平らな底を成し、東側コーナー付近ではさらに10cm程深くなっている。

出土遺構（第77図、図版91）

甕（７）と小型の鉢（８）が出土した。



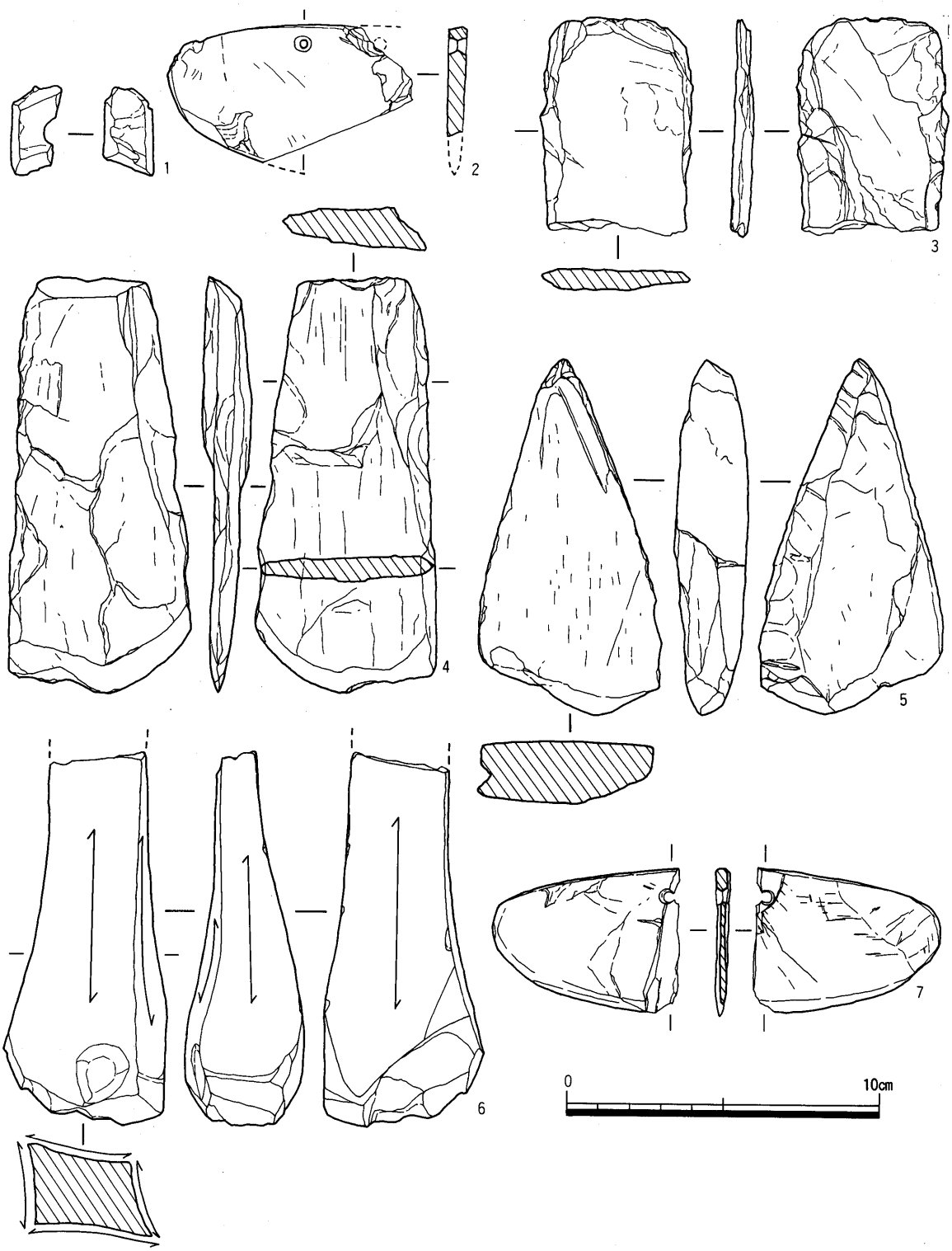
第77図　第６地点　竪穴式住居跡以外の遺構出土土器実測図（Ｓ＝１／３）
(1-建3、2-土2、3-溝1、4･5-溝3、6-溝4、7･8-不明2)

第24表－①　第６地点竪穴式住居跡以外の遺構出土土器観察表

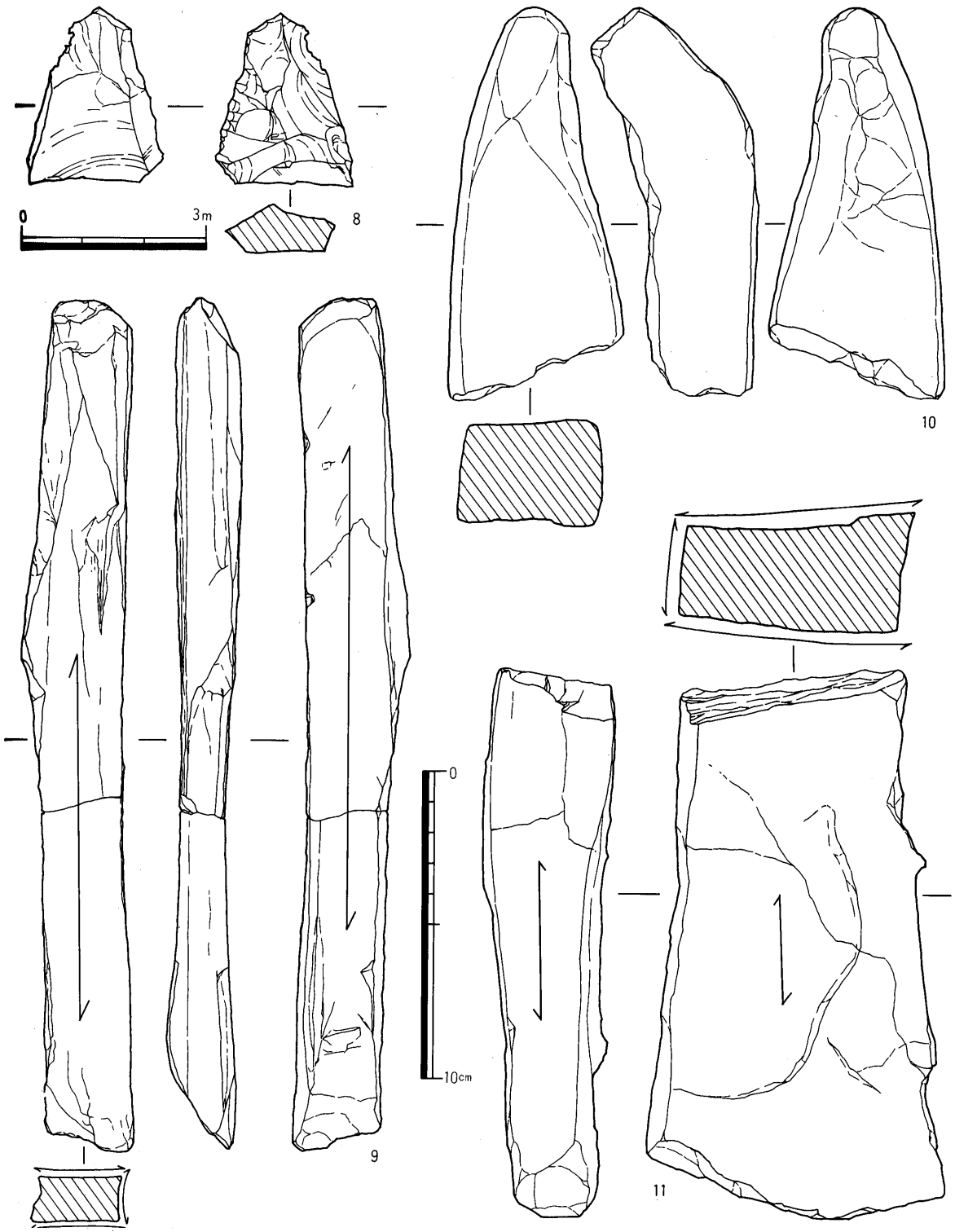
遺構	挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
第3号掘立柱建物跡	77-1	不明	器高残 2.7 底径 3.5	不明瞭。	不明瞭。	0.5㎜大砂粒多く含む。	やや良好	橙色	
第2号土坑	77-2	高坏（身部）	口径 29.0 器高残 5.5 稜径 14.4	口縁部ヨコナデ。胴部ナナメハケの後、ナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部上半ナナメハケの後、ナデ。胴部下半～底部ナデ。	微細雲母少量含む。微細砂粒多く含む。0.5～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－明褐灰色 外－浅黄橙色～褐灰色	

第24表－②

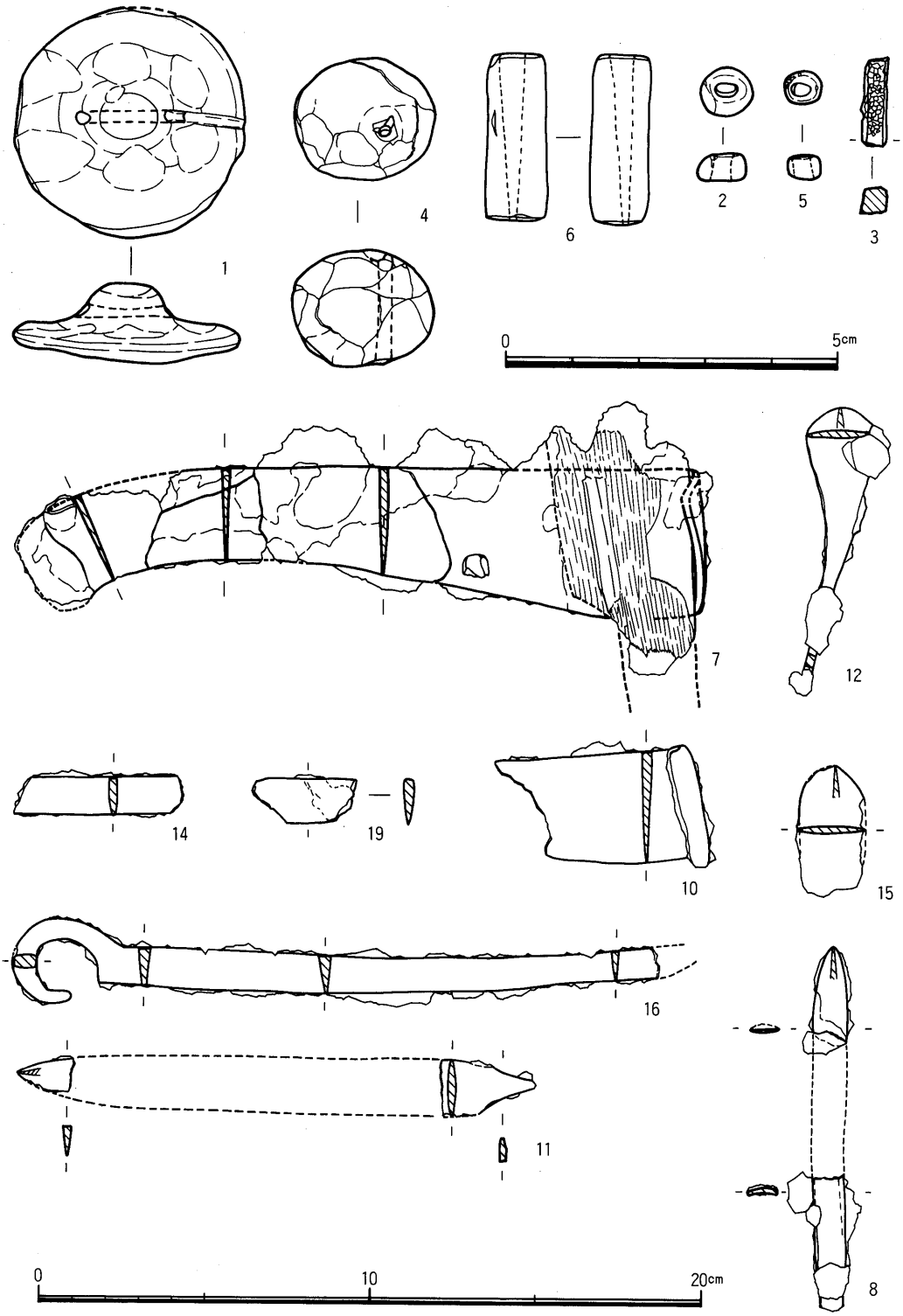
遺構	挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
第1号溝状遺構	77-3	埦？	口径 8.6 器高 3.7～3.9	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	0.5～1㎜大砂粒少量含む。 0.5㎜大雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色	黒斑
第3号溝状遺構	77-4	器台（受部）	口径 30.5～31.0 器高残 10.1	口縁部端面ヨコナデ。 胴～底部タテ・ナナメハケの後、ナデ。 脚部タテハケの後、ナデ。	胴部上半ナナメハケの後、ナデ。 胴部下半～底部不定方向のナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	橙色～にぶい橙色	黒斑4方方形スカシ
	77-5	脚付鉢	口径 16.1 器高残 9.1 胴部径 13.9	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴～底部タテ・ナナメハケの後、ナデ。 脚部ハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヘラケンマ。 暗文。 胴～底部ハケの後、ヘラケンマ・暗文。	微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒多く含む。 微細雲母少量含む。	良好	褐色～暗褐色	
第4号溝状遺構	77-6	鉢	口径 16.5 器高 7.9 底径 5.5	口縁部ヨコナデ。 胴部ハケの後、ヘラによるナデツケ。 底部不明瞭。	口縁部ヨコナデ。 胴部ヘラによるナデツケ。 底部不定方向のナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。 細雲母わずかに含む。	良好	にぶい黄橙色	黒斑
第2号不明遺構	77-7	甕	口径 12.8 器高残 6.8	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケ。	細い砂粒多く含む。 1～3㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい褐色	
	77-8	鉢	口径 10.5～11.0 器高 4.7～5.0 胴部径 11.6 底径 1.4	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	口縁～底部上位ヨコナデ。 胴～底部不明瞭。	細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。 2㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	内－にぶい橙色 外－橙色～にぶい褐色	黒斑



第78図　第６地点出土石器実測図①（Ｓ＝１／２）



第79図　第６地点出土石器実測図②（Ｓ＝１／２･原寸）



第80図　第６地点出土鉄器・玉類・土製品実測図（Ｓ＝１／２･原寸）

第２節　第７地点の調査成果

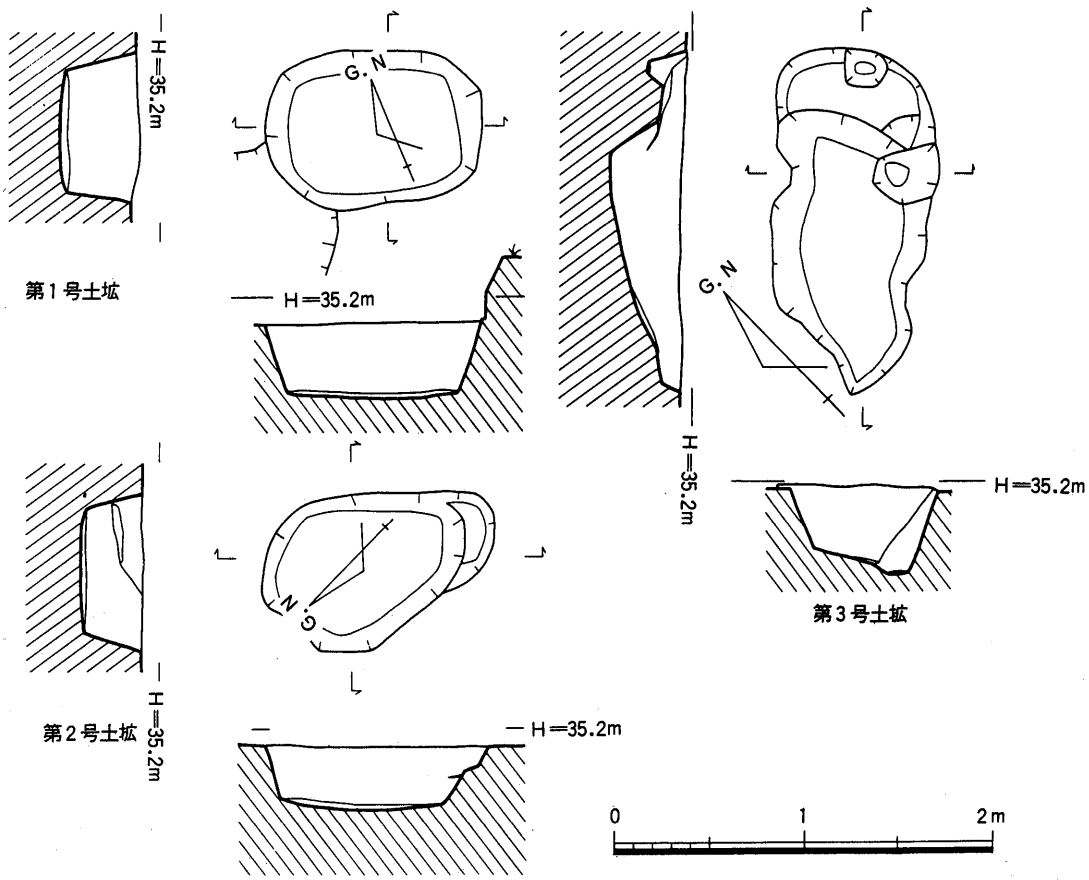
１．調査成果の概要（付図２、第95図、図版63・64）

第７地点は、用水路工事の影響範囲に設定した幅４ｍの北・南側調査およびその中間に設定した中央拡張区と言った限られた調査区ではあったが、遺跡としての様相が第６地点とは全く異なっていた。土坑や不明遺構および調査区とほぼ同じ方向に走る多くの溝状遺構を検出した。（付図２）また、中央拡張区では下層においても多くのピット郡を検出した。

２．遺構・遺物各説

第１号土坑（第81図、図版65）

南側調査区の中央南寄りに位置している。平面形はやや幅広の楕円形を呈しており、長軸1.14ｍ×短軸0.8ｍ、深さ0.4ｍを計る。長軸方位はＮ－67.5°－Ｗをとる。



第81図　第７地点第１～３号土坑実測図（Ｓ＝１／40）

出土遺物（第85図１～５）

破片ながら、弥生土器（１）・土師器（２）・須恵器（３～４）が出土した。３・４は坏蓋であり、内面のかえりが僅かながら口縁部より外に出ている。５の高台は底部のやや内側につけられているが、かなり低いものである。

第２号土坑（第81図、図版65）

南側調査区、第１号土坑の北側に位置している。平面形は不正楕円形を呈しており、南西側で浅い穴と重複している。図示した断面軸とは異なり、長軸1.13m×短軸0.85m、深さ0.34mを計り、長軸方位はＮ－24°－Ｅをとる。

出土遺物（第85図6～10）

破片ながら、弥生土器（６）・土師器（７～８）が出土した。土師器のうち、７は甕口縁部片、８・９は「Ｓ」字状の口縁を呈する坏である。

第３号土坑（第81図、図版66）

南側調査区、第２号土坑の北側に位置している。平面形はかなりいびつな形を呈しており、北東側と南西側とで浅い穴と重複している。底は南西側から北東側へ下り傾斜しており、最深で0.39mを計る。長軸1.3m以上×短軸0.85mを計り、長軸方位はＮ－44°－Ｅをとる。

出土遺構（第85図11・12）

破片ながら、土師器（11）・須恵器（12）が出土した。12は甕口縁部の破片であり、口縁直下の外面に三角形の突帯が１条巡っている。

第４号土坑（第82図、図版66）

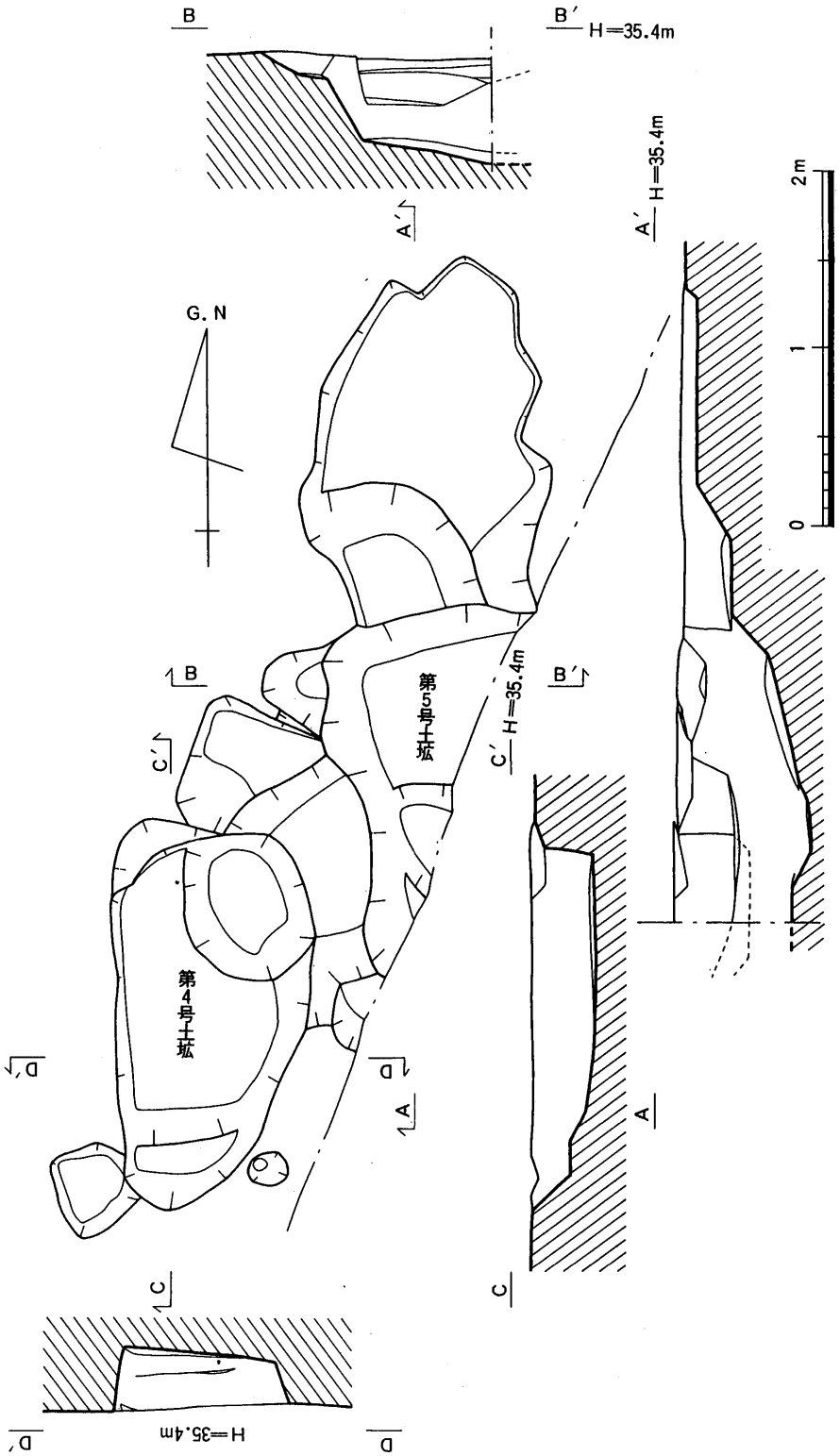
南側調査区北東端寄りに位置している。平面形は不正な長方形を呈している。北東コーナーで他の穴に切られているが、南側の浅い部分は本土坑に伴う段と判断した。底は平らで、深さは南側段0.22m、本体部分で0.35mを計る。長軸2.05m×短軸1.13mを計り、長軸方位はＮ－3.5°－Ｗをとる。

出土遺物（第85図13）

13は胴部最大径の部位に刻目突帯１条を巡る甕の破片である。

第５号土坑（第82図、図版66）

南側調査区、第４号土坑の北東側に位置し、東側は未調査区へ伸びている。北・東側で他の浅い穴と重複しているが、平面形は方形を呈している。底の南寄りに径0.65m・深さ0.1mの穴があり、それを境に北側の底は北から南へ下り傾斜しており、南側の底は平らである。長辺2.0m×短辺1.25m以上を計り、長軸方位はＮ－12°－Ｗをとる。



第82図　第７地点第４・５号土坑実測図（Ｓ＝１／40）

出土遺物（第85図14～16）

破片ながら、弥生土器（16）・土師器（14・15）が出土した。16の甕胴部上半には三角形突帯２条が巡っている。

第６号土坑（第83図、図版67）

南側調査区最北端に位置し、西北側は未調整区へ伸びている。平面形は不正形であり３～４つの穴の重複とも考えられるが、同一遺構として取り扱った。北・東側の浅い穴の底は緩やかな傾斜を有しているが、中心の穴の底は平らである。長軸3.45m×短軸1.3m以上、最深0.5mを計る。長軸方位はＮ－22°－Ｅをとる。

出土遺物（第85図17～21）

小片ながら、土師器（17・18）・須恵器（19～21）が出土した。19・20の坏蓋はその口縁部に大きな差が見られ、19の素口縁に対し、20は嘴状口縁を呈している。21の坏身は、受部の突出度が弱く立ち上がりも短いものであり、19の蓋と組合わさるのかもしれない。

第７号土坑（第83図、図版67）

中央拡張区の南西隅寄りに位置している。平面形は直径1.0～1.1mの円形を呈している。底はやや尖り気味で最深で0.45mを計る。

出土遺物（第85図22）

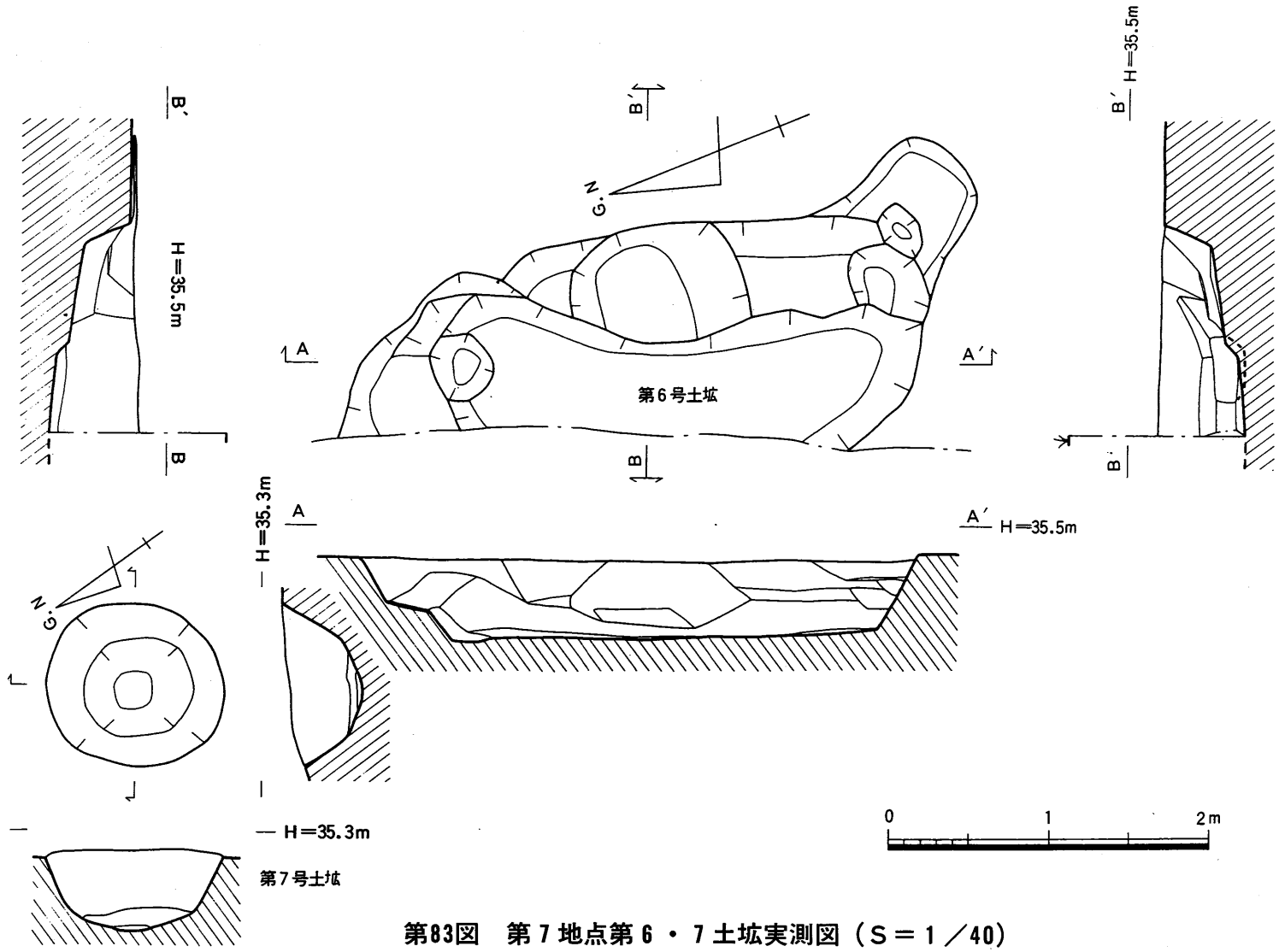
小片ながら、須恵器の甕（22）胴部が出土した。外面に柾目直交の平行線分タタキを、内面に波状文タタキを施している。

第８号土坑（第84図、図版68）

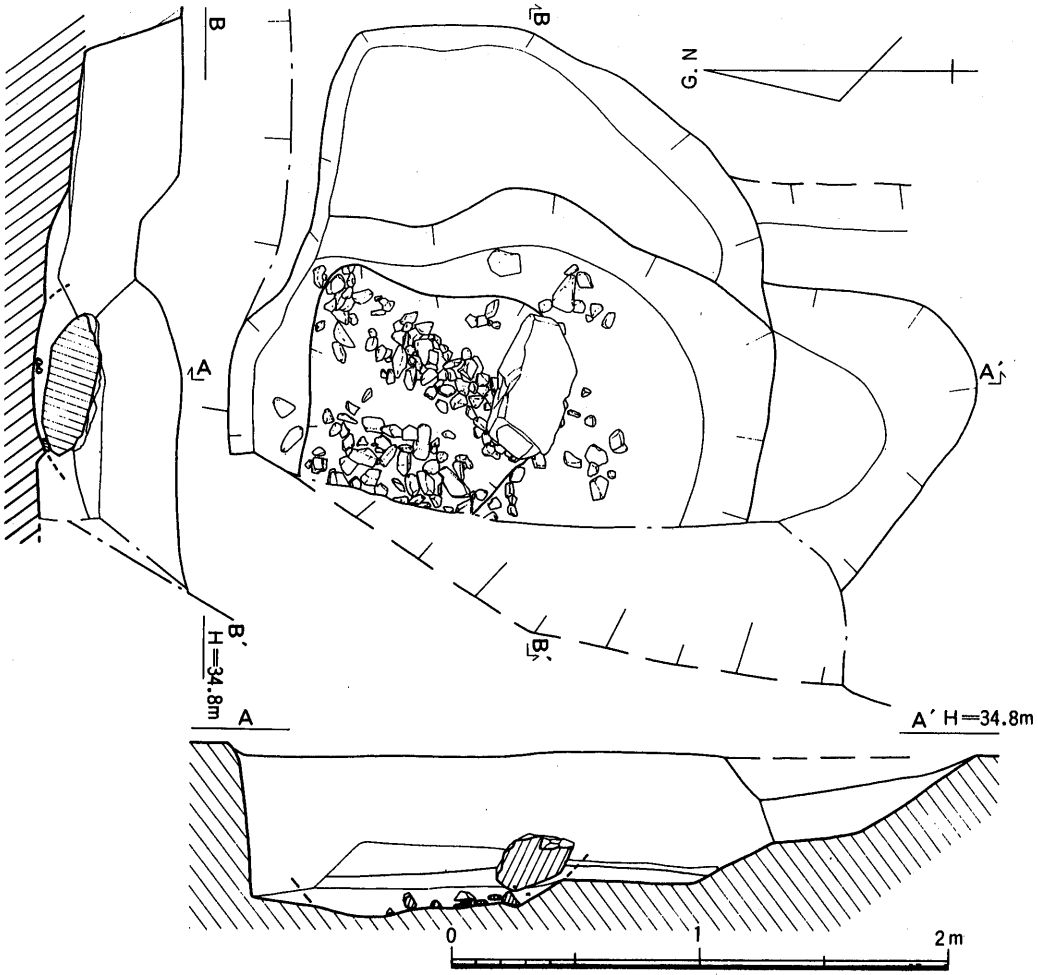
北側調査区の最北端に位置し、西側は未調査区へ伸びている。南北方向で３段掘り、東西方向で２段掘り下がっており、最深部の底には５～30cmの角礫石が敷かれている。敷石南側では、幅45～50cm・長さ約１m・厚さ40cmの花崗岩が倒れた状態で出土した。敷石の残りの良い東辺での方位はＮ－34.5°－Ｅをとり、敷石の上に倒れていた大石の長軸は敷石におおよそ直交している。南北全長6.0m、東西長4.0m以上を計る。

出土遺物（第85図23～26）

破片ながら、弥生土器（23・24）・土師器（25・26）が出土した。



第83図　第7地点第6・7土坑実測図（S＝1／40）

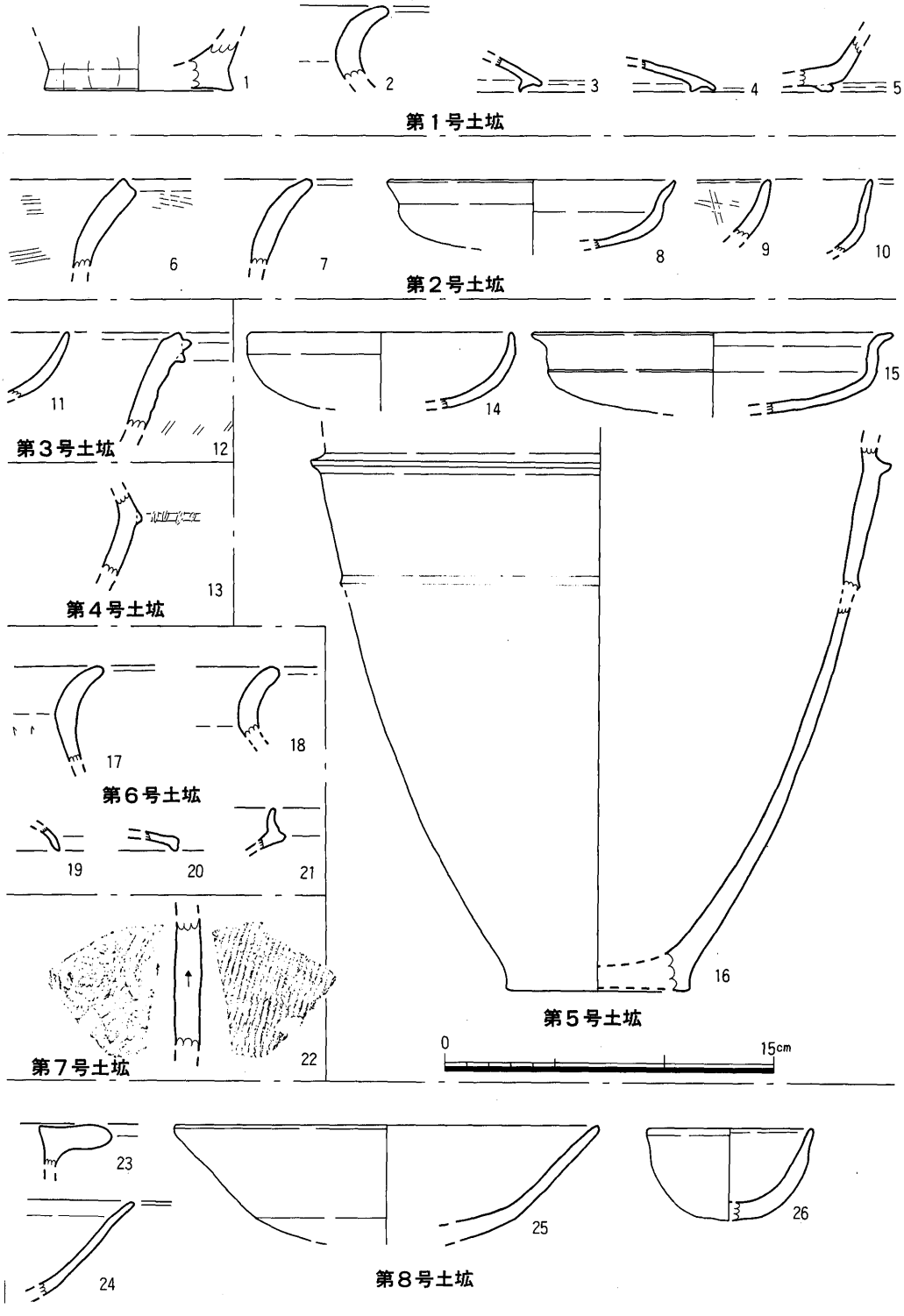


第84図　第7地点第8号土坑実測図（S＝1／30）

溝状遺構（付図2、図版95・63・64）

合計28条の溝状遺構を検出した。全体的に概観すると、南側調査区では北々西－南々東に走行方位をとる狭い溝状遺構がわずかに3条しか検出できなかった。これに対し、中央拡張区および北側調査区では北々東－南々西に走行方位をとる大小の溝状遺構が密集している。特に、中央拡張区東端から北側調査区にかけては幅広く深い溝状遺構が密集している。また、中央拡張区の西側では幅広のものと幅の狭いものがそれぞれ南西側と北東側とに密集している。中央拡張区の中央で検出した第8号溝状遺構は、南側調査区内の溝状遺構につながる可能性がある。

幅の広いものは底がかなり蛇行してえぐれており、砂の堆積も厚く、自然流路（小川）と考えている。これに対し、幅の狭いものは自然流路から（に）結ぶために掘削された人工的な溝と考える。



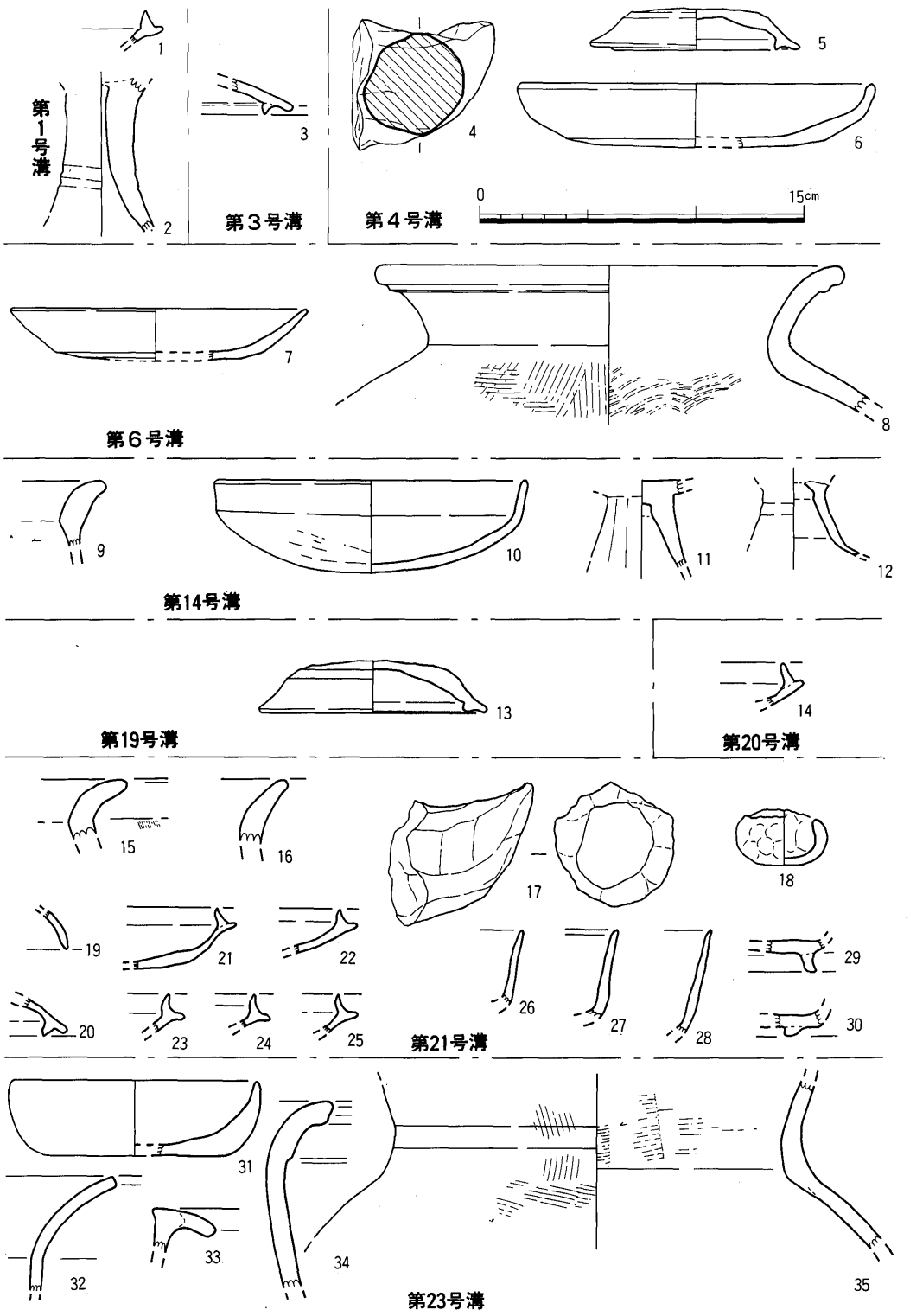
第85図　第７地点第１～８号土坑出土土器実測図（Ｓ＝１／３）

第25表－① 第７地点第１～８号土坑出土土器観察表

遺構	挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
第1号土坑	85-1	甕（底部）	器高残 2.3 底径 8.6	胴部下位ナデ・指オサエ。 底部ヘラケズリ。	底部ナデ。	0.5～1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	内－明黄褐色 外－橙色	
	85-2	甕（口辺部）	器高残 3.4	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－灰黄褐色～灰白色 外－浅黄橙色	
	85-3	壷（須恵器）	器高残 1.6	全面ヨコナデ。	全面ヨコナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	青灰色	
	85-4	蓋（須恵器）	器高残 1.5	全面ヨコナデ。	全面ヨコナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。	やや良好	灰色	
	85-5	高台付坏（須恵器）	器高残 2.7	胴部下位～底部ヨコナデ。 高台部ヨコナデ。	胴部下位ヨコナデ。 底部ナデ。	0.5～2㎜大砂粒わずかに含む。	良好	灰色	
第2号土坑	85-6	甕	器高残 4.2	口縁部端面ヨコナデ。 頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。	頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	淡黄橙色	
	85-7	甕？	器高残 4.0	口縁～頸部タタキ？	不明瞭。	微細雲母少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	内－にぶい黄橙色 外－褐灰色	
	85-8	坏	口径 13.0 器高残 3.1 胴部径 12.0	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 底部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	内－にぶい黄橙色 外－淡黄色	
	85-9	埦	器高残 2.8	口縁部ヨコナデ。 胴部上位ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケの後、ナデ。	微細雲母多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	橙色	
	85-10	坏	器高残 3.4	全面ナデ。	全面ナデ。	微細砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	内－浅黄橙色 外－にぶい黄橙色	
第3号土坑	85-11	埦	器高残 3.0	不明瞭。	不明瞭。	0.5～2㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	橙色	
	85-12	甕（須恵器）	器高残 4.5	口縁～頸部ヨコナデ。 頸部下位粗いハケ。	全面ナデ。	0.5㎜大砂粒少量含む。	良好	内－黄灰色 外－青灰色	口唇部直下に三角形突帯１条
第4号土坑	85-13	甕		不明瞭。 突帯部ヨコナデ。	全面ナデツケ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒少量含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	内－橙色 外－にぶい黄橙色	胴部最大径部刻目突帯１条
第5号土坑	85-14	坏	口径 11.9 器高残 3.5 胴部径 12.2	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部ヘラケズリ。	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部ナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色	
	85-15	坏？	口径 16.4 器高残 3.7 胴部径 15.1	口縁～胴部上半ヨコナデ。 胴部下半～底部ヘラケズリの後、胴部下半ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色	

第25表－②

遺構	挿入番号	器種	法量（cm）	調整		胎土	焼成	色調	備考
				外面	内面				
第5号土坑	85-16	甕（胴部）	器高残 25.0 突帯径 26.5 底径 8.4	胴部ヘラによるナデツケ。 突帯部ヨコナデ。	全面ナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	褐色～暗褐色	胴部上半に三角形突帯2条
第6号土坑	85-17	甕（口辺部）	器高残 4.4	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラケズリ。	微細雲母多く含む。 0.5～1㎜大砂粒少量含む。	やや良好	内－暗灰色 外－灰黄色	
	85-18	甕（口辺部）	器高残 3.3	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヘラケズリ。	微細砂粒多く含む。 0.5㎜大砂粒少量含む。 1～2㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	やや良好		
	85-19	蓋（須恵器）	器高残 1.1	全面ヨコナデ。	全面ヨコナデ。	0.5㎜大砂粒多く含む。	やや良好	褐灰色	
	85-20	蓋（須恵器）	器高残 0.9	全面ヨコナデ。	全面ヨコナデ。	0.5㎜大砂粒少量含む。	やや良好	灰色	
	85-21	坏（須恵器）	器高残 1.9	全面ヨコナデ。	全面ヨコナデ。	微細雲母少量含む。 0.5㎜大砂粒多く含む。	やや良好	灰色	
第7号土坑	85-22	甕(胴部)（須恵器）		格目直交の平行線文タタキ。	波状文タタキ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。	良好	灰色	
第8号土坑	85-23	甕	器高残 2.0	口縁～頸部ヨコナデ。	頸部ナデ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい橙色	
	85-24	鉢？	器高残 4.4	口縁～胴部上位ヨコナデ。 胴部中～下位ナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴部ナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒少量含む。 0.5～2㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑
	85-25	高坏（身部）	口径 19.4 器高残 5.3	口縁～胴部ヨコナデ。 底部ナデ。	口縁～胴部上半ナナメハケの後、ヨコナデ。 胴部下半～底部ナデ。	0.5～1㎜大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。 微細砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
	85-26	埦	口径 7.6 器高 4.2	口縁部ヨコナデ。 胴～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。 胴～底ナデ。	0.5～1㎜大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	明赤褐色	



第86図　第７地点第１・３・４・６・14・19～21・23号溝出土土器実測図（S＝１／３）

第26表－① 第７地点第１・３・４・６・14・19～21・23号溝状遺構 出土土器観察表

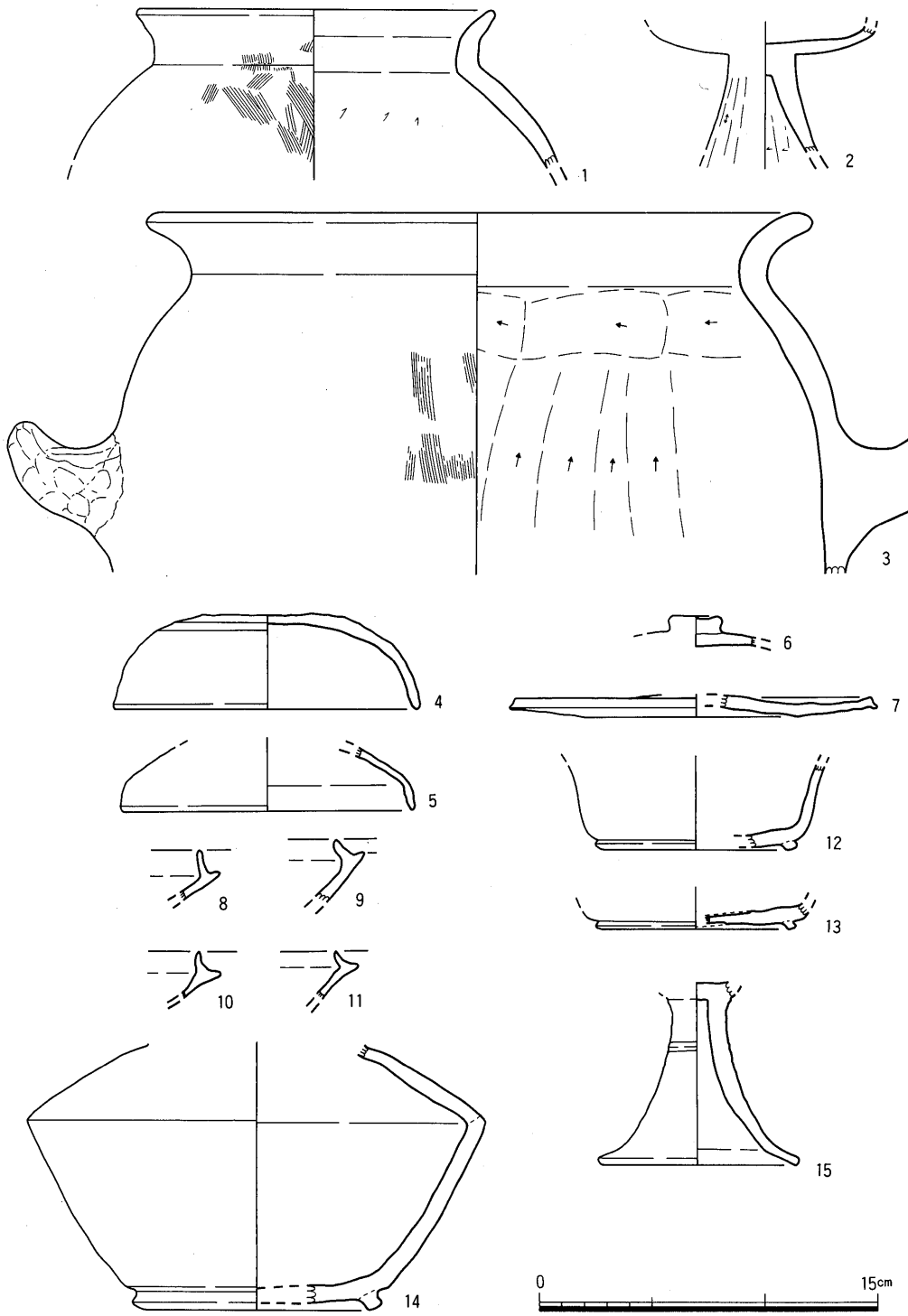
遺構	挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
第1号溝	86－1	身	器高残 1.6	ヨコナデ。	ヨコナデ。	微細雲母わずかに含む。	良好	灰色	
	86-2	高坏（須恵器）	器高残 7.2	脚筒部カキ目の後、ナデ。	脚筒部ナデ。	微細雲母多く含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	暗青灰色	脚筒部凹線２条
第3号溝	86-3	蓋（須恵器）	器高残 1.7	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5～2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	青灰色	
第4号溝	86-4	取手		ヘラケズリの後、ナデ。		微細雲母多く含む。微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	橙色	
	86-5	蓋（須恵器）	口径 9.7 器高 2.0 かえり径7.4	天井部回転ヘラケズリ。体～口縁部ヨコナデ。	天井部不定方向のナデ。体～口縁部ヨコナデ。	微細雲母少量含む。0.5～2mm大砂粒わずかに含む。微細砂粒少量含む。	やや良好	灰色～暗青灰色	
	86-6	鉢	口径 16.6 器高 3.0	口縁部ヨコナデ。胴～底部不明瞭。	口縁部ヨコナデ。胴～底部不明瞭。	微細雲母少量含む。微細砂粒少量含む。	やや良好	にぶい褐色	
第6号溝	86-7	坏	口径 13.8 器高 2.4 底径 9.6	口縁～胴部ヨコナデ。底部回転ヘラケズリ。	口縁～底部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。0.5～2㎜大砂粒わずかに含む。	やや良好	浅黄橙色	
	86-8	甕（須恵器）	口径 21.7 器高残 6.9	口縁部ヨコナデ。頸部カキ目。胴部上位平行線文タタキ。	口縁～頸部ヨコナデ。胴部上位青海波状文タタキ。	微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	灰色～灰白色	
第14号溝	86-9	甕	器高残 3.3	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。胴部上位ヘラケズリ。	微細雲母多く含む。微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	にぶい橙色～にぶい褐色	
	86-10	鉢	口径 14.5 器高 4.3	口縁部ヨコナデ。底部ヘラケズリの後、ナデ。	口縁部ヨコナデ。底部不明瞭。	微細雲母少量含む。微細砂粒わずかに含む。	良好	淡黄橙色	
	86-11	高坏（脚部）	器高残 4.2	脚筒部ヘラケズリの後、ナデ。	身部底部ナデ。脚筒部ナデ。	微細雲母多く含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	浅黄橙色	
	86-12	高坏（脚部）（須恵器）	器高残 3.6	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。1～2㎜大砂粒わずかに含む。微細砂粒多く含む。	良好	暗青灰色	
第19号溝	86-13	蓋（須恵器）	口径 10.6 器高 2.5	天井部回転ヘラケズリ。体～口縁部ヨコナデ。	天井部ナデ。体～口縁部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。微細雲母少量含む。0.5～2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	橙色	
第20号溝	86-14	身（須恵器）	器高残 2.0	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む	不良	内－褐灰色 外－暗灰色	

第26表－②

遺構	挿入番号	器種	法量（cm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
第21号溝	86-15	甕	器高残 2.9	口縁～頸部ヨコナデ。胴部上位タテハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。胴部上位ヘラケズリ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。微細砂粒少量含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
	86-16	甕	器高残 3.1	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。微細雲母多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	橙色	
	86-17	取手		ヘラケズリの後、ナデ。		微細雲母少量含む。0.5㎜大砂粒多く含む。1～2mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい橙色	
	86-18	椀	口径 3.1～3.4 器高 2.2～2.7 胴部径 4.2 底径 1.6	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細砂粒多く含む。微細雲母少量含む。	やや良好	赤褐色	黒斑
	86-19	蓋（須恵器）	器高残 1.9	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	微細砂粒少量含む。0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	暗青灰色	
	86-20	蓋（須恵器）	器高残 1.8	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	灰色	
	86-21	坏（須恵器）	器高残 2.9	口縁～体部ヨコナデ。底部回転ヘラケズリ。	口縁～体部ヨコナデ。底部ナデ。	微細雲母わずかに含む。微細砂粒わずかに含む。	良好	内－灰黄色 外－青灰色	
	86-22	坏（須恵器）	器高残 2.2	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	灰色	
	86-23	坏（須恵器）	器高残 1.9	ヨコナデ。	ヨコナデ	微細雲母わずかに含む 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内－青灰色 外－暗青灰色	
	86-24	坏（須恵器）	器高残 1.6	ヨコナデ。	ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	灰色	
	86－25	坏（須恵器）	器高残 1.8	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5mm大砂粒少量含む。	良好	内－褐灰色 外－赤灰色	
	86-26	坏（須恵器）	器高残 3.5	口縁～体部ヨコナデ。	口縁～体部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	良好	内－灰色 外－暗青灰色	
	86-27	坏（須恵器）	器高残 4.1	口縁～体部ヨコナデ。	口縁～体部ヨコナデ。	微細砂粒少量含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	内－灰色 外－青灰色	
	86-28	坏（須恵器）	器高残 4.8	口縁～体部ヨコナデ。	口縁～体部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	内－灰色 外－暗青灰色	
	86-29	高台付坏（須恵器）	器高残 1.5	底部ナデ。高台部ヨコナデ。	底部ナデ。高台部ヨコナデ。	微細雲母わずかに含む。微細砂粒少量含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	灰色	

第26表－③

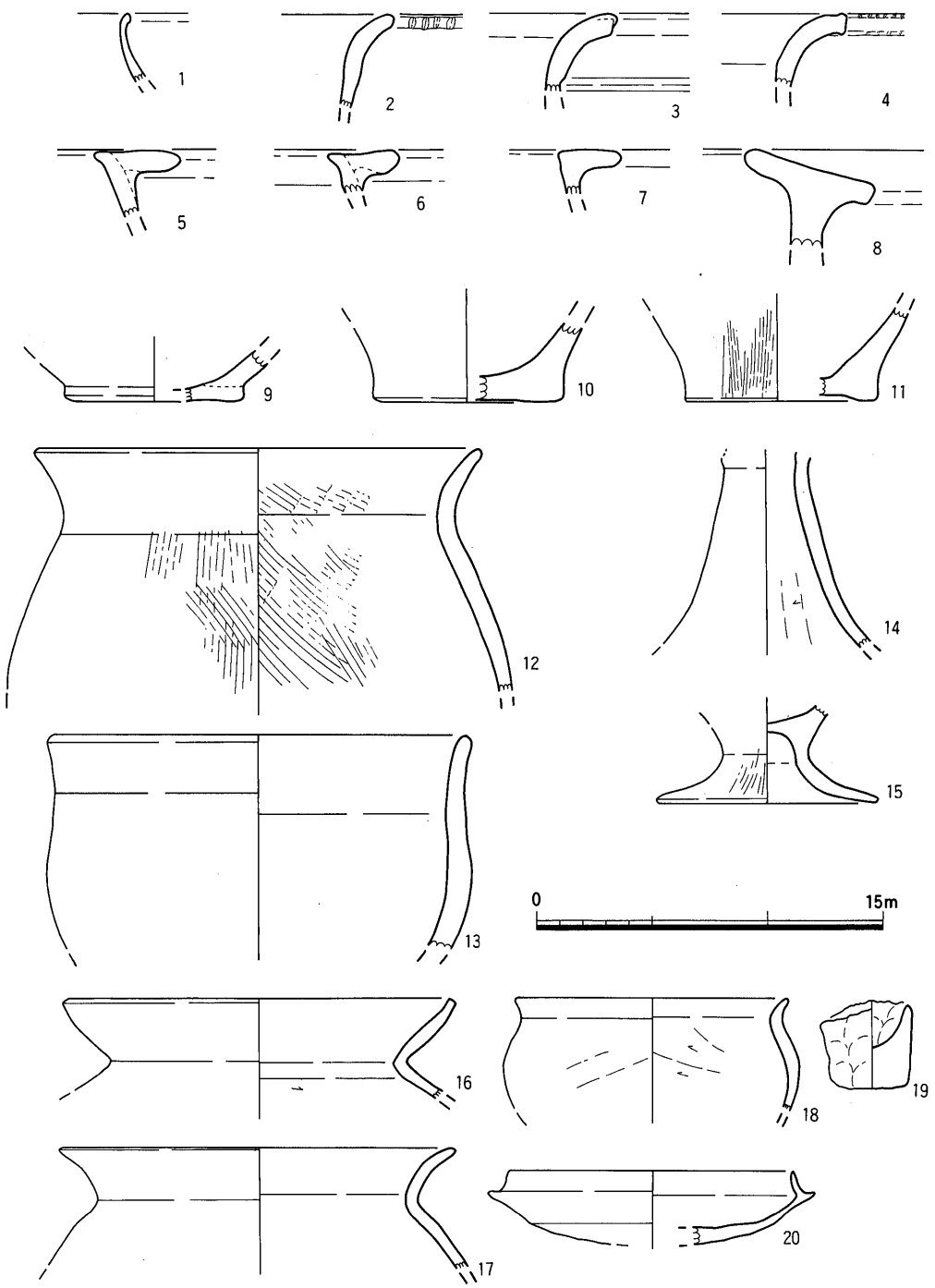
遺構	挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
第21号溝	86-30	高台付坏(須恵器)	器高残 1.3	高台部ヨコナデ。	底部ナデ。	微細砂粒わずかに含む。	やや良好	灰白色	
第23号溝	86-31	鉢？	口径 11.3 器高 3.5 胴部径 11.7 底径 8.1	不明瞭。	不明瞭。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい赤褐色	
	86-32	鉢？	器高残 5.4	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	微細雲母多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	浅黄色～褐灰色	
	86-33	甕	器高残 2.1	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 2㎜大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
	86-34	壷	器高残 8.6	不明瞭。 ナデ。？	不明瞭。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 2mm大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	明黄褐色	
	86-35	壷	器高残 7.9	頸部タテハケの後、ナデ。 胴部上位ナナメハケ。	頸部ヨコハケ。 胴部上位不明瞭。	0.5mm大砂粒多く含む。 1～2mm大砂粒少量含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	にぶい黄褐色	



第87図　第7地点第13号溝出土土器実測図（S＝1／3）

第27表　第7地点第13号溝状遺構　出土土器観察表

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
87-1	壷?	口径 15.8 器高残 7.1	口縁部ヨコナデ。 頸部タテハケの後ヨコナデ。 胴部上位ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコナゲ。 胴部ヘラケズリ。	0.5～2mm大砂粒多く含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	にぶい黄橙色	
87-2	高坏?	器高残 5.7 坏部底径9.7	坏身底部ナデ。 脚筒部ヘラケズリ。	坏身底部ナデ。 脚筒部ヘラケズリ・ナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	黄橙色	
87-3	取手付甕	口径 29.5 器高残 16.0 胴部径 32.5	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部タケハケ。 把手ナデツケ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヨコのヘラケズリ。 胴部上～中位タテのヘラケズリ	微細砂粒多く含む。 0.5～2mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	橙色	
87-4	蓋(須恵器)	口径 13.6 器高 4.3	天井部回転ヘラケズリ。 体～口縁部ヨコナデ。	天井部不定方向のナデ。 体～口縁部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～2mm大砂粒わずかに含む。	良好	青灰色	
87-5	蓋(須恵器)	口径 13.0 器高残 2.8	天井部下半～口縁部ヨコナデ。	天井部下半～口縁部ヨコナデ。	微細砂粒少量含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内－灰色 外－緑灰色	
87-6	蓋(つまみ)(須恵器)	つまみ径 2.4 つまみ高 0.8	天井部回転ヘラケズリ。 つまみ部ヨコナデ。	天井部ナデ。	0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	灰色	
87-7	蓋(須恵器)	口径 16.3 器高残 1.0	天井部回転ヘラケズリ。 口縁部ヨコナデ。	天井部ナデ。 口縁部ヨコナデ。	微細砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	灰色	歪み著しい
87-8	坏(須恵器)	器高残 2.3	ヨコナデ。	ヨコナデ。	微細砂粒少量含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	暗灰色	
87-9	坏(須恵器)	器高残 2.8	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5mm大砂粒少量含む。2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	灰色	
87-10	坏(須恵器)	器高残 2.1	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	にぶい赤褐色	
87-11	坏(須恵器)	器高残 2.1	ヨコナデ。	ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	灰色	
87-12	高台付坏(須恵器)	器高残 3.9 高台径 9.0	体～底部ヨコナデ。 高台部ヨコナデ。	体部ヨコナデ。 底部ナデ。	微細砂粒多く含む。	良好	内－灰色 外－灰黄褐色	
87-13	高台付坏(須恵器)	器高残 1.2 高台径 8.9	高台部ヨコナデ。 底部ナデ。	底部ナデ。	微細砂粒多く含む。	良好	灰色	
87-14	高台付壷(須恵器)	器高残 11.9 胴部径 20.3 高台径 11.1	胴部～高台部ヨコナデ。 底部不明瞭。	不明瞭。	0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。 2mm大砂粒わずかに含む。	良好	内－青灰色 外－暗青灰色	
87-15	高坏(脚部)(須恵器)	器高残 8.1 底径 8.9	脚部ヨコナデ。	坏身底部ナデ。 脚筒部ナデ。	微細砂粒多く含む。0.5～2mm大砂粒わずかに含む	良好	暗青灰色～青灰色	



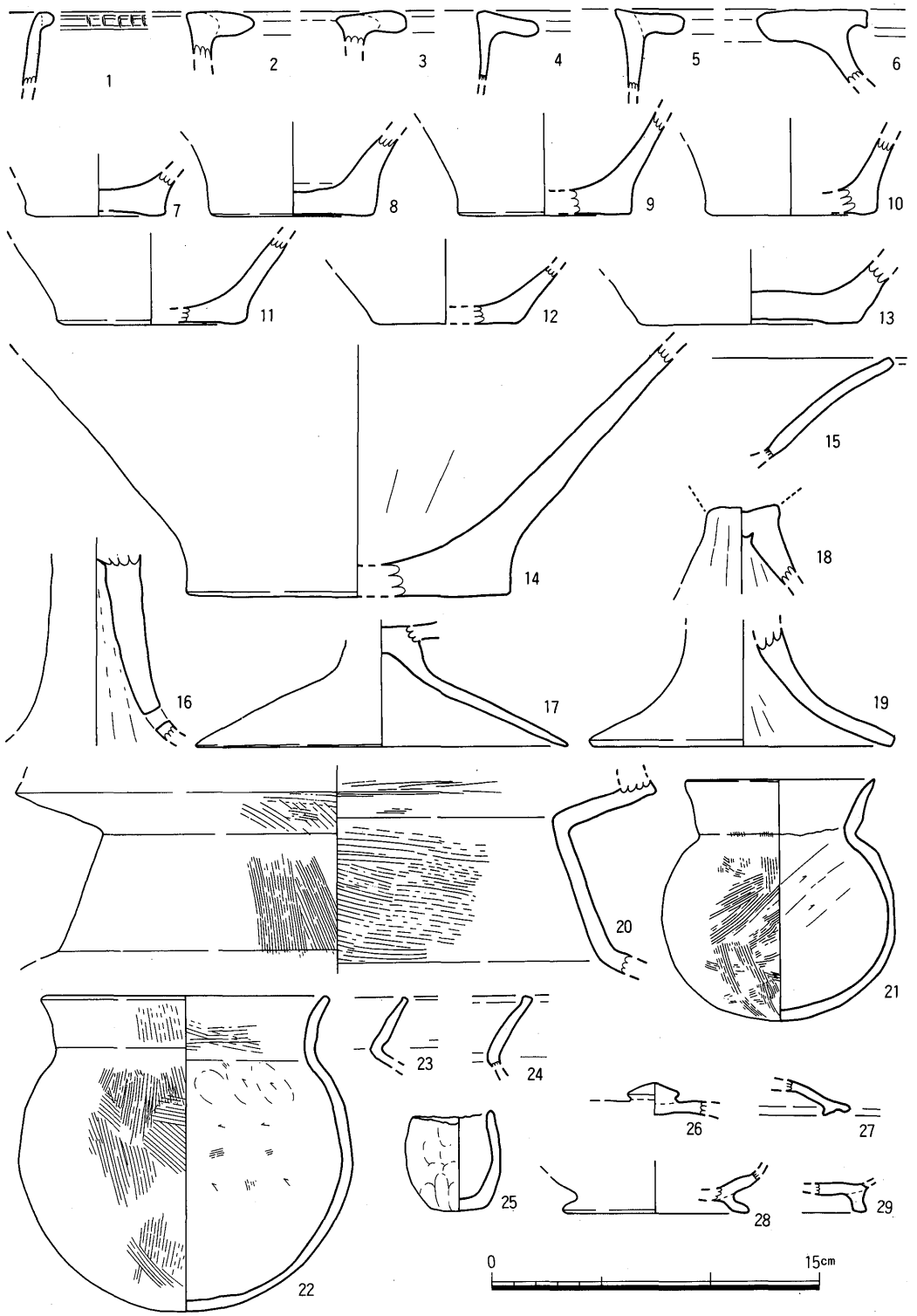
第88図　第７地点第22号溝出土土器実測図（Ｓ＝1/3）

第28表－①　第７地点第22号溝状遺構出土土器観察表

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
88-1	壺 (口辺部)	器高残 3.1	口縁部ヨコナデ。頸部ハケ？の後、ナデ仕上げ。	口縁～頸部ナデ。	微細雲母わずかに含む。微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	灰黄褐色	
88-2	甕 (口辺部)	器高残 4.1	不明瞭。	不明瞭。	微細雲母多く含む。0.5～2mm大砂粒多く含む。	やや良好	浅黄橙色	口唇部刻目
88-3	甕 (口辺部)	器高残 3.4	口縁部端部ヨコナデ。頸部タテハケの後、ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	黒斑
88-4	甕 (口辺部)	器高残 3.2	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	1～2mm大砂粒少量含む。0.5mm大砂粒多く含む。	やや良好	浅黄橙色	口縁部端面刻目２条
88-5	甕 (口辺部)	器高残 3.0	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。	良好	内－にぶい橙色 外－にぶい褐色	
88-6	甕 (口辺部)	器高残 1.9	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁部～頸部ヨコナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。1mm大砂粒わずかに含む。	良好	浅黄橙色	
88-7	甕 (口辺部)	器高残 2.0	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。	やや良好	浅黄橙色	
88-8	甕 (口辺部)	器高残 4.3	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。1～2mm大砂粒少量含む。	やや良好	にぶい黄橙色	
88-9	甕 (底部)	器高残 2.3 底径 7.8	不明瞭。	不明瞭。	微細雲母多く含む。微細砂粒わずかに含む。	やや良好	赤褐色	
88-10	甕 (底部)	器高残 3.5 底径 8.3	胴部下位タテハケの後、ナデ。底部不明瞭。	胴部下位～底部不明瞭。	0.5mm大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。1～2mm大砂粒少量含む。	やや良好	内－にぶい橙色 外－淡赤橙色	
88-11	甕 (底部)	器高残 4.1 底径 8.3	胴部下位タテハケ。底部ナデ。	胴部下位ナデ。	微細雲母わずかに含む。微細砂粒少量含む。0.5～2mm大砂粒わずかに含む。	良好	内－灰褐色～にぶい橙色 外－にぶい橙色	
88-12	甕	口径 19.3 器高残 10.6	口縁～頸部ヨコナデ。胴部上位タテ・ナナメハケ。	口縁～頸部ナナメハケの後、ヨコナデ。胴部上位ナナメハケ。	微細砂粒多く含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。1mm大砂粒わずかに含む。微細雲母わずかに含む。	良好	にぶい橙色	

第28表－②

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
88-13	鉢	口径 18.3 器高残 9.2 胴部径 18.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部不明瞭。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ナデ。	0.5mm大砂粒少量含む。	良好	灰色	
88-14	高坏	頸部 3.7 器高残 8.7	脚筒部不明瞭。	脚筒部ヘラケズリ。	微細砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	黄橙色～褐灰色	
88-15	脚付壷? (脚部)	器高残 4.3 底径 9.6	底部～脚部タテハケの後、ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚部ナデ。脚裾部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	浅黄橙色	
88-16	甕	口径 17.0 器高残 4.4	口縁～胴部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部上位ヘラケズリ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	良好	内－にぶい黄橙色 外－にぶい橙色	
88-17	甕	口径 17.2 器高残 5.3	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部不明瞭。	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部不明瞭。	0.5～2mm大砂粒多く含む。 0.5mm大雲母わずかに含む。	良好	内－浅黄橙色 外－橙色	
88-18	壺	口径 11.8 器高残 4.9 胴部径 12.8 底径 3.4	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。?	口縁～頸部ヨコナデ。 胴部ヘラナデ。	微細雲母少量含む。 0.5mm大砂粒わずかに含む。	良好	橙色	
88-19	碗形手捏ね土器	口径 3.8～4.0 器高 3.0～3.9	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細砂粒わずかに含む。	やや良好	赤褐色	
88-20	坏 (須恵器)	口径 3.8～4.0 器高残 13.2 受け部径14.2	口縁～体部ヨコナデ。 底部ヘラケズリ。	口縁～体部ヨコナデ。 底部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	青灰色	



第89図　第７地点第25号溝出土土器実測図（Ｓ＝1/3）

第29表－①　第７地点第25号溝状遺構出土土器観察表

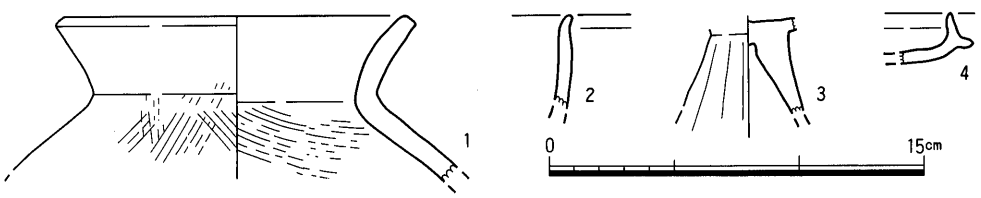
挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
89-1	甕(口辺部)	器高残 3.4	ナデツケ。	ナデ。	微細雲母多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。		にぶい褐色	口縁部刻目突帯１条
89-2	甕(口辺部)	器高残 2.2	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。微細雲母多く含む。	やや良好	橙色	
89-3	甕(口辺部)	器高残 1.6	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。1mm大砂粒わずかに含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい橙色	
89-4	甕(口辺部)	器高残 3.2	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5～2mm大砂粒少量含む。微細砂粒多く含む。微細雲母少量含む。	やや良好	橙色	
89-5	甕(口辺部)	器高残 3.9	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。微細雲母少量含む。	やや良好	内－にぶい黄橙色 外－橙色	
89-6	甕(口辺部)	器高残 3.4	口縁～頸部ナデ。	口縁～頸部ナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。1～2mm大砂粒少量含む。微細雲母少量含む。	やや良好	明赤褐色	
89-7	甕(底部)	器高残 2.1 底径 6.4	胴部下位指オサエ。底部ナデ。	底部ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。		にぶい黄褐色	
89-8	甕(底部)	器高残 3.8 底径 7.5	胴部下位ナデ・指オサエ。底部ナデ。	胴部下位～底部ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。2～3mm大砂粒少量含む。微細雲母少量含む。		内－褐灰色～黒褐色 外－にぶい橙色～橙色	
89-9	甕(底部)	器高残 4.8 底径 8.0	胴部下位ナデ。	胴部下位・底部ナデ。	微細雲母少量含む。0.5～1mm大砂粒多く含む。		浅黄橙色	
89-10	甕(底部)	器高残 3.6 底径 7.9	胴部下位ナデ。底部ナデ。	胴部下位～底部ナデ。	微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒多く含む。2～3mm大砂粒少量含む。微細雲母少量含む。		内－にぶい黄橙色～灰黄褐色	
89-11	甕(底部)	器高残 4.0 底径 8.7	胴部下位ナデ。底部ナデ。	胴部下位～底部ナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。		内－にぶい黄橙色 外－淡赤橙色	

第29表－②

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
89-12	甕(底部)	器高残 2.7 底径 6.8	胴部下位ナデ。 底部ナデ。	胴部下位～底部ナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。		外－浅黄橙色～褐灰色	
89-13	甕(底部)	器高残 3.0	胴部下位ナデツケ。 底部ナデ。	胴部下位～底部ナデ。	0.5mm大砂粒多く含む。 1mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい赤褐色	
89-14	甕(底部)	器高残 11.7 底径 14.8	不明瞭。	胴部下位～底部ヘラナデ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。 2～3mm大砂粒わずかに含む。 微細雲母少量含む。	やや良好	内－にぶい褐色 外－にぶい橙色	
89-15	高坏(坏部)	器高残 4.7	口縁～胴部ヨコナデ。	口縁～胴部ヨコナデ。	微細雲母少量含む。 微細砂粒多く含む。 0.5mm大砂粒少量含む。 1～2mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内－橙色 外－黒褐色	黒斑
89-16	高坏(脚部)	器高残 8.7	脚筒部ナデ仕上げ。	脚筒部タテのナデツケ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。		橙色	円形スカシ
89-17	脚付鉢(脚部)	器高残 5.6 底径 17.1	脚ナデ。 脚裾部ヨコナデ。	脚部ヘラケズリの後、ナデ仕上げ。 脚裾部ヨコナデ。	微細雲母少量含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。 微細砂粒少量含む。		橙色	
89-18	高坏(脚部)	器高残 3.7	脚筒部タテのヘラケズリ。	脚筒部ヨコのヘラケズリ。	微細雲母わずかに含む。 0.5～2mm大砂粒わずかに含む。		にぶい橙色	
89-19	高坏(脚部)	器高残 5.5	底径 14.0 不明瞭。	脚筒部～裾部ヨコハケ。 脚裾部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒少量含む。	やや良好	浅黄橙色	
89-20	二重口縁壺	擬口縁径29.2 器高残 9.0 くびれ径21.4	擬口縁部ナナメハケ。 頸部タテハケ。	擬口縁部ヨコハケ。 頸部ヨコ・ナナメハケ。	微細雲母多く含む。 微細砂粒少量含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	良好	淡褐色	擬口縁
89-21	壺	口径 8.3～8.7 器高 11.1 胴部径 10.6	口縁～頸部ヨコナデ。 胴～底部ヘラケズリ。	胴～底部ハケの後、ナデ。	微細雲母わずかに含む。 微細砂粒多く含む。 0.5～1mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	にぶい褐色	
89-22	壺	口径 13.2 器高 15.3 底径 14.5	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。 胴部上半タテ・ナナメハケ。 胴部下半タケ・ナナメハケの後、ナデ。	口縁～頸部ヨコハケの後、ヨコナデ。 胴部ヘラケズリ。 底部不定方向のヘラナデ。	微細砂粒多く含む。0.5～1mm大砂粒少量含む。 微細雲母わずかに含む。	やや良好	淡褐色～黒褐色	

第29表－③

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
89-23	甕(口辺部)	器高残 3.2	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5～1mm大砂粒少量含む。		明赤褐色	
89-24	甕(口辺部)	器高残 3.3	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	0.5mm大砂粒少量含む。	浅黄	橙色	
89-25	埦形手捏ね土器	口径 3.3～3.6 器高 4.3～4.5 同部径 4.4 底径 2.4	全面指によるナデ・オサエ。	全面指によるナデ・オサエ。	微細砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。0.5～1mm大砂粒わずかに含む。0.7mm大砂粒1コ含む。	やや良好	橙色	
89-26	蓋(つまみ)(須恵器)	つまみ径 2.4 つまみ高 0.8	天井部回転ヘラケズリ。つまみ部ヨコナデ。	天井部不定方向のナデ。	0.5～1mm大砂粒わずかに含む。		灰色	
89-27	蓋(須恵器)	器高残 1.6	体～口縁部ヨコナデ。	体～口縁部ヨコナデ。	微細砂粒わずかに含む。		灰色	
89-28	高台付坏(須恵器)	器高残 1.7 高台径 8.6	体部下位ヘラケズリ。高台部ヨコナデ。	体部下位ナデ。	微細砂粒わずかに含む。		灰色	
89-29	高台付坏(須恵器)	器高残 1.4	高台部ヨコナデ。	体部下位ナデ。	微細雲母わずかに含む。微細砂粒わずかに含む。		灰色	



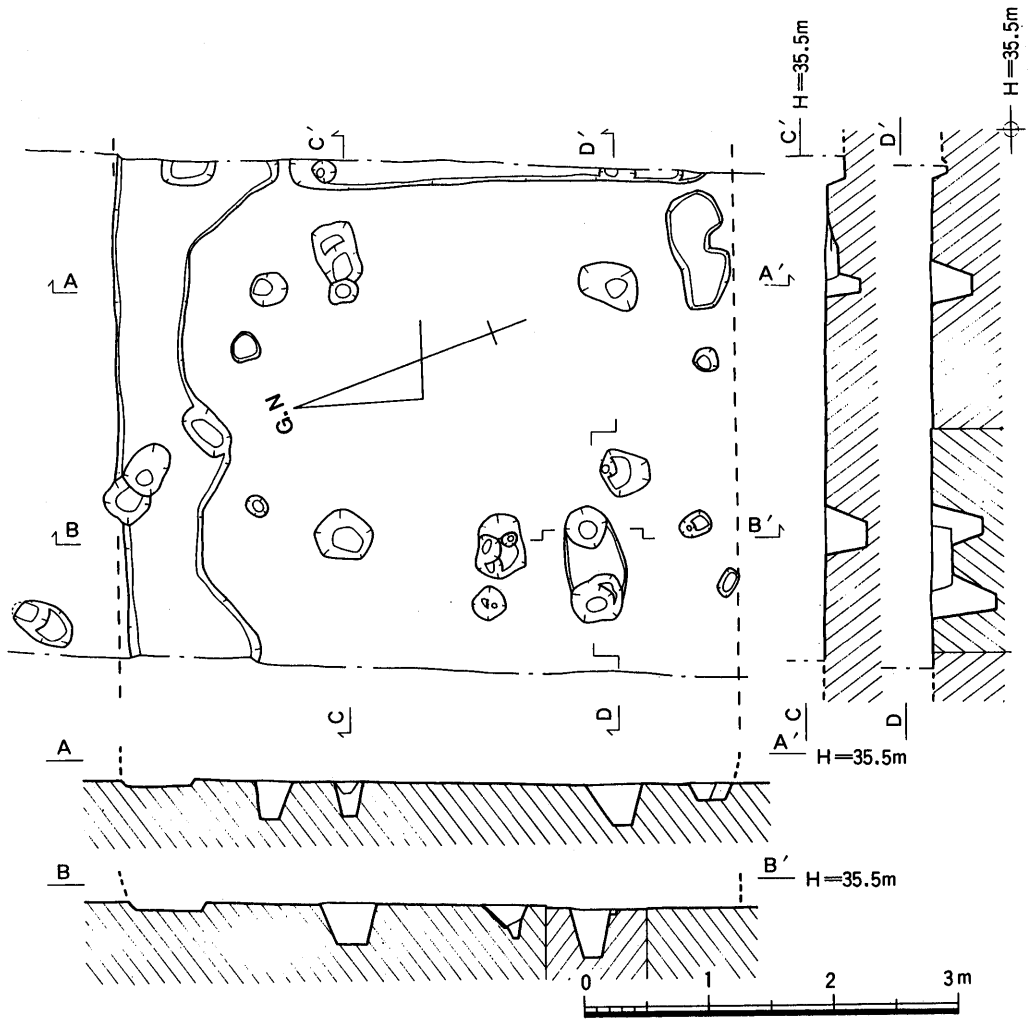
第90図　第７地点第26号溝出土土器実測図（Ｓ＝１／３）

第30表　第７地点第26号溝状遺構出土土器観察表

挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
90-1	壷	口径 14.4 器高残 6.7	口縁～頸部タテハケの後、ヨコナデ。胴部上位ナナメハケ。	口縁～頸部ヨコナデ。胴部上位ナナメハケ。	0.5～1mm大砂粒多く含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	内－にぶい黄橙色～褐灰色 外－灰黄褐色	
90-2	鉢？	器高残 3.9	不明瞭。	不明瞭。	微細雲母多く含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	内－橙色 外－にぶい橙色	黒斑
90-3	高坏(脚部)	器高残 3.9	脚筒部ヘラケズリ。	脚筒部ヨコのヘラケズリ。	微細雲母少量含む。微細砂少量含む。	やや良好	にぶい橙色	
90-4	坏(須恵器)	器高残 2.1	口縁～底部ヨコナデ。	口縁～底部ヨコナデ。	微細砂粒多く含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。微細雲母わずかに含む。	やや良好	にぶい黄橙色	

出土遺物（第86～90・96～100図、図版91・94・95）

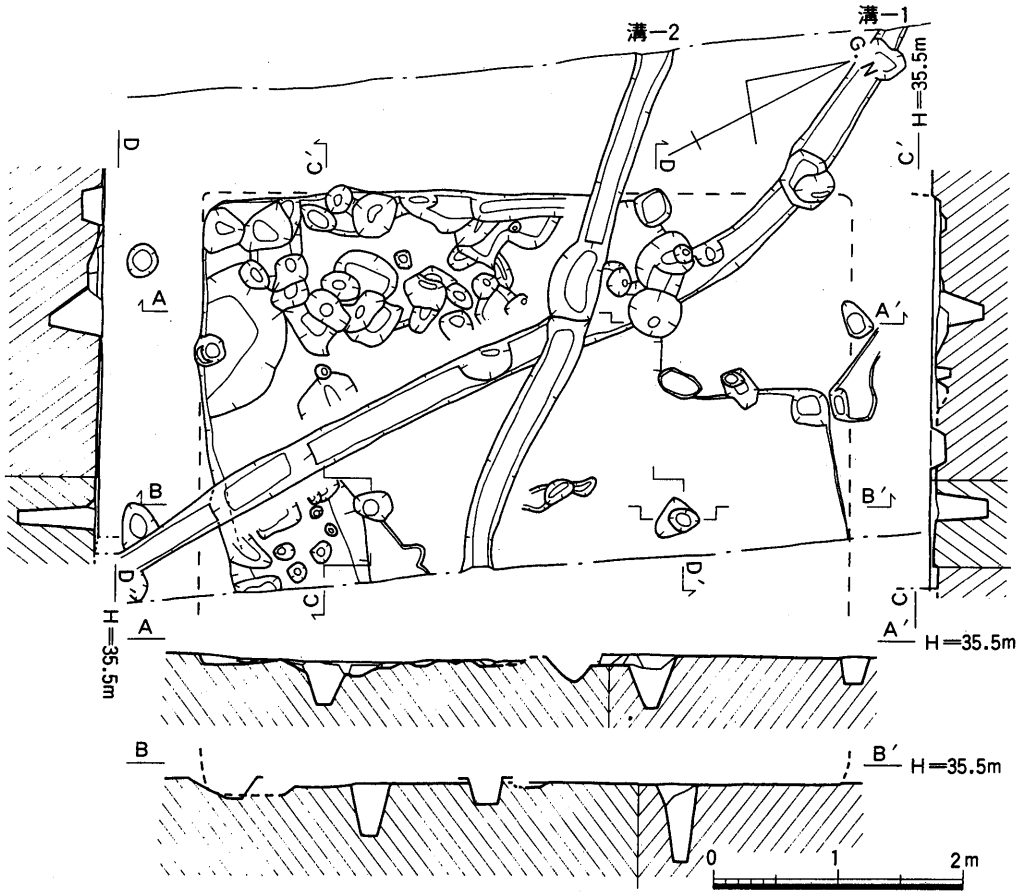
土器・石器が出土した。土器（第86～90図・図版91）は、破片が大半であるが弥生土器・土師器・須恵器が出土した。量的な比較からすると、弥生土器よりも土師器・須恵器が多い。土器編年上の時期差もかなりあり、それは溝状遺構の存続期間の長さを示しているものと考える。



第91図　第７地点第１号不明遺構実測図（Ｓ＝1/60）

第１号不明遺構（第91図）

南側調査区中央に位置し、東・西側とも未調査区へ伸びている。浅い溝状遺構と複数のピットとの組み合わせから竪穴式住居跡の下層部分と４本柱の主柱穴とも考えたが、後世の削平が著しいため全体の平面形を検出できず、不明遺構として取り扱った。仮の主軸方位は、Ｎ－20°－Ｅをとる。



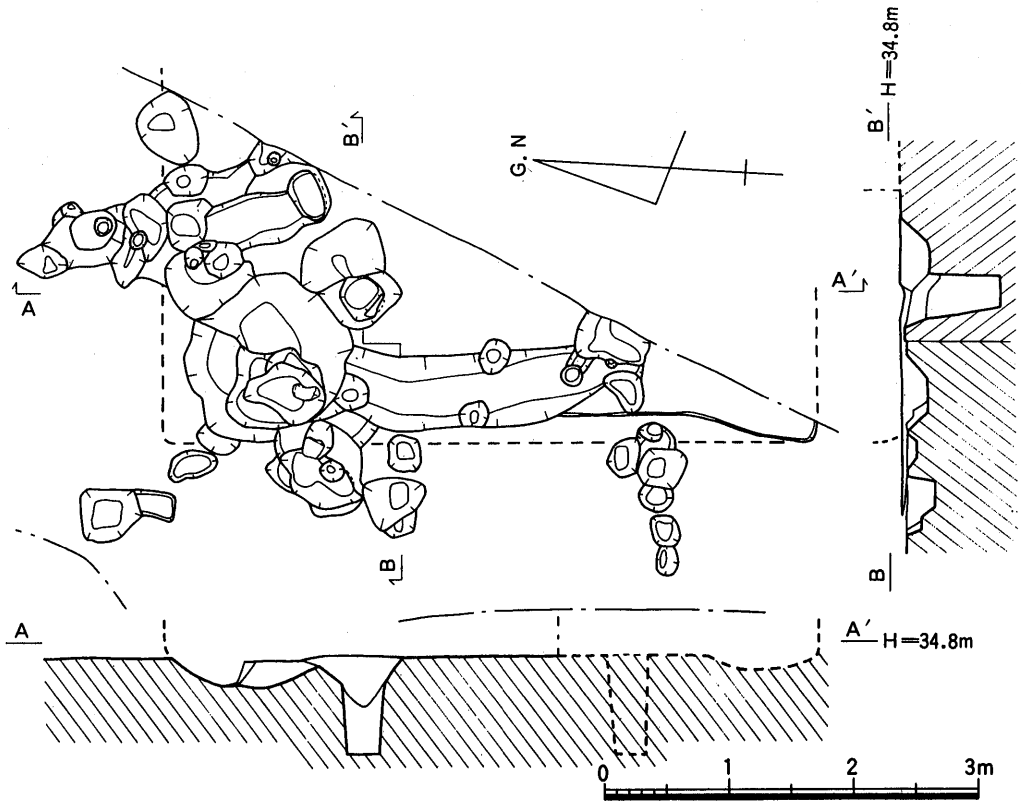
第92図　第７地点第２号不明遺構実測図（Ｓ＝1/60）

第２号不明遺構（第92図）

南側調査区中央からやや北東寄りに位置し、東側は未調査区へ伸びている。第１・２号溝状遺構に切られており、後世の削平も著しく、残りが非常に悪い。第１号不明遺構と同様に多くのピットの中から深さのあるものを抽出してみると、４本の柱穴が復元できる。しかしながら、南北と東西の柱間隔に著しい差があるため、不明遺構として取り扱った。仮の主軸方位は、Ｎ－28°－Ｅをとる。

出土遺物（第94図）

小片ながら須恵器が出土している。１・２は蓋として復元したものである。３は高台付きの坏である。２の色調が青灰色であるのに対し、１・３の色調は赤みを帯びている。



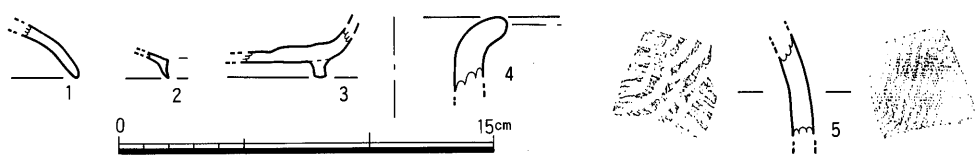
第93図　第７地点第３号不明遺構実測図（S＝1/60）

第３号不明遺構（第93図）

南側調査区の最南端に位置している。第１・２号不明遺構と同様に溝状遺構と多くのピットから竪穴式住居跡を復元したが、同じく不明遺構として取り扱った。仮の主軸方位は、N－4°－Wをとる。

出土遺物（第94図）

土師器の甕（４）と須恵器の壷（５）が小片ながら出土している。５は、外面に平行線文タタキの後にカキ目を、内面に同心円文タタキを施している。



第94図　第７地点第２・３号不明遺構出土土器実測図（S＝1/3）
（1～3-第２号、４・５-第３号）

第31表　第７地点第２・３号不明遺構出土土器観察表

遺構	挿入番号	器種	法量(cm)	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調	備考
第2号不明遺構	94-1	蓋(須恵器)	器高残 6.7	体～口縁部ヨコナデ。	体～口縁部ヨコナデ。	微細雲母多く含む。微細砂粒少量含む。	やや良好	灰赤色	
	94-2	蓋(須恵器)	器高残 1.1	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	0.5mm大砂少量含む。	良好	青灰色	
	94-3	高台付坏(須恵器)	器高残 2.1	底部回転ヘラケズリ。	高台部ヨコナデ。体～底部ナデ。	微細雲母多く含む。微細砂粒少量含む。	良好	内－褐灰色 外－にぶい赤橙色	
第3号不明遺構	94-4	甕	器高残 3.1	口縁～頸部ヨコナデ。	口縁～頸部ヨコナデ。	微細雲母多く含む。0.5～2mm大砂粒多く含む。	やや良好	橙色	
	94-5	壺？(須恵器)	器高残 3.1	胴部平行線文タタキの後、カキメ。	胴部同心円文タタキ。	微細雲母少量含む。0.5mm大砂粒わずかに含む。	やや良好	青灰色	

下層検出ピット郡（第95図、図版72・73）

中央拡張区における遺構検出面は、黒色土層上面であり、多くの溝状遺構を検出した。この上面での調査において黒色土層中に石器の存在を確認していた。このため、黒色土層を縄文時代の包含層と考え、黒色土の掘り下げと、黒色土層より下での遺構の検出を行った。

その結果、黒色土層からの時期を知り得る遺物は出土しなかったが、下層面において黒色土を埋土する多くのピットを検出した。検出したピット郡から建物跡の復元を試みたが、確実な建物跡の復元はできなかった。

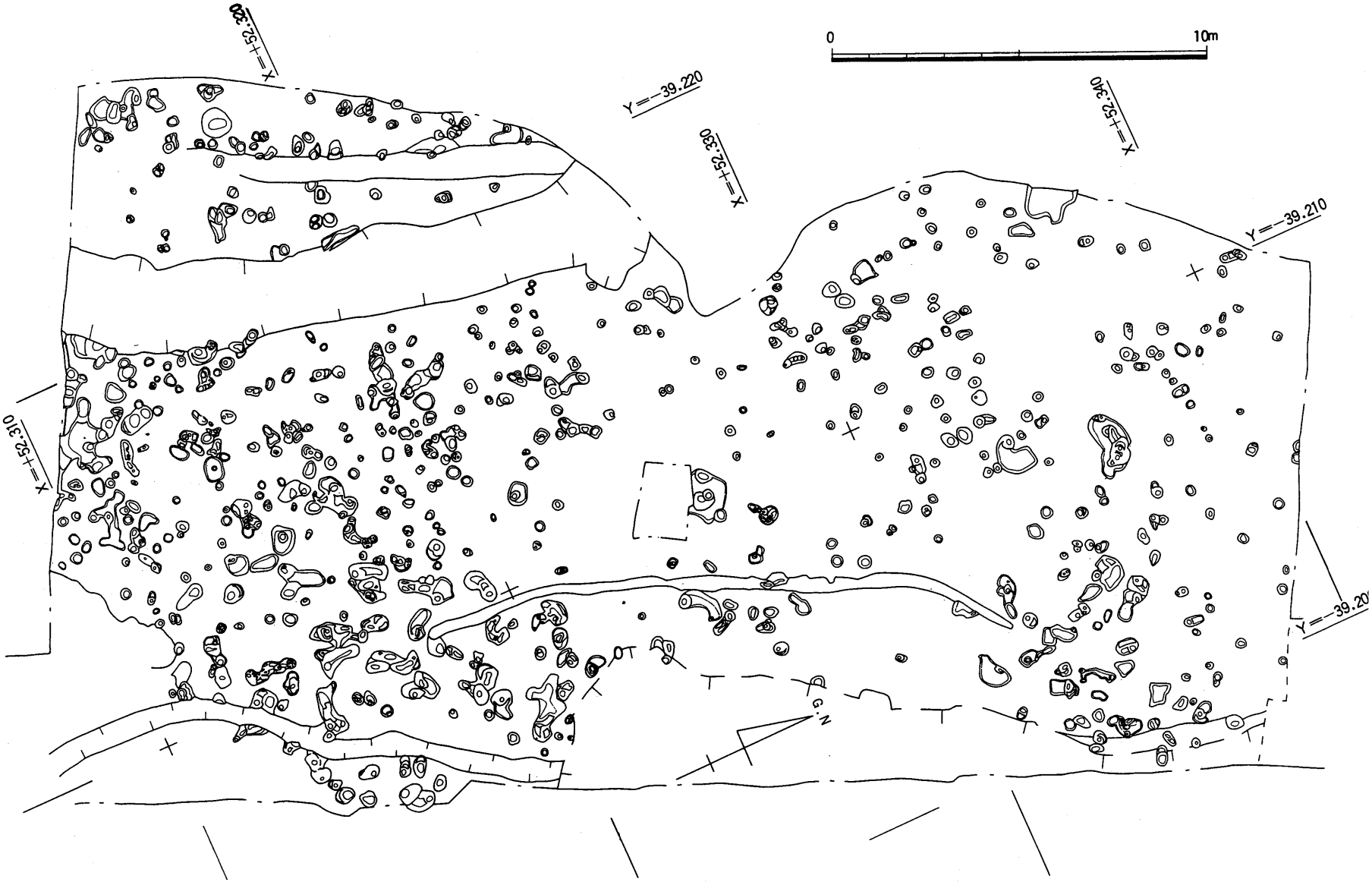
ピット郡は大きく南半と北半とに集中し、中央部分は希薄である。南半では密集しており、全く復元し得なかった。北半では、調査区の東側コーナー付近と西側付近および、北側コーナー付近に円形（？）を呈するようなまとまりを考えたが、確証はない。

３．第７地点出土の石器（第96～100図、図版94・95）

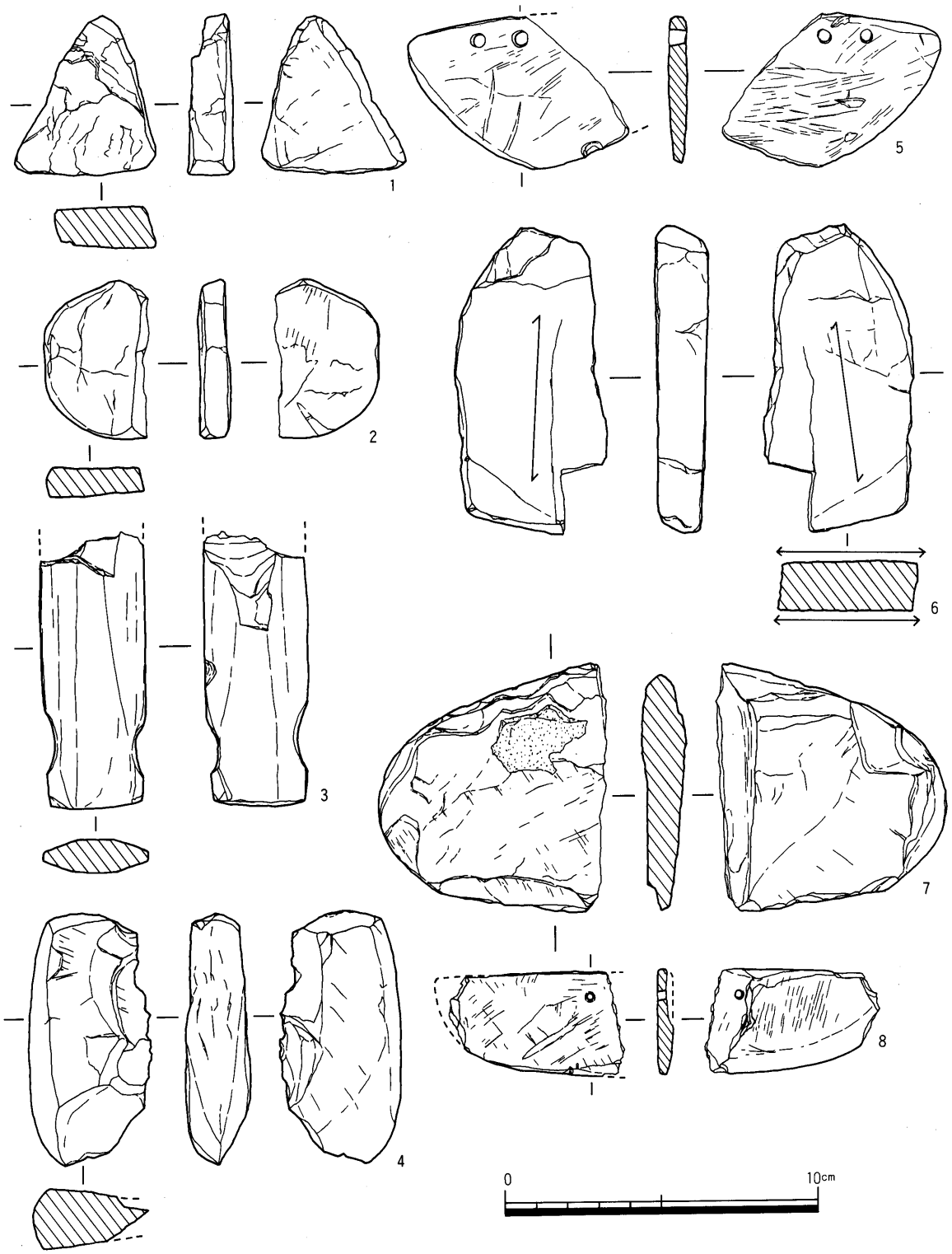
第７地点からは多くの石器が出土しており、その大半は溝状以降からの出土である。石器の種類は、不定形刃器・石鏃・石斧・磨石・敲石・台石・石包丁・石剣・砥石・有孔石玉・その他の石製品である。

１は、第４号溝状遺構出土のアプライト質花崗岩系統の石製品である。平面形は略三角形で、断面長方形を呈し、最大厚み1.4cmを計る。

２は、第６号溝状遺構出土のアプライト質花崗岩系統の石製品である。平面形は略半月形で、断面は一方の短辺が丸みを帯びた長方形を呈している。最大厚み1.0cmを計る。



第95図　第７地点中央拡張区下層検出ピット群配置図（Ｓ＝1/150）



第96図　第７地点出土石器実測図①　（S＝1/2）

3は、第6号溝状遺構出土の細粒砂岩系統の石剣である。身部の切っ先側半分ほどが欠損している。茎部に両側から浅い抉りを入れて関を形成している。残存部分では刃の研ぎだしはなく平坦面を有しており、両面の鏑部分も切っ先に行くに従いその幅を減じながらも、平坦面をなしている。残存長8.6cm、身幅3.3～3.4cm、身厚1.1cm、関幅3.25cm、茎長2.65～3.2cm、茎尻幅2.95cmを計る。

4は、第7号溝状遺構出土の細粒砂岩系統の石斧である。刃部の大半と片長辺を欠損しているが、蛤刃状を呈するものと思われる。残存長8.15cm、最大身幅3.95cm、最大厚2.1cmを計る。

5は、第8号溝状遺構出土の酸性凝灰質シルト岩系統の石包丁である。本来は直線の背から大きく湾曲する刃部を有していたものの欠損品を再加工して使用したものであろう。2つの穿孔は、場所的には再加工時のものであろう。残存最大長7.55cm、本来の身幅4.9cm、身厚0.3～0.6cmを計る。使用磨滅のため明確ではないが、片刃である。

6は、第9号溝状遺構出土のアプライト質花崗岩系統の砥石である。表裏両面に縦方向の擦痕が認められる。断面形は長方形を呈している。長さ9.8cm、最大幅4.8cm、厚み1.4～1.6cmを計る。

7は、第13号溝状遺構出土の砂質片岩系統の敲石と思われる石製品である。欠損品であるが、平面形は楕円形を呈するものと思われる。縁辺には剝離痕が認められる。残存長7.3cm、最大幅8.0cm、厚み0.4～1.45cmを計る。

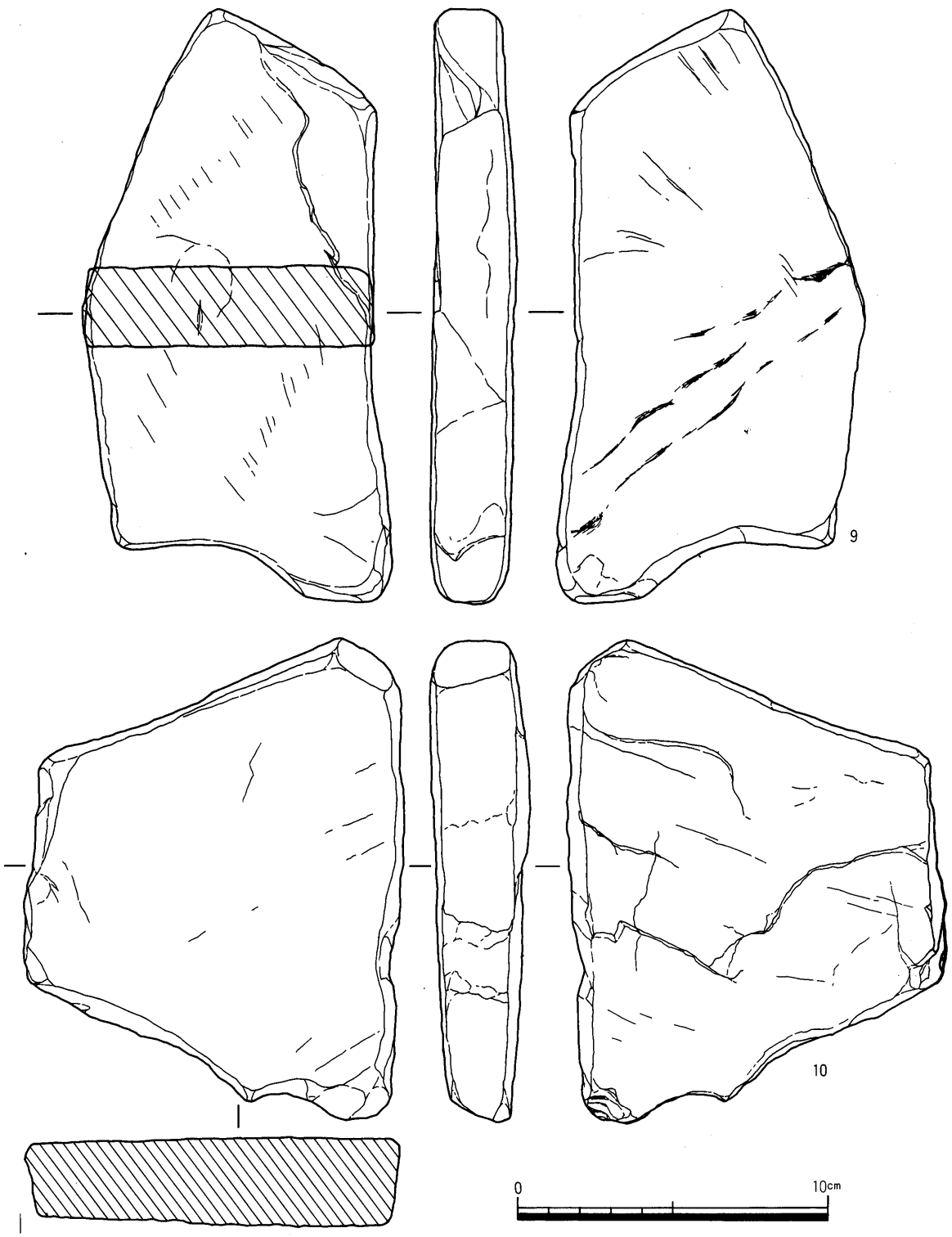
8は、第13号溝状遺構出土の酸性凝灰質シルト岩系統の石包丁である。全体の約半分を欠損し、短辺側も欠損しているが、平面形は長方形を呈する。使用磨滅のため明確ではないが、両刃であろう。表裏両面とも縦・斜め方向の擦痕が認められる。残存長5.65cm、最大幅3.4cm、厚み0.2～0.5cmを計る。

9は、第6号溝状遺構出土の細粒アプライト質花崗岩系統の台石である。断面形は長方形を呈している。最大長17.3cm、最大幅9.4cm、厚み2.5～2.6cmを計る。

10も、第6号溝状遺構出土の細粒アプライト質花崗岩系統の台石である。平面形は台形を呈し、断面形は長方形を呈している。上辺長7.2cm、下辺長13.8cm、最大幅15.6cm、厚み2.1～3.2cmを計る。

11は、第4号溝状遺構出土の中粒ヘイリョク岩系統の磨石である。約半分を欠損している。両面とも磨痕があり、側縁部の一部に敲打痕が認められる。残存長6.1cm、最大幅9.5cm、最大厚3.9cmを計る。

12は、第13号溝状遺構出土の角閃石安山岩系統の磨石である。両面とも磨痕があり、側縁部両端にも磨痕あるいは敲打痕が認められる。長さ8.15cm、最大幅6.8cm、最大厚4.45cmを計る。



第97図　第７地点出土石器実測図②　（S＝1/2）

13は、第14号溝状遺構出土の砂質片岩系統の石製品である。半分欠損しているが、石包丁の未製品と思われる。残存長8.5cm、最大幅7.0cm、最大厚1.8cmを計る。

14は、第23号溝状遺構出土の細粒花崗岩系統の石製品である。基本的な平面形は台形であるが、短辺が深く長辺が浅く窪んでいる。断面形は長方形を呈している。長さ4.9cm、短辺2.2cm、長辺4.85cm、厚み1.3cmを計る。

15は、第6号溝状遺構出土の細粒花崗岩系統の石玉である。直径1.2cmの丸玉であり、片側から人為的に穿孔が施されている。

16～27（第99図）は、すべて無茎の石鏃である。平面形は三角形を基本とするが、基部に抉りがあるものと無いものとの2種類がある。

16は、第4号土坑出土で、石材はサヌカイト様岩石である。薄い薄片の縁辺部を調整して作成した剝片鏃出ある。長さ2.25cm、最大幅1.5cm、最大厚0.2cmを計る。

17は、第6号溝状遺構出土で、石材はサヌカイト様岩石である。縁辺は鋸歯状を呈している。長さ1.8cm、最大幅1.35cm、最大厚0.3cm弱を計る。

18も、第6号溝状遺構出土で、石材は乳白色の黒曜石である。長さ1.65cm、最大幅1.35cm、最大厚0.3cmを計る。

19は、第23号溝状遺構出土で、石材は黒曜石である。基部両端が欠損している。長さ1.45cm、最大幅1.5cm、最大厚1.25cmを計る。

20は、第19号溝状遺構出土で、石材は黒曜石である。基部両端が欠損している。長さ1.6cm、残存最大幅1.45cm、最大厚0.3cmを計る。

21は、第13号溝状遺構出土で、石材は黒曜石である。長さ2.4cm、最大幅1.35cm、最大厚み0.4cmを計る。

22は、第21号溝状遺構出土で、石材はサヌカイト様岩石である。長さ2.75cm、最大幅1.75cm、最大厚0.4cmを計る。

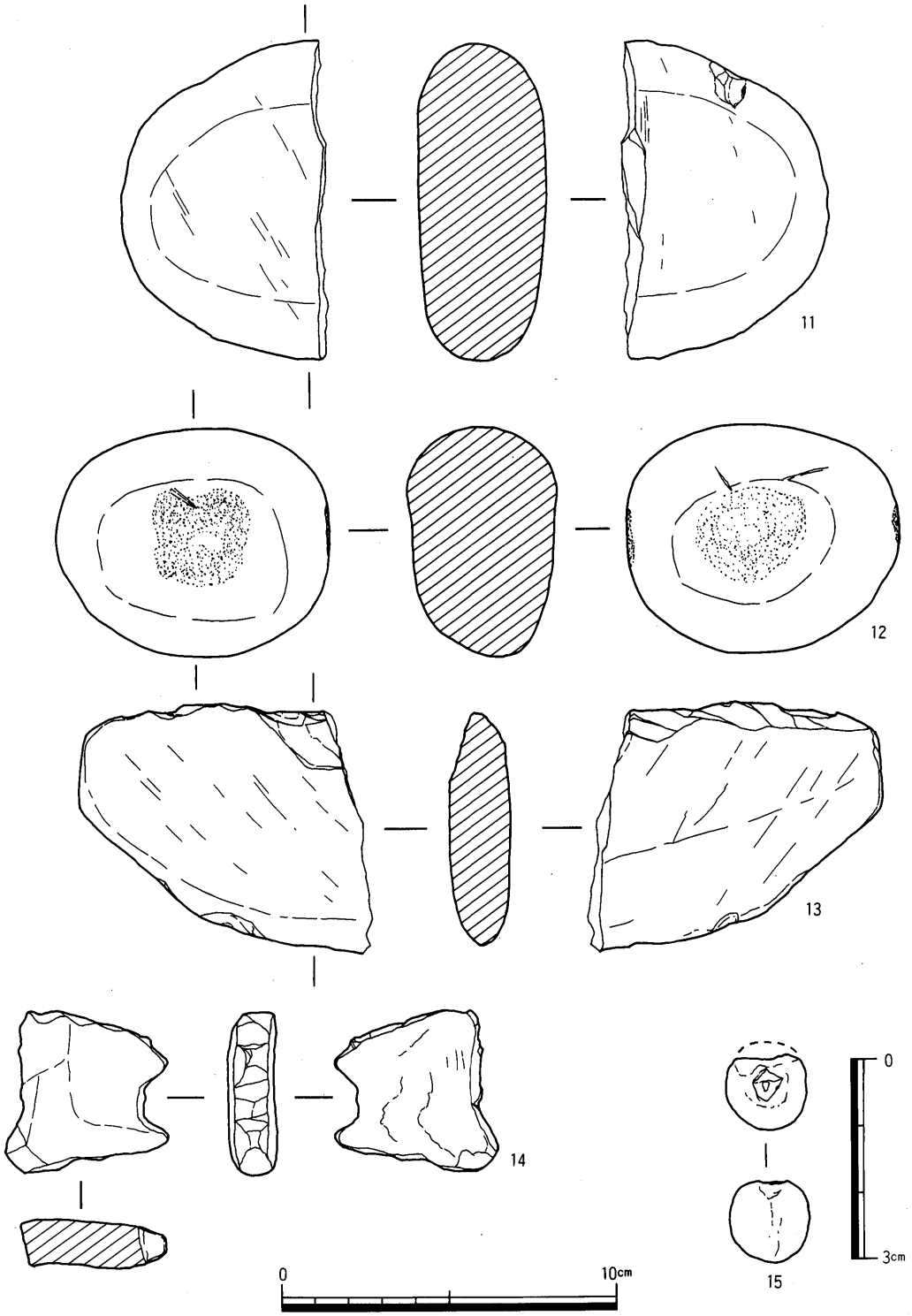
23は、第21号溝状遺構出土で、石材は黒曜石である。長さ1.7cm、最大幅1.05cm、最大厚0.2cmを計る。

24は、第22号溝状遺構の北東周辺からの出土で、石材はサヌカイト様岩石である。先端部が欠損している。現在長1.55cm、最大幅1.5cm、最大厚0.3cmを計る。

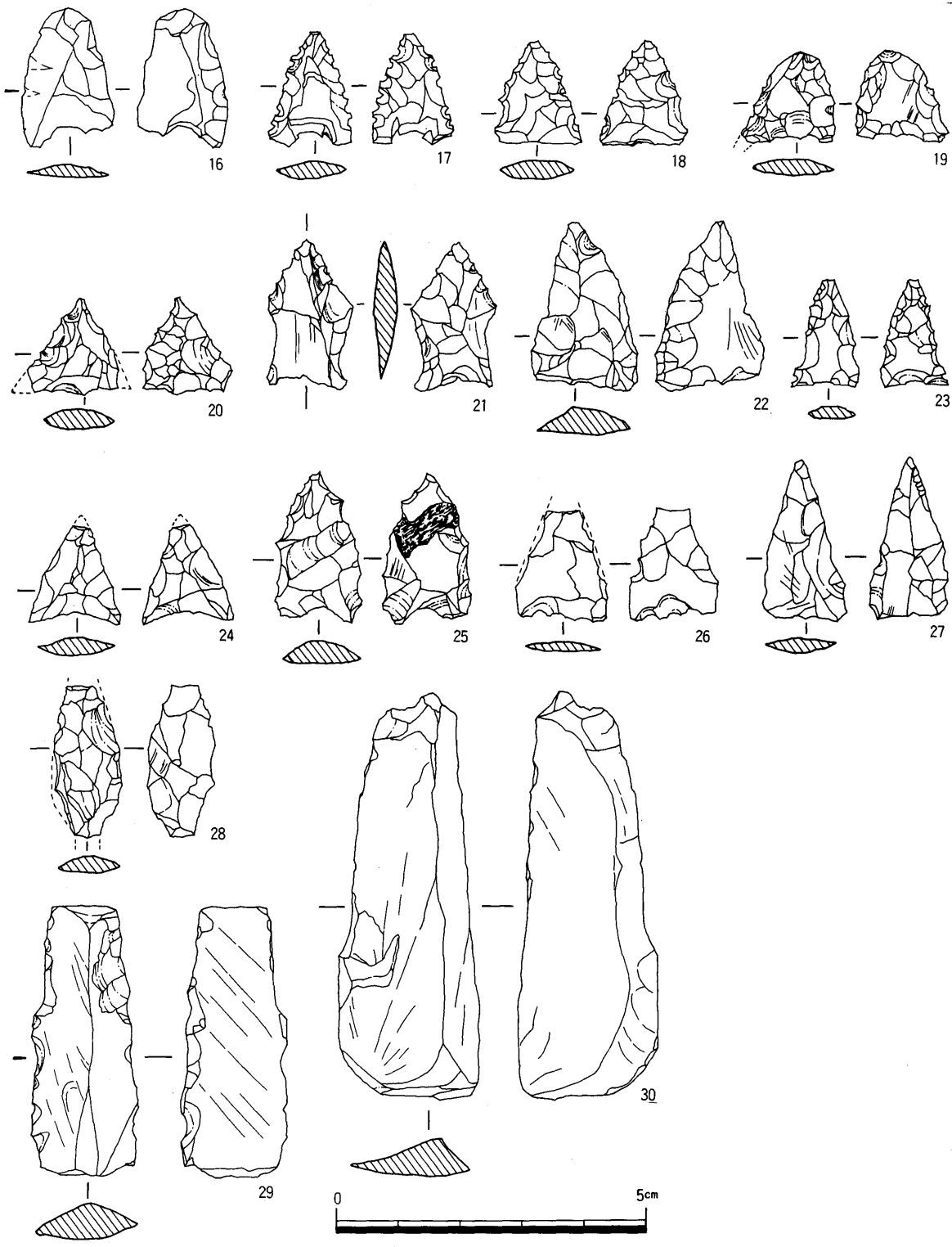
25は、第25号溝状遺構出土で、石材は黒曜石である。剝片鏃であり、石材表面が残っている。長さ2.35cm、最大幅1.45cm、最大厚0.35を計る。

26も、第25号溝状遺構出土で、石材はサヌカイト様岩石である。先端部が欠損している。残存長1.75cm、最大幅1.45cm、最大厚の0.15cmを計る。

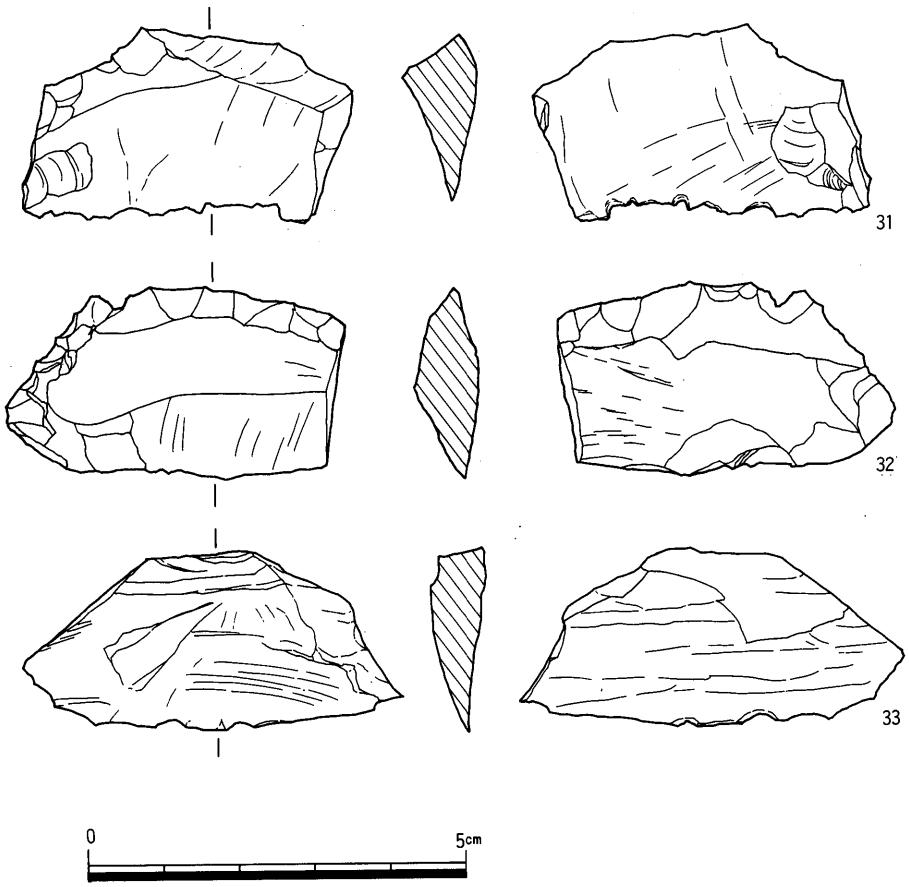
27は、第27号溝状遺構出土で、石材はサヌカイト様岩石である。長さ2.65cm、最大幅1.25cm、



第98図　第７地点出土石器実測図③　（S＝1/2・原寸）



第99図　第７地点出土石器実測図　（原寸）



第100図　第７地点出土石器実測図　（原寸）

最大厚0.25cmを計る。

29・30（第99図）は、サヌカイト様岩石の縦長剥片の三稜石器である。

29は、第22号溝状遺構出土で、長さ4.35cm、幅1.05～1.7cm、最大厚0.55cmを計る。

30は、第26号溝状遺構出土で、長さ6.55cm、幅1.3～2.2cm、最大厚0.6cmを計る。

31～33（第100図）は、使用痕のある不定形石器である。

31は、第13号溝状遺構出土で、石材は黒曜石である。長さ4.1cm、最大幅2.5cm、最大厚0.95cmを計る。

32は、第14号溝状遺構出土で、石材はサヌカイト様岩石である。長さ4.3cm、最大幅2.6cm、最大厚0.85cmを計る。

33は、第21号溝状遺構で、石材はサヌカイト様岩石である。長さ5cm、最大幅2.3cm、最大厚0.7cmを計る。

第V章　ま　と　め

第1節　第6地点

第6地点における遺構は、弥生・古墳時代の竪穴式住居跡と、年代を確定し得なかった掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構およびその他のピットであった。

竪穴式住居跡は、その形態と年代において大きく2種類がある。

1つは、長方形の平面プランを呈し、主軸上に2本の主柱穴を置き、その中間に円形もしくは方形の炉を切っているものである。全てではないが、片方の長壁中央に接して屋内土坑を持つものや、両短壁側にベット状遺構を有しているものがある。規模において大小2種類あり、大型同士が重複することは無いが、小型のものでは重複が著しい。両者に時間差があると思われるが、大まかな年代としては弥生時代後期の中頃から後半（一部終末近く）の中でおさまり、土器の形式差から大型→小型の推移が考えられる。このことは、造りが丁寧で大型のものは重複することもなく安定した状況を示しているのに対し、小型のものは著しい状況の変化があったことを示している。

他の竪穴式住居跡は、略方形の平面プランを呈し、4本の支柱穴を基本とし、不正楕円形の炉を切っているものである。年代としては古墳時代の中期前半（5世紀前半～中頃）と考える。

掘立柱建物跡は、掘方および棟方向がおおよそ同一かあるいはほぼ直交しており、掘立柱建物跡同士の重複も無いことから、同一時期に存在していたと考えられる。また、他の遺構との切り合い関係から、弥生時代後期の竪穴式住居跡より新しく、溝状遺構より古いものである。さらに、古墳時代中期の竪穴式住居跡とは全く切り合っておらず、同一時期に存在していた可能性もある。

第2節　第　7　地　点

第7地点における遺構は、溝状遺構・土坑・不明遺構および下層のピット群であった。

溝状遺構を直接古代条里に結びつけることは現状では躊躇されるが、何らかの水利事業が行われていたことには違いない。自然流路（小川）と人工的溝との関係や、長い年代幅がある出土遺物、および周辺の遺跡の調査成果からすると、以下のことが考えられる。

周辺では弥生時代前期末～中期前半の集落が営まれており、自然流路の利用もなされていたであろう。あるいは、その前の縄文時代にも既に流れていた可能性は充分考えられる。また、人工的な溝の掘削は、古墳時代に入ってからではないかと考える。古墳時代中期（5世紀代）の遺物も少量出土しているが、主体は古墳時代後期、特に6世紀末～7世紀初頭に比定できる須恵器片がやや多く出土しており、この時期には既に人工的な溝の掘削も成されていたものと思われる。

図　　版

図版 1

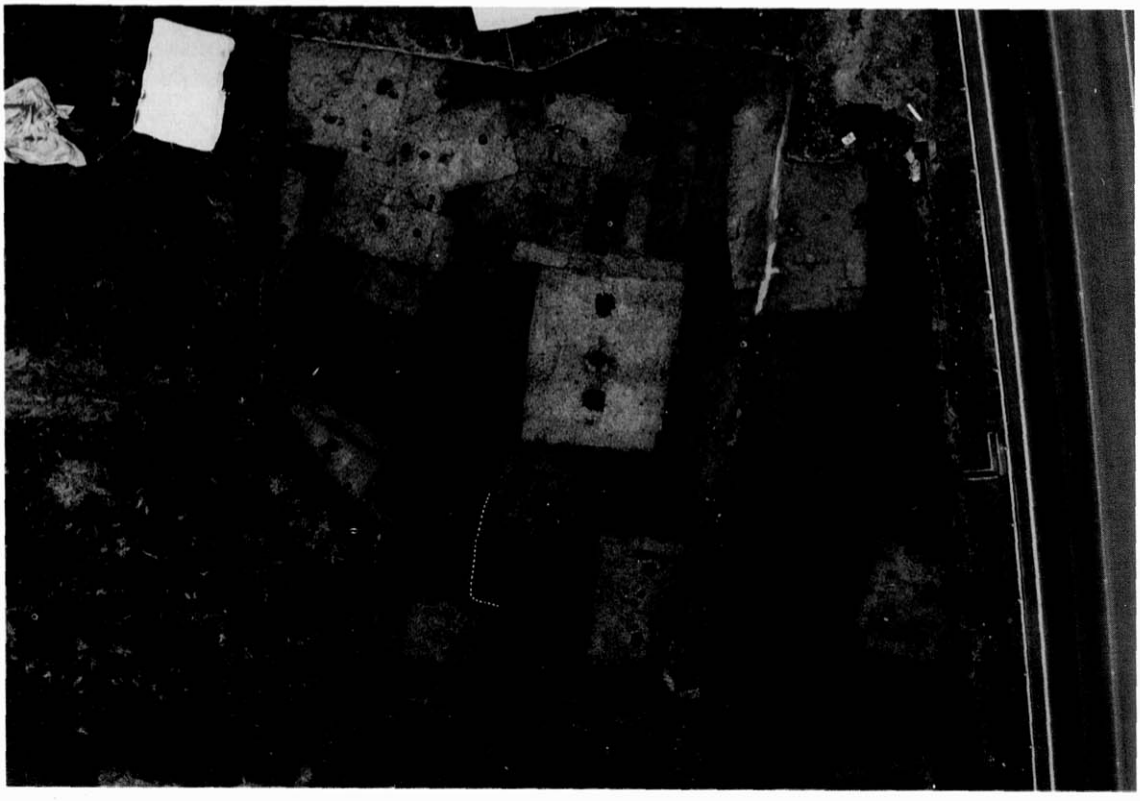


山家川流域航空写真（国土地理院　昭和　年撮影）

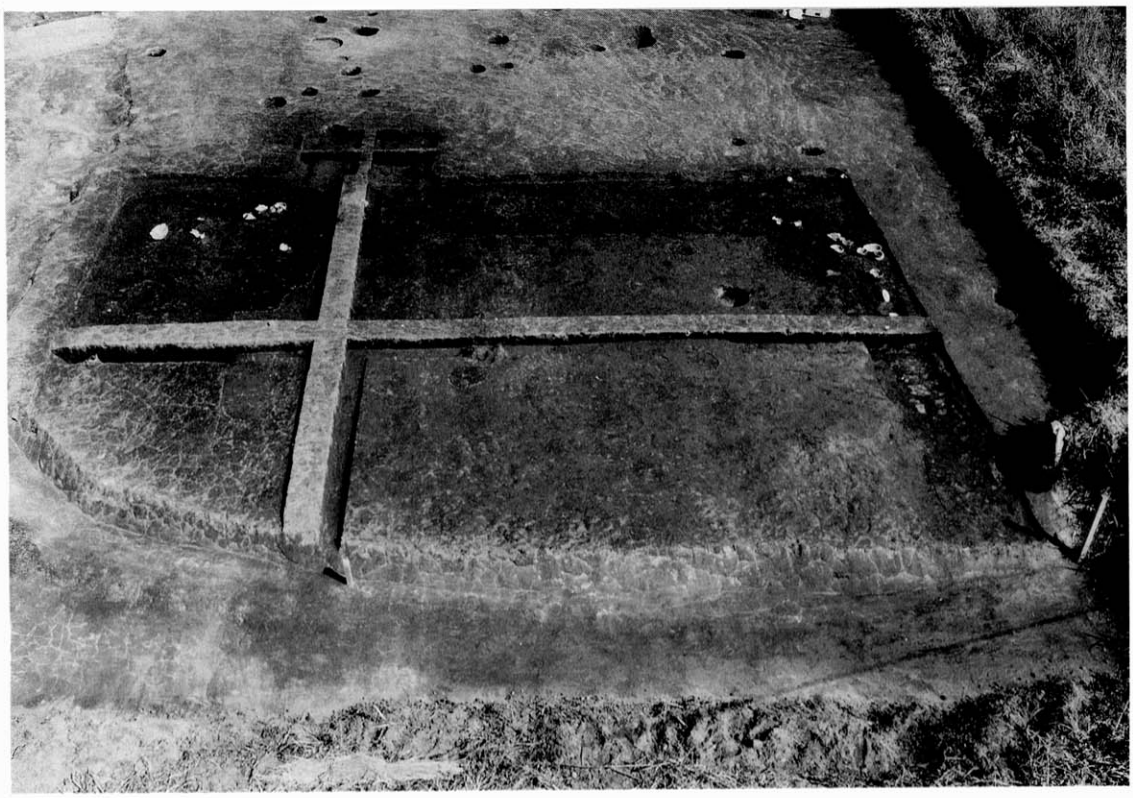
図版 2



八ヶ坪遺跡第６・７地点遠景（北西から）



八ヶ坪遺跡第６地点空中写真



第 6 地点 第 1 号住居跡床面（南西から）



第 6 地点 第 1 号住居跡床下層（南西から）

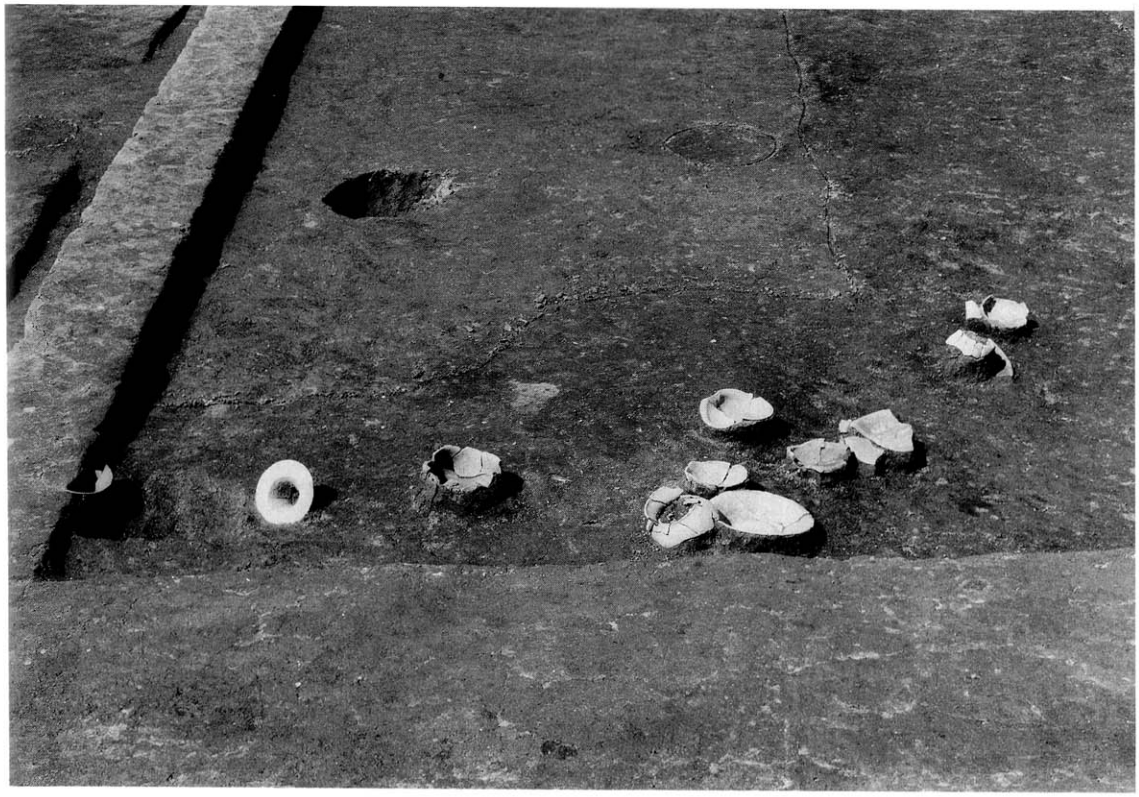
図版 4



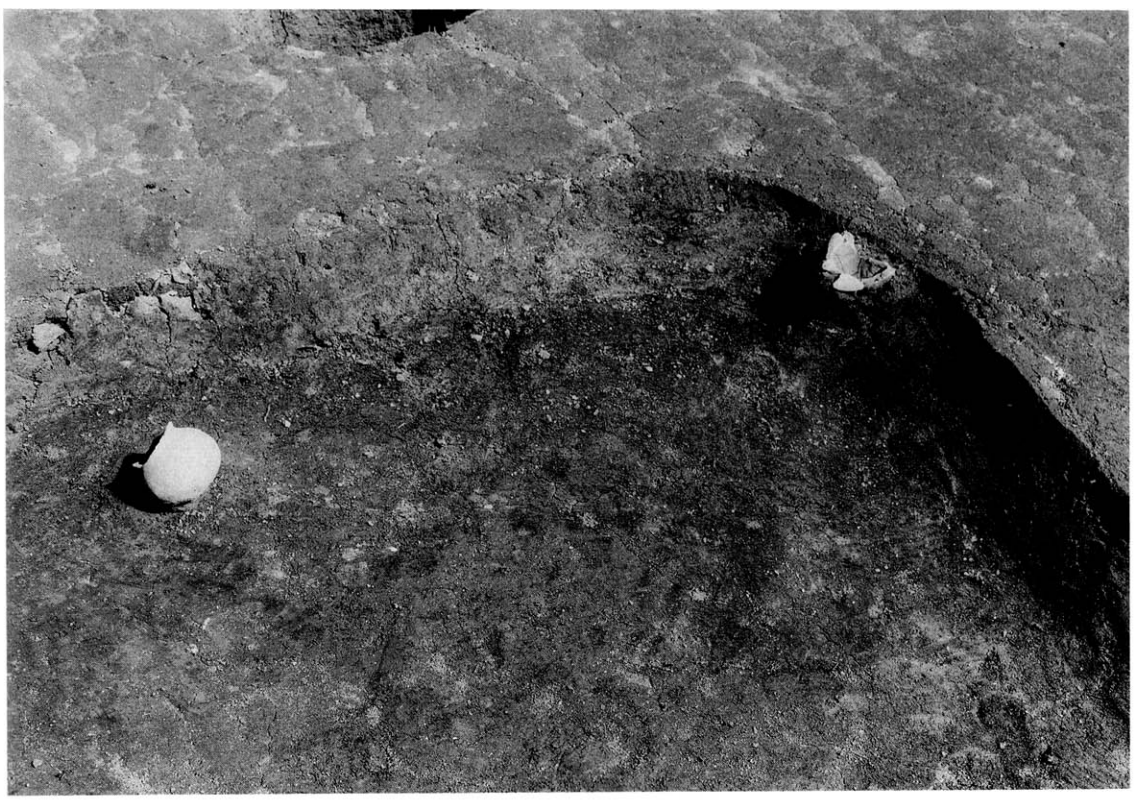
第 6 地点　第 1 号住居跡炉跡・土製模造鏡



第 6 地点　第 1 号住居跡　土器出土状態



第 6 地点 第 1 号住居跡 土器出土状態



第 6 地点 第 1 号住居跡 土器出土状態

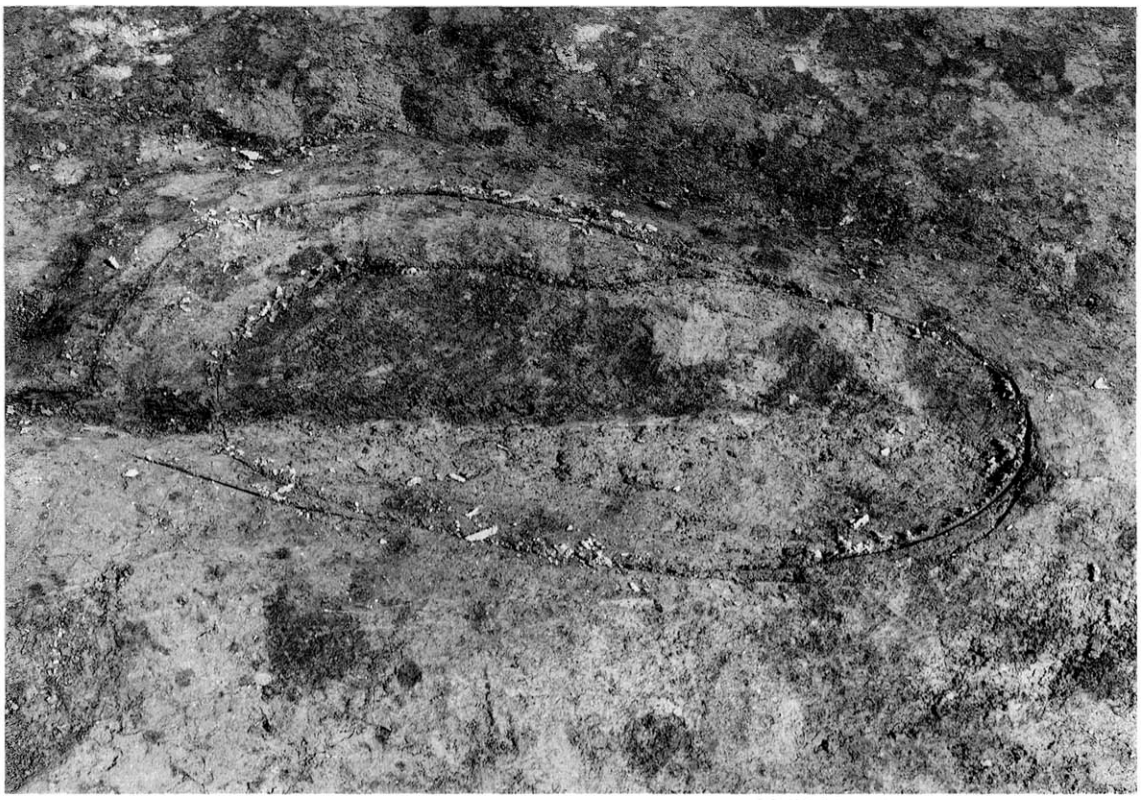
図版 6



第 6 地点 第 2 号住居跡 床面（南西から）



第 6 地点 第 2 号住居跡 床下層（南西から）

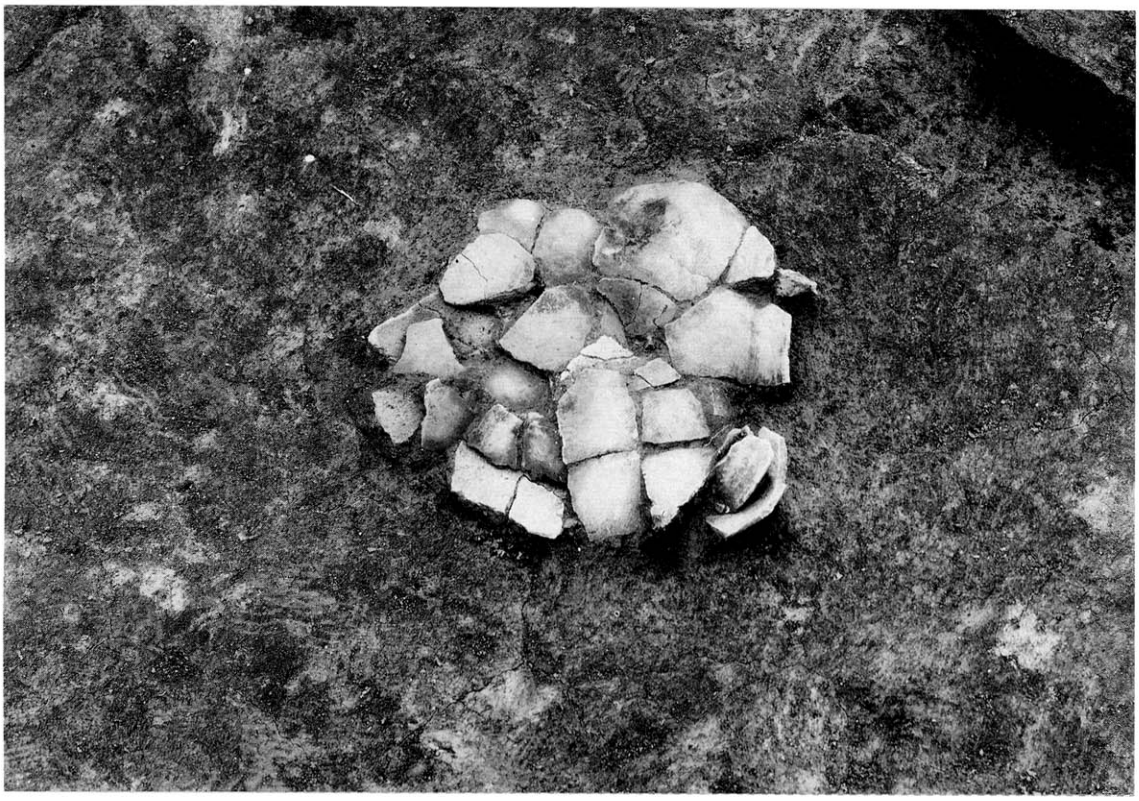


第 6 地点　第 2 号住居跡　炉跡

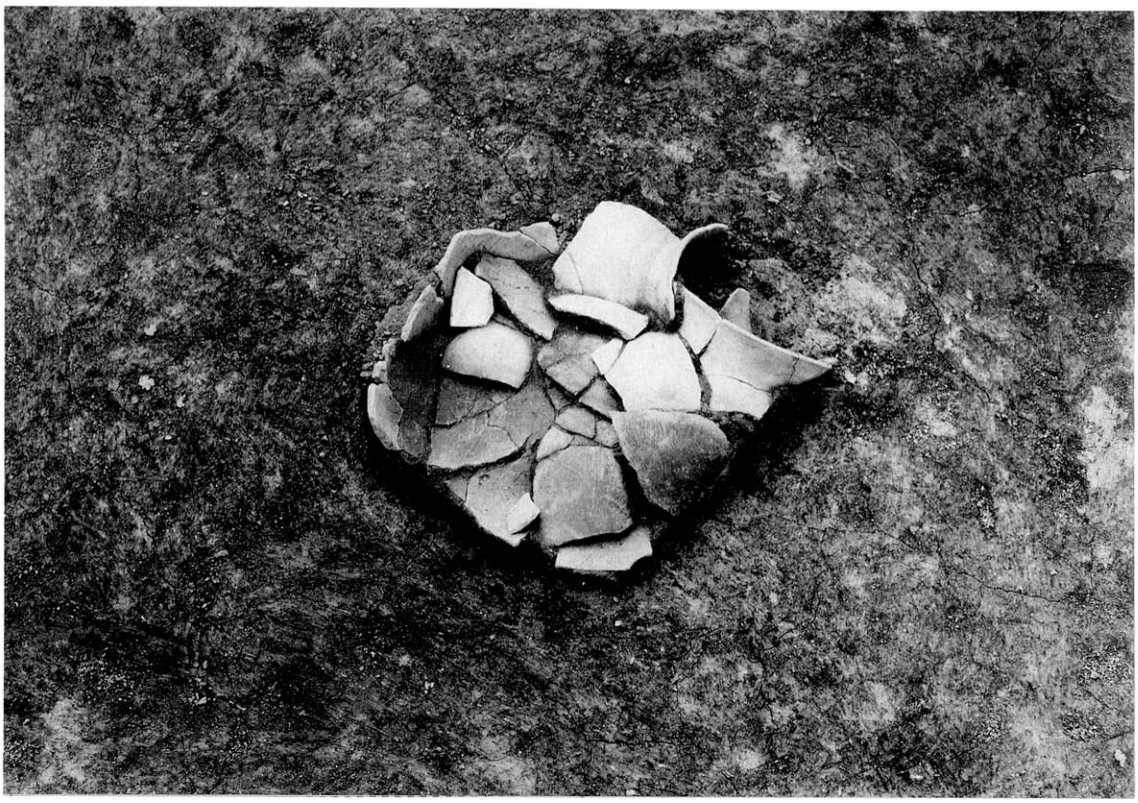


第 6 地点　第 2 号住居跡　北東辺段状遺構土層断面

図版 8



第 6 地点　第 2 号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第 2 号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第 2 号住居跡　土器出土状態

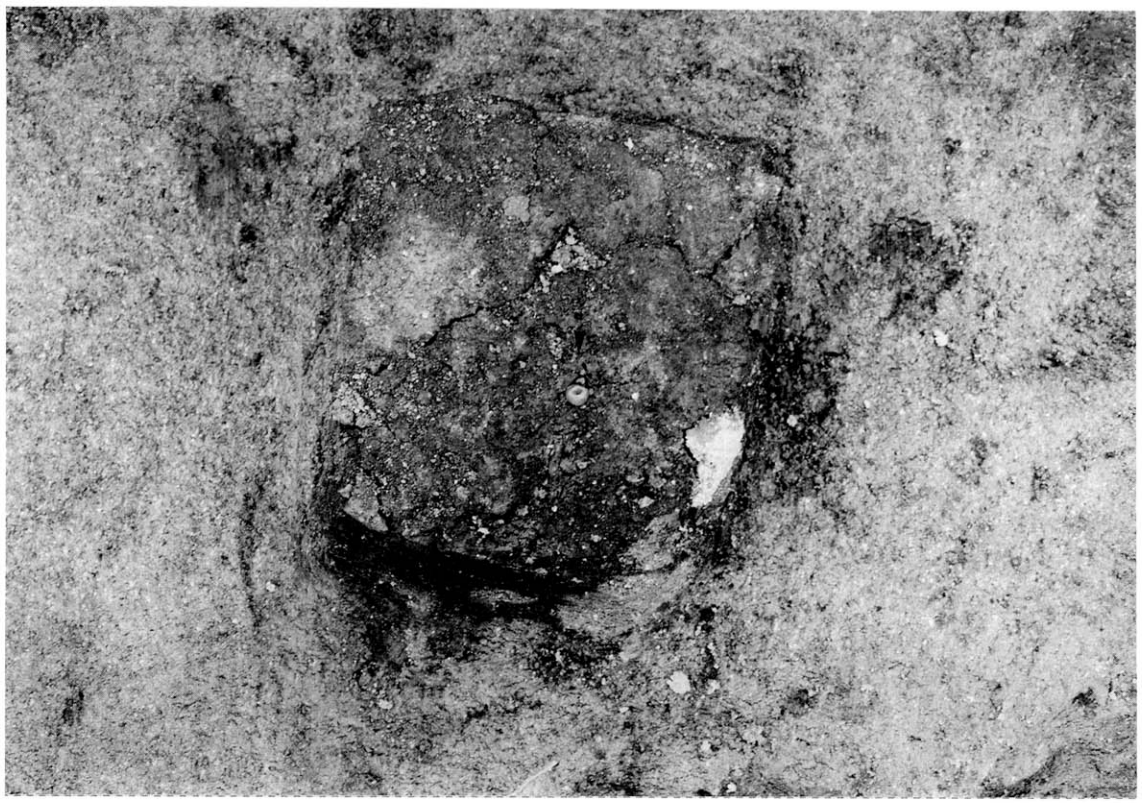


第 6 地点　第 2 号住居跡　土器出土状態

図版10



第 6 地点　第 2 号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第 2 号住居跡　小玉出土状態

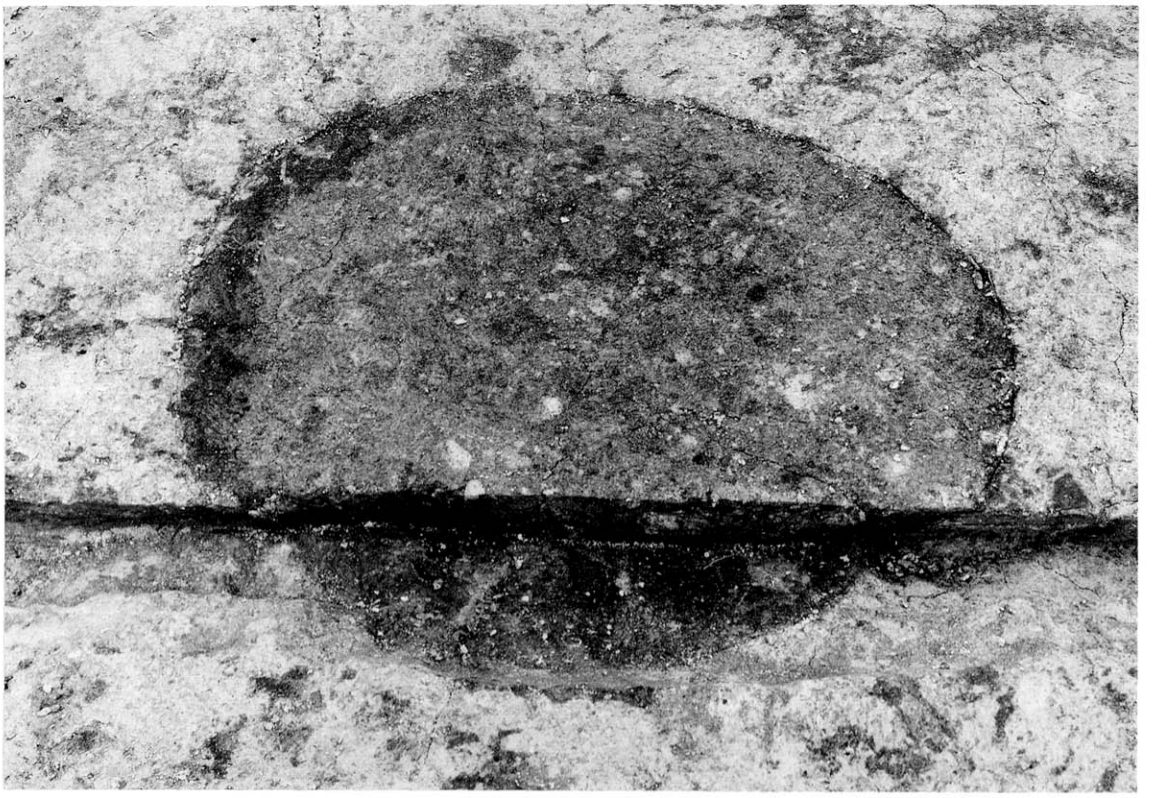


第６地点 第３号住居跡 床面（北西から）



第６地点 第３号住居跡 床下層（北西から）

図版12



第6地点 第3号住居跡 炉跡検出時



第6地点 第3号住居跡 炉跡土層断面

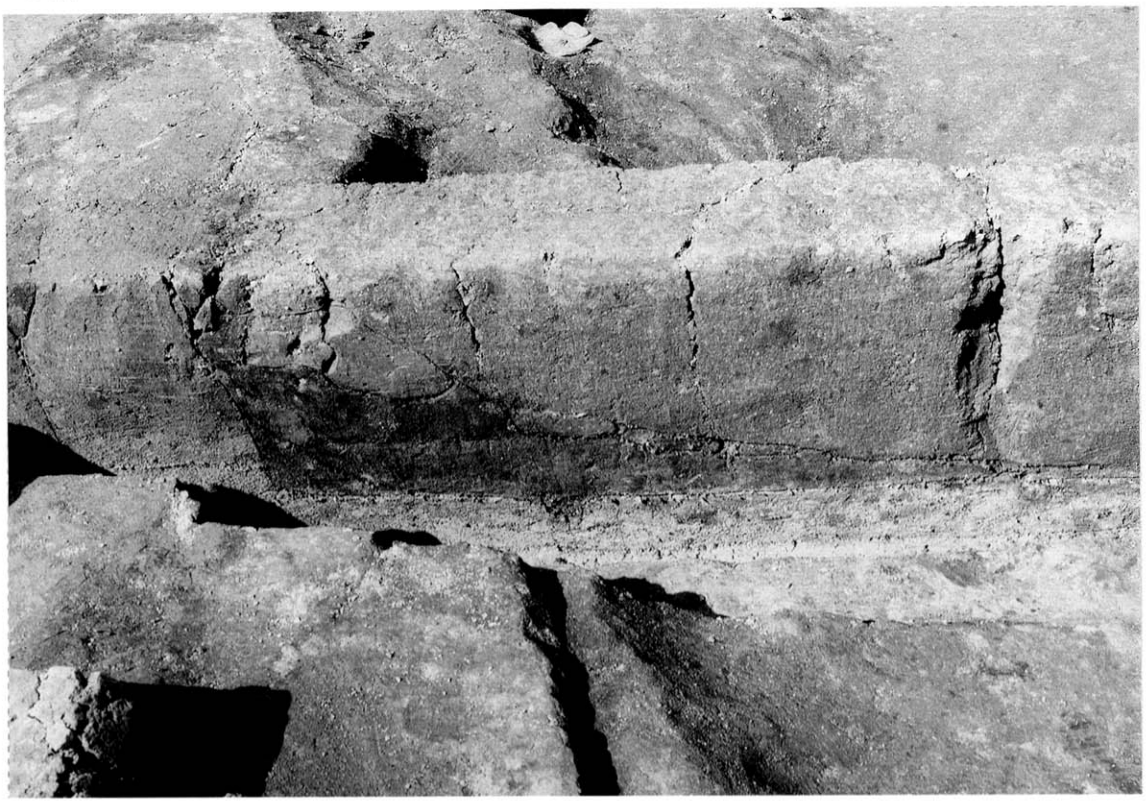


第６地点　第３号住居跡　南西辺出入口状遺構（北東から）

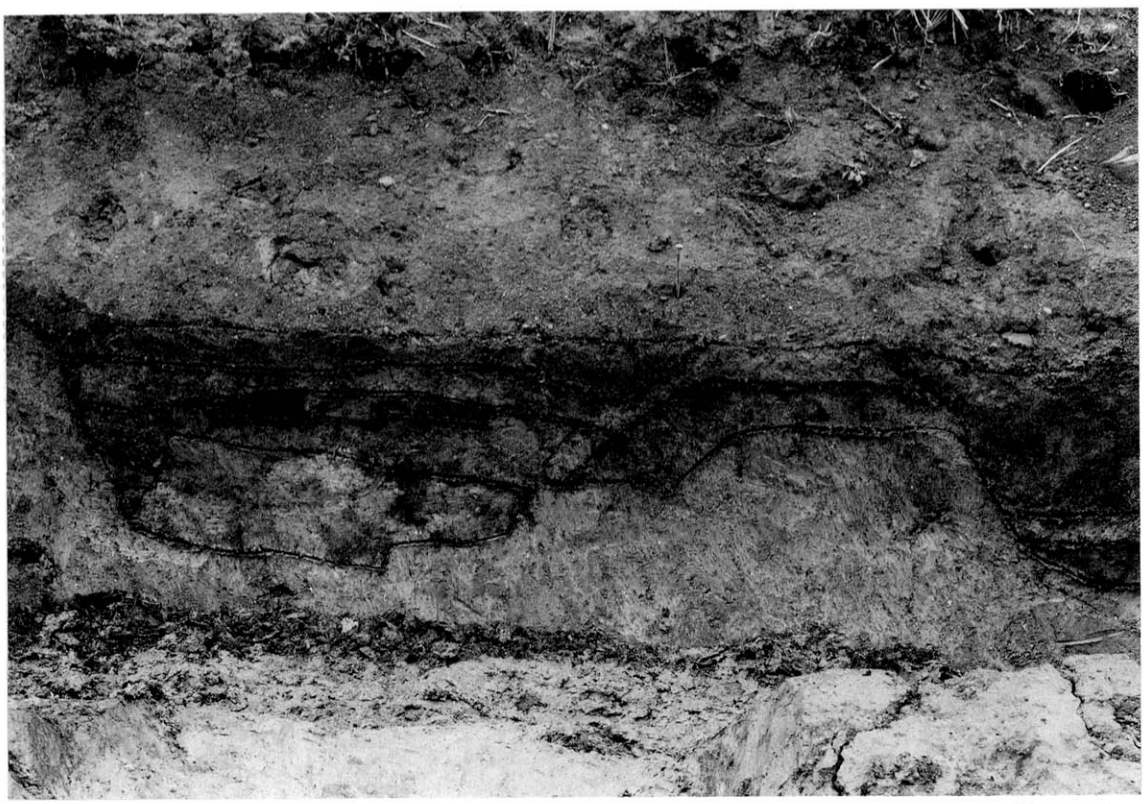


第６地点　第３号住居跡　南西辺下層（北東から）

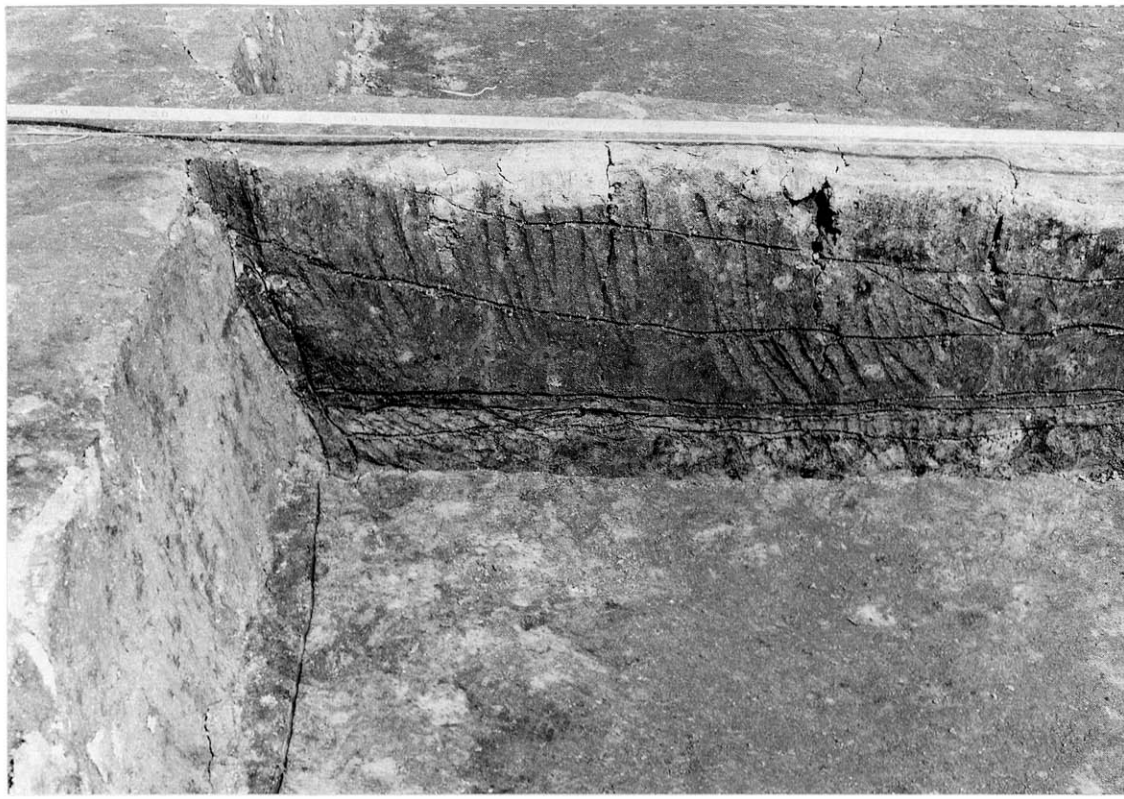
図版14



第6地点 第3号住居跡 南西辺出入口状遺構土層断（南東から）



第6地点 第3号住居跡北東辺ベッド状遺構土層断（北西から）



第6地点 第3号住居跡 貼床・側壁土層断面



第6地点 第3号住居跡 土器出土状態

図版16



第6地点 第3号住居跡 土器出土状態



第6地点 第3号住居跡 土器・鉄器(鏃)出土状態



第６地点 第４・５号住居跡 床下層（北西から）

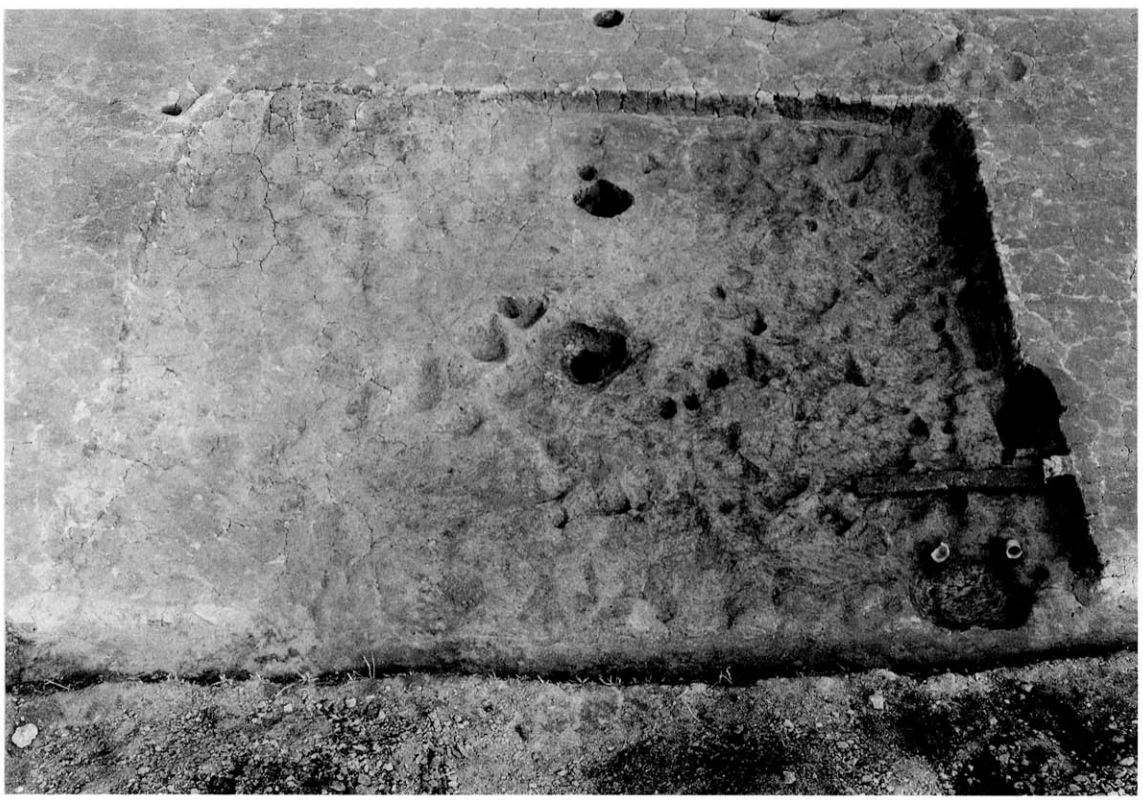


第６地点 第７号住居跡床下層・第２号不明遺構（南西から）

図版18



第６地点　第６号住居跡　床面（南西から）



第６地点　第６号住居跡　床下層（南西から）



第6地点 第6号住居跡 土器出土状態6地点



第6号住居跡南東辺屋内土坑（北西から）

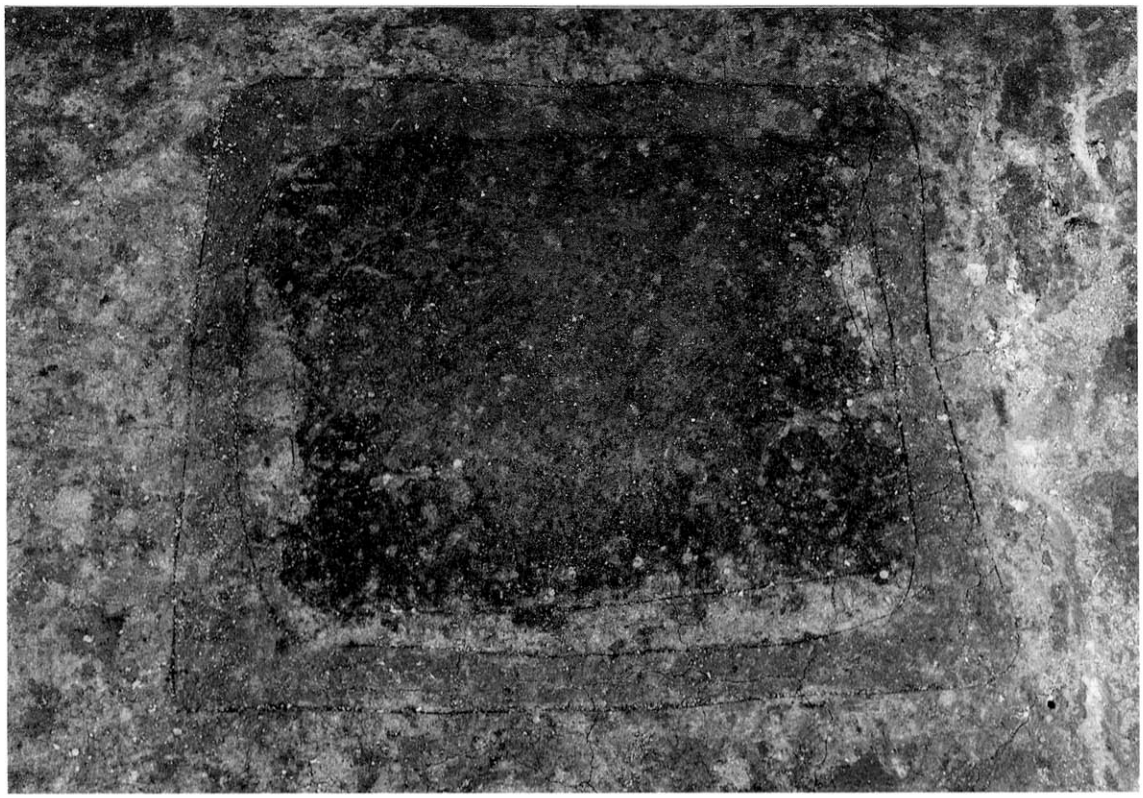
図版20



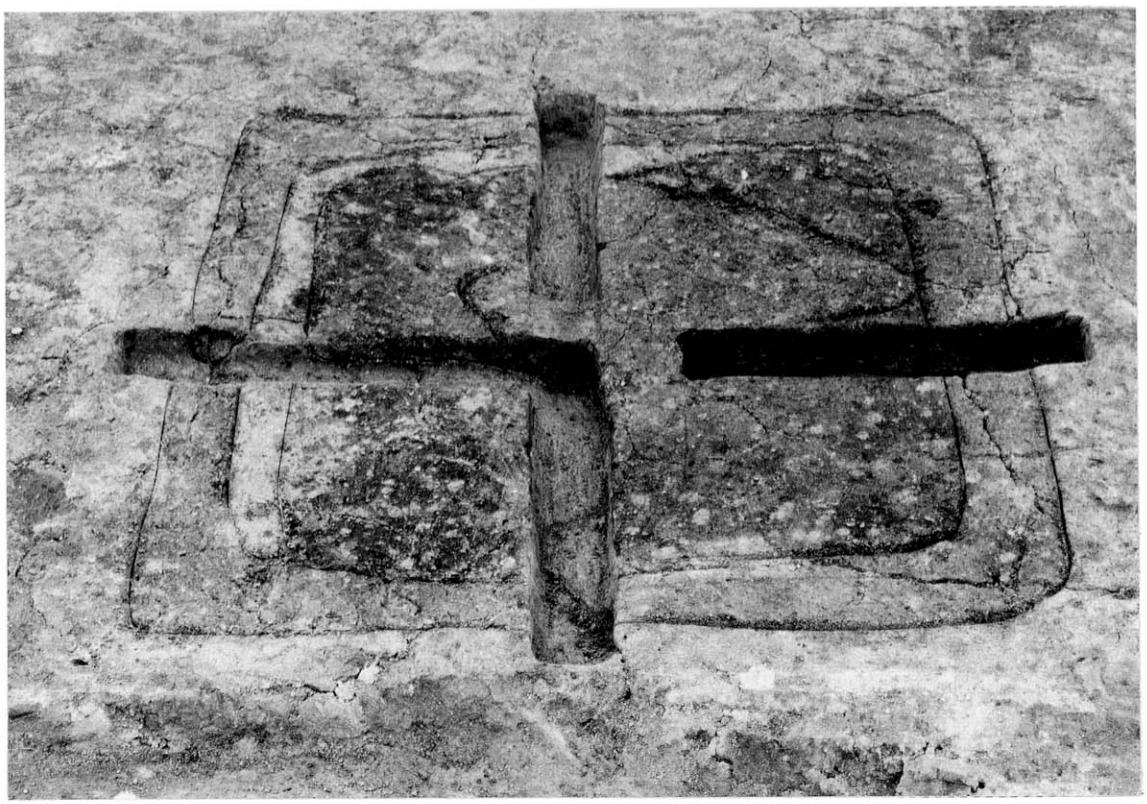
第６地点 第７号住居跡 床面（南東から）



第６地点 第７号住居跡 床下層（南東から）

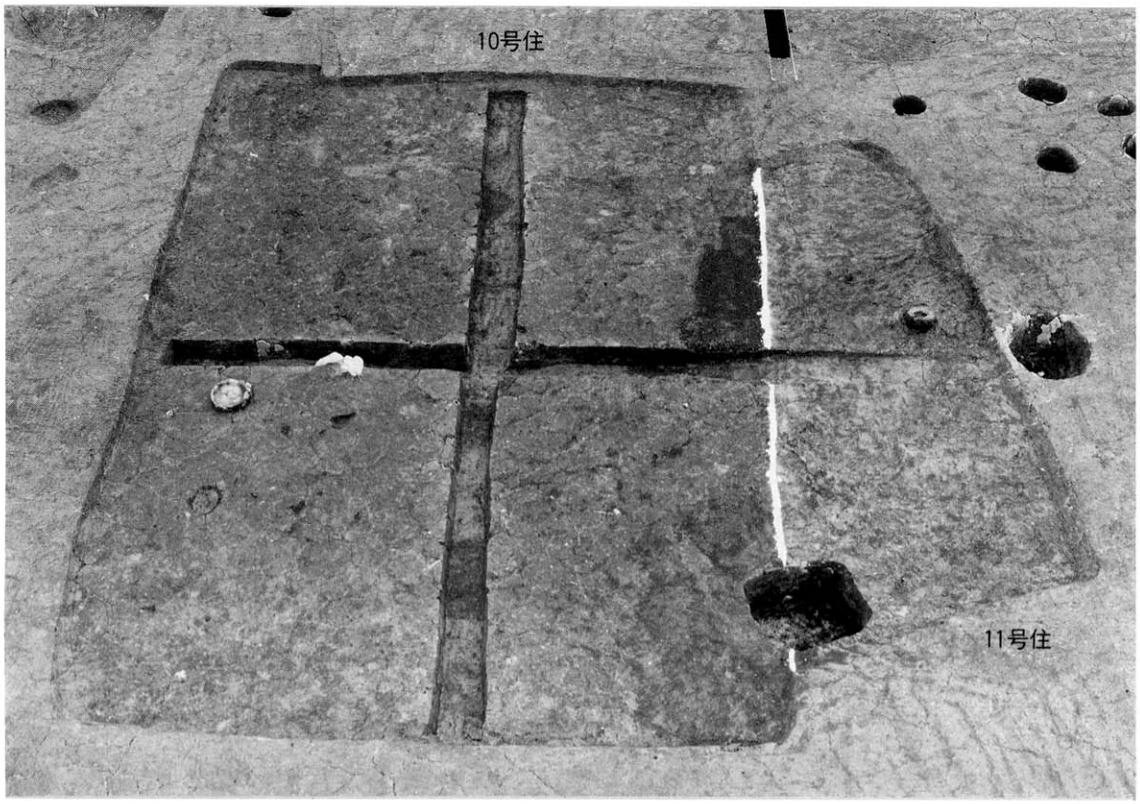


第6地点 第9号住居跡 炉跡検出時

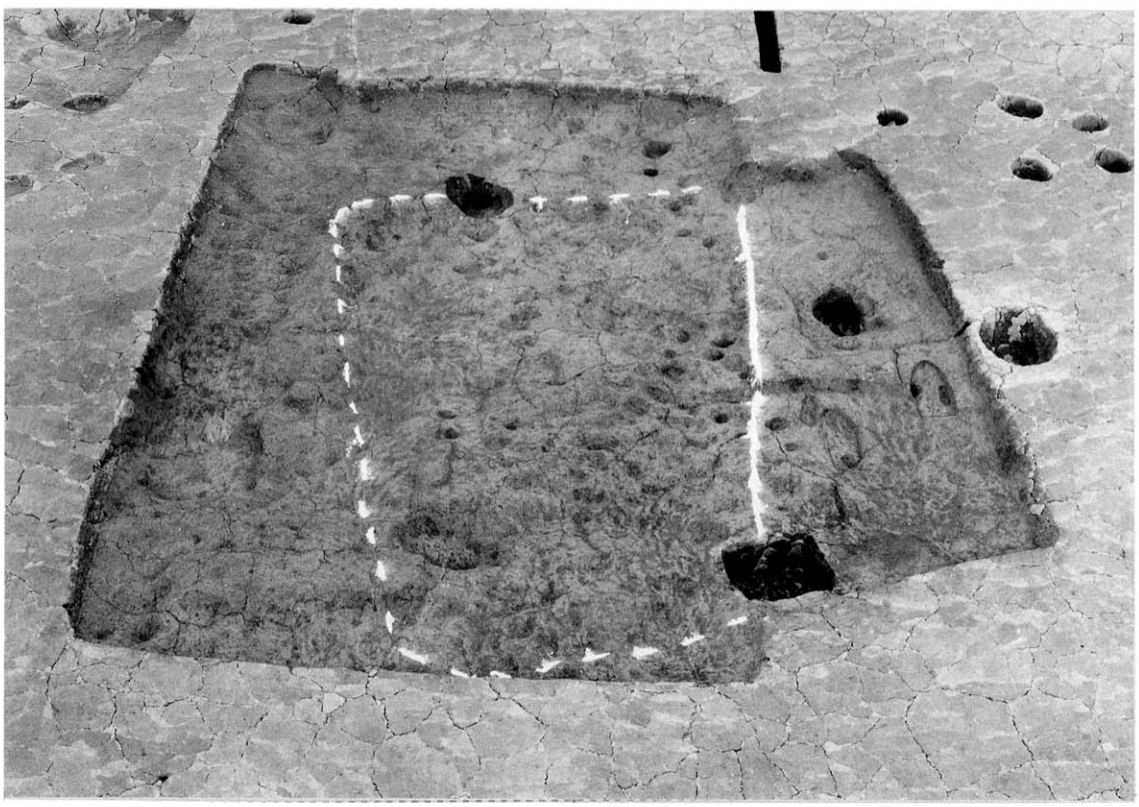


第6地点 第9号住居跡 炉跡土層断面

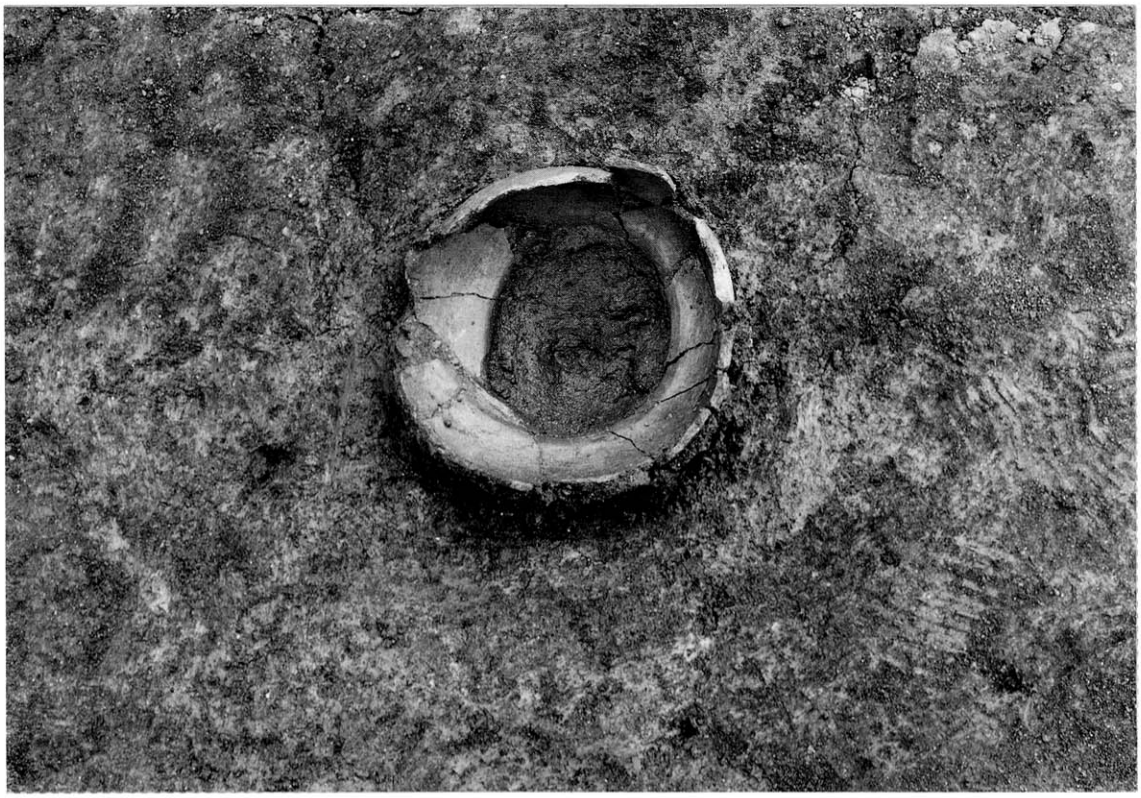
図版22



第６地点　第10・11号住居跡　床面（南西から）



第６地点　第10・11号住居跡床下層（南西から）

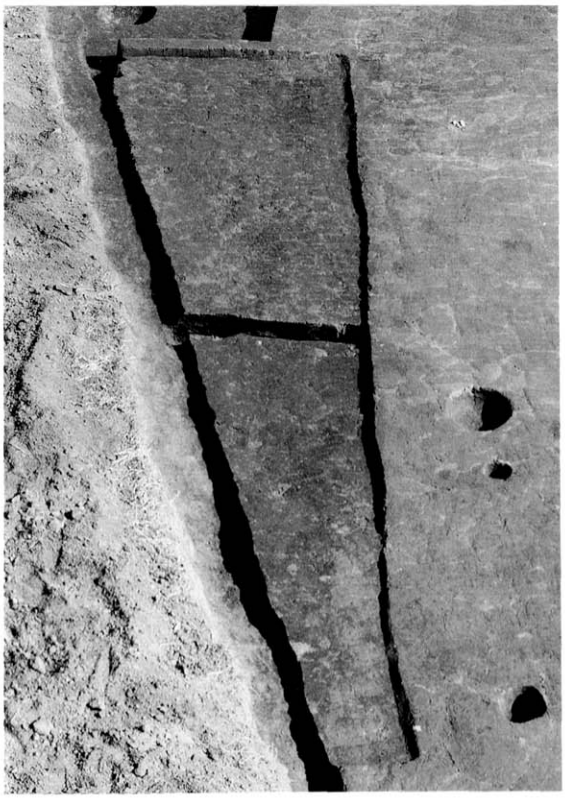


第６地点　第11号住居跡　土器出土状態



第６地点　第10号住居跡　土器出土状態

図版24



左第 6 地点　第14号住居跡床面



右第13号住居跡床面
第14号住居跡床下層



第 6 地点　第13号住居跡　床下層（南西から）



第６地点 第８・15号住居跡床面（南西から）

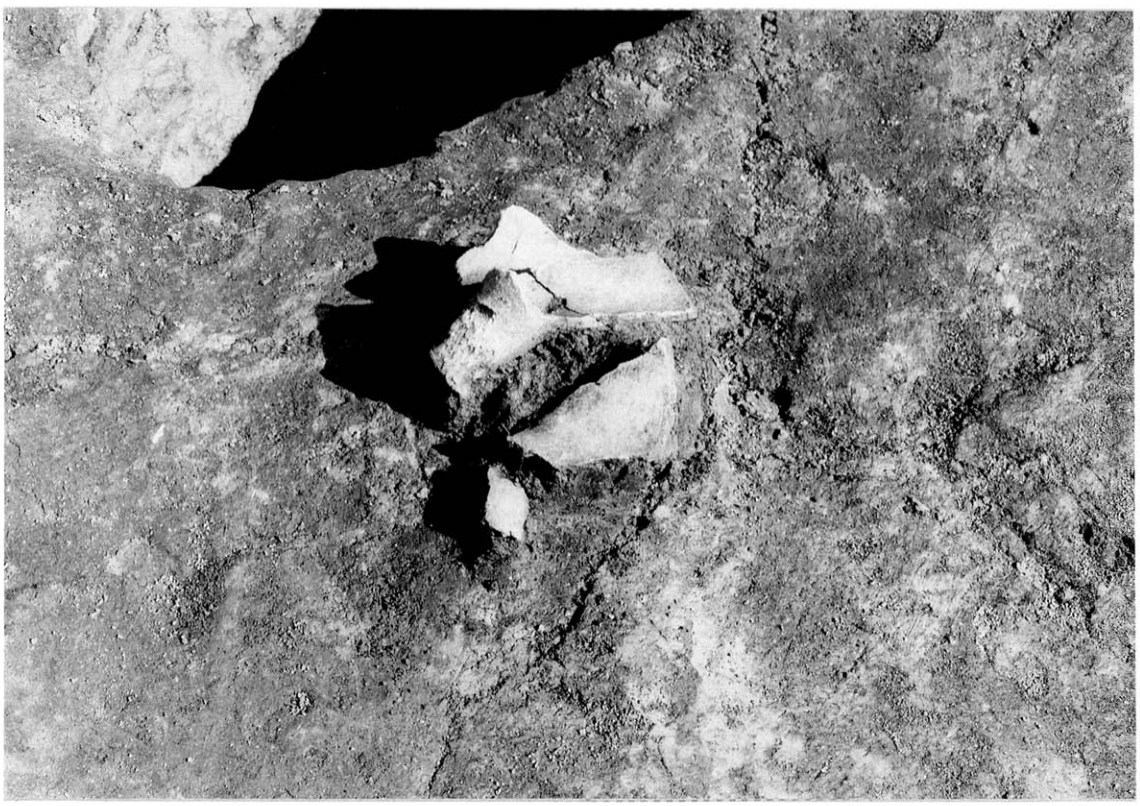


第６地点 第８・15号住居跡床下層（南西から）

図版26



第6地点 第8号住居跡 土器出土状態



第6地点 第15号住居跡 土器出土状態

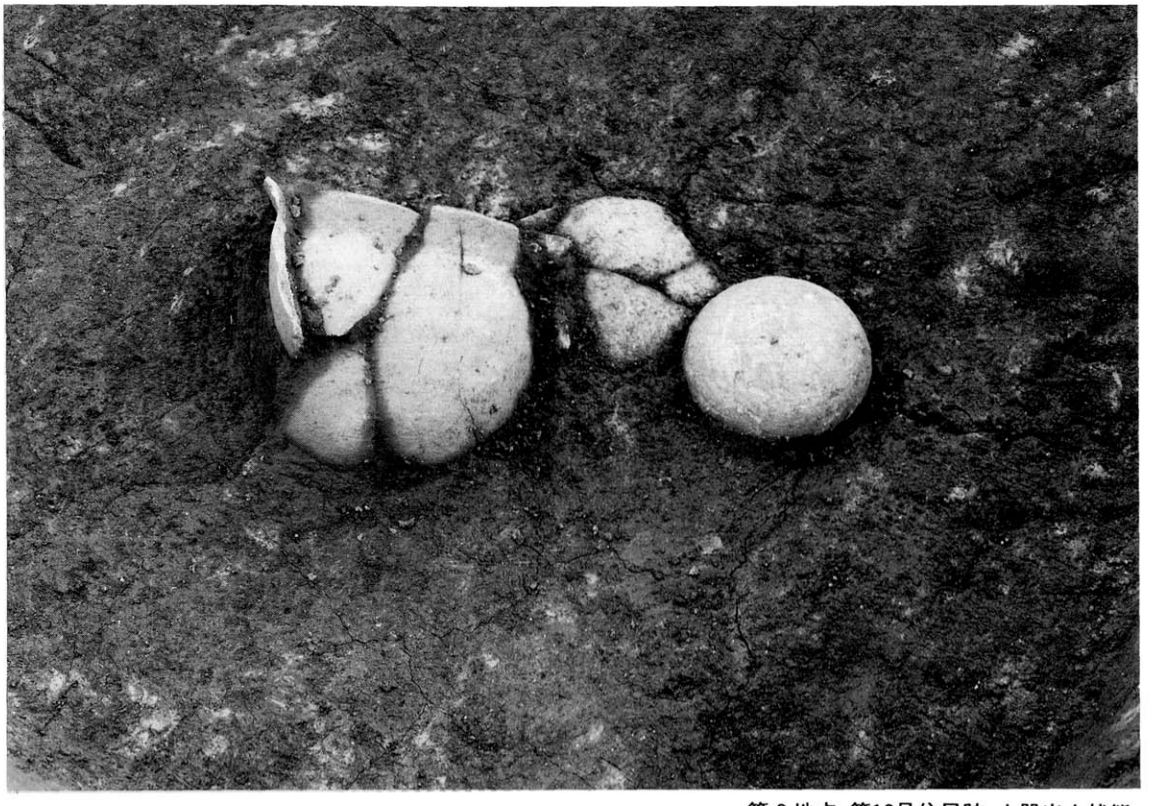


第６地点　第16号住居跡　床面（東から）



第６地点　第16号住居跡　床下層（東から）

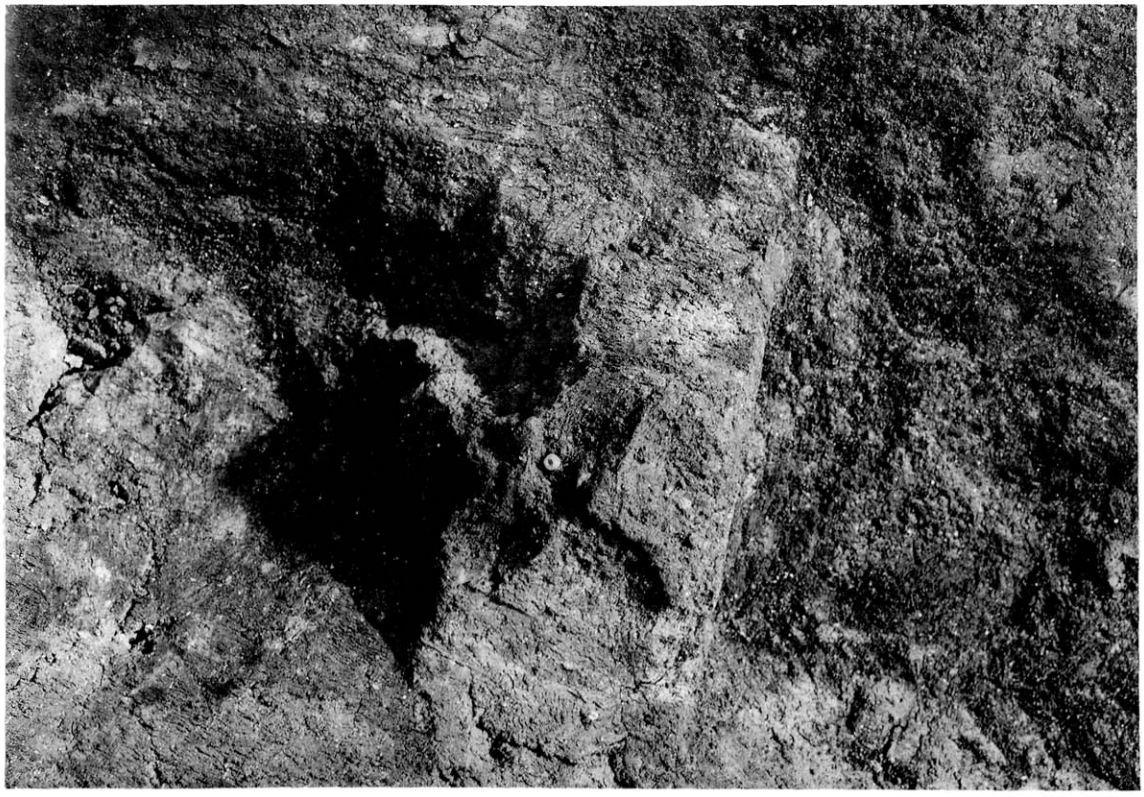
図版28



第 6 地点　第16号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第16号住居跡　土器出土状態

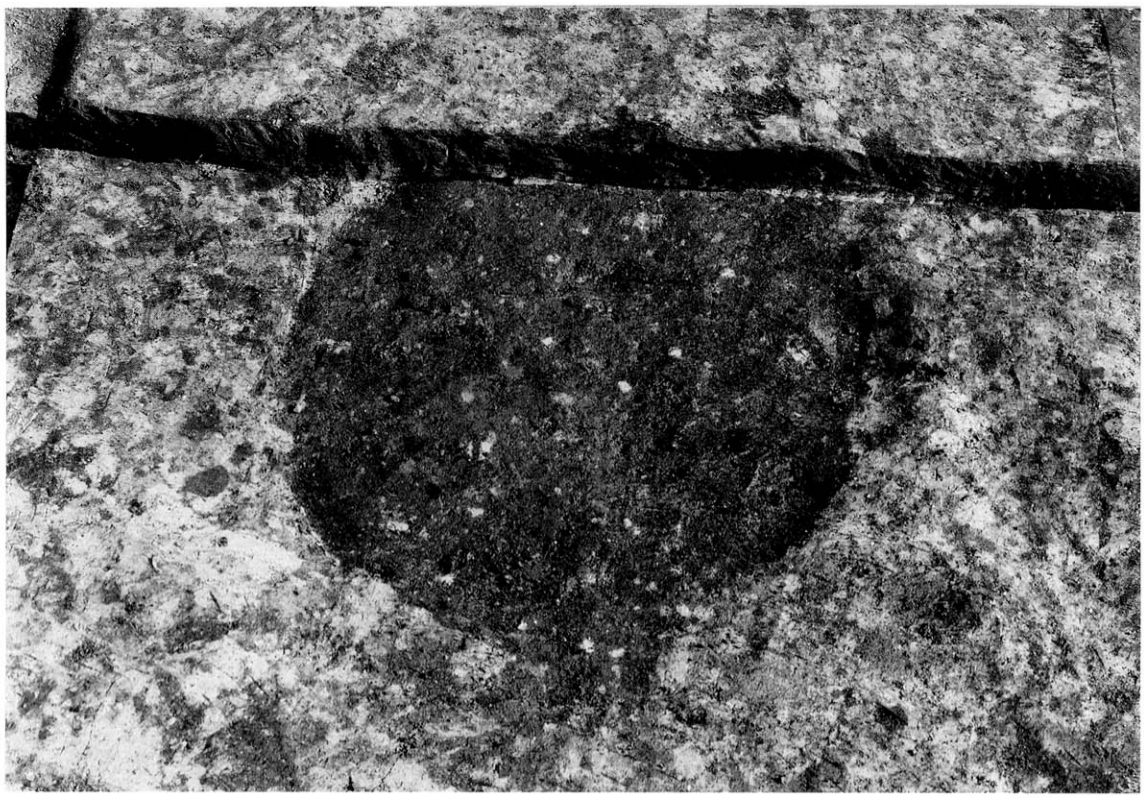


第６地点　第16号住居跡　小玉出土状態



第６地点　第17・26号住居跡　床下層（南西から）

図版30



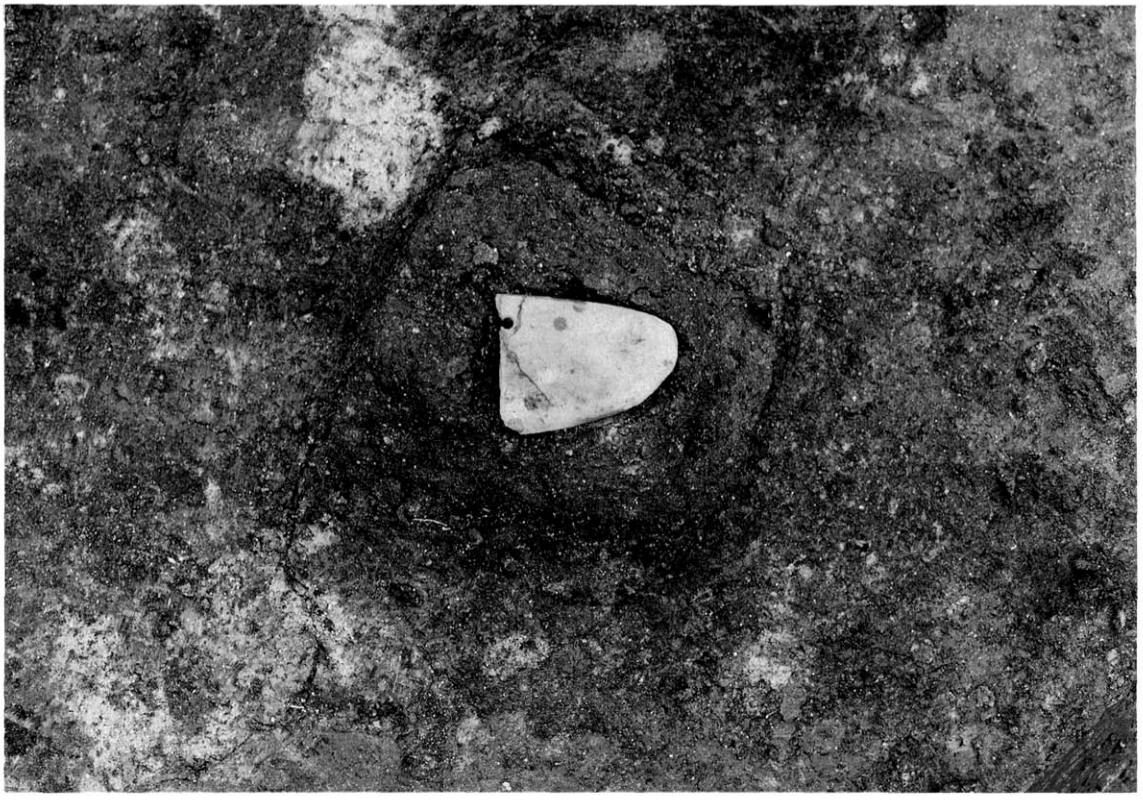
第 6 地点　第17号住居跡　炉跡検出時



第 6 地点　第17号住居跡　炉跡土層断面



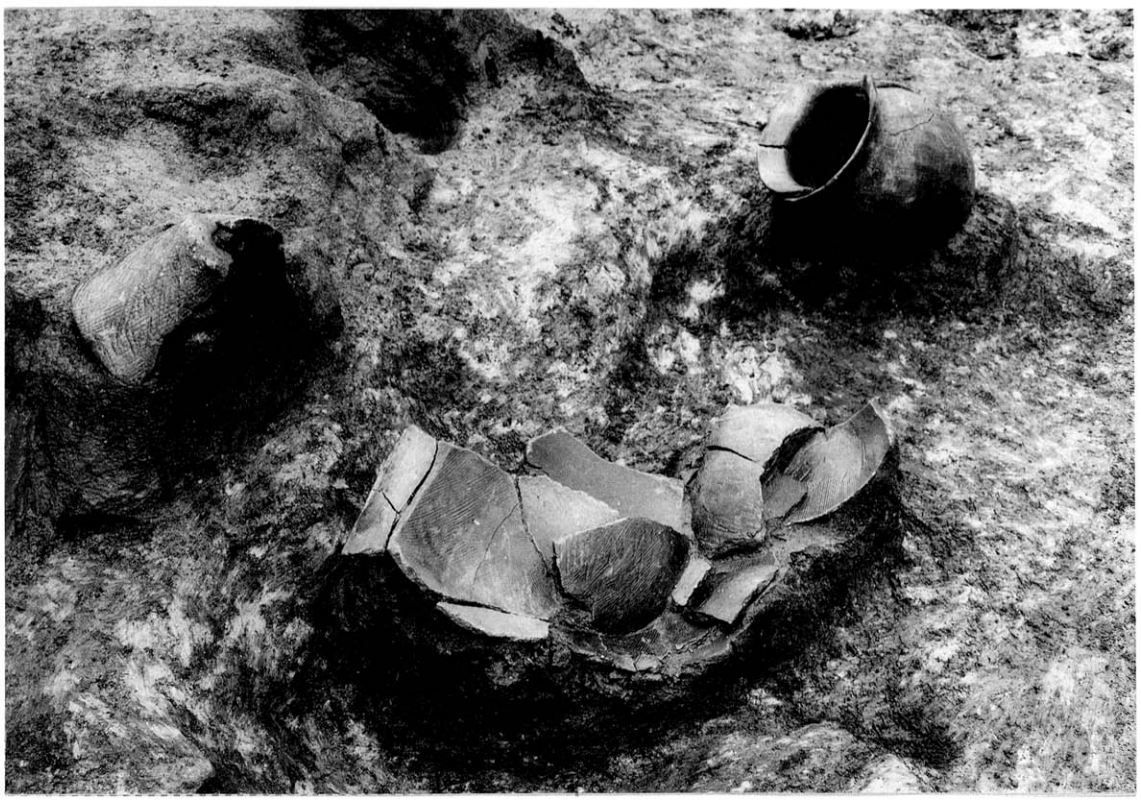
第６地点　第17号住居跡　土器出土状態



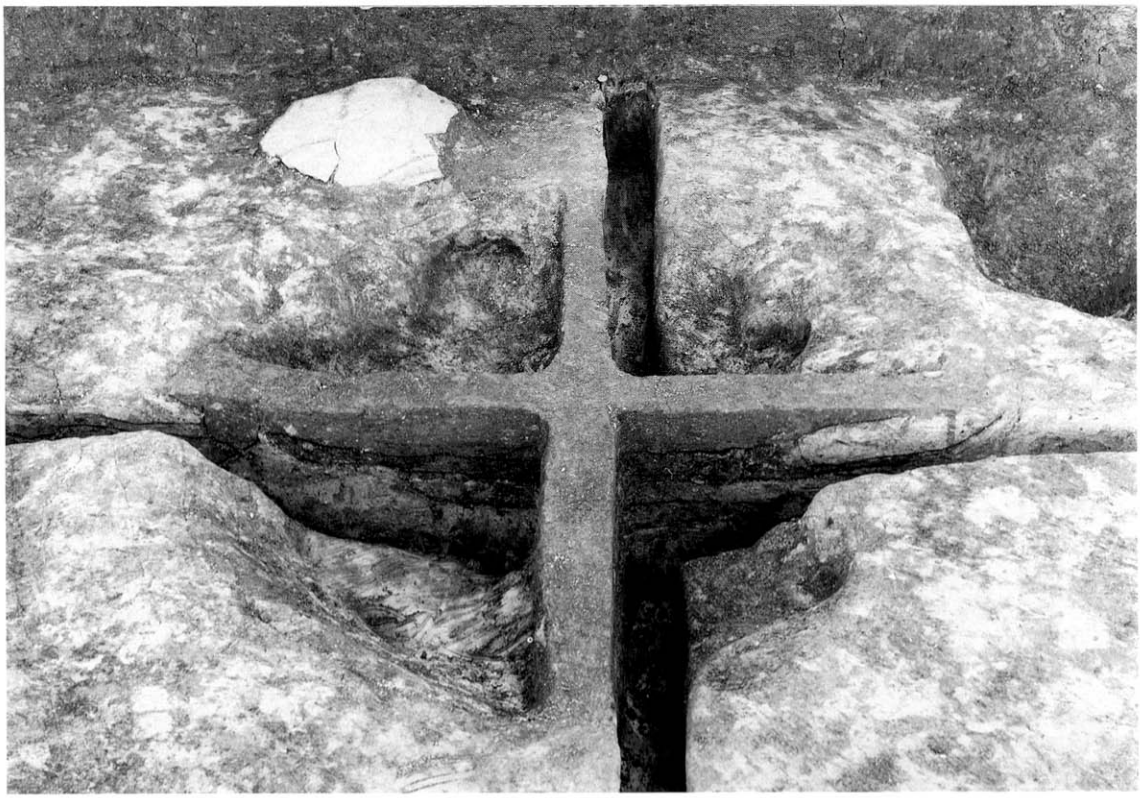
第６地点　第17号石器（石包丁）出土状態



第６地点　第18号住居跡　床下層（南西から）



第６地点　第18号土器出土状態



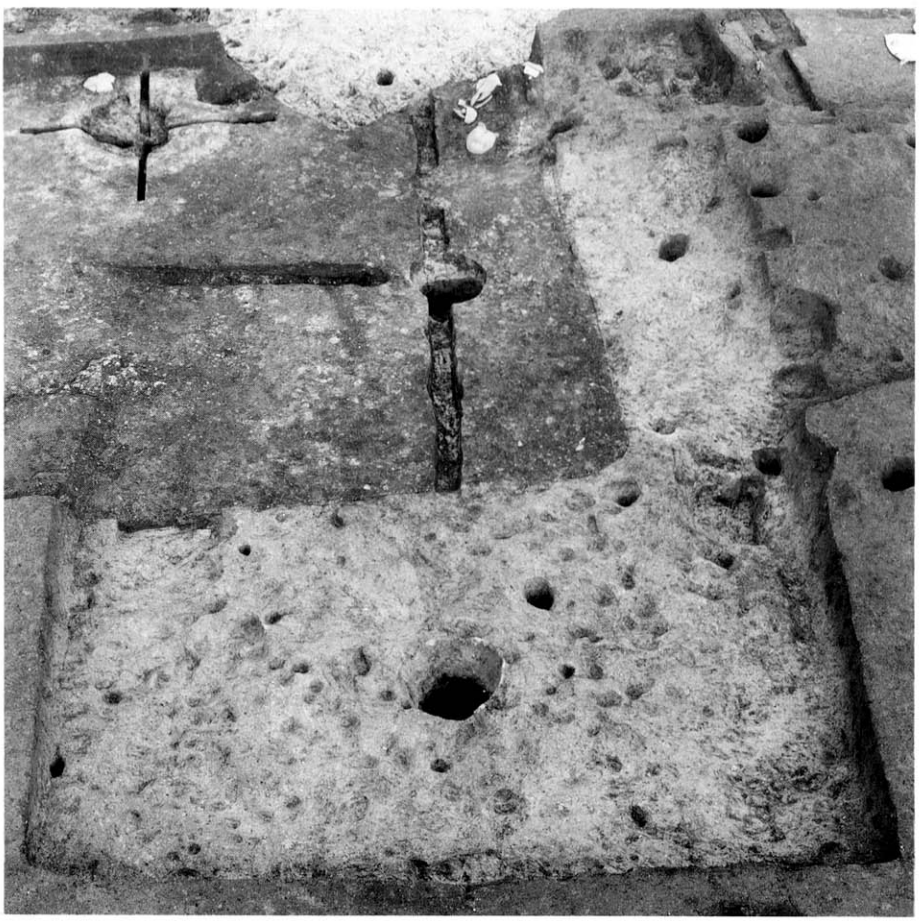
第 6 地点　第18号住居跡　炉跡　土層断面



第 6 地点　第18号住居跡　炉跡　完掘時

図版34





上、第6地点　第19号住号跡　床面（南西から）
下、第6地点　第19号住号跡　床下層（南西から）



第 6 地点　第19号住居跡　土器出土状態

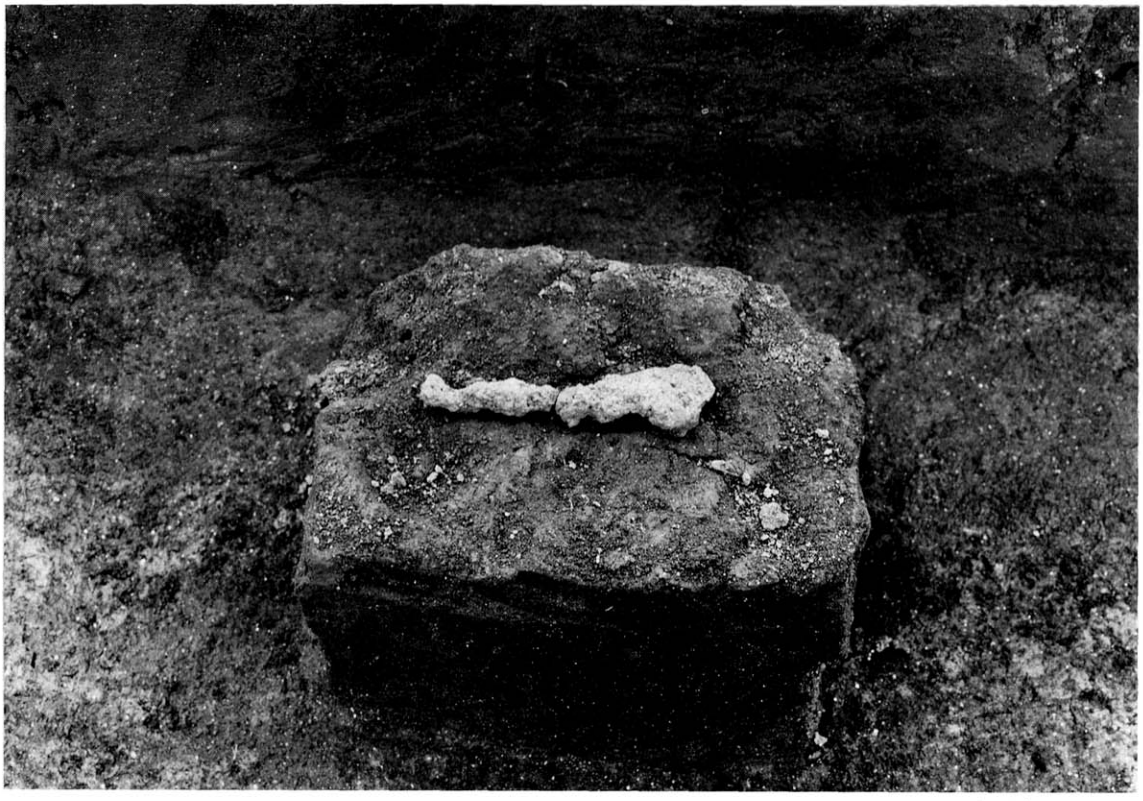


第 6 地点　第19号住居跡　土器出土状態

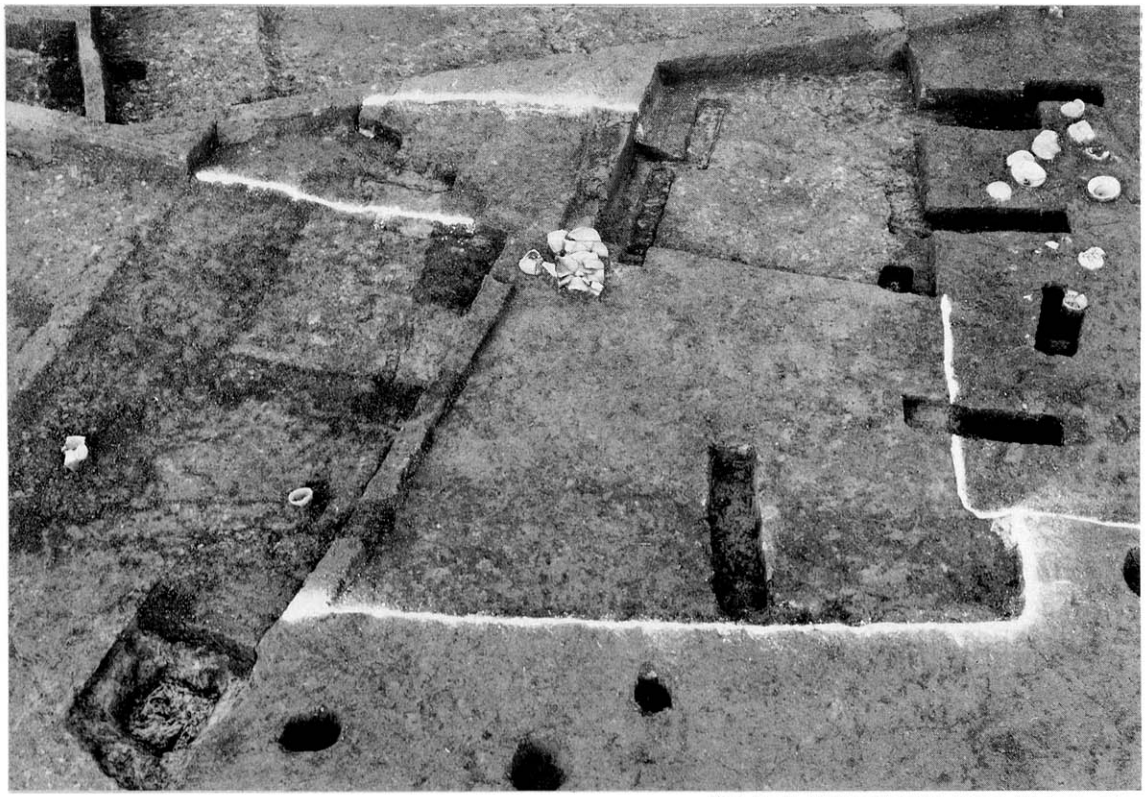
図版36



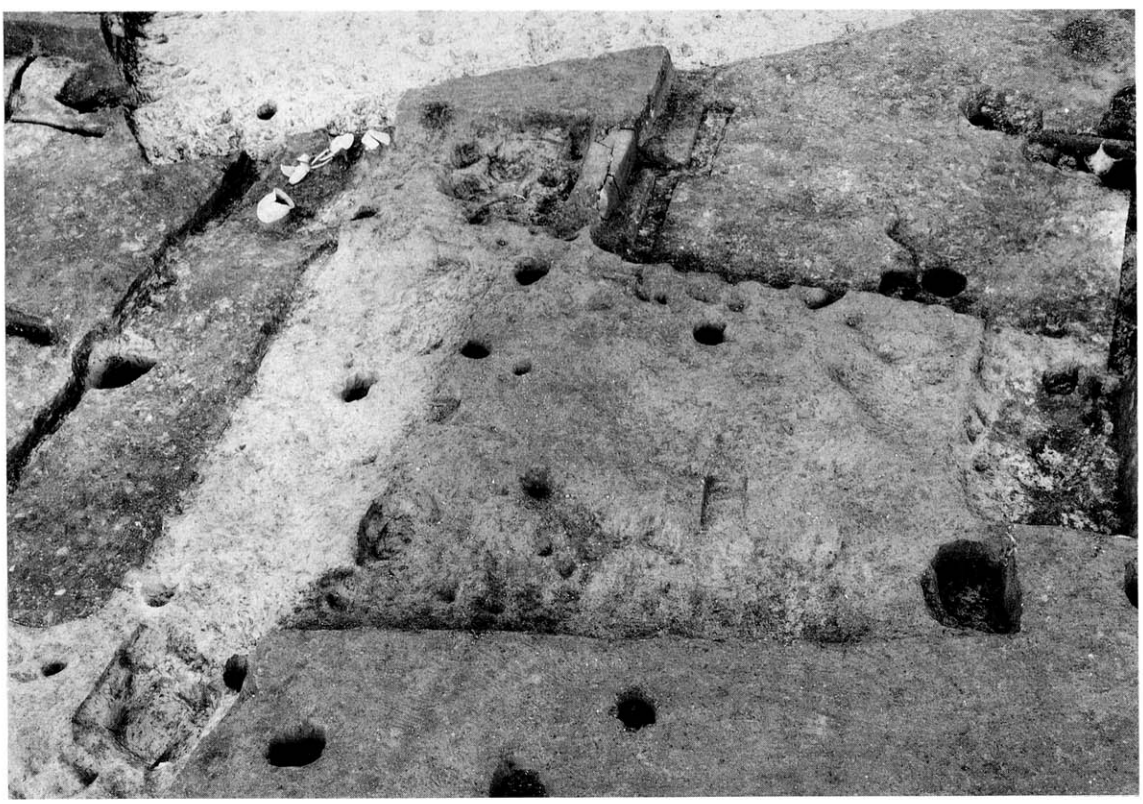
第 6 地点　第19号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第19号鉄器（鉄鏃）出土状態



第６地点　第20号住居跡　床面（南西から）

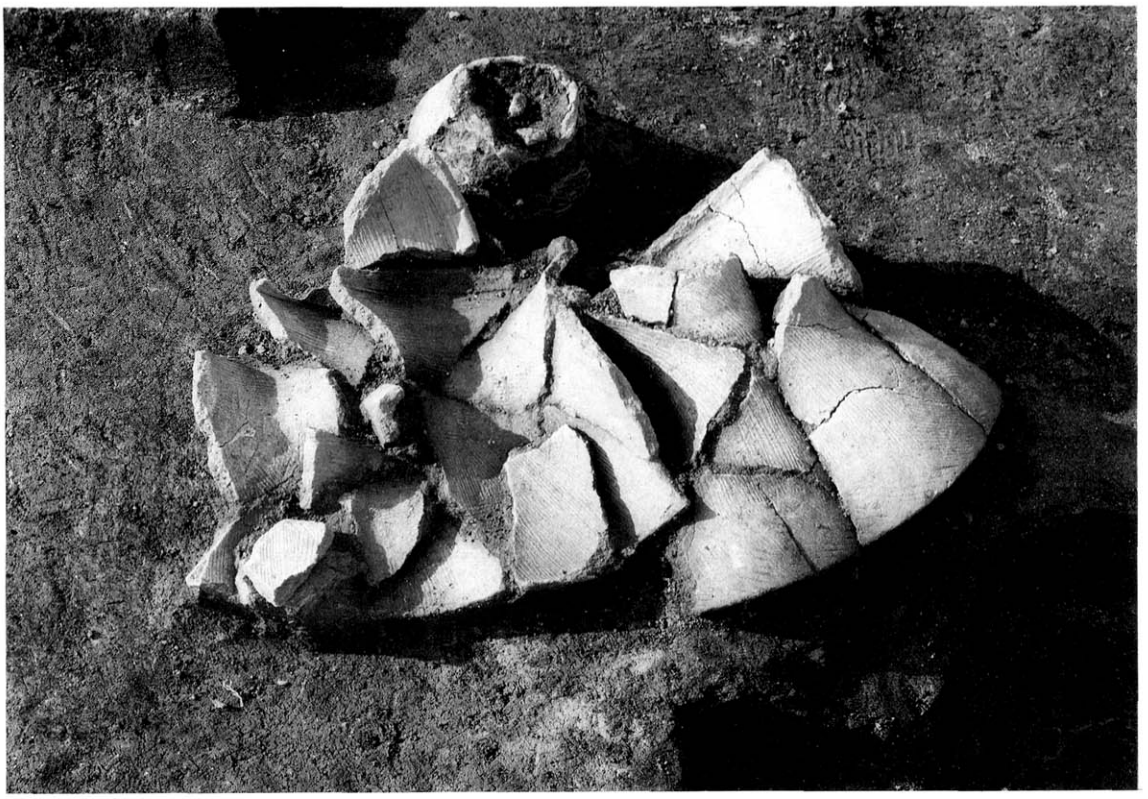


第６地点　第20号住居跡　床下層（南西から）

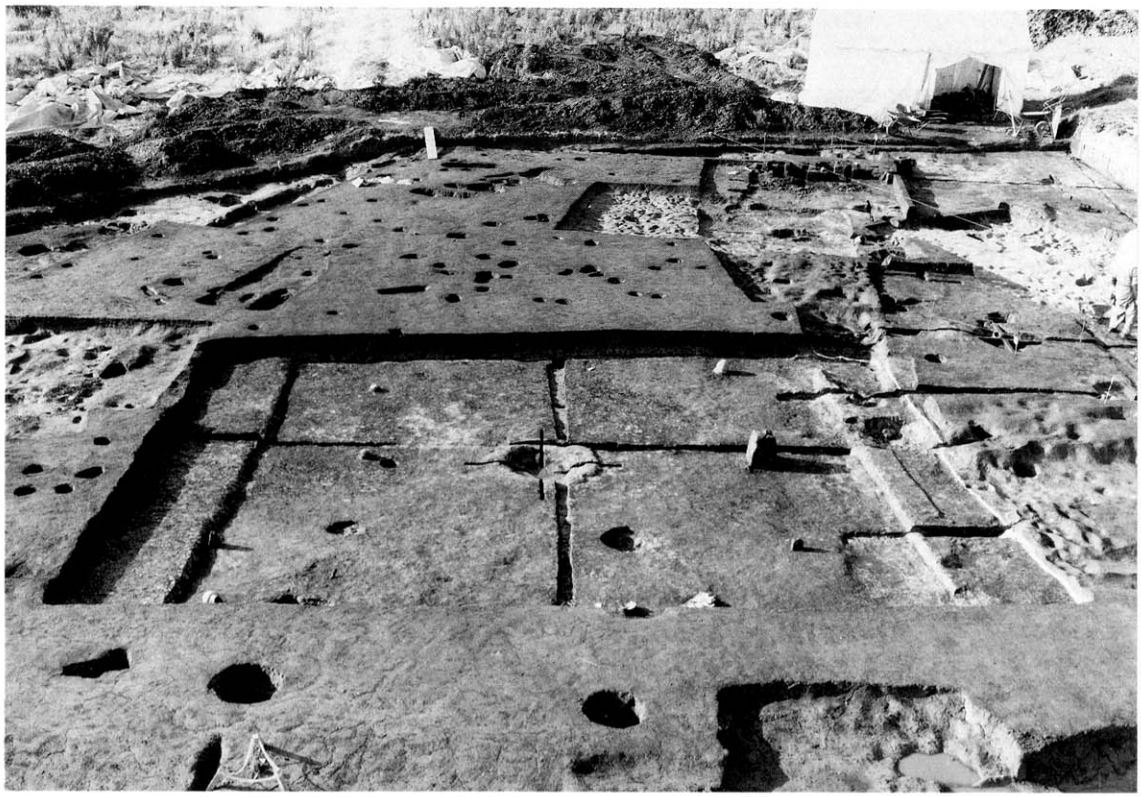
図版38



第 6 地点　第20号住居跡　炉跡　検出時



第 6 地点　第20号住居跡　土器出土状態

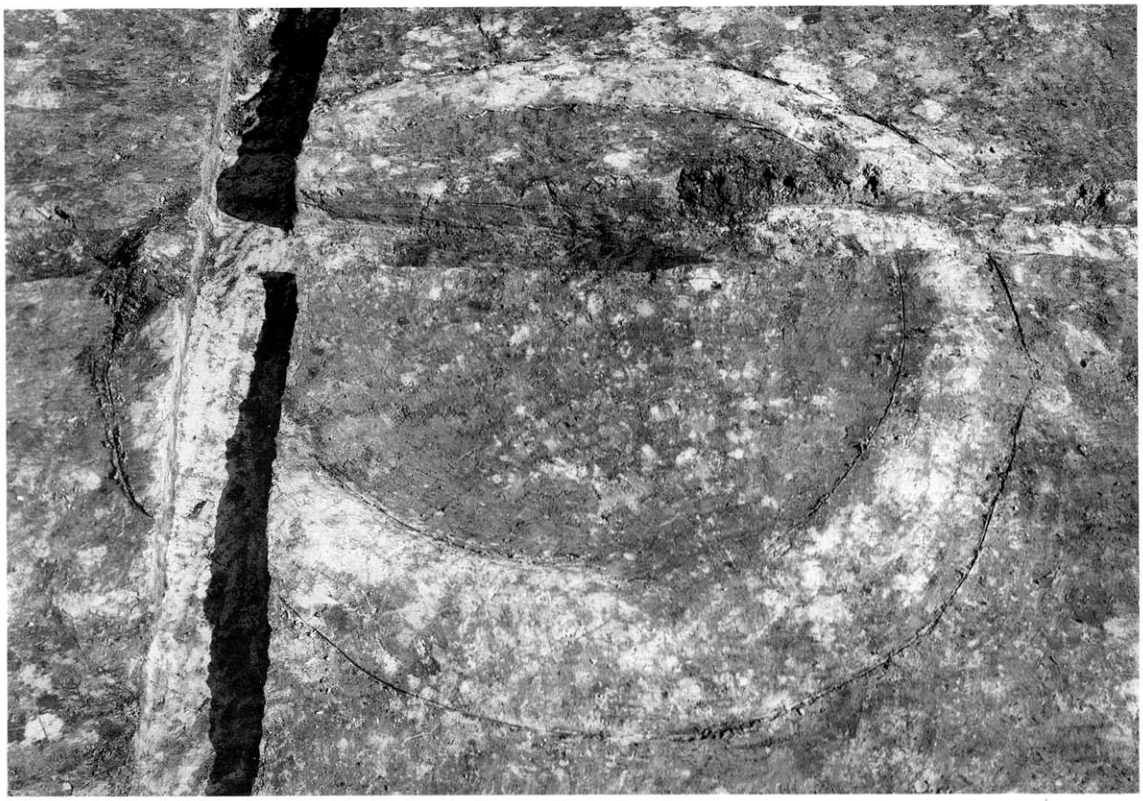


第６地点　第21号住居跡　床面（南東から）

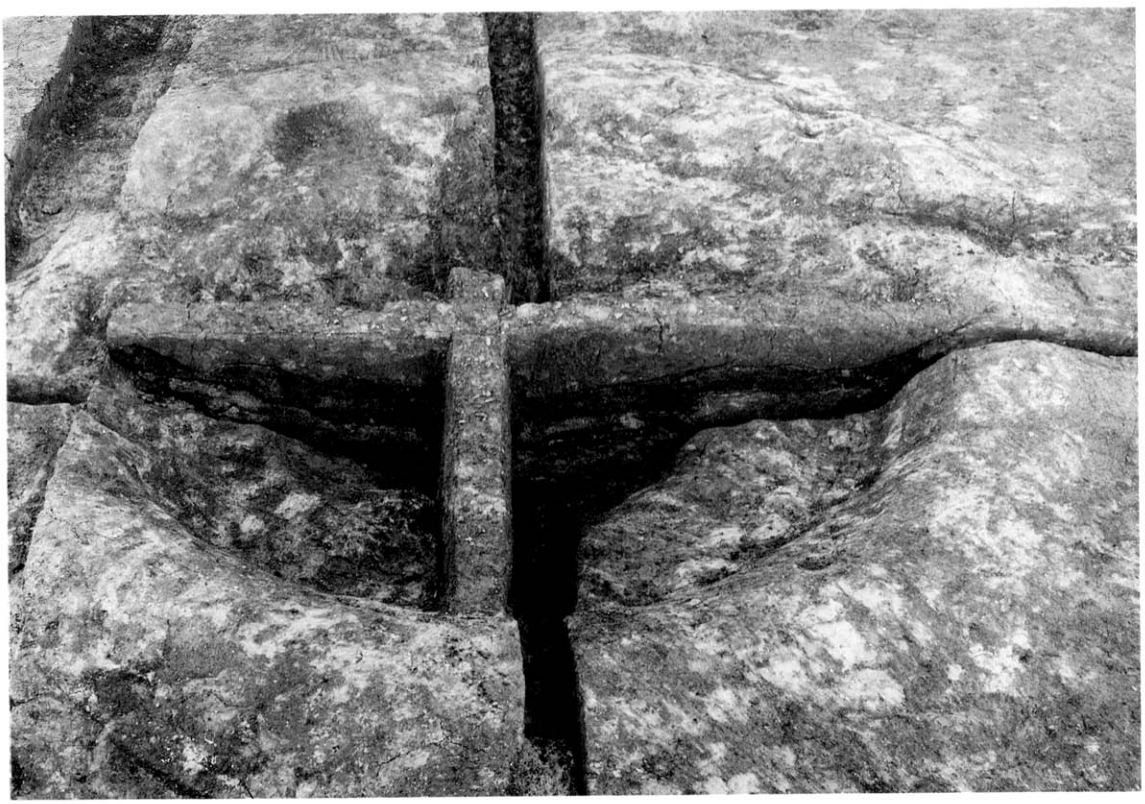


第６地点　第21号住居跡　床下層（南東から）

図版40



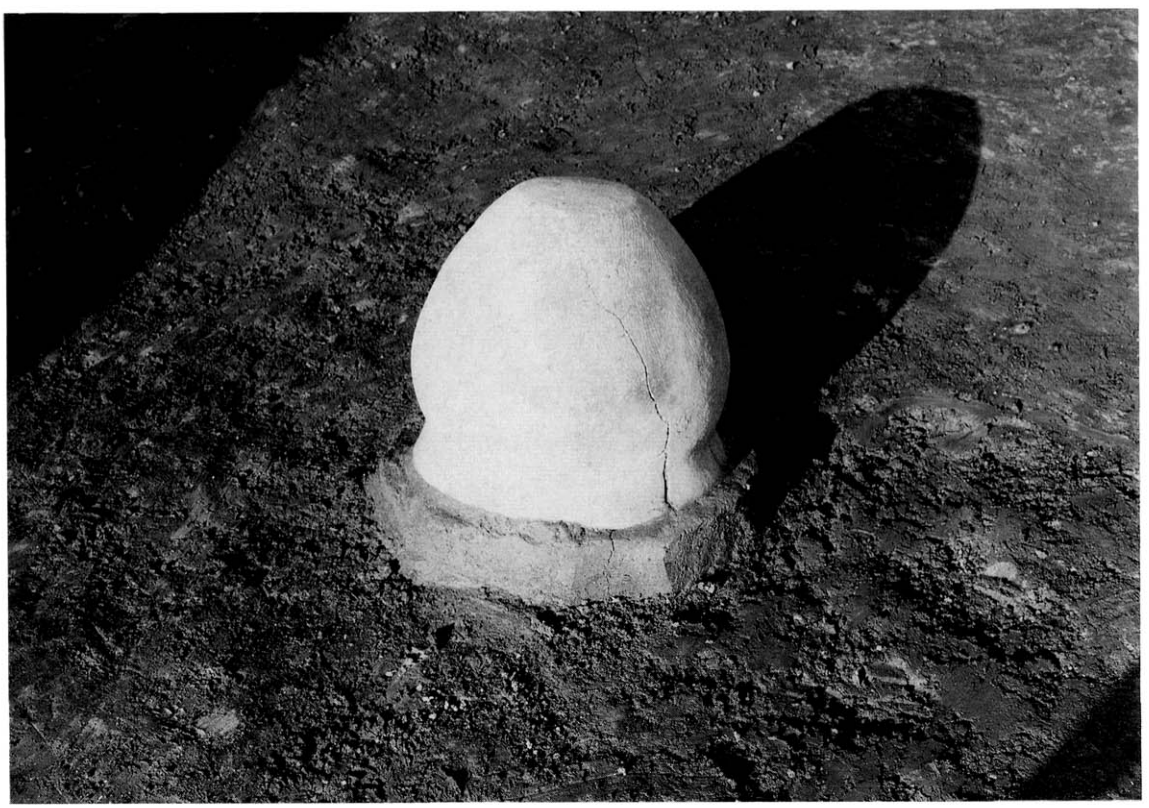
第6地点 第21号住居跡 炉跡 検出時



第6地点 第21号住居跡 炉跡 土層断面



第 6 地点　第21号往居跡　土器出土状態



第 6 地点　第21号往居跡　土器出土状態



第 6 地点　第21号往居跡　土器出土状態



第 6 地点　第21号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第21号住居跡　土器出土状態



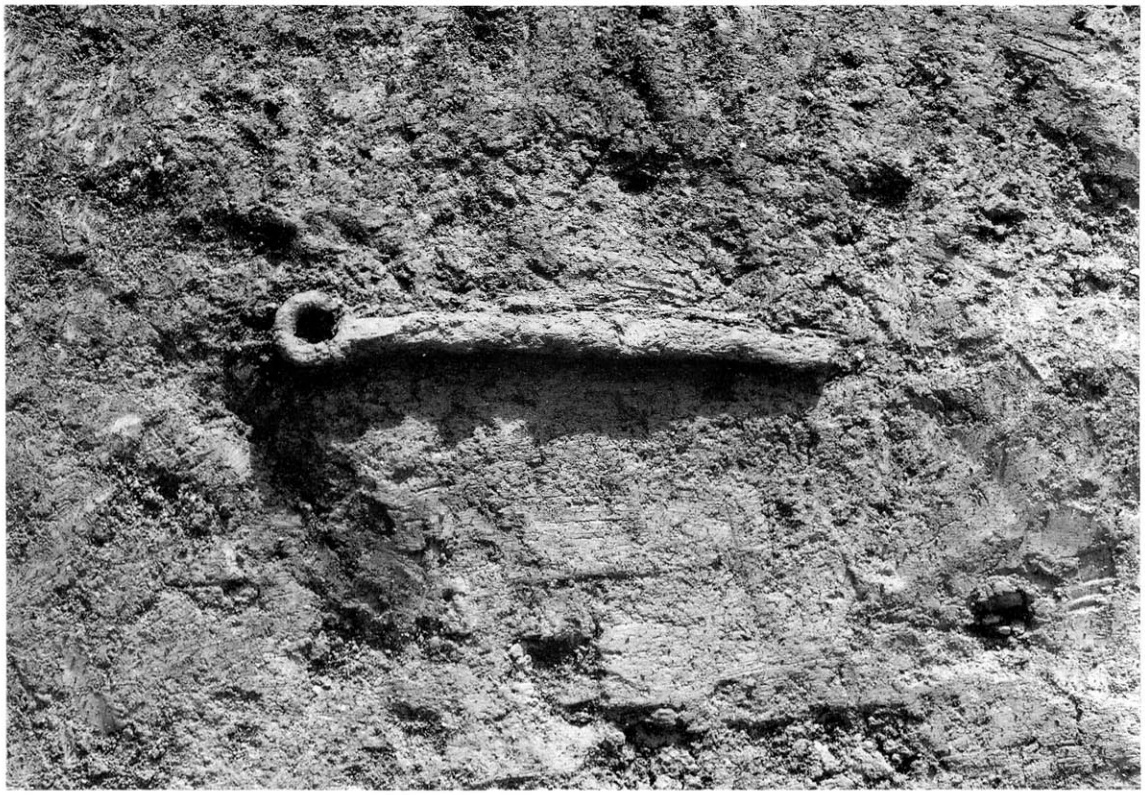
第 6 地点　第21号住居跡　土器出土状態



第６地点　第21号住居跡　鉄器（鉄鏃）出土状態



第６地点　第21号住居跡　鉄器（鉄鎌片？）出土状態

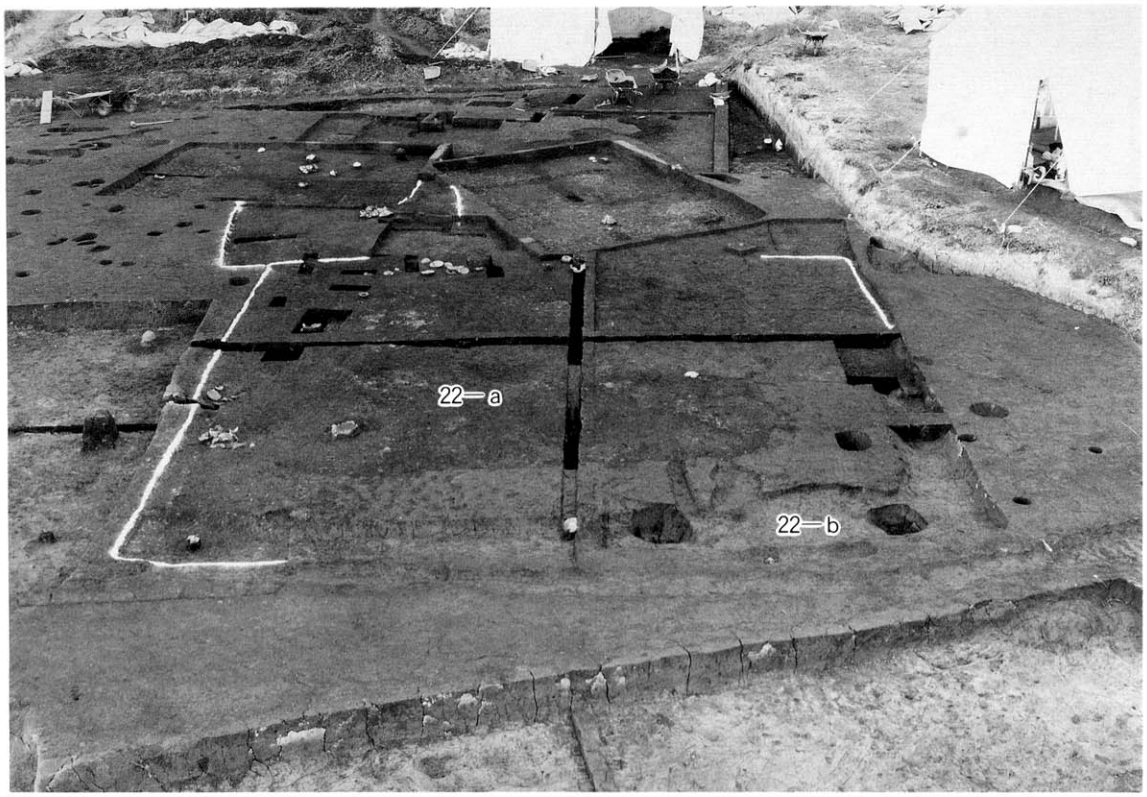


第６地点　第21号住居跡　鉄器（素環頭刀子）出土状態

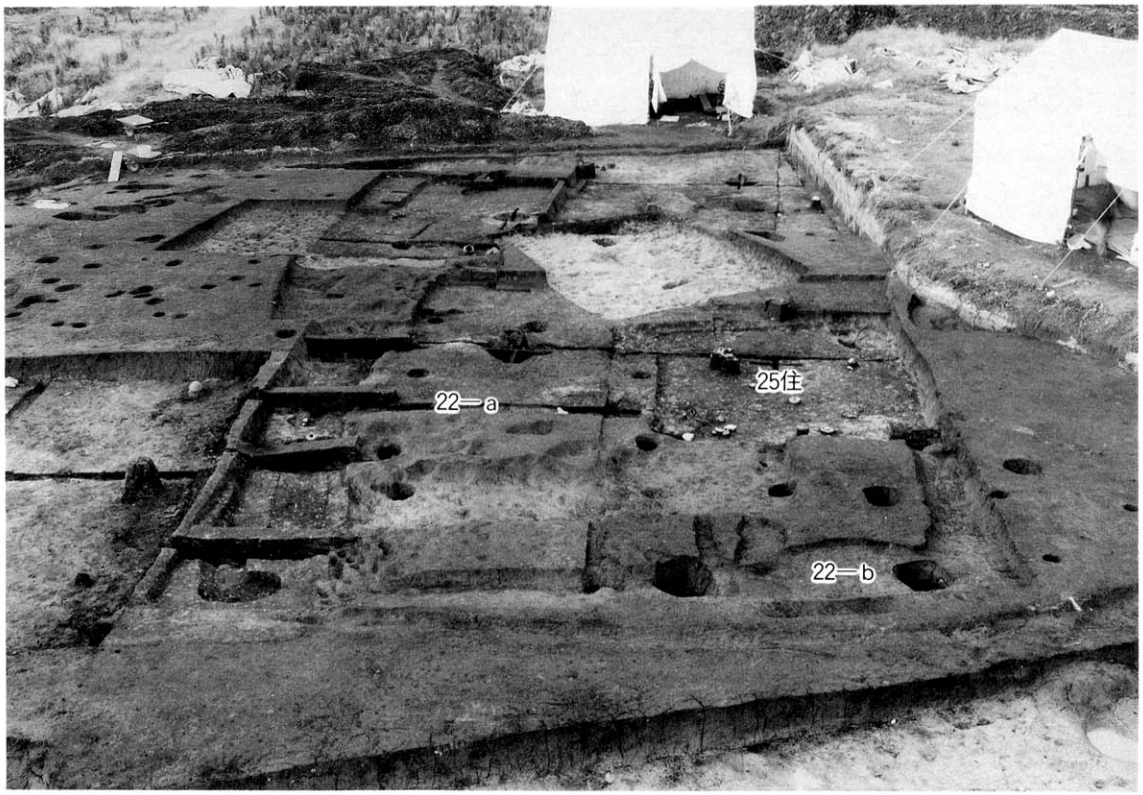


第６地点　第21号住居跡　石器（砥石）出土状態

図版46



第6地点 第22—a・b号住居跡 床面(一部床下層)(南東から)



第6地点 第22—a・b号住居跡 床下層 (南東から)



第６地点　第22－ａ号住居跡　炉跡　完掘時



第６地点　第22－ｂ号　東側コーナーピット　土器出土状態

図版48



第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



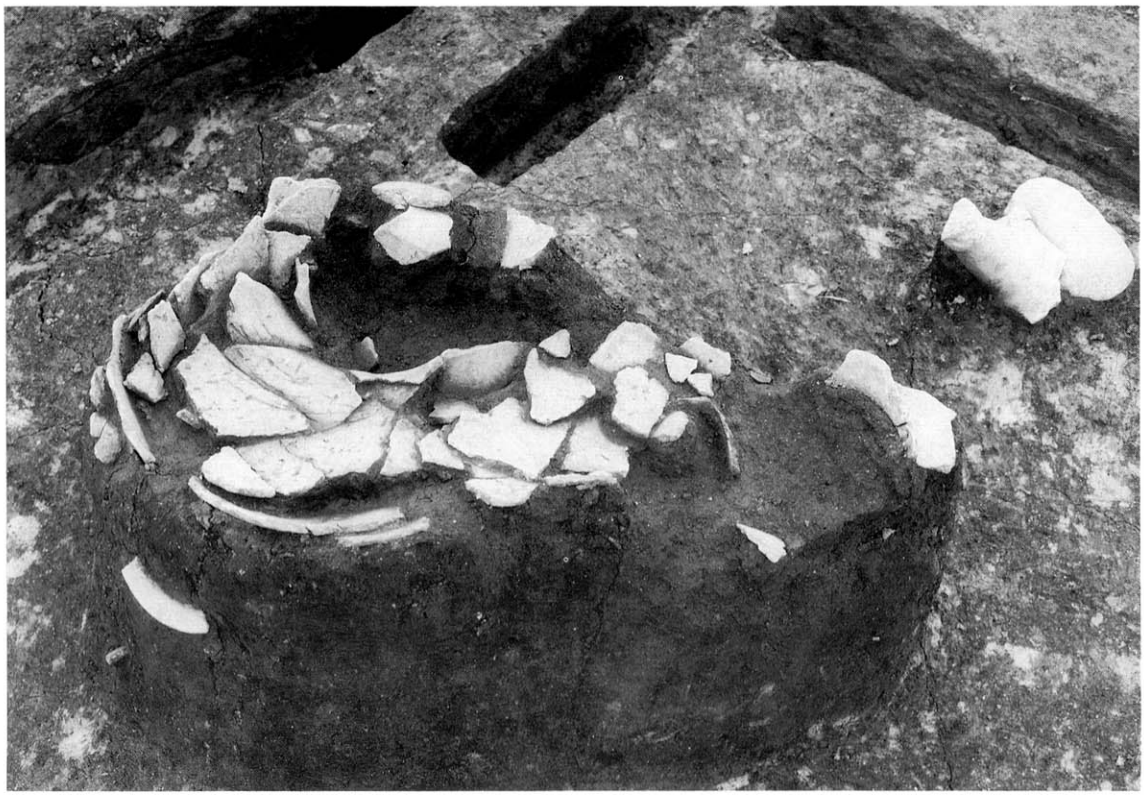
第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



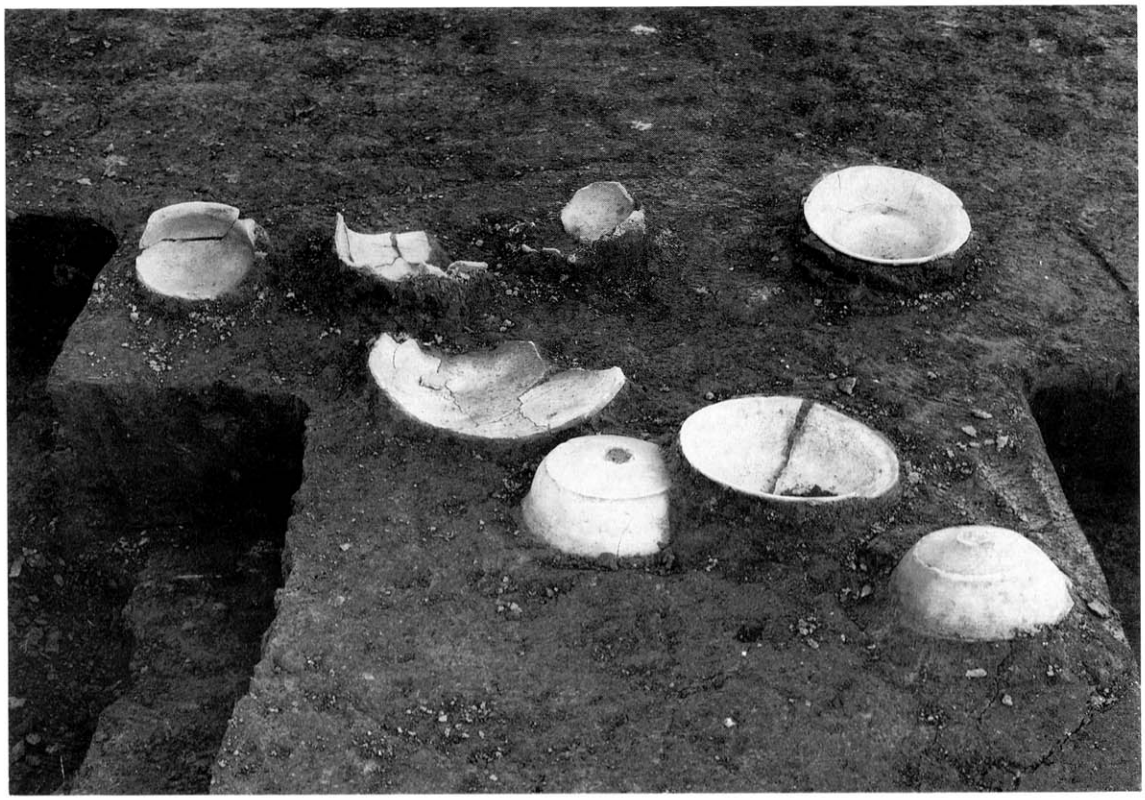
第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



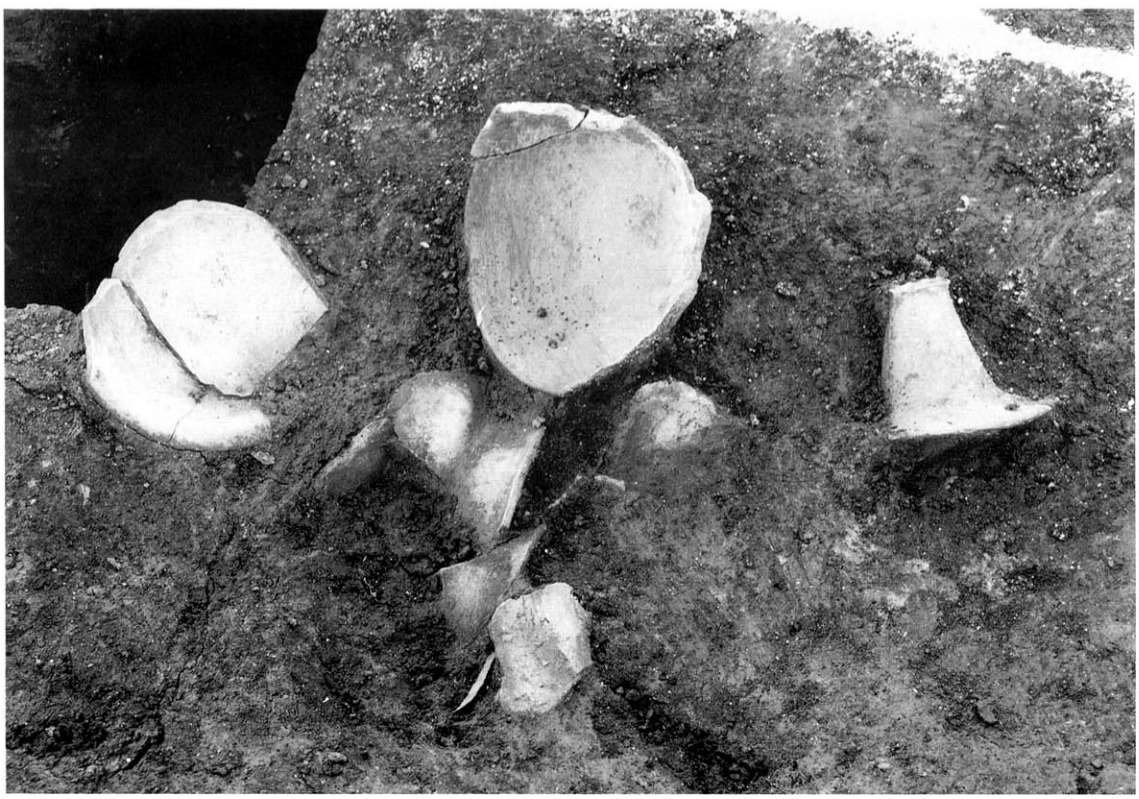
第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



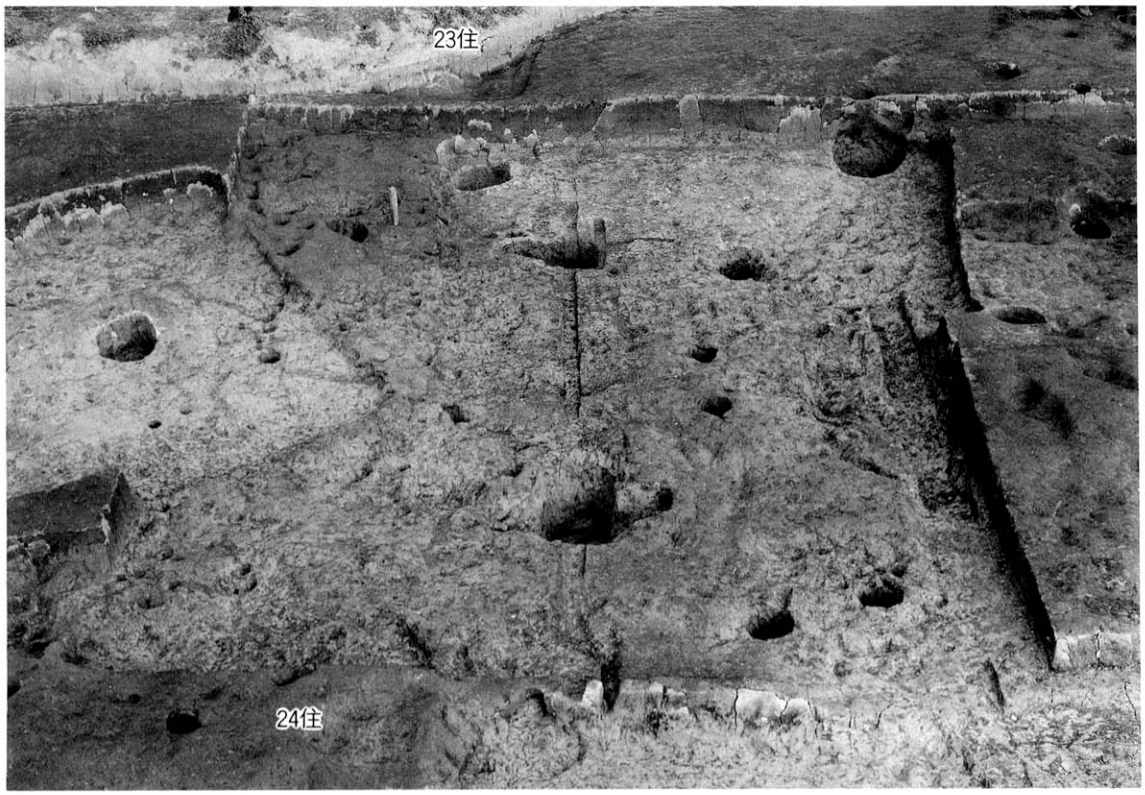
第 6 地点　第22— a 号住居跡　土器出土状態



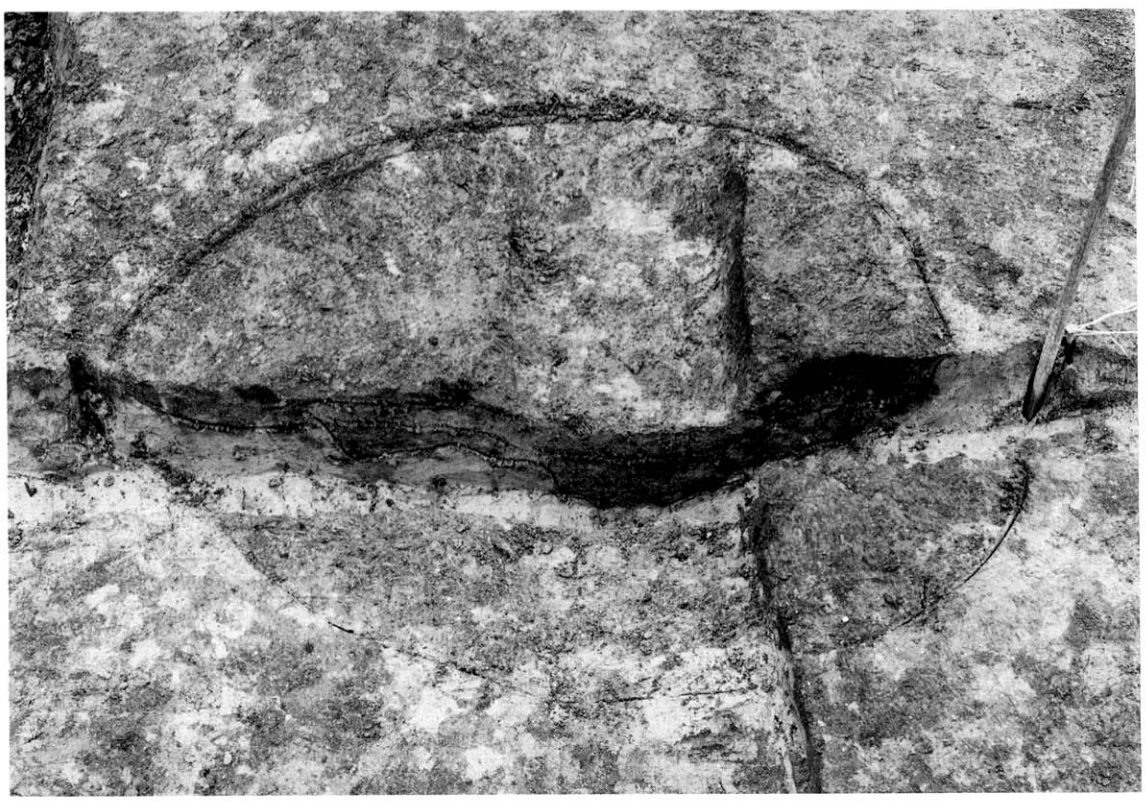
第6地点 第22－b号 住居跡南側コーナーピット 土器出土状態



第6地点 第22－a号住居跡 土器(手涅ね土器のみ)出土状態
他は25住

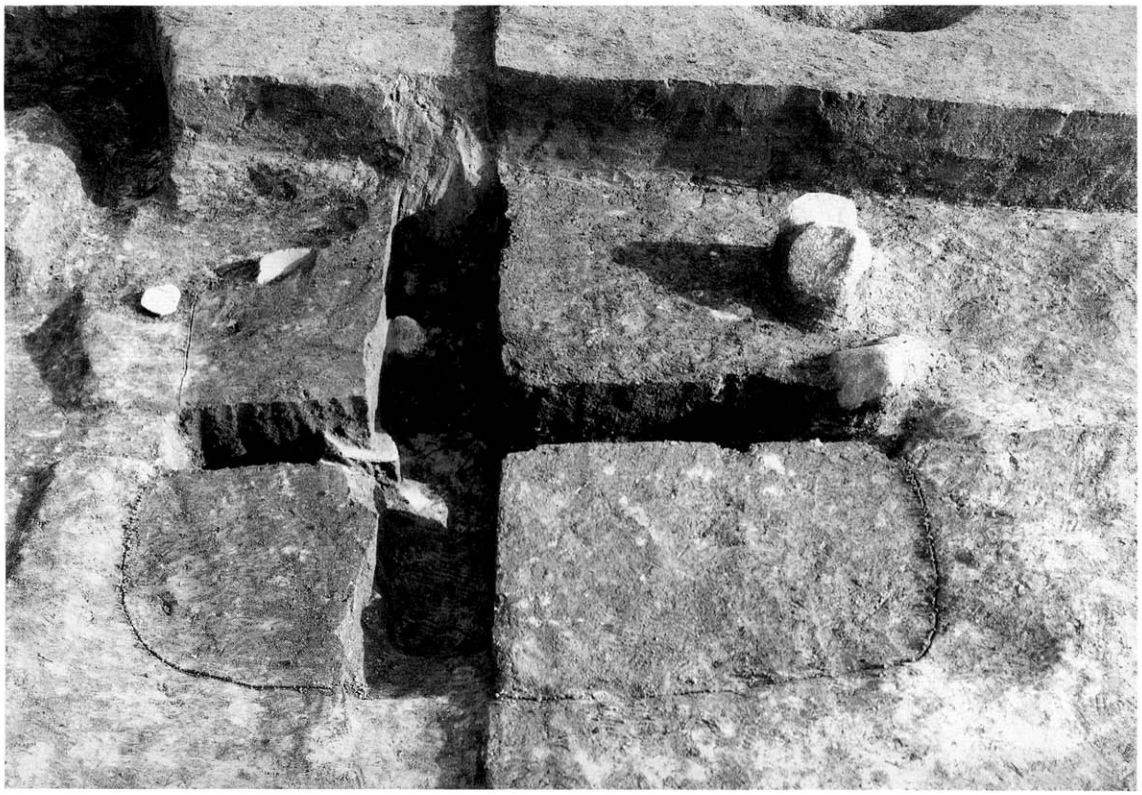


第６地点　第23・24号住居跡　床下層（南西から）



第６地点　第24号住居跡　炉跡　土層断面

図版54



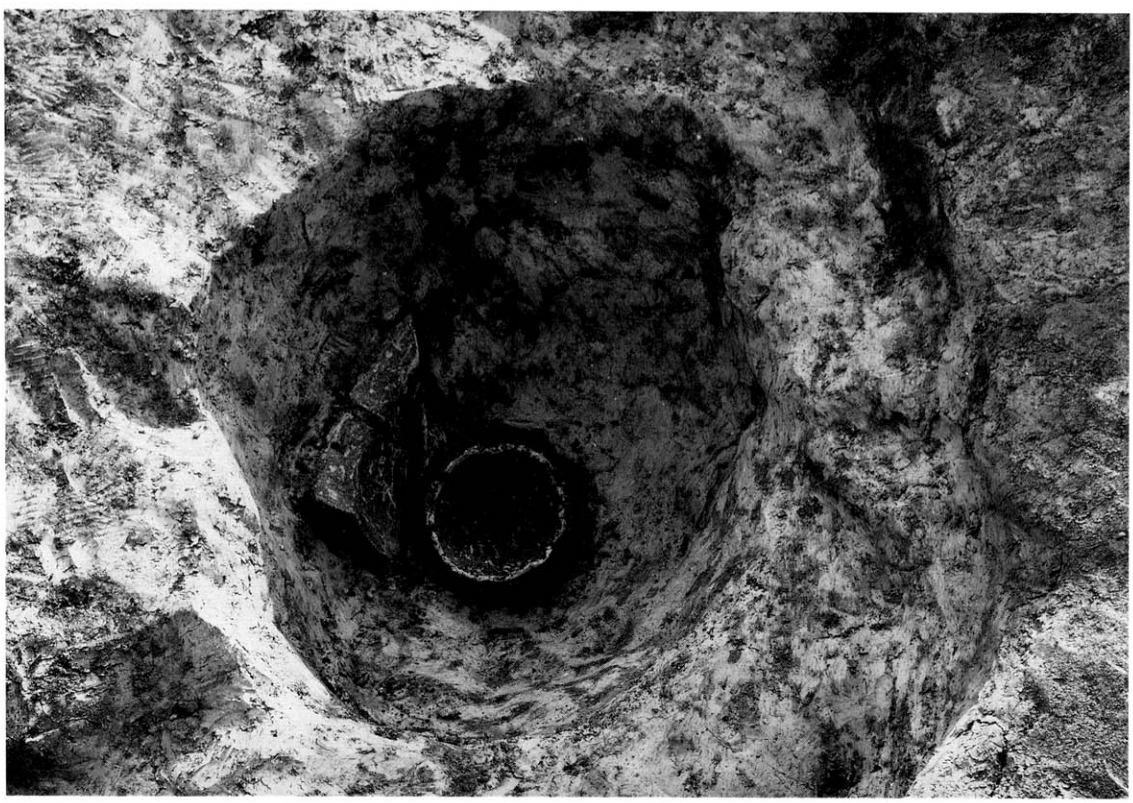
第６地点　第24号住居跡　東南辺　屋内土坑　検出時



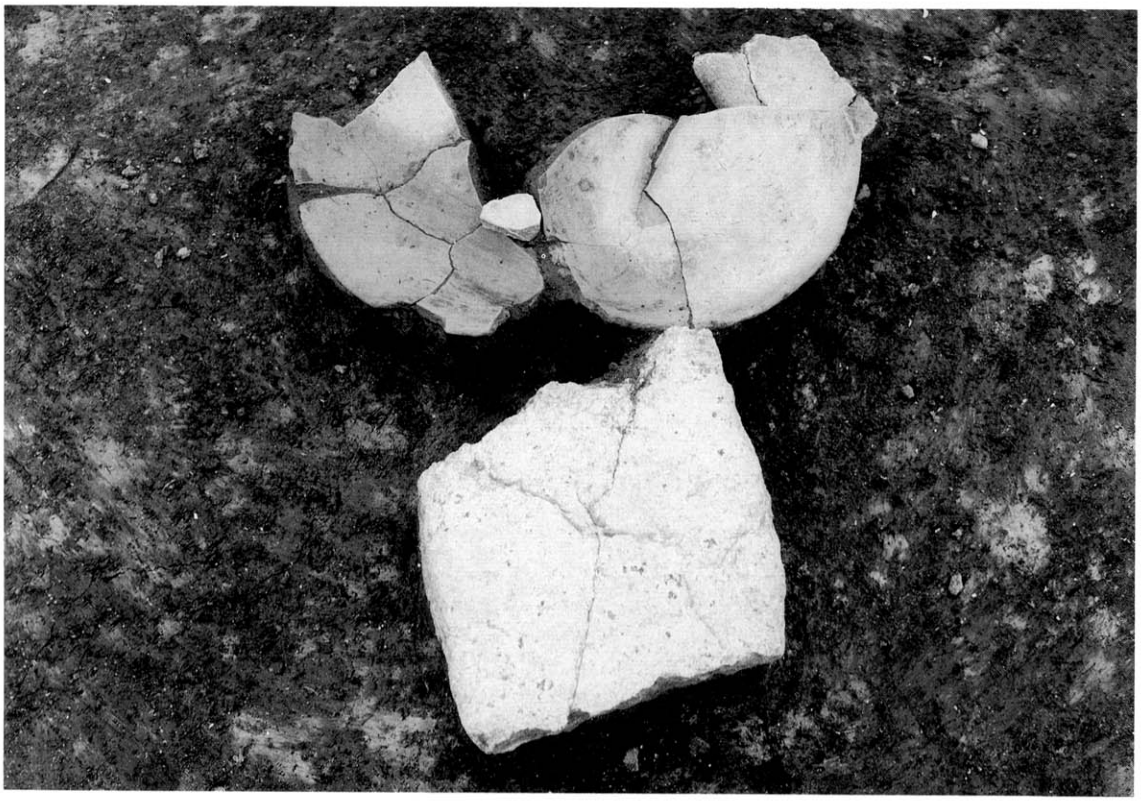
第６地点　第24号住居跡　主柱穴横ピット土器出土状態



第６地点 第25号住居跡 床面（南東から）



第６地点 第25号住居跡 北側コーナーピット 土器出土状態



第 6 地点　第25号住居跡　土器出土状態



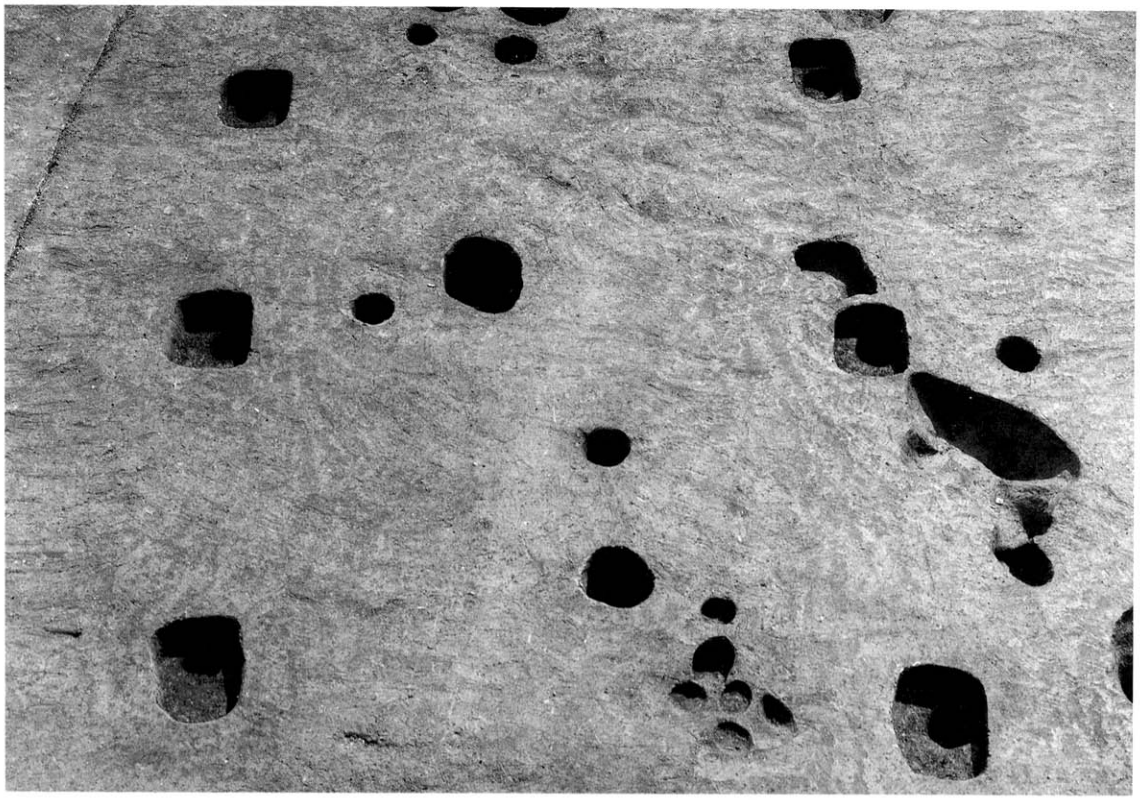
第 6 地点　第25号住居跡　土器出土状態



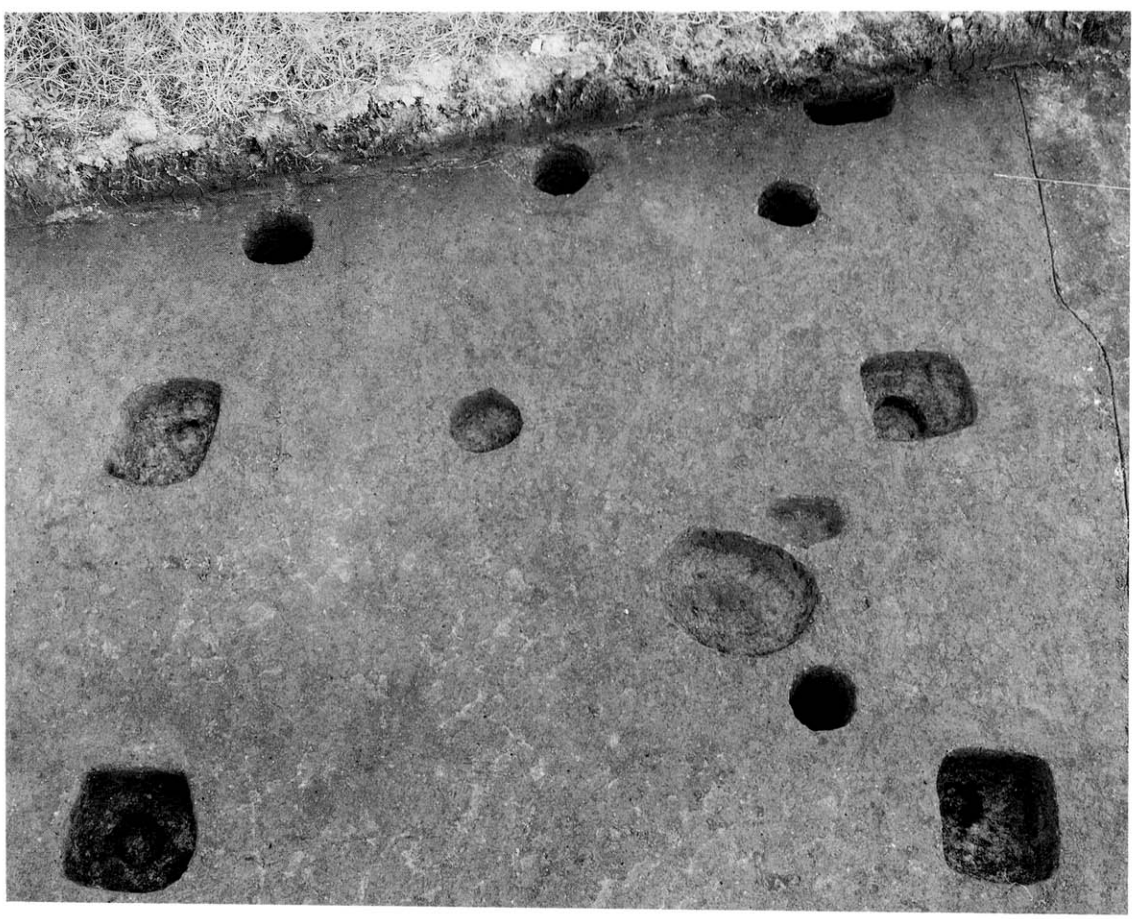
第 6 地点　第25号住居跡　土器出土状態



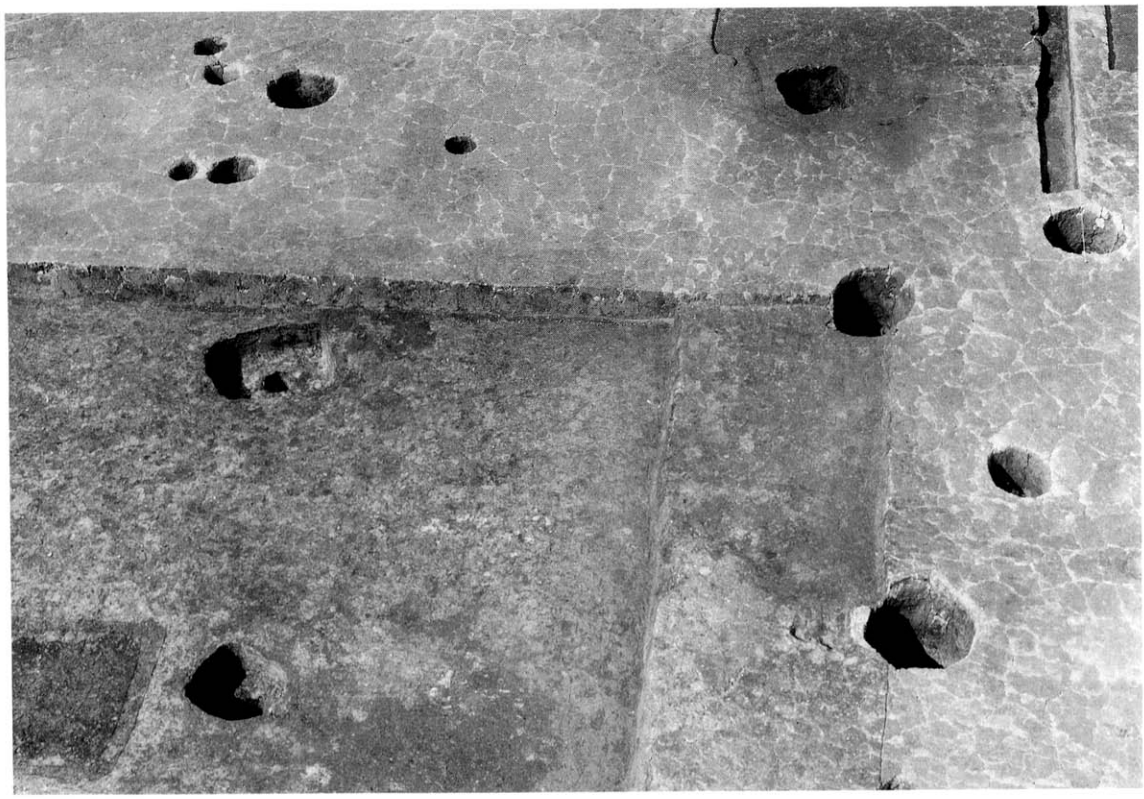
第 6 地点　第25号住居跡　土器出土状態



第６地点 第１号掘立柱建物跡（北東から）



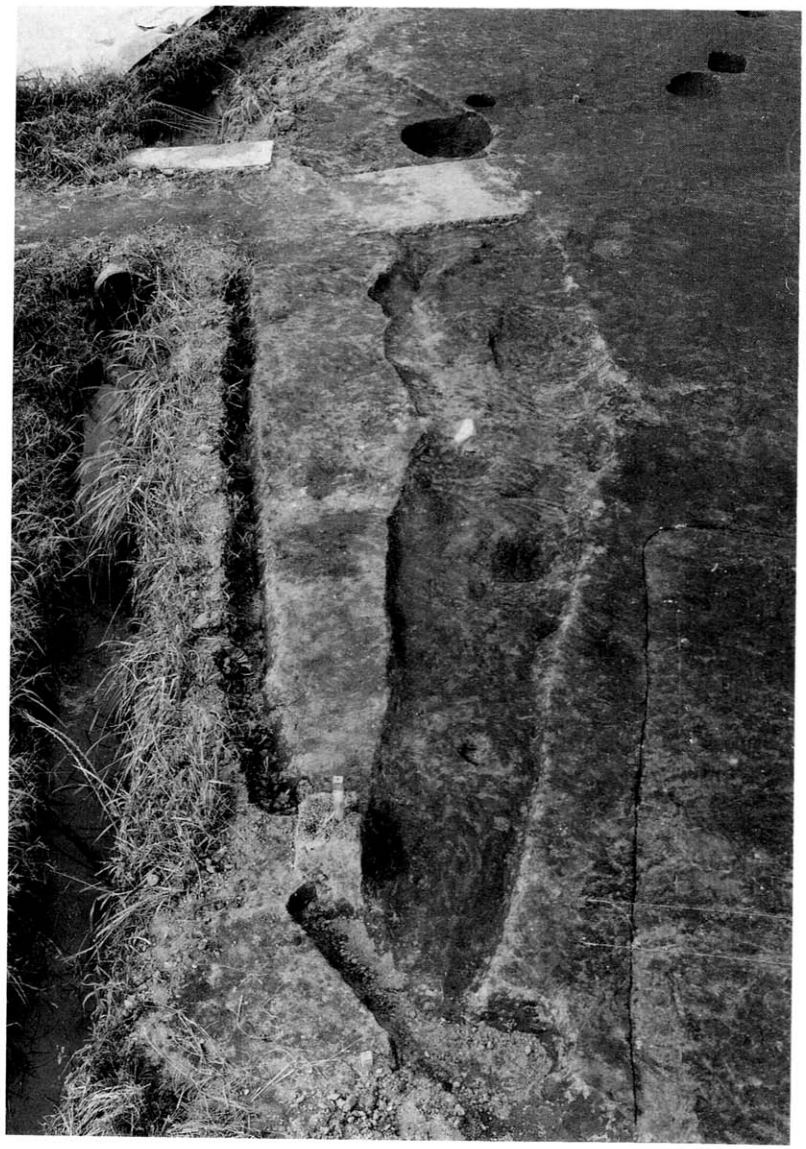
第６地点 第２号掘立柱建物跡（北西から）



第6地点 第3号掘立柱建物跡（南東から）



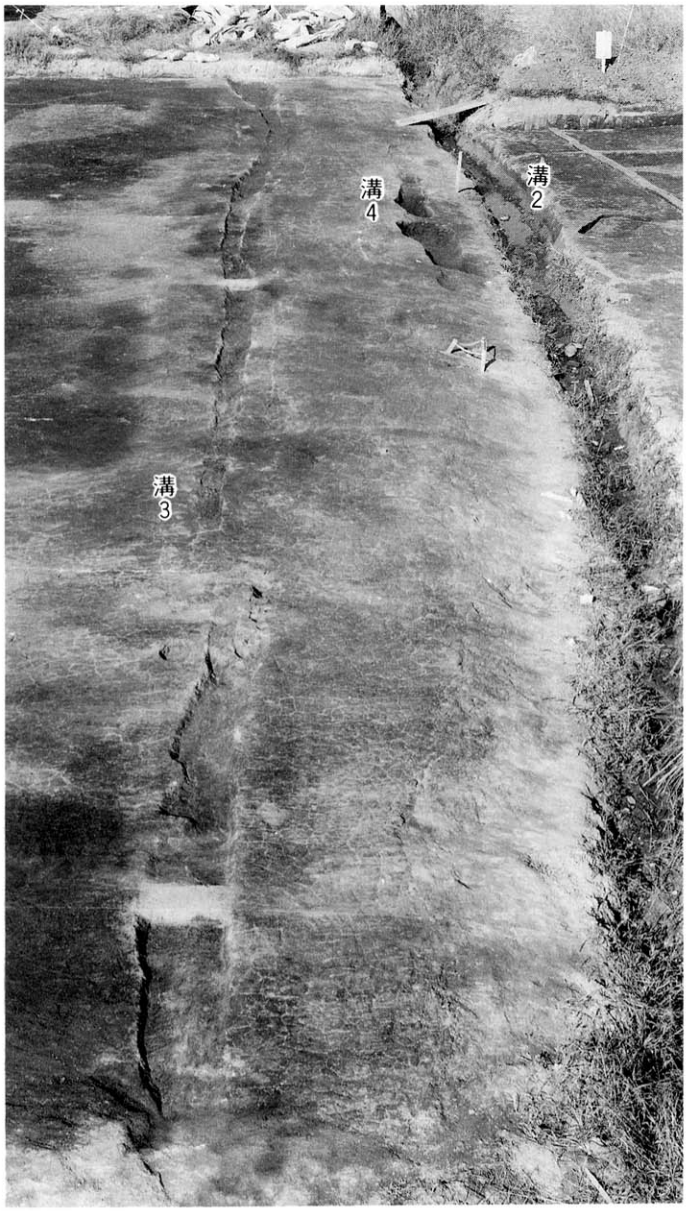
第6地点 第4号掘立柱建物跡（南西から）



第６地点　第１号溝状遺構（南から）



第６地点　第５号溝状遺構（南西から）

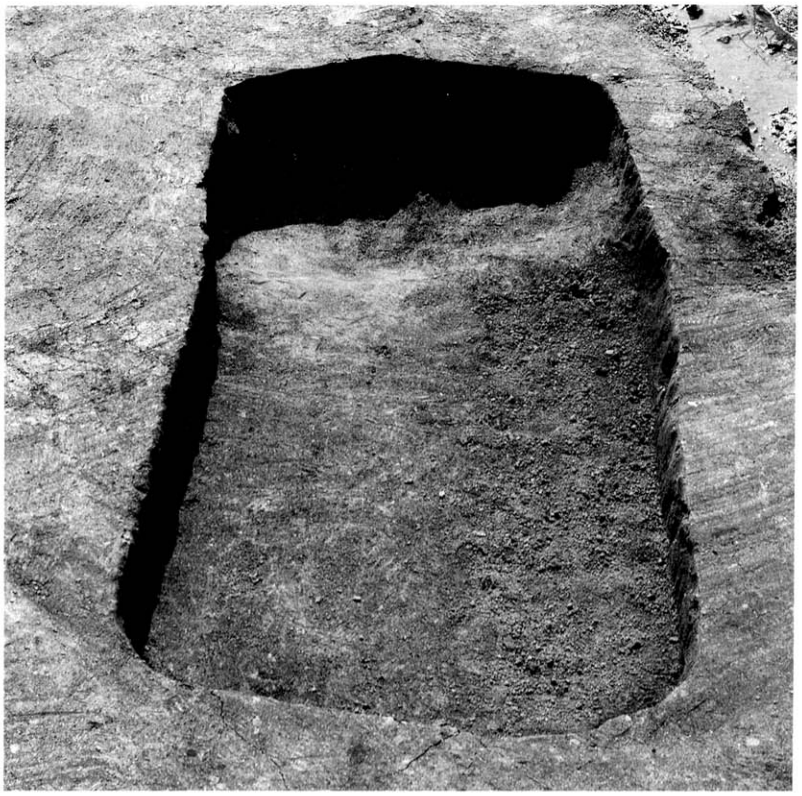


上 第6地点 第2～4号溝状遺構（南西から）

下 第6地点 第3号溝状遺構 管玉出土状態



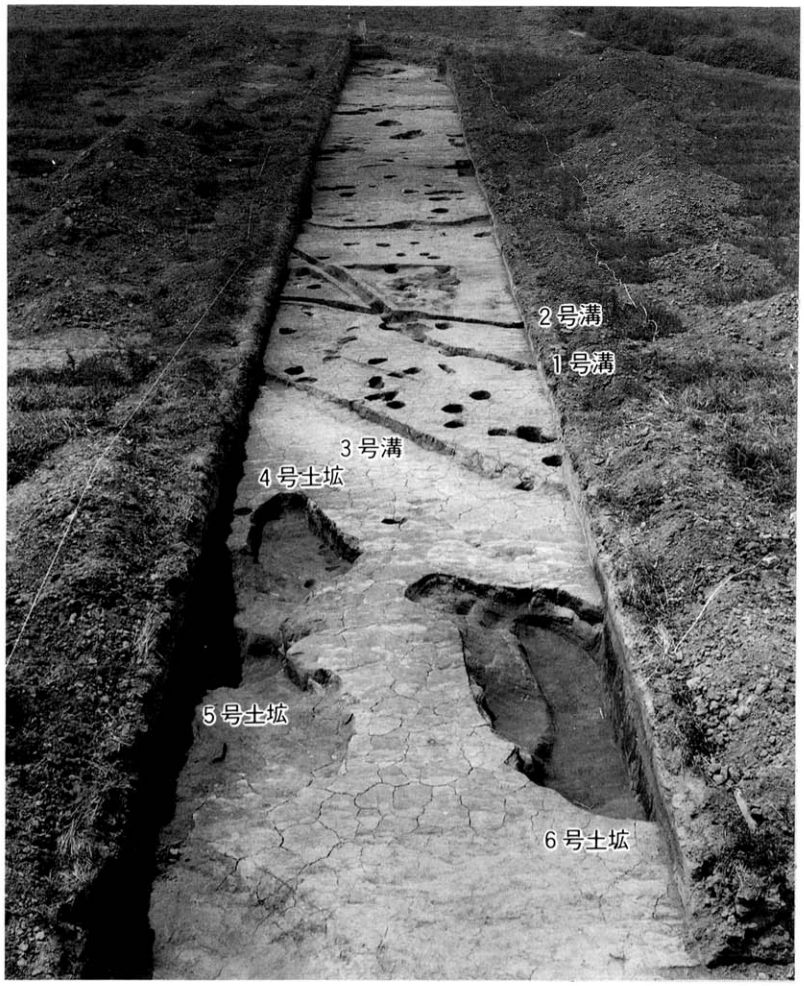
図版62



第6地点 第1号土坑（北東から）



八ヶ坪遺跡 発掘調査に参加された方々



第7地点　南西部分全景（北東から）



第7地点　中央払張区・南西部分全景（北東から）

図版64

7地点 北東部分全景（南西から）





第7地点 中央払張区・北東部分全景（南西から）

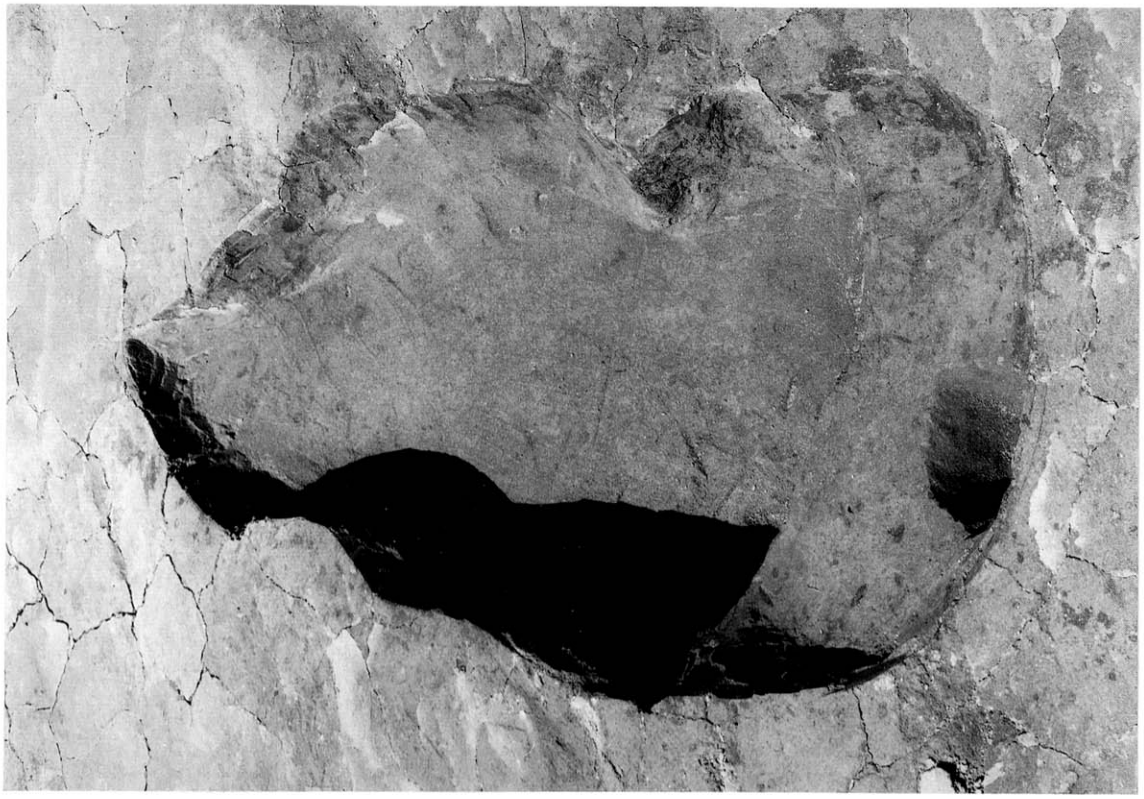


第７地点 第１号土坑（北西から）



第７地点 第２号土坑（北東から）

図版66



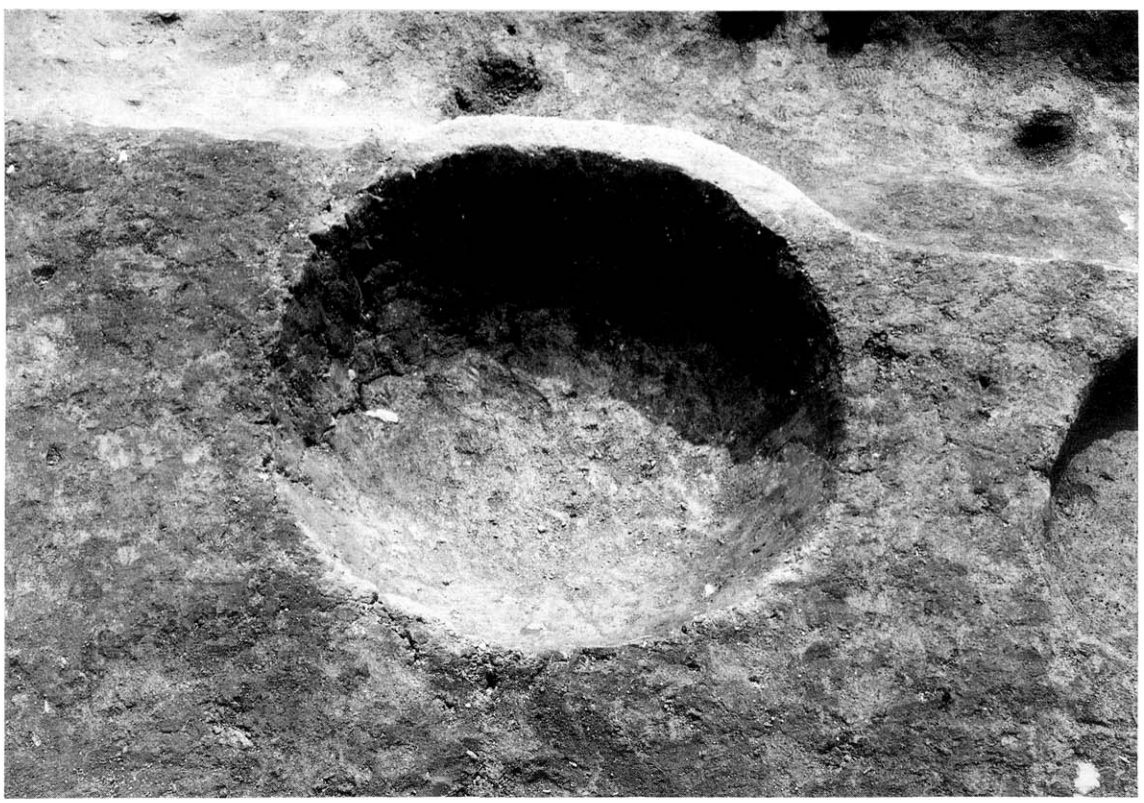
第７地点 第３号土坑（北東から）



第７地点 第４・５号土坑（北西から）



第７地点 第６号土坑（南東から）



第７地点 第７号土坑（北西から）

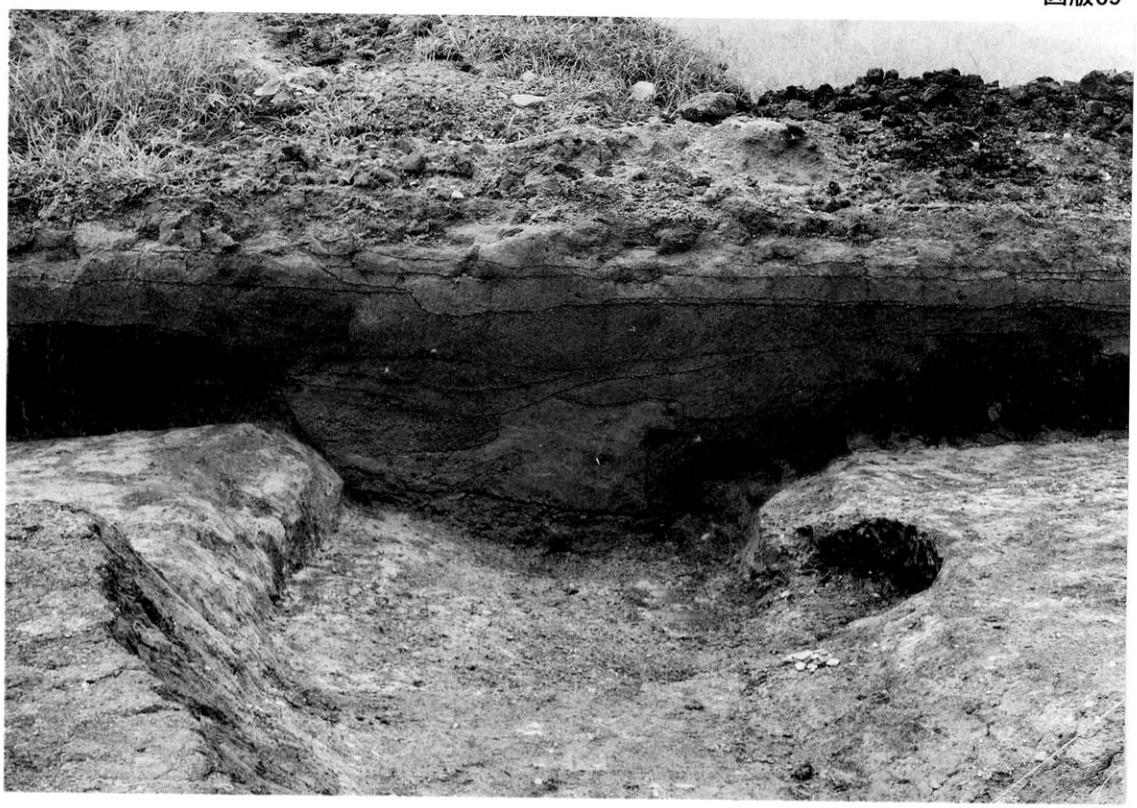
図版68



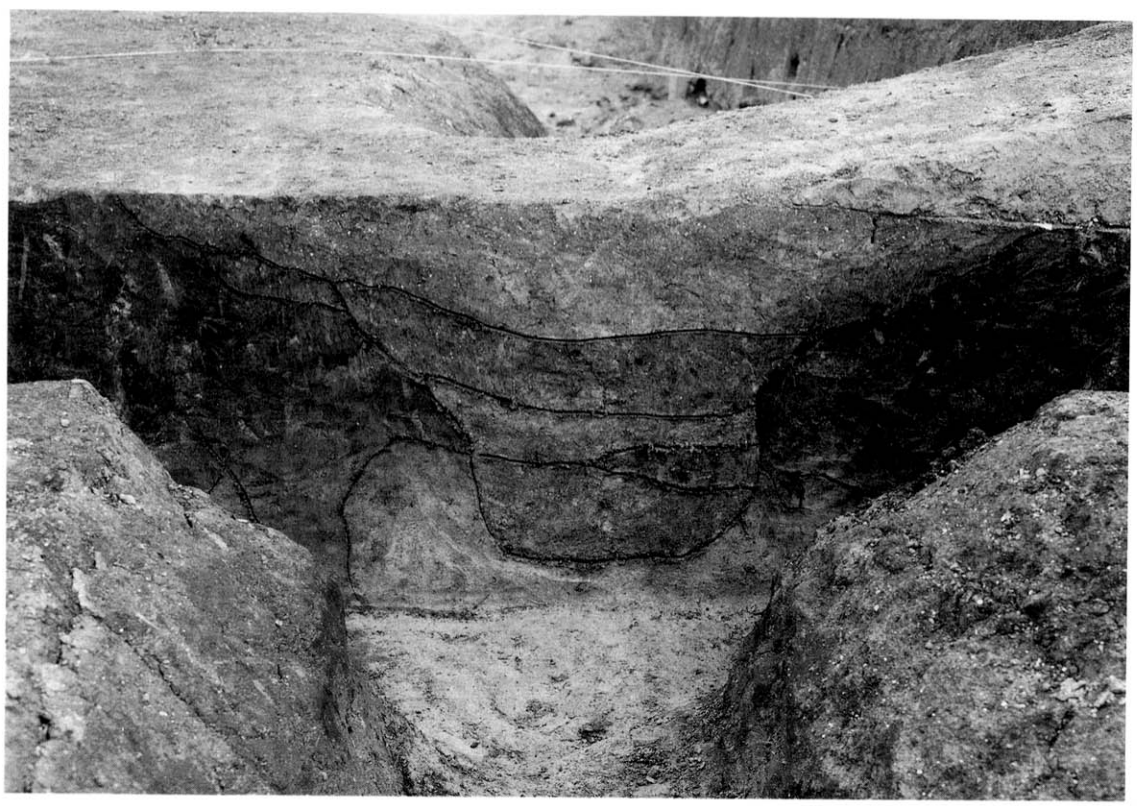
第７地点 第８号土拡（東から）



第７地点 第８号土坑内礫出土状態（北から）



第７地点　第６号溝状遺構土層断面（北東から）



第７地点　第12号溝状遺構土層断面（南西から）

図版70



第７地点　第13号溝状遺構　土器出土状態



第７地点　第13号溝状遺構　土器出土状態



第７地点　第25号溝状遺構　土器出土状態



第７地点　発掘作業風景



第７地点 中央拡張区 下層検出ピット群全景（北から）



第７地点 中央拡張区 下層検出ピット群全景（南西から）



第７地点 中央拡張区 下層検出ピット群全景（北東から）

図版74


5－1


5－2


5－3


5－4


5－5


5－6


5－7

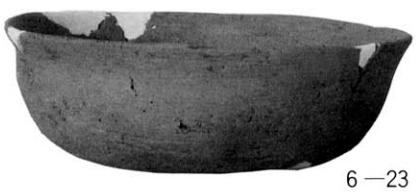

5－8


6－14

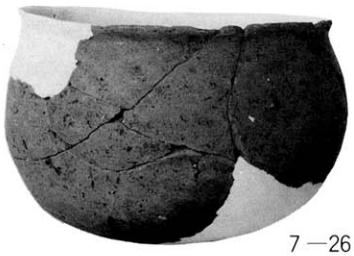

6－19


6－15

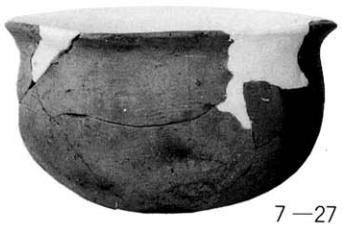

6－20


6－23

八ヶ坪遺跡 第6地点 第1号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）



7—26



7—27



7—29



7—28



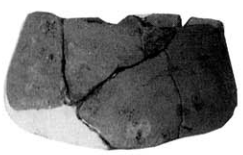
7—31



7—32



7—33



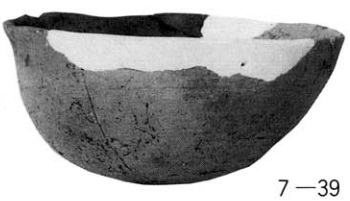
7—34



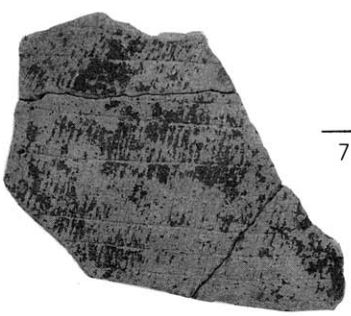
7—35



7—38

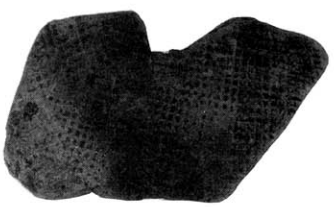


7—39





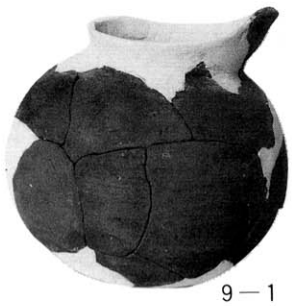
7—41



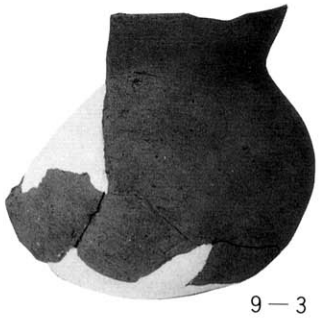
オモテ　　ウラ

八ヶ坪遺跡 第6地点 第1号住居跡 出土土器（縮尺不統一 数字は挿図番号）

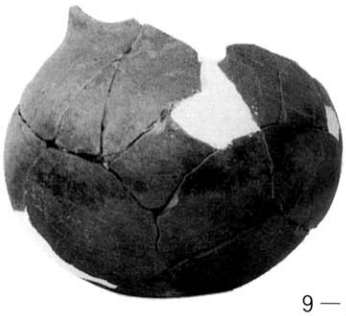
図版76


9－1

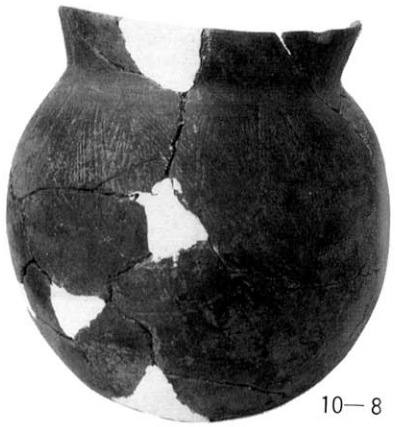

9－2


9－3


9－4


9－5


9－6


10－8


10－9


10－10


10－11


10－12


10－16


10－17

八ヶ坪遺跡 第6地点第2号住居跡 出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

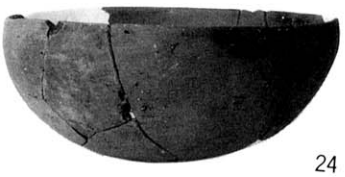

18

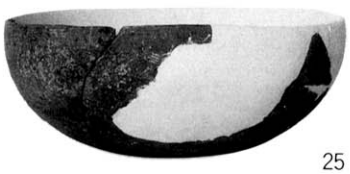

19


20


21


23


24


25


26


27


30


31


32


33

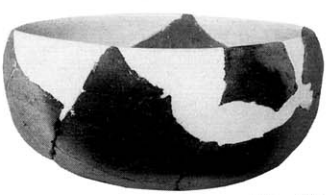

13—34


13—35

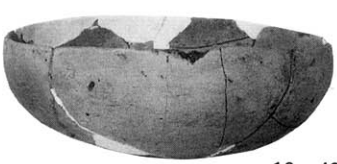

13—36


13—37


13—38

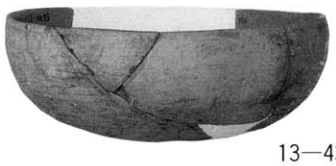

13—40

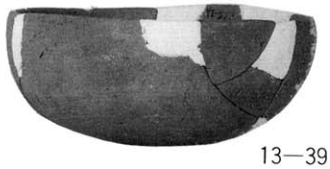

13—41


13—42

八ヶ坪遺跡 第6地点第2号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

図版78


13—43

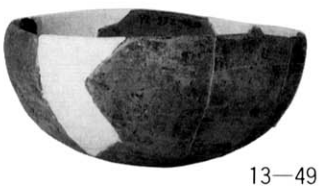

13—39


13—45


13—46


13—47

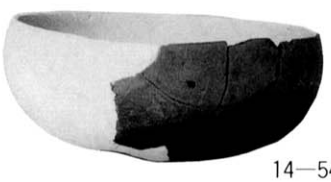

13—48


13—49

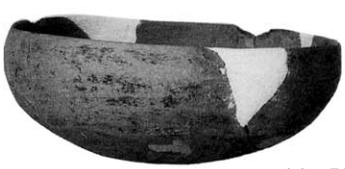

14—50


14—52


14—53


14—54


14—55


14—56


14—57


14—58


14—59


14—60


14—61

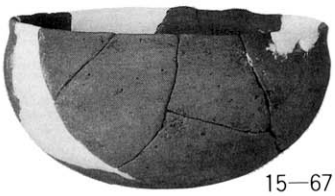

14—62


14—63

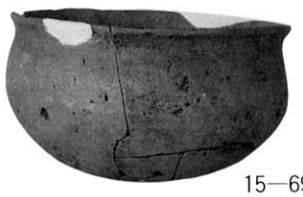

14—64

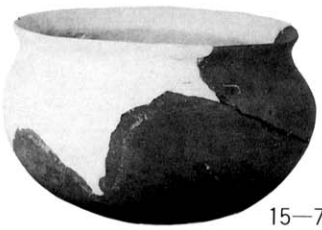
八ヶ坪遺跡 第6地点第2住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）


14—65

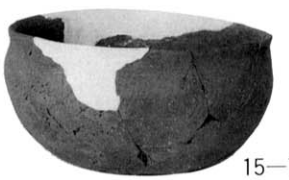

15—67


15—68

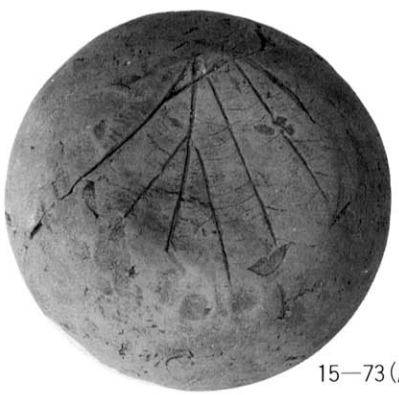

15—69


15—70


15—71


15—73


15—74


15—73(底部木葉底)


15—76


15—77


15—78


15—75


15—79


15—80


15—81


15—82


15—83


15—84


15—85

八ヶ坪遺跡 第6地点第2号 住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

図版80

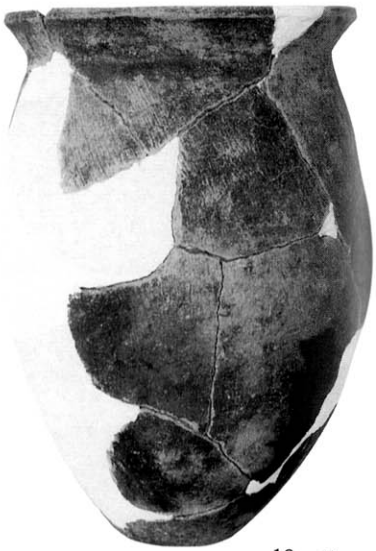

18—2


18—3

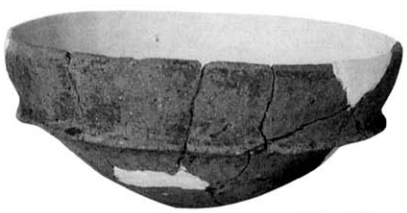

18—4


18—5


18—6


18—7

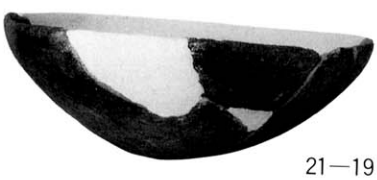

19—10

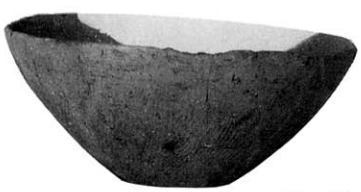

21—16


21—17


21—23


21—23

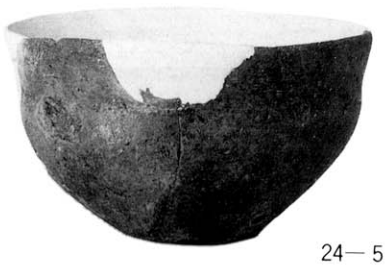

21—19


21—21

八ヶ坪遺跡 第6地点第3号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）


24— 1


24— 4


24— 5


24— 7


24— 9


26— 1


26— 2


32— 1


28— 2


28— 3

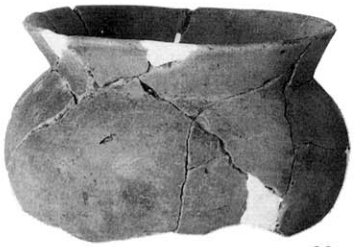

28— 8


28— 9


32— 2

八ヶ坪遺跡 第6地点第6・7・8号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図図号）

図版82



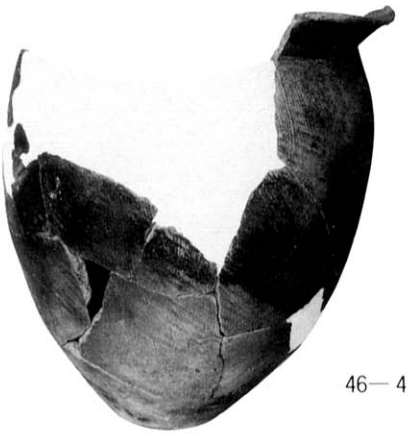
33—1



38—1



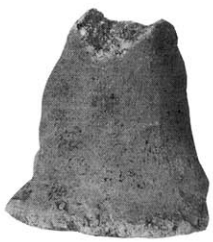
46—1



46—4



47—6



47—8



47—9



47—10



65—1



65—2

八ヶ坪遺跡第6地点第11·15·18·24号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）


40— 1


40— 2


40— 3


40— 4


40— 5


40— 6


40— 7


40— 8


40—11


40—13


40—14

八ヶ坪遺跡 第 6 地点第16号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

図版84



43— 2



43— 7



43— 7（底部）



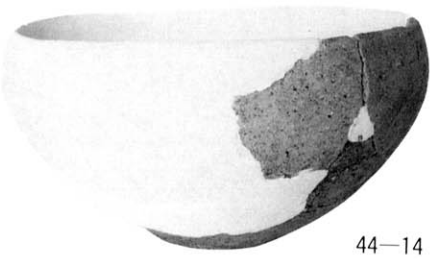
43— 9



44—13



44—10



44—14



44—15



44—16



44—17

八ヶ坪遺跡 第 6 地点第17号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）



49—1



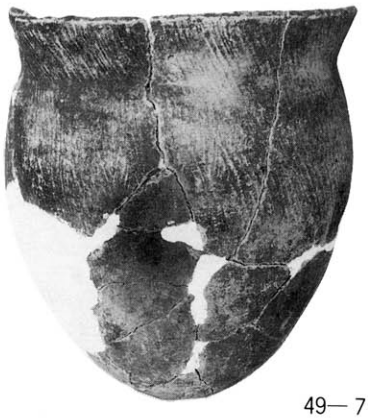
49—3



49—5



49—6



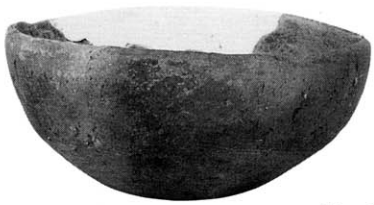
49—7



50—9



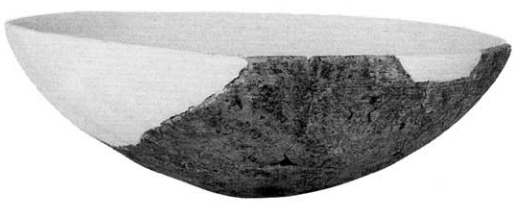
50—17



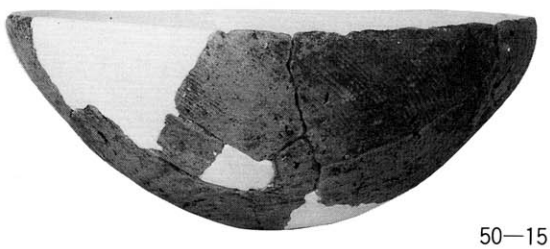
50—12



50—13



50—14



50—15

八ヶ坪遺跡 第6地点第19号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

図版86



52— 2



52— 1



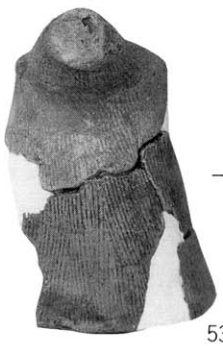
53— 7



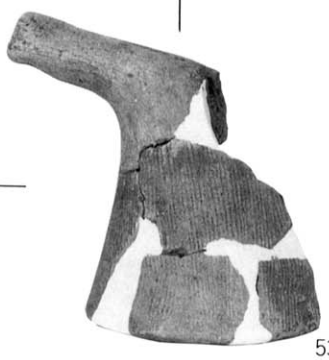
53— 9



53— 8



53— 9



53— 9



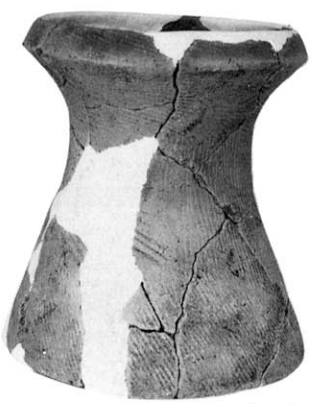
53—10



53—12



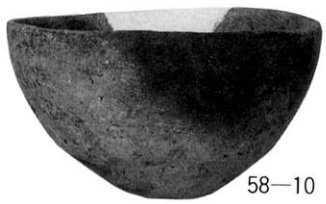
54—13



54—14

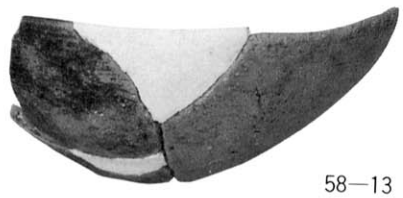
八ヶ坪遺跡 第 6 地点第20号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）


56— 1

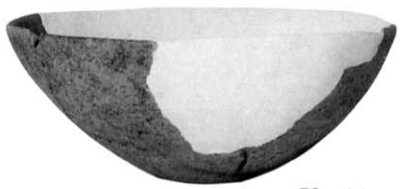

58—10


58—11


58—12

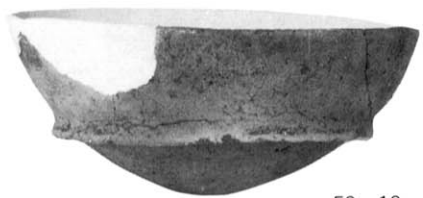

58—13


56— 3


58—14


58—15


58—17


58—18


56— 4


58—19


58—20


56— 8

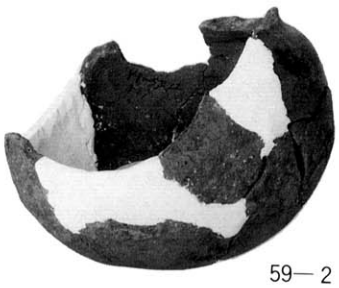

58—21


58—22

八ヶ坪遺跡 第 6 地点第21号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

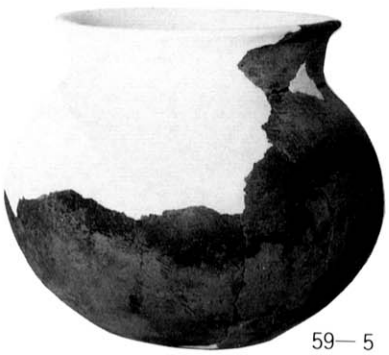
図版88


59— 1


59— 2


59— 3


59— 4

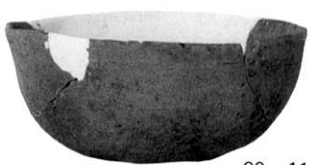

59— 5


59— 6


60— 7


60— 9

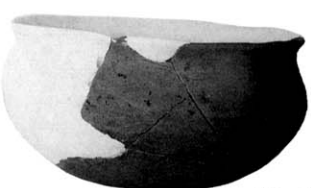

60—10


60—11

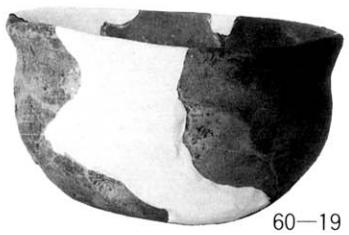

60—13


60—14

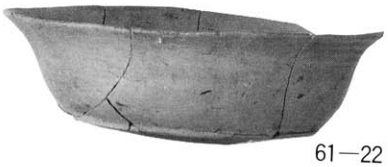

60—15


60—17

八ヶ坪遺跡 第6地点第22号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）


60—19


61—21

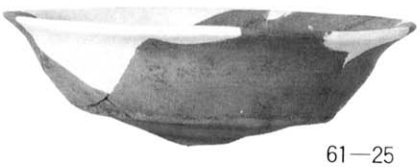

61—22

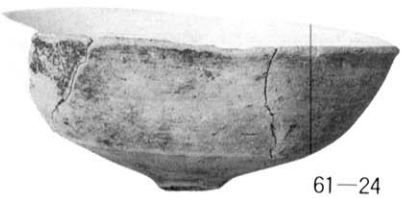

61—26


61—23


61—20


61—30


61—25


61—24


61—27


62—33


62—36


62—44


62—34


62—40


62—41


62—42


62—35


62—37


62—38

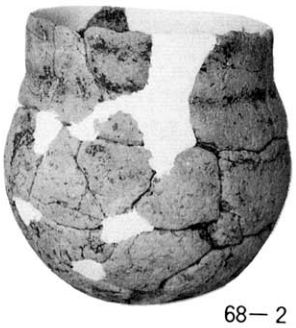

62—39

八ヶ坪遺跡 第6地点第22号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

図版90



68－1



68－2



68－5



68－8



68－7



68－9



68－10



69－11



69－12



69－13



69－14

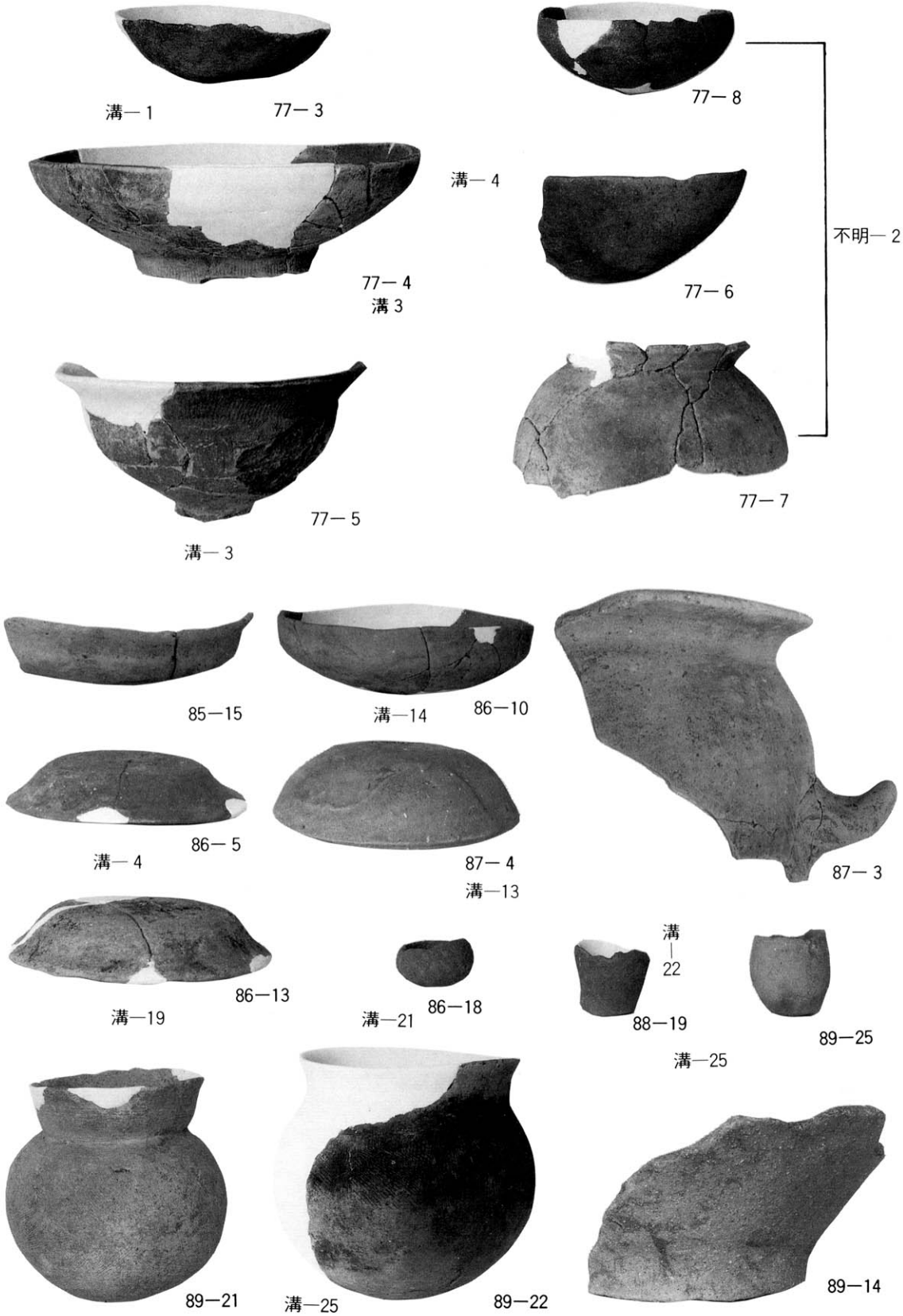


69－16



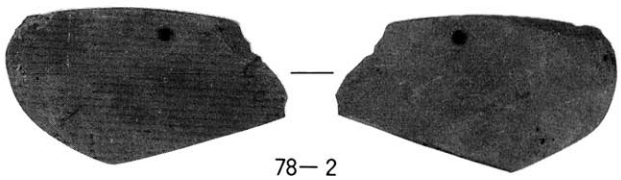
69－17

八ヶ坪遺跡 第6地点第25号住居跡出土土器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

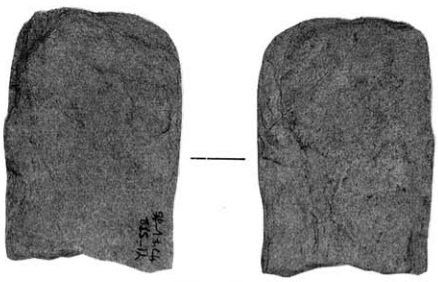


八ヶ坪遺跡 第6地点住居跡以外の遺物（上段）と第7地点出土遺物（縮尺不統一、番号は挿図番号）

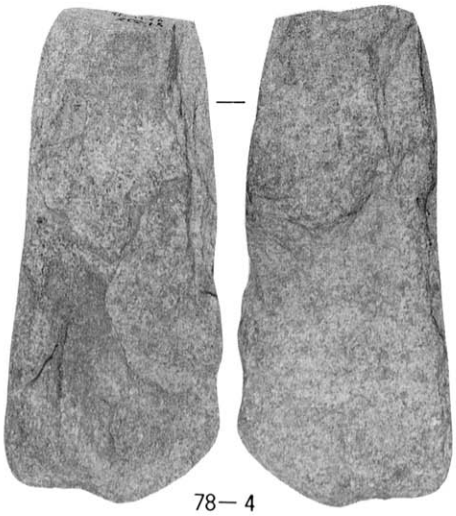
図版92



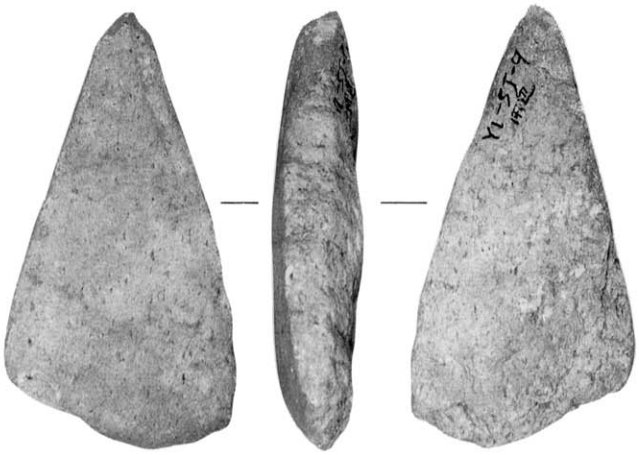
78－2



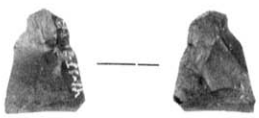
78－3



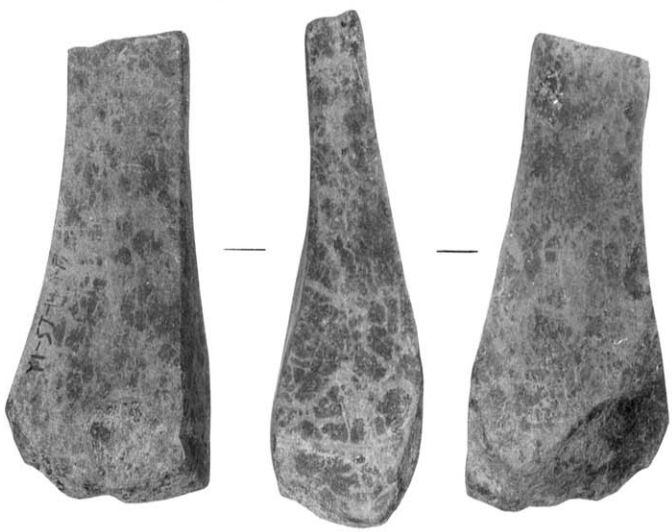
78－4



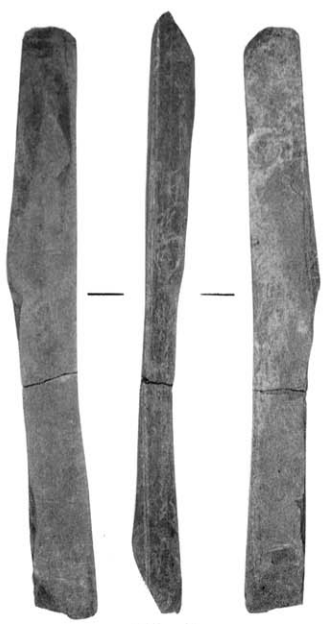
78－5



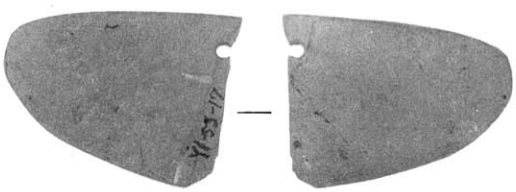
79－8



78－6

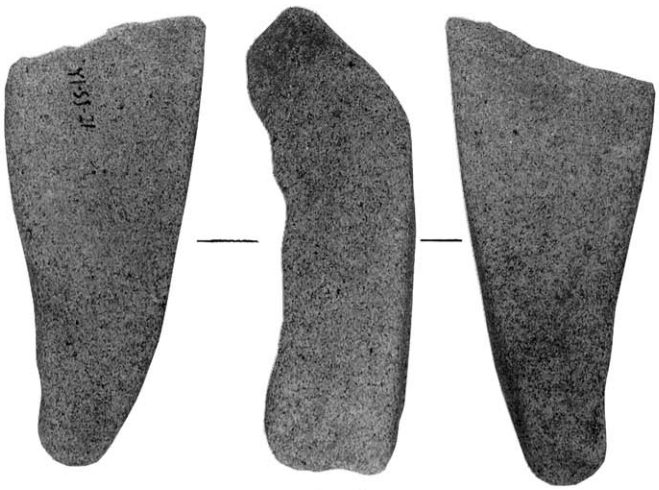


79－9

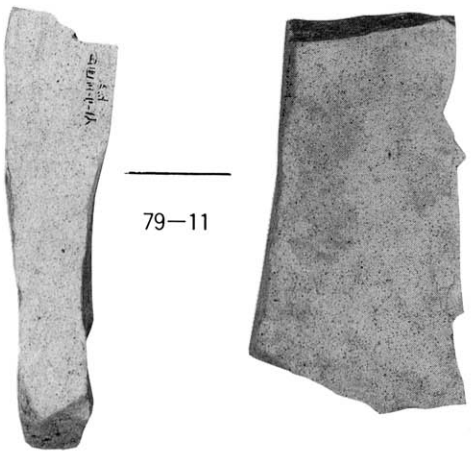


78－7

八ヶ坪遺跡 第6地点出土石器（縮尺不統一、数字は挿図番号）



79—10



79—11



80— 7



80-8



80-11



80-10



80-16



80-12







80-15



80— 6



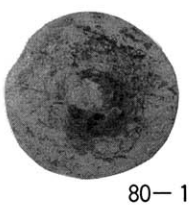
80— 5



80— 2



80— 3



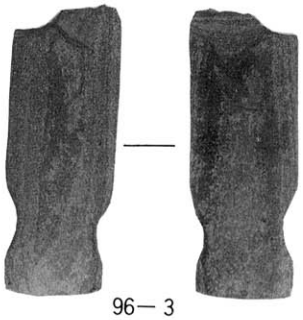
80— 1



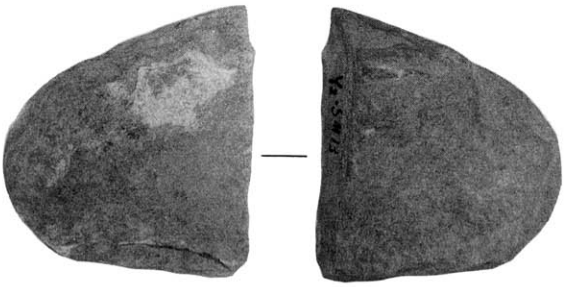
80— 4

八ヶ坪遺跡 第6地点出土石器·鉄器·玉·土製品（縮尺不統一、数字は挿図番号）

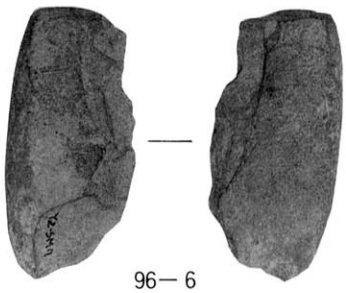
図版94



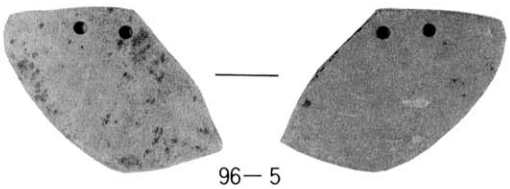
96－3



96－7



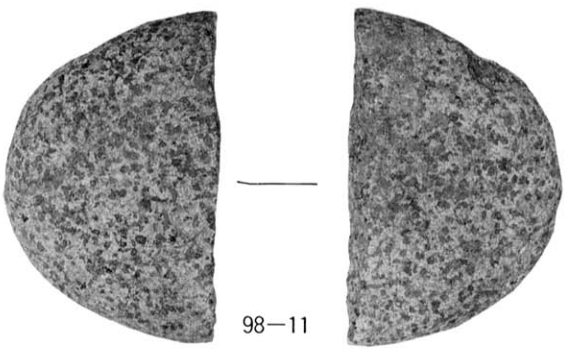
96－6



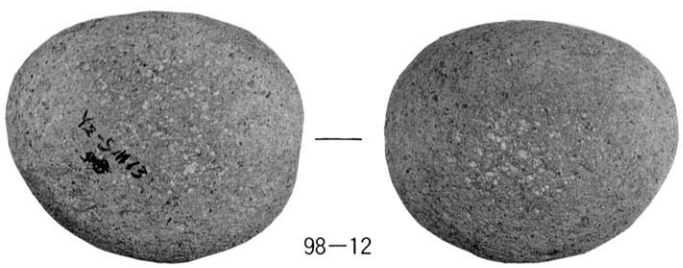
96－5



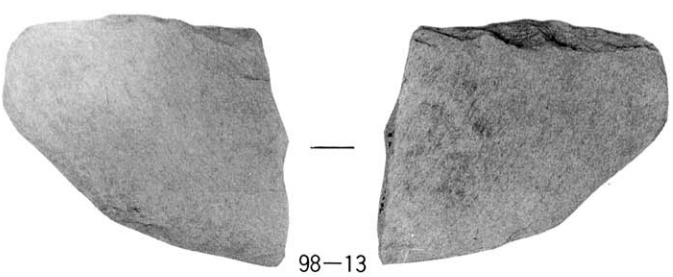
96－8



98－11

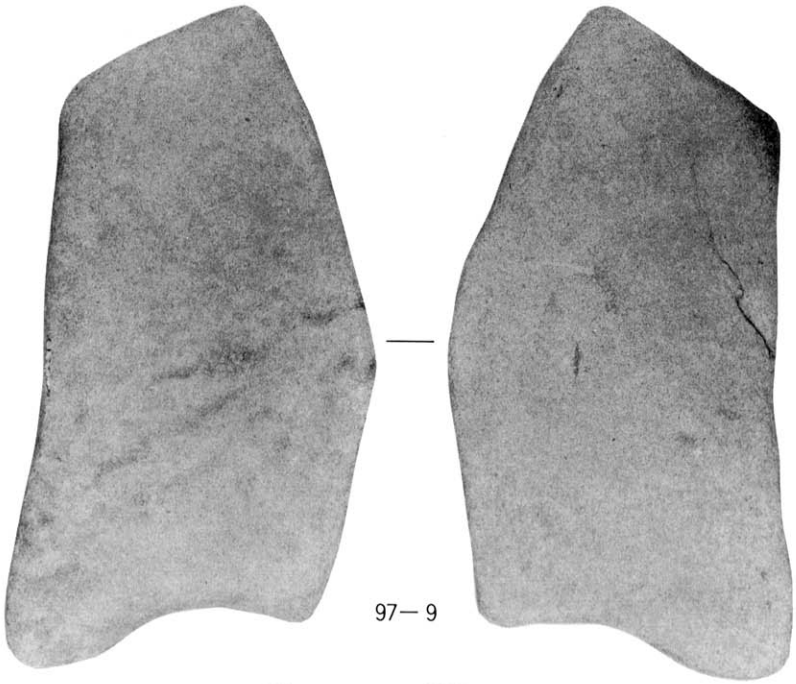


98－12

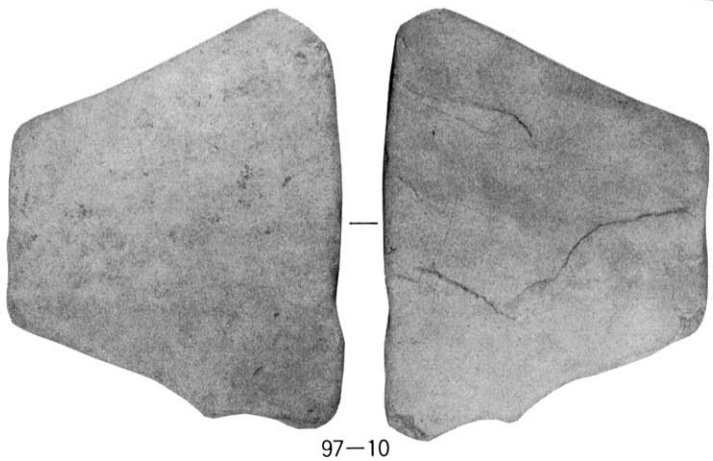


98－13

八ヶ坪遺跡 第７地点出土石器（縮尺不統一、数字は挿図番号）



97－9



97－10



99－16



99－17



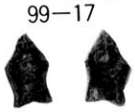
99－18



99－19



99－20



99－21



99－22



99－23



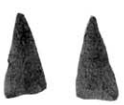
99－24



99－25



99－26



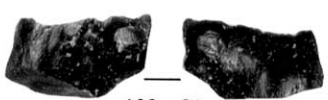
99－27



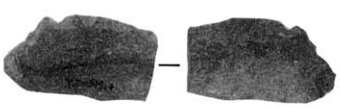
99－28



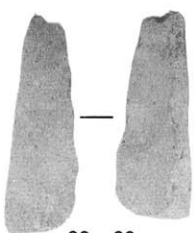
99－29



100－31



100－32



99－30



98－15

八ヶ坪遺跡 第７地点出土石器（縮尺不統一、数字は挿図番号）

八ヶ坪遺跡第６・７地点

筑紫野市文化財調査報告書

第 22 集

平成元年３月31日

発行　筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市753-1

印刷　秀英社印刷株式会社
福岡県筑紫野市武蔵313-13

住ー竪穴式住居跡
建ー掘立柱建物跡
土ー土　坑
溝ー溝状遺構
不ー不明遺構

N

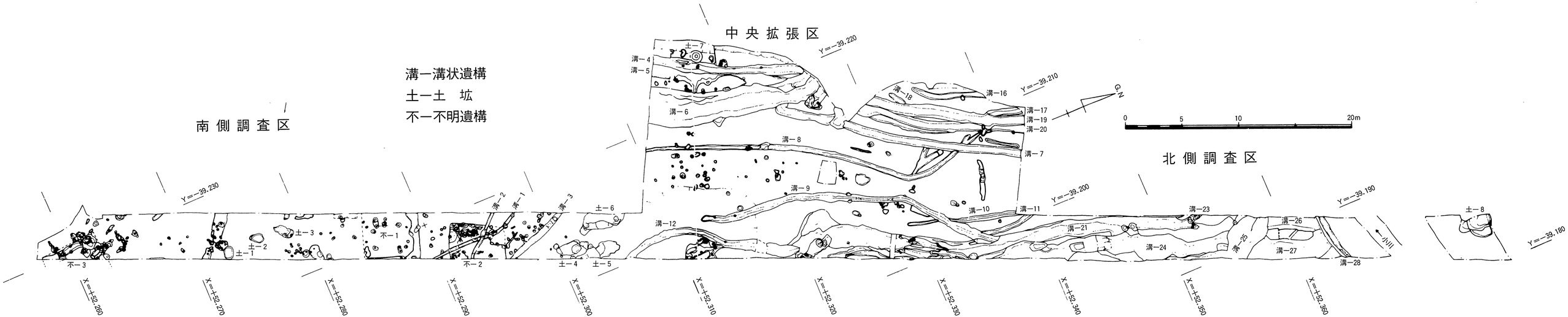
住ー1
住ー2
住ー3
住ー4
住ー5
住ー6
住ー7
住ー8
住ー9
住ー10
住ー11
住ー12
住ー13
住ー14
住ー15
住ー16
住ー17
住ー18
住ー19
住ー20
住ー21
住ー22a
住ー22b
住ー23
住ー24
住ー25
住ー26
建ー1
建ー2
建ー3
建ー4
建ー5
溝ー1
溝ー2
溝ー3
溝ー4
溝ー5
不ー1
不ー2
土ー1
土ー2
小川

土層観察用トレンチ

Y＝－39.150
Y＝－39.140
Y＝－39.130
X＝＋52.240
X＝＋52.250
X＝＋52.260
X＝＋52.270
X＝＋52.280

0　5　10　20m

付図１　八ヶ坪遺跡第６地点遺構配置図（Ｓ＝１／100）



付図２　八ヶ坪遺跡第７地点遺構配置図（Ｓ＝１／200）